

25K77

No 765/VXV.

緒言

以下ノ諸講義ハ米國聖公會傳道會社ニ屬スル東京三一神學校ニ於テ余ノ講述セル  
始メノ三章ハ「人類ノ宗教的觀念ノ發達」ノ全問題ニ對スル緒論ノ如キモノナリ其  
於テ余ハ人類ガ現今ノ宗教的理想ニ臻達スルニ於テ經過セル思想ノ諸方面ヲ示サンコトヲ勉メ



其昔ノ三論の講義ノ次ニ余ハ古代ノ諸宗教ヲ論ズルニ於テ先ツ第一ノ地位ヲ埃及ニ與ヘタリ是  
埃及ニ於テハ吾人ハ向ニタル他ノ古國ニ於テヨリモ明ニ古代ノ文明ノ全軀ヲ窺ヒ得可クンバ也夫  
或分更ニ生熟セシメテ文化文明ヲ見或ハ粹然タル高妙ナル有神教及ヒ高尚ナル宗教的理想ヲ見ルサ  
下其等ハ各只部分のニ古代ノ世界ヲ表セルモノニシテ其ノ全局ヲ表セルモノニアラザルナリ但シ  
埃及ハ古代世界全軀ノ反射鏡ナリ實ニ古キ且ツ多クノ局部ヲ破損セル反射鏡ナリト雖モ更ニ善良  
ナルモノヲ得ル能ハサレバ先ツ之レニテ満足セザル可カラズ

大ニ知リ得ルナリ但シアリアン人種ハ宗教的觀念ヨリモ寧ロ哲學的觀念ヲ産出スルニ於テ強健ナ  
リシモノナレバ宗教ノ場合ニ於テハセミチツク人種ノ如ク多産的ナラザリシ也其次ニ論ズル者ヲ  
猶太教ナリトス夫猶太教ニ於テハ吾人ハ古代ノ世界中又類似スルモノナキ一種特殊ノ宗教ヲ見ル



也惟フニ猶太教ヲ以テ埃及非西亞等ノ隣國民ノ宗教的概念ノ自然ニ發達シタル者ナリトシ又之ヲ證セント試ムルハ蓋正當ナル事ニ非ル可シ余ハ信ス此宗教ヲ研究スルニ當テ余輩ノ蒐集セル夥多ノ材料ハ決テ吾人ヲシテ此カル斷定ニ至ラシムル者ニ非ルヲ實ニ猶太教ハ超然トシ總テ他ノ宗教ノ上ニ立チタリキサレバヘーゲルノ評シテ左ノ如ク云ヘルハ敢テ失當ニアラザルナリ曰ク

古代ノ世界ニアリテハ猶太教ハ恰モ泥醉者ノ群中ニ端坐セル嚴肅ナル君子ノ如シ

余ハ種々ノ理由アリテ茲ニ此宗教ヲ十分論述スルヲ得ズ而シテ其主ナル者ハ蓋シ此宗教ハ既ニ他ノ教授達ノ十分詳細ニ論述セラレタルモノナルコト是ナリ余ハ既ニ余ヨリモ博識該通ナル諸先生ノ詳述セラレタルモノヲ再ヒ諸君ノ前ニ反復スルヲ好マズサレバ現講ニ於テ猶太教ニ關スル部分ハ甚ダ不完全ナリト云ハザルヲ得ズサレド余ハ余ノ能フ丈ノ忠實ヲ以テ之レヲ叙シタリキ余ハ又茲ニ獨逸佛蘭西等ノ近世唯理說ヲ論述シ批評スルヲ得ズ是レ究竟現問題ノ範圍外ニアレバナリ余ハ又現講中ニ支那ノ宗教ヲモ論ズル計畫ナリシガ時日ノ切迫セルト材料ノ集テザリシトニヨリテ宿志ヲ果ス能ハザリキ

抑々本講ヲ草スルニ當テ余ハ本講ニ於テ歐米ノ最近進歩シタル諸學者ヲ諸君ニ照介セシコトヲ心期シタリキサレバトテ余ハ其等ノ著書ヲ翻譯セザリキ是第一ニ余ハ余ニ托サレタル此問題ニ付テ愚見ヲ陳ズル能ハザレバナリ第二ニ古代ノ宗教ニ關シテ出版サレタルモノハ大抵余ヨリ異ナリタル見點ヨリ又異ナリタル趣味ニ對シテ陳ベラレタル者ナレバナリ而シテ余ハ現講ニ於テハ毫モ孰レノ點孰レノ主義ニ偏スルコトナク只事實ヲ主トシテ余ノ微力ヲ奮テ研究シタル結果ヲ其ノ有儘ニ諸君ノ前ニ呈セントスルナリサレド余ハ先ツ此ノ問題タル至大至廣ナルモノニシテ余ノ現有

スル時間及ヒ智識ヨリモ更ニ大ナルモノヲ保ツニアラザレバ十分ニ論述スル能ハザルモノナルコトヲ自白セザル可カラズ殊ニ自白セザル可カラザル事ハ余ハ本書ヲ草スルニ當テ十分此問題ヲ研究スルノ材料ヲ有セザリシコト是レナリ但シ本書ハ奈良ニ於テ余ノ一小「ライブラリー」ヲ頼ニ出來上リタルモノナリ

余ハ本講ヲ草スルニ當テ大ニマクス、ミユラー氏ノ諸著ヨリカレル處アルヲ茲ニ諸君ノ前ニ陳テ以テ大ニ氏ニ鳴謝セザル可カラズ但シ余ハ氏ノ主唱スル總テノ說ヲ贊成スルモノニ非ザレトモ免ニ角何ニタル他ノ先輩ヨリモ更ニ大ナル補助ヲ蒙レルナリ惟フニ梵語文學ニ於テハ氏ハ現今總テアラユル學者ノ上ニアル可シ又唯一ノ大博言學者ニハアラテトモ一大哲學者タルニ耻チサル可シ余ハ更ニエドワード、デ、ブレンゼンゼー博士ノ古代ノ諸宗教ニ關スル傑作ヨリ大ナル補助ヲ蒙レルコトニ對シテ茲ニ又同博士ノ芳名ヲ記シ以テ鳴謝スル處アラザル可カラズ其他余ノ助ヲ蒙リシ諸氏ニ對シテハ乍畧儀茲ニ謝シ置ク可シ

余ハ此等ノ講義ヲ連續シテ世界ノアラユル新舊諸宗教ヲ評述シ然ル後末卷ニ於テ種々ノ宗教的体系互相ノ關係及人類ノ一般思想ニ於ケル彼等ノ地位等ニ關スル愚見ヲ陳述セントス蓋シ其觀察ヲ只ノ宗教ノミニ限リ總テ他ノ宗教ヲ措テ問ハザルノ宗教哲學ハ以テ完全ナリト稱ス可カラザレバナリ諸君若シテアラシク博士ノ大著ヲ一讀セバ思半ニ過ギン

終リニ余ハ本書ノ翻譯者タル奈良英和學校生米田庄太郎氏ニ對シテ一言謝スル處ナカル可カラズ但シ氏ハ將來大ニ望ヲ屬ス可キ青年ナレトモ併シ尙ホ甚ダ年少ナルヲ以テ殊ニ本書ヲ譯セラル、ニ當テハ之ヲ助クルノ友ナク又校正スルノ師ナカリシヲ以テ更ニ翻譯ノ期日僅少ナリシヲ以テ書中



或ハ文辭陋澁ニシテ旨意通シ難ク譯語温當ヲ夫キ爲メニ原意ノ十分表レザル處モアラザレド余ハ日本文ニ通セザルヲ以テ茲ニ予ハ如何程マテ其事業ヲ成就セラシヤテ諸君ニ告グル能ハス。諸君以上ノ言ヲ緒言トシテ今ヤ余ハ本書ヲ日本公衆ノ前ニ呈セントス希クハ生ノ微衷讀者諸君ノ心膽ニ到徹スルアリテ以テ幾分カ大帝國ノ知力的道德的殊ニ宗教的ノ進歩ヲ裨補スル處アラントシ是レ偏ニ生ノ祈願スル處ナリ

明治廿五年四月下旬

アイザック・ドーマン識

四

## 比較宗教學卷之一目次

第一章	緒論	(一)
第二章	觀念ノ始源	(二)
第三章	宗教的觀念ノ始源	(三)
第四章	埃及	(四)
	總論	(一)
	人種	(二)
	言語	(三)
	文學	(四)
	建築術	(五)
	美術	(六)
	風俗習慣	(七)
第五章	埃及ノ宗教	(一)
	埃及ノ宗教ニ於ケル神ノ觀念	(二)
	神ノ階級	(三)
	儀式	(四)
	來世ノ信仰	(五)



第六章 アリアン人種

第七章 韋陀

第八章 韋陀ノ神

第九章 韋陀ノ宗教的觀念

第十章 猶太教

總論

(一) 韋陀ノ言語

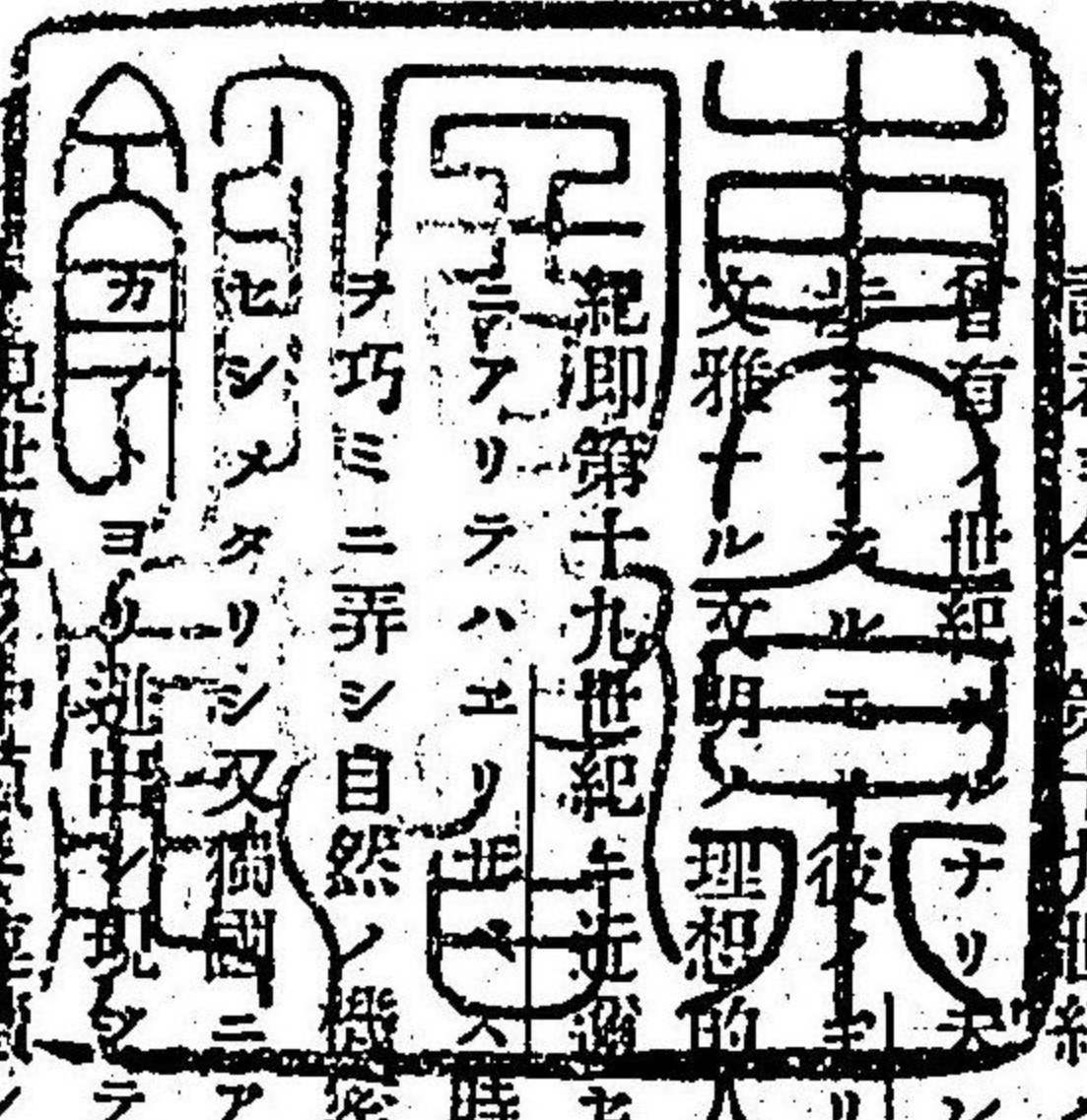
(二) 韋陀ノ組織

(三) 韋陀ノ年代

# 比較宗教學

アイザック・ドヴォーマン 著

## 第一章 緒論



諸君ヨ今ヤ第十九世紀ハ僅カニ十年ヲ出デズシテ終ノストルガ抑モ此世紀ハ人類ノ歴史上古今未  
 曾有ノ世紀ナルヲリ夫レ人類ノ歴史中ニハ精神の活動ノ生々トシテ哲學文學及ヒ戯曲ノ稀代ノ進  
 歩ヲ示スルモノナリシヤ人ノ精神の進動大ニ激烈ナリシ時代ノ如キアリ又感覺的ナリト雖モ  
 文雅ナル文明ノ理想的人間ヲ完成スルニ於テ大ニ力アルモノ彼ノローマ世界ノ如キアリ更ニ現世  
 觀即第十九世紀ニ至ルニ諸世紀中ニハ大ニ精神の生産物ニ富豐ナル時代アルヲ見ル例ハ英國  
 ニアリテハエリ此時代ノ如シ、此時代ニハ彼ノ詩聖セキスピアーヤミルトンノ如キ入神ノ筆  
 ヲ巧ミニ弄シ自然ノ機密人情ノ隱微ヲ妙ニ鑿ツモノアリテ以テ戯曲叙事詩ヲシテ其ノ頂點ニ進達  
 セシメタルシ又獨逸ニアリテハ第十八世紀ノ哲學ノ如シ幽玄奧妙ナル哲學忽乎トシテ魔技ノ如ク  
 ナリヨリヨリ進出シテテフィクテセーリング及ヘーゲルノ哲學トナリ且ロッセノ哲學トナリテ以  
 テ現世紀ノ中頃ニ至ルニ更ニ今日ニ至ルモ其ノ流レテ汲ム人々ニ乏シカラザルナリ

今陳述セルノミニテモ知ラル、如ク實ニ人心ハ變遷極リナキモノニシテ而モ其變遷タル恰モ火山  
 ノ暴裂スルガ如ク一定ノ規律ノ下ニ羈束スベカラザルモノナリ然リト雖モ其結果タル即チ人心活  
 動ノ成果タル決シテ時代ト共ニ消エ行クモノニアラズ人類ノ歴史中ニ保存セラレテ以テ將來ノ大



勢ヲ形成スルニ大影響ヲ及スモノナリ見ヨ希臘人ヲ彼等ハ一國民タル資格ヲ失ヘルヲ幾百年間ナ  
 リシ時ニ或ハ羅馬兵ノ犠牲トナリ時ニ或ハトルコノ逆政ニ呻吟セリ然リ而シテ其ノ獨立ヲ得シテ  
 フ今日スラ最早祖先ノ名ヲノ万世ニ不朽ナラシメシ所以ノ特性ヲ失ヘルニアラズヤ今日ノギリシ  
 ヤ人ハ衆目ヲ驚セルホーマーヤンクラテスアリストートルヤンフオクルスノ天才ヲ發現シ得ルヤ  
 誰レカ答ヘテ然リト云フモノアラン嗚呼其等ノ天才ハ既ニギリシヤ人ノ腦裡ヲ去リテ再ビ歸リ來  
 ラザルナリ又ローマノ文雅ナル感覺的ナル文明ヲ顧ヨ今日ニ至テハ吾人ハ只其ノ遺蹟ヲ見テ過去  
 ノ盛大ヲ讚嘆スルノミニアラズヤ嗚呼今日ノイタリヤ人中誰レカシザルノ血性ヲ有セルゾ、誰レ  
 カオ、リリユースノ氣骨ヲ稟クルゾ、又セキスピアーヲ見ヨ彼レ既ニ世ヲ去リテ此處ニ幾百年否  
 ナセキスピアー學專門ノ學者ハ其在世テスラ疑フニ至レリ然リト雖レ彼等偉國民偉人ノ產出セル  
 成果ハ決シテ泯亡セルニ非ズ否ナ吾人ノ歴史中ニ潛存シテ其ノ恩德ヲ今日ニ垂レ以テ吾輩ヲ感化  
 シツ、アルナリ

然レハ吾輩ノ世紀即チ第十九世紀ハ實ニ夫等ノ前諸時代ヨリ大ニ異レル處アリ是レ其間ニ於ケル  
 精神的活動ノ前者ニ勝レテ活潑ナリシガ爲メニアラズ否ナ此點ニ於テハ其ハ寧ロ甚ダ憐レナリト  
 云ハザルヲ得ス何トナレバミルトンノ如キセキスピアーノ如キ詩聖ヲ生セザレバ亦アリストー  
 ルノ如キカントノ如キ大哲學家ヲモ出サレバナリサレド其異ナル處ハ實ニ茲ニアラズ然ラハ何  
 處ニアルヤ乃チ其ハ實驗科學ノ新基礎ヲ發見シ又新ニ發見シタル規則ヲ探テ人間生活ノ總ノ部分  
 ニ適用サル、様ニ組織シ以テ大進歩ヲ成セルニアルナリ實ニ今日ニアリテハ科學ノ精神宇宙ニ遍  
 滿セリト云フ可シ言ヲ換テ云ヘハ其ノ代表者即チ科學者ハ皆ニ自然的法則ヲ研究セルノミニテ滿

足セズ進ンテ全宇宙及ビ人性ノ全体ヲモ研究シ更ニ進ンテ宗教道德否ナ神學スラヲモ檢討セント  
 セリ

吾輩若シ此ノ派ノ一雜誌ヲダニ手ニセハ直ニ如何ニ熱心ニ彼等ハ實驗科學ノ法則ヲ神學及ビ宗教  
 ニ適用セント務ムルヤチ知リ得可シ實ニ今日ハ至ル處何處トシテペーコン哲學ノ精神發露セザル  
 處ナク其勢恰モ滔々タル激流ノ巖ヲ噬ミ礫ヲ飛シテ進ムガ如ク如何ニ高尚ナル情操モ能ク之レニ  
 抗抵スル能ハザルナリ但シペーコンノ本意ハ理性ノ範圍外ニ存スル事物ニハ其ノ如何ナルモノナ  
 ルヲ問ハズ自己ノ論法ヲ適用セザルニアリタルヤ明カナレハ然シ彼ノ始メテ發表セシ精神ハカン  
 トノ發揮セル批評哲學ト合シ更ニ英國博物學ノ大家チャールズ、ダルトンアルフレッド、ワレンス  
 及ビ其他數多ノ徒弟ニヨリテ發見セラレシ自然界ノ法則ト一致シテ遂ニ殆ンド宇宙万物ヲ一新光  
 ノ下ニ照スニ至レリ

約言スレバ吾輩ノ世紀ヲシテ他ノ諸世紀ヨリ異ナラシメシ所以ノモノハ實ニ科學其ノモノナリ吾  
 輩ハ以前ノ諸時代ノ如ク深妙ナル哲學或ハ戯曲ヲ生シ得ザリシナランサレド第十九世紀ノ壯大ナ  
 ル文明ヲ建設セシ新材料ノ發明ニヨリテ大ニ彼等ヲ進歩シタルナリ惟フニ希臘盛時代ノ人々如何  
 ニ聰敏ナリシカ如何ニ想像ニ富ミシカハ知ラザレハ恐ラクハ電信電話機ノ功蒸氣電氣ノ用ハ夢ニ  
 ダニ知ラザリシナルベシ

余ノ既ニ陳述セルガ如ク實ニ其等ノ發明ハ人間ノ狀態ヲ變化セリ否ナ余ハ寧ロ其等ノ發明ハ實質  
 的ニ人生ヲ改良セリト云フヲ喜ブモノナリ其等ノ發明アリシ以來吾輩ハ如何ニ其ノ恩澤ヲ蒙レル  
 ヤ吾輩ハ費ス處ノ勞力少クシテ而シテ巨大ナル生産物ヲ得ルニ至レリ又旅行容易トナリテ今迄ハ



名ダニ知ラザリシ人種ト面接スルニ至レリ見ヨ諸君貴邦ヲ、最モ貴邦ノ始メテ外國ニ知ラシハ  
 千年以前ナリシト雖也此ノ二三十年間電氣及ヒ蒸氣ノ功德ハ如何ニ多クノ國民ヲ諸君ニ紹介セシ  
 ヤ海路遠達ニシテ未ダ吾人ノ耳ニセザリシ洋中ノ孤島モ今日ハ數十日ヲ出デズシテ其地ヲ歩ミ枝  
 條錯綜樹葉疊重シテ畫尙ホ暗ク歩ムニ一小徑ダニナカリシアフリカノ深林スラ今日ハ其ノ住民ヲ  
 知ラシ且ツ其富源ヲ探ラル、ニ至レルニ非ズヤ噫第十九世紀ハ如何ナル世紀ソ然リ而シテ此ノ第  
 十九世紀ヲシテ此ノ第十九世紀ヲラシメシ者ハ實ニ科學即チ實驗科學其モノ、功ナリ此ク壯大ナ  
 ル文明ヲ建設セシモノハ實ニ科學即チ實驗科學其モノナリ實ニ科學ハ吾人ニ新生命ヲ注入シ勇進  
 憤發、及ヒ冒險ノ精神ヲ衝動シ又吾人ノ生活ヲシテ祖先ノ日ニ於ケルヨリモ更ニ安寧愉快ナラシ  
 メタリ余ハ此處ニサーウヨン、ルボック氏ガ科學ノ快樂ニ付テ云ヘル言ヲ引用セン曰ク

人々科學ヲ以テ乾燥晦澁或ハ無趣味ノモノトナスハ是レ共ニ誤レリ多クノ科學ハ興味アルト  
 共ニ又容易ナルモノナリ彼ノ術語ノ如キモ其ノ科學ニ於ケル關係ハ毫モ字彙ノ文學ニ於ケル  
 關係ニ異ナラザルナリ

實ニ其ハ往々古代ノ詩人的怪神談例ヘハ古昔ノ印度人ガ川ヲ解シテ「インドラ神ガ一閃ノ電  
 光ヲ以テ川底ヲ穿チ水ヲ湧出セシメテ以テ長路ヲ走ラシメシ」ト云ヘルガ如キ怪談ヲ破滅ス  
 レ然シ自然現象ノ真正ナル原因ハ人類ノ無教育ナル想像ヨリモ遙カニ真正ノ詩想ヲ含ム  
 多キモノナリ

余ハ常ニ如何ニ科學ガ其ノ影響ヲ宗教上ニ及ボシ以テ之レヲ改良シ之レヲ高尚ナラシメシヤ  
 テ示スニ盡力シタリキ即チ科學ハ愚妄ナル迷信、魔術妖術等ニ於ケル卑劣ノ信仰及ヒ殆シド

使徒在世ノ日ヨリ基督教界ヲ苦マル殘酷ナル不容忍性(マトヒ其ノ不容忍ナル所以ノ本意ニ  
 至リテハ好ミス可キモ)ヲ掃去スルニ於テタトヒ其ノ最大部ヲ成シ遂ゲタリシト主張シ得ザ  
 ルモ亦如何ニ大ニカアリシヤテ示スニ盡力シタリキ「生活之快樂」(百四十六頁)

以上ハ吾輩ノ時代即チ第十九世紀ノ特質及ヒ其中ニ活動シツ、アル主要ノ勢力ニ付テ一言ヒシ處  
 ナリ而シテ其ノ然カセシ所以ハ蓋シ進動世界ノ中心ニ立チナガラ目ヲ閉ヂテ人類ノ大勢ヲ形成シ  
 ツ、アル強勢ノ活動ニ注意セザルハ敢テ識者ノ探ラザル處ナレバナリ倍テ此レヨリ又第十九世紀  
 ノ特質ヲ製作セル科學即チ實驗科學ト宗教トノ關係ニ付テ一言ス可シ

抑モ科學ナルモノハ其督教ノ懷中ニ繁育セラレ又茲ニ生長シタルモノナレバ勿論基督教ハ毫末モ  
 之ヲ恐ル、ノ理由ナキナリ故ニ時ニ或ハ爭鬪ノ兩者ノ間ニ起ルモノアルモ其終ルヤ常ニ基督教ヲ  
 利スルニ外ナラザルナリ

夫レキリストノ理想即チキリスト教主要ノ理想ハ人類ヲ改良シ高尚ニシ即チ人間ノ情狀ヲシテ幸  
 福圓滿ナラシメ就中道徳力ヲ發達セシメ以テ人間ヲ完全極備ノ狀態ニ至ラシメントスルニアレバ  
 換言スレバ神人ヲシテ益々親近ナラシメ愈々密接セシムルニアレハ當抵カ、ル目的ノ近世科學ノ  
 進歩ニ著アル筈ナク又科學ニ於テモカ、ル目的ノ成就即チ人間ノ道徳的進歩發達ヲ妨グル能ハズ  
 否ナ妨ケントハセザル可シ但シ人間ハ科學ヨリモ宗教ヨリモ更ニ大ナルモノナレバ其理想ニ臻達  
 セントテ進趨スル途上ニハ如何ナルモノ、妨グルモ之ヲ蹴破シ打崩シ粉碎シテ通過スルナリ是レ  
 人間全軀ノ利益ハ如何ナル宗派ノ利益ヨリモ如何ナル學派ノ利益ヨリモ尙々肝要ナルモノナルヲ  
 以テナリ



諸テ余ハ基督教ト科學トノ關係ニ付テハ右ノ如ク述ベタリト雖也決シテ宗教、詳シク云ハバキリ  
 スト教會ガ科學ノ進歩ニ反對セシトアルヲ知ラザルニアラズ實ニ其ハブルノ一ヲシテ赫々タル猛  
 火ノ中ニ焚死セシメガリ、オチシテ暗昧タル囹圄ノ中ニ囁吟セシメ更ニ現世ノ權利ヲ失ヘル今日  
 スラ新發見ハ教會ニ害アリトテ之ヲナセル人々ヲ破門セリ然リ而シテ此等ハ又實ニキリスト教會  
 ニ對シテ提出セラル、攻撃ナルガ是レ全ク道理ナキニアラズサレド之レニ對シテ余ハ左ノ如ク答  
 ヘントス

第一此カル争闘ハキリスト及ビ彼ノ宗教ノ精神ニアリテハ全ク無關係ナリ蓋シキリストノ其宗教  
 テ宣傳シ賜フヤ其基礎ハ「地には平安人には恩澤あれ」ト云フニアリタレバナリ但シ惡人其  
 ノ惡ヲ蔽ハンガ爲メニ名ヲ宗教ニカリ壓政ナル神秘政府世論ノ攻撃ヲ避ケンガタメニ宗教ヲ  
 忘用スルナソノ事アリトモ其レガ爲メ該宗教ハ世人ニ攻撃セラル、ノ理由ナキハ勿論ナル可  
 シサレバ吾人若シ此カル場合ニ遭遇セハ宜シク十分其ノ宗教ノ精神ヲ洞視シ果シテ其ノ精神  
 ニ於テ此カル惡行ヲナスモ敢テ呵責スル處ナキヤヲ研メタル上ナラデハ決シテ嘲弄非難ノ言  
 テ發ス可カラズ

第二歐米ニ於ケル此ノ争闘ハ惟フニ兩者ノ代表者ノ互ニ一種無道理ナル思想ヲ保タルヨリ起レル  
 モノナラン乃チ科學者ニシテ何カ新ニ發見スル處アランニハ其ノ必要如何ニ僅少ナルニモ拘  
 ラズ直ク其ヲ以テ宗教ヲ攻撃スルノ利器トシ又宗教家ニアリテハ己レノ宗教界ノ安寧ヲ維持ス  
 ルノ責任アレバトテ聖書ハ如何ニ不容忍ナル精神及ビ他教徒ヲ虐待スルノ所作ヲ禁ズルヤニ  
 氣就カズシテ却テ此等ノ所行ヲ以テ人類ノ安寧ヲ維持シ幸福ヲ増進スルモノト思ヘリ然レハ

是等ハ其ニ正當ナル所爲ト云フ可カラズサレバトテ又直ニ其等ノ人々ヲ譴責ス可カラズ何  
 トナレバ譬ヒ彼等ノ所爲其モノニハ不正當ナル處アリトスルモ彼等ノシカナス意志ニ於テハ  
 大ニ愛慕ス可キモノアレバナリ即チ彼等ノシカナス精神ハ偏ニ自己或ハ自派ノ利益ノ爲メト  
 ナスニアラテ天下萬民ノ爲ナリト思ヘルナリ實ニ其心ハ利己的ノ俗念ニ汚サレズ献身の犧牲  
 的ノ精神ニ溢レタリシナリ

余ハ今此ノ争闘ノ一例ヲ基督教界外ニトリテ示サンニ昔シキリシヤ人ハソクヲナスヲシテ一椀ノ  
 「ハムロック」ヲ飲マシメタリシ——古昔キリシヤ人ノ罪人ヲ處刑スル普通ノ方法——而シテ其ノ  
 理由ハ青年ヲ腐敗セシメタリト云フニアリト嗚呼古來大哲學者ト稱セラル、モノヤ實ニ多シ然レ  
 此道徳ノ原則ヲ發達セシムルニ於テ功アルモノ吾人未ダソクヲテスノ如キアルヲ知ラサルナリ  
 グロート氏其ノ傑著キリシヤ史中ニ云ヘル「アリ而シテ余ハ其ノ言ヲ以テ正當ナリト思ヘハ此處  
 ニ引用ス可シ

夫レキリシヤハ大詩人大哲學家大雄辯家大史家等ヲ生ゼシカド併シ此等ノ點ニ於テハキリシ  
 ヤ文學ノ補助ニヨリテ各其ノ國文學ヲ發生セシメシ諸國ト雖也敢テ劣ラザルナリサレドソク  
 ラテスニ比ス可キモノニ至リテハキリシヤ國內カ將テ國外カ吾人ハ其何處ニ求ム可キヤヲ知  
 ラズ

實ニソクヲテスハキリシヤノ爲メニ身ヲ犧牲ニ供セシ人ナリ其ノ思想ハ當ニキリシヤノミナラズ  
 天下ノ萬民ヲ利セシ人ナリ其ノ哲學ノ論法ハ哲學界ヲ感化否ナ創立セシモノナリ然リ而シテ青年  
 ヲ腐敗セリトノ宣告ヲ受ク吾人ハ此カル宣告ノ大ニ正道ニ乖レルヲ知ルサレド能ク其ノ直正ノ原



因ヲ探知セバ又強チ「デカスター」ヲ賣ム可カラザルナリ何ントナレバ彼等ノソクヲテスヲ死  
 罪ニ處セシ所以モ亦道德ヲ重シ之レヲ尊ビタルヲ以テナレバナリ  
 夫レ道德ノ觀念ハ深ク人心ノ奥底ニ蟠據スル至聖ノモノナレバ之レヲ損傷セントスル總テノ行爲  
 ハ常ニ心意ノ眞髓ヲ刺激シ全心力ノ抗拒ヲ挑發スルナリ洵ニ道德的情操ハ造物者ノ確ニ人心ニ刻  
 銘セルモノト云ハザル可カラズ其ハ時ニ或ハ過ルコトナキニアラズ又眞理ノ前ニ盲目トナルコトナキ  
 ニアラチ此併シ又社會ヲ攪亂スル急激ノ改革ヲ防グニ最モ勇偉ナル保護兵ナリ彼ノ不容忍性ノ如  
 キハ勿論吾人ノ心底ヨリ芟除セザル可カラザルモノナレモ若シ神聖ナル信仰ノ光ト融合スルニ於  
 テハ又危險ナル恐れ可キ改革ヲ制スルノ確信トナルモノナリ  
 抑々吾人ハ人間トシテハ其ノ日々ノ行爲ヲ管理スル一定不變ノ原則ヲ保タザル可カラズ即チ道德  
 界ハ恒久不變不滅ノ原則上ニ立チ決シテ其ノ古人ナルト近人ナルト問ハズ一個人ノ意見無定見  
 ナル煽動者ノ爲ス處ニ放任ス可カラザルモノナリ道德界既ニ然リ况ンヤ宗教界ニ於テオヤ但シ宗  
 教ハ其ノ發達ノ如何ナル階段ニアルモ常ニ其ノ始原ヲ最上實在ノ意志ニ置キ又其ノ法規教義ヲ以  
 テ道德ト結合スルモノナリ

諸君ハ蠢愚ナル蠻民間ニスラ道德ノ進歩ヲ以テ其ノ最大ナル理想トナサバ爾宗教アルヲ認メザル  
 ガ如ク道德ノ原則ニ反對シ之レニ抗拒スル宗教ハ決シテ存在セザル可シ否ナ此カル宗教アリトハ  
 思儀ダニナス能ハザル可シ勿論以後余ノ講義中ニハ諸君ハ屢々動物のナル卑陋ナル儀式ヲ有スル  
 モノアルヲ見ラル、ナラン然レモ若シ研究ノ勞ヲ惜マズシテ其始原ヲ探溯セバ此カル動物の儀  
 式スラ始メハ或ル眞正ナル宗教的ノ目的ヲ達センガ爲メニ設ケラレ且ツ純潔ナルモノナリシガ歲

移リ星更ルニ從ヒテ數多ノ迷信其上ニ堆積シ遂ニ最初ニハ拒斥セントシタリシ肉慾及ヒ貪婪ノ情  
 テ今ハ却テ之レニヨリテ満足セシメントテ此ノ如キ状態ヲ現ズルニ至リシモノナルコト發見ス可  
 シ故ニ余ハ云フナリ人間ノ最モ神聖ナル感情ハ決シテ一ノ冒險者ノ左右スル處ニ任ス可カラズト  
 詳言セバ人タルモノハ道德界ニ於テハ或ル不變確定ノ原則ヲ固持セザル可カラズ而シテ其ヲ改良  
 スルニ於テハ決シテ一箇人ノ意見ニ放任ス可カラズ必ズ人類全軀ノ大勢ニ問ハザル可カラザルナ  
 リ

若シ余ガ今陳述セル處ヲ以テ眞實ナリトセンカ諸君ハ必ズ問ハル、ナラン「然ラバ何故ニ日本ハ  
 タトヒ僅少ノ宣教師ガ布教シタレバトテ今其宗教ヲ變更セザル可カラザルカ日本ハ既ニ千五百年  
 以前ニ一個ノ宗教ヲ受ケテシテ此ノ宗教ハ大ニ日本ヲ開化セシメ進歩セシメ其ノ恩惠ヲ與  
 ヘシ」此處ニ幾百年ナルナリ然ルニ今何ソ此カル日本社會上ニ必要ナル宗教ヲ捨テテ生活ニモ氣風  
 ニモ全ク異質ナル宗教ヲ採用セザル可カラザルヤ若シ基督教ヲシテ日本ニ傳播セシメ其ヲ以テ國  
 教トナスハ上帝ノ志意ナランニハ上帝何ソ幾百年前ニ於テ之ヲ爲サズシテ今日此ク佛教ガ國民ノ  
 大勢ニ深ク根底シ其ノ運命ヲ形成セル時ニ於テ爲スヤ」ト余ハ此ノ疑問中最モ認ムル處多ク又  
 論理學上然ル可キ處モ多シサレド吾人ハ亦同時ニ此ノ場合ノ他方面ヲモ視察セザル可カラズ即チ  
 理性ノ能力ヲ賦與セラレタル人類トシテハ吾人ハ常ニ睿智の實在ヲシク何事ニ限ラズ眼前ニ現ハ  
 ル、總テノ事物ヲ考察シ比較シ或ハ撰擇シ或ハ排斥セザル可カラザルコト是ナリ夫レ人類ハ最モ高  
 等ナル動物ニシテ其未來ハ最モ恐ル可キモノニシテ而モ宗教ハ其最モ必要ナル問題ナレハ吾人ハ  
 アテナル能力ヲ奮テ之レガ研討ヲ勉メザル可ラズ然ルニ世上宗教ノ必要ヲ知ラズシテ冷眼之レニ



接スルモノ實ニ多シ吾人ハ將タ如何ナル言ヲ以テ之レヲ評セシヤ若シ吾人人類ハ日常ノ些事ニ於テモ尙最良ノモノヲ望ミ之レヲ得ントテ改々タルモノナルヲ思ハ、何ソ宗教上ノ問題ニ冷淡ナルヲ得ンヤサレバ吾人ハ如何ナル境遇ニアルモ十分其精神ヲ洞視シタル上ナラテハタトヒ最下等ノ宗教トテ決シテ攻撃シ排斥ス可カラス凡ソ世界ノ事物ニシテ目新シキ宗教程一見吾人ノ感情ヲ惡クスルモノハナシ即チ其ノ教義信條ハ無道理ニ見ヘ禮典儀式ハ無造作ニ見エ其ノ精神ハ有害ニ見ユルモノナリ、サレド若シ一回其ノ真相ヲ達觀シ其ノ生命ト活力ヲ感識スルニ於テハ屢々以前ノ感想一轉シテ高尚典雅ナル儀式嚴肅玄妙ナル教義ヲ有スル最美最善ノ宗教ナルヲ悟ルニ至ルヲアリ是レ恰モ始メテ外國文字ヲ見ルガ如シ始メハ甚ダ複雜ナル秩序ナキモノニ見ユレ若シ日々學ンテ倦マズ勤メテ怠ラザレバ遂ニ其ノ中ニハ多クノ真理アルヲ悟リ大ニ利益ヲ得ルニ至ル是ニ於テ吾人始メテ其文學上ノ價值ヲ批評シ其ノ世界文學上ニ於ケル位置ヲ定ムルヲ得ルナリ然ルニ若シ之レニ反シテ最初ニ無秩序ナル復雜ナルモノニ見エタレバトテ直ニ之レヲ罵詈訾指テ問ハサレバ是レ皆ニ世人ノ嘲笑ヲ招クノミナラズ又真理ヲ失フモノナリ

今諸君ヨ諸君モ既ニ知ラル、ナラン基督教ハ實ニ新日本ノ始メヨリ此處ニ來レリ而シテ或ハ學校ヲ建築シ或ハ會堂ヲ設立シ或ハ孤兒院或ハ慈善病院其他學術進步ノ爲メ慈善的事業進步ノ爲メ種々善良ナル働キヲナセリ實ニ或人ハ評シテ「基督教ハ日本ニ止ランガ爲メニ來レリ」ト云ヒシ程ナリ而シテ其ハ又現今最良文明ナル諸大國即チ歐米各國ノ宗教ナルナリ其ノ始メテ歐洲ニ入ルヤ是レ實ニ希臘哲學ノ生命枯レローマ文明ノ元氣衰へ人血滴々トシテ劇場ヨリ進リ出テ動物的情慾ノ最良強勢ヲ張リシ時代ナリシ而シテ其ハ此處ニ如何ナル變化ヲ生ゼシヤ是レ別ニ余ノ言ヲ待タ

ザルモ既ニ諸君ハ歐洲ノ歴史ヲ閱シ又今日ノ狀態ヲ見テ以テ知ラル、處ナラン併シ一言此處ニ云フヲ得ハ余ハ概括的ニ左ノ如ク云ハノ即チ其ハ禽獸的ノ情狀ヲ變テ天使的ノ情狀トシ混沌界ヲ玄融妙合シテ秩序界ヲ作レリト噫回想セヨ此ノ基督教ノ本體ナル神ノ獨子ナルイエスキリストヲ彼ハ救世ノ爲メニ十字架上ニ斃レ濁世ヲ洗フ爲メニ鮮血ヲ流セリ實ニ今日吾人ノ歐洲國民ノ腦理ニ見ル處ノ至美至善ナル觀念ハイエスキリストノ血塊ナリト云フモ敢テ溢美ニアラザルナリ夫レ古往今來世ニ學者多ク智者夥シ併シ歐洲今日ノ文明ハ決シテ何タル學派ノ結果ニアラズ實ニ十九世紀前ナザレノイエスガ人間ノ腦中ニ注入セル生命ノ結果精神ノ効驗ニ外ナラザルナリサレバ近世文明ノ歴史ヲ稱シテ千九百年前ニ賤シキユダヤノ大工ガ發露セシ現實セシ觀念ノ歴史ナリト云フモ敢テ過當ニアラザル可シ

勿論余ノ今陳述セル意ハ基督ヨリ迸流セシ宗教的觀念ハ直チニ傳話機傳信機或ハ蒸氣機ヲ生ゼリト云フニアラズ併シ基督教ノ生命ハ遂ニ精神及ヒ生活ノ狀態ヲシテ今日吾人ノ見ルガ如ク進步發達セシメタリト云フニアルナリ又吾人ノ常ニ記憶セザル可カラザル「ハ文化ハ決シテ只一材料一方法ノミニテ建設セラル、モノニ非ズ多クノ材料多クノ方法ヲ要スルモノナリテテ事即チ是レナリ夫レ吾人ハ瀛船ナクモ鐵道ナクモ傳信機ナクモ尙ホ此ノ世ニ生活ヲ送リ得可シ併シ基督教ノ誠實ナル高尚ナル理想ナクシテハ最上ノ開化的狀態ナル安寧平和ニ生活スル「ハ甚ダ難シサレバ此カ理想ハ如何ナル人々ニ對シテモ正意熱心ニ研究セラル、二十分ナル價值アルモノナリ抑モ真理ヲ研究スルニ當テハ種々避ケザル可カザル蔽害アルガ其ノ中最モ注意セザル可カラザルハ一方ニ偏スル「ナリ有名ナル亞弗利加ノ探檢者スタンレー氏嘗テ或ル深林中ニアリシキ一矮人



ニ遭ヒタリシニ其時氏ハ矮人ニ向ヒテ己レノ國ニ供ヒ歸ラントスルコト及ビ若シ其處ニ至ラハ多クノ廣潤ナル平原アルコト告ゲタリシニ彼レ肩ヲ振リイト信受シ難シト云フ様ニテ云ヘルニハ「世界ハ何處ニ至ルモ別ニ此處ヨリ異ナル筈ナシ必ズ樹木ニテ充タルナル可シ」ト余輩ハ此ノ言ヲ聞テ大ニ懺悔ニ堪ヘザルナリ吾人ハ屢々吾人ノ精神界ノ周圍ニ此カル鬱葱タル深林ヲ圍ラシ括然其中ニ坐シテ却テ安全ナルガ如ク思惟シ習慣ノ久シキ遂ニ世界ハ此カル狭少ナルノモノト決定スルニ至ルナリ然リ而シテ是レ唯宗教界ニ於テノミナラズ哲學界ニ於テモ科學的ニ於テモ其他如何ナル場合ニ於テモ亦然ルコト多シ諸君ヨ目ヲ閉ゾルナカレ諸君ヨ神ノ世界ハ非大ノ世界ニアラズイト廣潤ニシテ純潔且ツ安全ナル空氣ニ充盈セル世界ナリ而シテ今ヤ諸君ハ(ピリビ二章六節ヨリ八節迄)彼ハ神ノ體にて居しかども自ら其神と匹く在るところの事を棄難きことには意はず反て己を虚らし僕の貌をとりて人の如なれり既に人の如き形狀にて現れ己を卑し死に至るまで順ひ十字架の死をさへ受るに至れる」人ノ職務ヲ學ビツ、アルナリ宜シク彼ヲ取テ以テ自己ノ摸範トセヨ而シテ以テ諸君ハ正道ヲ踏迷ハザルコト得可シ宜シク彼ヲ取テ以テ土臺ノ大磐石トセヨ而シテ以テ如何ナル哲學科學モ諸君ヲ動搖セシムル能ハザル可シ然リ而シテ其上尙ホ余ノ諸君ニ希望スル處ノモノアリ是レ何ゾ即チ諸君ハ力ノ及ブ限リ其ノ知識ノ地平線ヲ推廣ケ以テ人間ニ必要ナル總テノ問題ヲ學ブコトナリ

サレド是ニ於テ諸君ハ思ハル、ナラン「何故ニ彼ノ基督教國ヲ動搖セシメシ至難ナル問題ハ又我國ニ移サレザル可カラザルカ今ヤ基督教ハ吾國ニ來レリ而シテ余輩ノ熱望スル所ハ彼ノ爭論ヤ辨論ニ非ズシテ生命ト活力ニ充盈セル基督教其ノモノト實踐的傳道ニ適切ナル教育其モノト此ノ二

者ナリ其他ハ余輩ノ望ム所ニ非ズ只之レニ適スルモノヲシテ之レニ當ラシメヨ」ト此思想又真理ヲ含マザルニ非ズサレド只一部分ノミ余ヤ此レニ答フルニ苦マザルナリ

第一福音ノ使者即チ傳導者タルモノハ皆ニ綿羊ノ安寧ヲ保護スルノミノ牧羊者ニアラズ又之レガ嚮導者タル可キモノナリサレバ社會上此ル必要ナル地位ヲ占ムル人々ハ勿論博學多才ナラザル可カラズ使徒管ヲ監督タル可キモノニ付テ云ヘルコトアリ曰ク「かつ新に教に入し者を監督と爲べからす恐くは驕りて惡魔と同じ罪に陥らん(テモテ前書三章六節)」ト而シテ此處ニ所謂「新に教に入りし者」テフ語ハシリア語ニ於テハ淺學ノ人テフ意ニ譯サレタリト云フ詳ク言ハ、傳導使タル可キモノハ胸宇寛大ニシテ且ツ氣力アルノミナラズ又學識ニ於テモ世才ニ於テモ諸人ノ嚮導者タルニ適シタルモノナラザル可カラズ

第二現今貴邦人ノ精神的活動如何ニ激烈ナルヤハ敢テ余ノ辨テ煩ハサズシテ既ニ諸君ノ熟知セラレ、處ナランガ實ニ貴邦ニアリテハ古今未曾有ノ状態ナル可ク否ナ他邦ニアリテモ其例多カラザルナリ而シテ此ノ活潑ナル運動中ニハ歐洲ニ發生セル諸學說其ノ哲學的ナルト科學的ナルト政治的ナルト宗教的ナルトヲ問ハズ各其ノ代表者ヲ得テ此處ニ旗幟ヲ張レリ殊ニ甚シキハ彼ニアリテ既ニ枯木トナレルモノ此處ニ作花ヲ裝ヒテ人目ヲ眩惑セリ更ニ抱腹ニ堪ヘルザラズ得々トシテ基督教ニ攻撃ヲ試ルモノアルコトナリ

情狀既ニ此ノ如シ、サレバ今ヤ全能者ノ祐助ニヨリテ聖職ノ準備ニ從事スル諸君ハ宜シク此レニ關スル總テノ問題ヲ研究セザル可カラズ實ニ此ハ諸君ノ一大義務ナルナリ



第三宗教ハ人生ヲ感化シ國民ノ品行ヲ形成スルニ於テ唯一ノ動力ナラザルモ又最大ナル一動力ナ  
 レバ此カル社會上必要ナル要素ノ其レニ係ル總テノ問題ト共ニ日本人ノ注意ヲ免ル能ハザル  
 ハ勿論余ノ陳述ヲ待タザル處ナリ夫レ日本ハ數多ノ邦國ト公認セシヨリ日ニ多クノ問題  
 ヲ増加セリ而モ其ノ最モ必要ナルモノハ宗教上ノ問題ナルベシ蓋シ宗教若シ余ガ論ズルガ如  
 ク正當ニ研究セラレ其ノ本眞ノ實相ヲ表ハスヲ得バ決シテ社會上無必要ナル死元素ニ非ザル  
 モノナランニハ其ノ必要ノ日本ニ於テモ亦感ゼラザルノ理由ナクレバナリサレバ其ヲ科學  
 的ニ研究スルト共ニ敬虔ノ精神ヲ失ズシテ其レニ接スルハ實ニ諸君ノ頭上ニ墮落シ來ル一  
 大義務ナリ

諸テ諸君ハ悉ク皆ナ他日大哲學者トナリ又大神學者トナリテ以テ思想界ヲ感化セラル、譯ニハ至  
 ルマシサレド今ヤ諸君ノ宣傳セントセラル、信仰ヲ必死ニ研究セラレザル可カラザルハ均シク諸  
 君ノ負フ所ノ義務ナリ而モ余ハ諸君ノ研究ヲ唯此處ニ止ムルヲ願ハス其全體ニ於テ宗教的問題  
 ヲ研究セラレシテ希望スルナリ蓋シ博ク人類全體ノ歴史ヲ探ラバ其内ニ或ハ基督教ヨリモ尙天啓  
 的ニ又人類ヲ感化シ高尚ナラシムルニ於テ尙ホ偉大ノ活力アルモノアルヤモ圖ラレザレバナリ  
 惟フニ諸君ノ深く宗教哲學ノ根底ヲ探ラザル可カラザルハ既ニ使徒ノ命ズル處ナル可シ「なんぢ  
 ら心の中に主なるキリストを崇むべし亦爾曹の衷にある望の緣由を問人には柔和と畏懼を以て答  
 をなさんことを恒に備よ(ペテロ前書三章十五節)」ト而シテ今余ヲシテ問ハシメヨ抑モ諸君ハ如  
 何ニシテ能ク諸君ノ抱持セラル、希望ノ理由即チ諸君ハ何故ニ基督教ヲ信ゼラル、ヤノ問題ニ答  
 へ得ラル、ヤ必ズヤ諸君ハ十分ニ研究シタル上ナラデハ答ル能ハザル可シ且使徒ガ右ノ金言ヲ垂

レシ時代ニハ觀察ノ範圍甚ダ狭ク只猶太ト猶太教ノミニテ十分ナリシナレモ今日ノ時代ハ大ニ之  
 レト異ナリ幾多ノ宗教各其教義儀式ヲ世界萬民ノ眼前ニ呈出シ以テ其ノ一般ノ受信ヲ促シツ、ア  
 ルノ時ナリサレバ諸君モ亦其ノ眼界ヲ廣クシ諸宗ニ該通シ以テ機ニ應シ變ニ處シテ其ノ信仰ヲ諸  
 人ニ宣傳セザル可カラズ見ヨ諸君ヨ抑モ日本ハ此ノ四半期間ニ如何ニ變化セシゾヤ惟フニ此カル  
 壯大ナル變化ニシテ此ク僅々ノ年月間ニ起リシモノナランニハ次ノ四半期間ニハ又如何ナル變化  
 ノ起ル可キヤ一人ノ適當ニ預言シ能フモノハアラザル可シ併シ退歩スルコトナク必ズ更ニ進歩ス可  
 シトハ誰レモ疑ハザル處ナル可ク又實際以前ノ如ク世界ノ諸國外ニ孤立スルコトハ決シテ再ヒアラ  
 ザル可シサレバ日本ニアリテ將來基督教ノ役者タラント欲スルモノハ其事業ヲ完成セン爲メニハ  
 實ニ種々ノ方法ヲ知ラザル可カラズ余ハ此處ニ殆ンド四半期間ノ雪霜ヲ送レルガ常ニ致々トシテ其  
 ノ精神的傾向ニ注意セリ然シテ歐米人が進勉以テ此ノ山水ノ麗ハシキ風俗ノ優ナル東洋ノ一仙島  
 ニ傳播セント試ミツ、アルモノ、中最モ其ノ哲學ノ學者間ニ愛慕セラル、ヲ見ルサレバ諸君若シ  
 此國ニアリテ將來宗教界ノ先導者タラントスルノ高尚ナル莊重ナル理想ヲ保タンニハ其ヲ實行ス  
 ルニ先テ十分之レニ準備セザル可カラズ管ニ教會歴史ヲ學ビタルヲ以テ満足セズ(タトヒ諸君ヤ  
 吾輩ニトツテハ最モ必要ナルモノナルモ)——尙ホモ進ンテ新古ニ關セズ總テアラユル宗教ノ歴  
 史ヲ研究セザル可カラズ諸君ハタトヒ其中ニハ見識ニ類スルモノ或ハ馬鹿ラシキモノアルヲ見ラ  
 レンガ又高尚ナル貴重ナルモノヲモ多ク發見セラル、ナル可シ  
 然リ而シテ諸君ノ之レガ研討ニ從事セラル、ニ當テヤ必ズ第十九世紀ノ基督教ヲ標準トシ第十九  
 世紀ノ基督教ノ光ニ照ラシテ之ヲ檢ス可カラズ身ヲ其ノ時代ニ置き己レモ亦其ヲ信ズル一入トシ



テ檢ス可シサレバ是迄ノ嘲弄變シテ贊歎トナリ嫌惡化シテ同情トナル可シ今四千年前ニアリアン  
人ガバルナ神ニ捧グシ祈ヲ左ニ掲グレバ諸君宜シク之レヲ味フ可シ

ア、如何にせば吾れバルナ神に入るを得ん  
神快ク吾が供物を受け賜ふや

吾静けき心以て和き賜ふ神を拜するは何時ぞ

ア、バルナ神吾は聞まくほし、此の吾が罪を

吾れ之れを知らんとて聖人を訪ひき

聖人の教は皆な同じかりき

ア、バルナ神なれを怒らすはたぞ一

ア、バルナ神當になれを讚美する

なれの友を滅さんと欲ひ賜ふはそも古き罪あればにや

告げ賜えかし汝神聖き主よ

吾れいちはやく罪の汚をはなれし讚美もてなれを拜せん

願くは吾等を救ひ賜ね

列祖の罪より又肉體の犯せる罪より

吾を罪なくし賜ひて怒まざる神を喜ばし賜え

慈悲なる主に謝罪する僕のごとくに

主たる神は愚人を照らし

智慧に富める神は歸依者を富まし賜ふ

ア、主なるバルナ神よ此の歌なれの心に臻るや

吾等は得又保ちて榮へ得るや

ア、神達汝等の恵以て吾等を守り賜へ

(リック章陀七卷八十四篇)

吾れを恵みてア、バルナ神泥の伏屋に入らせ賜ふな

如何に慈悲にぞ神やあわする

風に追るゝ村雲ならで獨りたよゝ行く吾れなれば

如何に慈悲にぞ神やあわする

強く光りていませるみ神かよわき吾身の誤つ際は

如何に慈悲にぞ神やあわする

水の真中に立ちにしなれど濁はきにけり歸依者の上に

如何に慈悲にぞ神やあわする

神達の聖前に罪犯すとき意ひがけなに法破るとき

如何に慈悲にぞ神やあわする



噫何者カ此ノ純潔無垢ニシテ赤子ノ如キ衷情ヲ發露スル祈禱ヨリ勝テ實直ナル單純ナル高尙ナルモノソ實ニ此カル心情ノ發現ハ古代歴史ノ吾人ニ趣味アル所以ナリ惟フニ此カル祈禱ハ美辭法ニ適ハセ哲學的ノ言詞ヲ以テ飾レル即チ心情ヨリモ寧ロ頭裡ヨリ出ル祈禱ヨリ遙カニ全能者ノ心膽ニ臻達スルコト迅速ナル可シ

然リ而シテ諸君ハ恐クハ茲ニ彼ノ詩篇五十一篇ヲ想起セラル、ナラン即チ此禱祈ト他人種他國民ノ均シク罪惡ノ重荷ニ堪兼テ神ニ捧ケシ祈禱トノ間ニ大ナル類似アルヲ曉ラル、ナラン余ハ諸君ニ望ム諸君宜シク此等ノ二者ヲ比較セラレンコト即チ罪惡ノ意識ノ刺衝ニ堪兼テ發スル純粹ナル真心ノ聲ヲ熟慮セラレンコト、實ニ吾人ハヘブリユー人ノ祈禱ニ於テハ同情ニ感刺セラレテ手ヲ延シ賜フ神ノ聖前ニ放開セラレタル罪人ノ心情ヲ見ミ又自カラ省ミテ聖ナルバルソナノ近く在スニ愕然タルナリ例ヲ以テ云ハ、ヘブリユー人ノ祈禱ハ放蕩息男ノ父ノ前ニ其ノ罪ヲ懺悔シ其容赦ヲ乞フガ如クインド人ノ祈禱ハ慈悲ナル主人ノ前ニ奴隸ノ罪ヲ謝スルガ如シ

前ヨリ屢々願フ處ナルガ諸君宜シク其ノ研究ヲ只基督教猶太教ノミニ止メズシテインドノ宗教モヤリシヤローマノ宗教モ其他蠻民ノ宗教モ諸君ノ手當リ次第ニ研究セラル可シ蓋シ人間ノ思想ハ其如何ナル容態ヲ探テ顯レルモ其ヲ研究スルハ極メテ樂シク且利益アルモノナレバナリ又イト馬鹿ヲシク無趣味ニ見ユルモノモ屢々詩人ヲ絶叫セシメ使徒ヲ感悟セシメ科學者ヲ大覺セシメンコトアルヲ記慮セバ些々ノ事トテ決シテ輕々ニ觀過ス可カラズ

夫レ諸君ハ人類ハ只發生セル箇躰ノ一團ニアラズシテ在々タル大洋ノ其ノ波濤ヲ以テ諸國ノ海濱

ヲ洗フガ如キモノナルヲ知ラル、ナラン而シテ諸君ハ自カラ此ノ大洋ノ一部分トナスコトヨリテ始メテ基督教ノ眞精神ニ感化セラル、ニ至ル可シ見ヨ諸君ヨ「往々に世には神すべての異邦人に其已か道を行むとを容し給しかど亦なんぢらを恵て天より雨を降せ豐饒なる時候をあたへ糧食と喜樂をもて爾曹の心を満しめ己みづから證せざりし事なき也」(使徒行傳十四章十六、十七節)「サレバ又人類ハマトヒ神ヨリ直接ニ天啓ヲ受クルコトナキモ尙ホ自カラ一種ノ宗教ヲ造出スルモノナリ而シテ此ク天啓ノ補助ヲカラズシテ自然ニ發達セシ諸宗教ヲ研究スルハ既ニ基督教ノ眞光ヲ認メタルモノニ於テ實ニ利益アルモノナリ即チ吾輩基督教徒ハ之レニヨリテ益々天恩ノ優渥ナルヲ感シ愈基督ノ活生命ヲ吸込スルナリ

又古代ノ宗教ハ皆ニ宗教上ノ教義儀式及ヒ神人交通ノ觀念等ヲ顯ハスノミナラズ又其レニ關スル國民ノ思想ノ全躰ヲモ現ハスモノナリ即チ下ハ野蠻ナルゾール人ヨリ上ハ文明ナルギリシヤローマ等ノ國民ニ至ルマテ其宗教中ニハ只宗教的思想ノミナラズ文學的哲學的思想換言セバ其ノ國民ノ精神的發達ノ全躰ヲ現ハスモノナリ此處(古代ノ宗教中ニ)ニ吾人ハ古代ノ諸神ヲ崇拜シ深微奧妙ナル印度ノ哲學ヲ讀ミ合理精緻ナルギリシヤノ論理法ヲ聞クナリ

抑モ余ノ本論ヲ諸君ニ呈セントスルヤ蓋シ二箇ノ理由アリテナリ

其ノ第一ハ上文中既ニ陳述セルガ如ク諸君ヲシテ人類ノ宗教的思想及ヒ其ノ進歩ノ一斑ヲ知ラシメ以テ諸君ノ宗教的同情ヲ厚フシ諸君ノ宗教的知識ヲ該フシ又神ハ如何ニ人類ノ生活中思想ノ歴史中ニ自現シ賜シヤヲ知ラシムルニアルナリ而シテ此カル研究ノ諸君ニ必要ナル利益アルモノナルハ余ノ敢テ喋々スルヲ要セズ恐クハ諸君ハ古代ノ宗教中ニハ現今ノ宗教的意識ヲ満足セシムル



程精熟セル思想ヲ發見セザルナラフ否ナ却テ不完全ナル見識ニ類スルモノ、ミテ多ク發見セラル  
 ナラフサレド其等ノ不完全ナル幼稚ナル單朴ナルニ拘ラズ其等ノ宗教其物ニハ諸君ノ研究ヲ煩  
 ハスニ十分ナル價值アルモノナリマシスミユラト氏嘗テ東洋聖典集ノ序中ニ云ヘルコナリ  
 自己ノ奉信スル聖書ノ外總テノ聖書ヲ以テ必然ニ人間の或ハ超人間的愚昧及ヒ人性ノ腐敗ヨ  
 リ生ゼルモノナリトナス人々ニハ其等ノ聖書ノ含有スル事柄ノ混雜ナルハ大ニ彼等ノ此クア  
 ル可シト希望セシ處ノモノニ應ヘルガ如キ觀アリ然レモ尙他ニ尊敬ス可キ人々アリ即チ管ニ  
 自己ノ信ズル聖典ノミナラズ其他アラユル宗教ノ聖典中ニ於テモ神聖ナル宣託ヲ感識シ得ル  
 人々是レナリ而シテ此等ノ人々ニ對シテハ或ル古聖典ノ複雜ナルハ之レヲ解セントスルニ當  
 テ大ニ困難ナラザル可カラズ

氏ハ又以下ノ言ヲ以テ其ノ有益ナル序ヲ結終シタリシ  
 其等ノ譯本ヲ閱讀シ之レニ注意スル人々若シ他國民ノ聖典中ニ此カル貴重ノ金塊ヲ發見セシ  
 トテ其等金塊ノ廢物ノ層中ニ隱匿セルニモ係ラズ汝々勤メラル、コアラフニハ余輩ノ辛苦ハ  
 敢テ徒勞ニ歸セザル可シ何ントナレバ現今ニアリテハ各宗教中ニ此カル貴重ナル要素ノ存在  
 セルコト及ビ吾人ハ各宗教ニ於テ本然的ナルモノト然ラザルモノトノ間永久ナルモノト一時  
 附屬的ナルモノトノ間天爲ナルモノト人爲ナルモノトノ間ニ劃然タル區別ヲ畫カザル可カラ  
 ザルコト及ビ假令非本然的ナルモノハ大部ノ書冊ヲ盈スモ本然的ナルモノハ只數語ノ中ニ包括  
 セラル、モノナルコト等ヲ學ブヨリモ必要ニ見ユル他ニ事業アラザレバナリ

(東洋聖典集序十二ページ及ヒ三十八)

余輩ハマ氏ガ基督教ト他ノ人類教トノ關係ニ付テ云ヘル處ヲ悉ク甘受スル能ハザレモ併シ人類ノ  
 歴史言語思想ノ發達ニ於ケル上帝自顯ノ真正ナル觀念ハ大ニ氏ニヨリテ闡明セラレタルヲ感謝ス  
 ルモノナリ實ニ氏ハ博言學及ヒ思想學ヲ斬新ナル基礎ノ上ニ置キ又以前ヨリモ尙々科學的ナル方  
 法ヲ適用シタリシサレバ此カル鴻學ノ云フ處ハ一言一句モ敢テ輕視ス可カラザルモノナリ  
 又罪惡ノ意識ハ宗教及ヒ其ノ儀式ヲ創立スルニ於テ根本ノ原因ナラザルモ又其ノ一原因ナレバ即  
 チ古今ニ通シ文野ノ如何ヲ問ハズ人々常ニ道德界ノ錯亂ヲ感識スルモノナレバ更ニ之レガ救濟ヲ  
 工夫スルモノナレバ種々ノ人民ガ種々ノ時代ニ於テ此レニ付テ如何ナル考想ヲ保チ如何ナル救濟  
 法ヲ工夫セシヤヲ知ルハ實ニ有益且ツ愉快ナルモノナリ殊ニ正義ノ宣傳者ヲ以テ自カラ任セザル  
 可カラザルノ諸君ニ於テハ最モ然ル可シ獨國ノ大神學者ドルセル氏云ヘルコナリ曰ク

異教界ニ於テモ基督教發見ノ順備ハ管ニ消極的ナルノミナラズ又或ル度マデハ積極的ニナサ  
 レタリシ絶對的宗教及ヒ天啓ノ發生點ノ下ニ基督教前諸宗教ノ結合セシコトハ只舊約書ニノミ  
 順備ノ運動ヲ歸スル人々ノ許諾セサル處ニシテ又彼學ハ異教ハ天啓ノ上ニ建設セラル、コト能  
 ハザルモノナレバ天啓の性質ヲ主張シ得ルモノハ只ヘブリユ教ノミ……………異教  
 ハ自然的發達ノ宗教ナリト云ヘルガサレド他ヲ顧ミレハ絶對的宗教ノ途ヲ備フルニ於テ其功  
 ノ一部分タニ異教界ニ許サ、ルハ不正當ノ觀アルノミナラズ其等廣大ナル人性ノ領分ニ於テ  
 神聖ナル攝理ノ總抱的理法ハ何ノ功モナク只徒ニ蠢動スルノミノ有様ニアル能ハザル事モ又  
 熟考ス可キモノナルナリ且ツ又異教ハ宗教上多クノ重寶ナルモノヲ發生シタリシコト而シテ其  
 等ハ完成的宗教ノ領分殊ニ其ノ發達ノ道德的方面ニ對シテタトヒ直接ナラザルモ永久ノ價值



アルモノナリシコトハ吾人ノ以後速ニ見ル處ナリ

(ドルチル氏神學第二卷二百三十五、二百三十七)

ト蓋シ余ノ計畫タル此異教中ニ存在スル高尚貴重ナル品性ヲ闡明シ更ニ又諸君ノ眼前ニ彼等ノ道徳及ヒ其ノ自生的發達ハ如何ニ真正ナル宗教ノ進行ヲ利センヤヲ示サントスルニアルナリ而シテ夫レニヨリテ諸君ハ道徳的理法並ニ宗教的信仰ハ宛モ精緻ナル器械ノ如ク常ニ厚キ注意ト丁寧ナル取扱ヲ要スルモノニシテ若シ然カセザレバ其ハ忽チ壞レ條チ要部ヲ損シ遂ニ始ノ目的ヲ達スル能ハザルニ至ルモノナルコトヲ見ラル、ナラン

第二余ハ既ニ實驗的思想ノ思想界ニ一大改革ヲ生ゼンコト及ヒ宗教ノミガ獨リ其影響ヲ免ル、等ナキヲ陳述シタリシガ實ニ宗教ノ根本的原理ノ多クハ科學ノ攻撃スル所トナルナリ詳言セバ宇宙靈魂及ヒ道徳界ノ主權者ノ存在及ヒ其ノ説明シ得可キコト等ハ否定セラレ或ハ只物理的原因ノ自然的理法ニヨリテ發生セルモノトセラル、ナリ即チ宗教及ヒ總テ其ノ儀式ハ萬物崇拜教ノ發生セルモノ及ヒ野蠻的遺物の觀念トシテ説明セラル、ナリ

然リ而シテ自然ノ書冊ヲ閱スレバ其ハ實ニ前代未聞ノ研究ヲ遂ゲラレタリキ即チ地質學ニハライエルアリ星學ニハハイシエルアリ自然哲學ニハダルトウインワレスハツクスレヘツケル井ルホーウ及チンダル等アリ人類學及ヒ原始人類史ニハラボックタイロルハルバートスベンサー及ヒクワトルフアツ等アリ博言學ニハマクスミユラーゼース及ヒホイトニー等アリ史學ニハレンナングロート及ヒドレーパー等アリ宗教學ニハマクスミユラーレンヴイルクエチン及ヒチーエル等アリ其他普通哲學及ヒ精神學ニ於テモ亦其數擧ケテ算フ可カラズ而シテ總テ其等ノ學者ハ皆共ニ該方向即チ

種ノ複雜ナル發達及ヒ其他地上ニ現出スル總テノ變象ヲ只盲天則ニ歸スルノ方向ニ傾キ或ハ之ヲ導ケリサレド余ハ上擧ノ總テノ學者ハ悉ク皆テ宗教ニ反對スルノ性向アリトモ又方法中ニ攝理ノ指導的意志ノ存スルヲ固守スル學者ハ均シキ學識才能ナシトモ云フニ非ルナリワレス氏ノ如キキハ進化論者中ノ錚々タルモノニシテ又氏ノ如キ學者ノ言ハ大ニ學術界ニ勢力アリト思フガ余輩ハ氏ノ達實說ノ結論中左ノ言アリト覺キ、ワレス氏ハダルトウイン氏ノ力ヲカラズシテ獨立ニ進化說ヲ發明セシ人ナリ

此クシテ吾人ハダルトウイン說ハ其究意ノ論理的歸結ニ導カレタル時モ敢テ人類靈性ノ信仰ニ反對セザルノミナラズ却テ大ニ之ヲ助クルモノナルヲ見ル其ハ如何ニ人類ノ身軀ハ自然陶汰ノ理法ニヨリテ劣等動物ヨリ發達セシヤヲ示スト同時ニ又吾人ハ同一ノ有様ニテ發達スル能ハザル他ニ起原ヲ保タザル可カラザル智徳ノ諸能力ヲ稟有スルコトヲ教ユ而シテ此ノ起原ニ付テハ吾人ハ只不可視的ナル靈界ニ於テノミ完全ナル原因ヲ發見シ得ルナリト

サレド此ノ學派ノ最極端ナルモノ殊ニフランドスゼルマンニアル諸氏ノ說ハ決シテ觀過ス可カラザルナリ有名ナル「基督傳」ノ著者レナン氏屢々云ヘルコトアリ

科學ハ自然ノ發動及ヒ自然ノ表象中ニ於テ人類ノ意志上ニアル或ル優等ナル勢力アルヲ知ラズ又發見スル能ハズ而シテ此主義ヲ取ルル學者ハ其數擧テ算フ可カラズト

以上陳述セル處ヨリ「總テノ宗教ハ何處ヨリ又如何ニシテ創生セシヤ」テフ問題ハ實ニ總テ學者ノ苦心スル處ナルヤ明カナル可シ夫レ昔ヨリ諸國ヲ巡行シ諸島ヲ探檢セシ人々實ニ多シ然レモ今日ニ至ルモ尙一人ノ宗教ナキ人種部落アルヲ確報セシモノナシ但シ最モ野蠻ナル部落ニハ此カルモ



ノアル可シハ人々ノ想像シ又或ル人々ハ現ニ發見セシト主張セシ程ナリシガ後精密ナル探検ノ遂  
ゲタル、ニ及ンデ其ノ誤謬ナルヲ明ニ發見セラレタリキマクスミユラト曰ク  
野蠻人ハ白哲人ノ前ニアリテハ狐疑シテ言テ發セズ自己ノ信仰スル鬼神及ビ英雄ノ名スラ告  
クザルノ一種迷信の嫌疑ヲ有セリサレバ近年マデハツール人ハ宗教的觀念ヲ有セズト信ズル  
人々多ク且ツ又然ルガ如キ觀アリシカト併シ今日ニ至リテハ其ノ宗教ノ研究ハ實ニ吾邦多ク  
ノ監督ヲシテ默然タラシムルナリ

(宗教學入門四十三ページ)

若シ夫レツール人ノ如キ最劣等ノ蠻民ニシテ尙ホ宗教的本能ヲ稟有シ而モ近世宗教中最モ進歩シ  
タル者ノ監督ヲシテ默然タラシムルガ如キ度マデ發達シタルモノナランニハ是レ實ニ吾輩ヲシテ  
最モ極端ナル唯物論派ノ主張スル處即チ宗教的衝動ノ源因ヲ探リテ自然力ノ恐怖ヨリ生ズル迷信  
ノ推積ニ歸シ又夫ヨリ宗教ノ起原ヲ誤解シテ不可知力ノ恐怖トナスガ如キモノヨリ異ナリタル多  
クノ思想ニ導クモノナリ今ハルバート、スペインサード氏ノ主張スル處ヲ見ルニ曰ク  
生者ノ恐怖ハ政治的支配ノ根本トナルカ如ク死者ノ恐怖ハ又宗教的支配ノ根本トナルナリ若  
シ夫祖先崇拜教ガ如何ニナイル河灌域ニ於テ第一ニ高度ノ文明ニ達セシ人民ノ生活ヲ管理ス  
ルニ於テ勢力アリシヤチ記憶セバ——古代ノペルシア人ハ祖先崇拜教ニ根柢セル嚴密ナル社會  
的制度ニヨリテ支配セラレシ「實ニ生者ハ死者ノ奴隸ナリト評セラル、程ナリシチ記憶セバ  
——ギリシヤ人及ビローマ人ノ生活ニ於テ家族及ビ部族ノ守神ヲ祭祀スルコトノ常習ナリシ  
チ記憶セバ——又支那ニ於テモ同種ノ檢束ヲ生ズル同種ノ祖先崇拜教アリシ「及ビ今日尙ホ

連續セル「チ記憶セバ吾人ハ死者ノ恐怖ニ於テ又生者ノ恐怖ヨリ必要ナラザルモ其レニ劣ラ  
ザル社會ニ要素ヲ認ム可シ」  
(社會學原理第一卷四百二十六ページ)

又曰ク  
禽獸ノ如ク野蠻人ハ容貌或ハ動作ノ異狀ナルモノヲ恐怖ス……………種々ノ場合ニ於テ  
吾人ハ鬼神ニ均シキ性質ノ無差別ニ不可思議ナル事物及ビ偉大ノ勢力ヲ有スル人々ニ與ヘラ  
ル、チ見ル」  
(同 二百八十六ページ)

余ハ今スペインサード氏ノ第一假定ニ對シテ一答案ヲ提出セントスルニ當テ先ツ惟フニスベンス  
若シ上文中ノ恐怖テフ語ヲ去リテ代ニ愛テフ語ヲ以テセバ較々正シカル可シト蓋シ祖先崇拜  
ノ始源ハ愛ニアリテ恐怖ニアラザンバナリ今此ノ點ニ付テローマ人ノ信ズル處ヲ檢スルニ彼等ノ  
信ズル祖先崇拜教ハ種々ノ宗教的並ニ社會的ノ慣例ト共ニギリシヤ人ヨリ傳ハリシモノナルガ博  
士モンゼン氏其ノ靈魂界ノ信仰ニ付テ左ノ如ク云ヘリ

靈魂界ニ付テハ吾人只僅少ヨリ記スルチ得ザルガ今彼等ノ信ズル處ニヨルニ無常ノ人身ヲ去  
リタル靈魂中善人ノ靈ハ死躰ノ葬ラレタル地ニ影ノ如ク止マリテ其ノ存在ヲ連續シ且ツ生殘  
者ヨリ飲食ヲ受クト」  
(ローマ史第一卷二百廿六)

又支那ニ於テモ吾人ハスペインサード氏ノ說ヨリ寧ロ吾人ノ說ヲ確ムルモノアルチ認ムルナリ即チ支  
那語ニテ神ト云ヘハ「自己ノ動力ニヨリテ運轉シ沖漠形象ナキ且ツ不可思議ニシテ尙能ク萬物ヲ  
化育スルノ功德アル勢力或ハ原因」ノ意ニシテ又「至善的實在身軀ノ指導力ナル人靈、動物ノ靈、神  
聖ナル、靈ナル、神ノ如キ」等ノ意ヲモ保タル語ナリ而シテ祖ナル語ハ「先祖始祖家族ノ設立者第一



原始或ハ最初」等ノ意ニシテ後「道神ヲ祭ル」ノ意トモナレル語ナルガ其ノ文字ノ偏ハ前ノ神即チ常ニ善靈ヲ表ハスニ用ヒラル、語ノ文字ノ偏ト同一ナリ

又日本ニアリテハ英雄ヲ以テ神祇トセルガ其等ノ英雄ハ皆ナ偉大ノ功績アリシ人々ナリ而シテ又此ク自然ヲ概念スルハ人類ノ悟性上避ク可カラザルモノナリ夫レ野蠻人ノ宇宙萬有ヲ視察スルヤ總テノ者ハ彼ニ對シテ只驚愕ノ目的物ニ外ナラズ上テ仰ケハ星辰ノ燦然タル天内ヲ省レバ嚴然犯ズ可カラザル道德法是等ハ實ニバスカルカントノ如キ哲學者ノ心情ニ於ルト均シク野蠻人ノ心情ニ於テモ又驚愕ノ波瀾ヲ生ゼシムルモノナリ而シテ之レヨリ進ンテ彼等ハ全能者大慈悲者ノ觀念ニ達スルナリ實ニ此ク推理スルハ理性上避ク可カラザルモノナリ夫レ最下等ナル野蠻人ト雖モ今日第十九世紀ノ教育ヲ受ケタル人々ニ均シク又抽象的推理力ヲ稟有スルモノナレバ勿論其ノ程度ニ於テハ同一ナラザルモ——第一原因ノ觀念ハ皆ニアリアン人種セミチツク人種ナソノ進歩シタル高等ナル人種ノ理性ヲ攪擾スルノミナテズ又ク野蠻人ノ理性ヲモ攪擾スルナリ彼ノゾール人ノ如キ最下等ノ人種スラ現ニ之レヲ有シ且ツ之レヲ呼ンテ王ト云ヘリ嘗テ一ゾール老人カラウエー博士ニ謂テ曰ク

吾儕幼少ナリシ時常ニ「王ハ天ニアリ」ト云フ言ヲ耳ニシタリキ又小兒ハ高ク空ニハ其王ノ在セルモノト思ヒテ之ヲ指スノ習慣アリキ併シ吾儕ハ其ノ王ノ名ノ何ト云フヤチ知ラズ唯「王ハ高ク天ニアリ」上ニアル王ハ世界ノ創造者ナリ」ト聞ケルノミト

又一老婦曰ク吾儕ハ「穀物ハ何處ヨリ來リシヤ」ヲ問ヒツ、其ノ起原ニ付テ話セルト一老人アリテ「其ハ創造者ヨリ來リシ」ト云ヒシ其ノ時吾儕ハ引續テ「此ノ創造者ハ何處ニアルヤ吾儕ハ吾

々ノ酋長ヲ視ンバ亦此ノ創造者ヲモ見ラレヌ答アルマシ」ト問ヘバ其人「而シテ吾々ノ視ル其等ノ酋長モ亦造物者ニヨリテ造ラレタリキ」ト云ヒテ吾儕ノ問ヲ避ケタレバ吾儕再ビ「彼ハ何處ニアルヤ何ノトナレバ彼ハ全ク視得ザレバナリサレバ彼何處ニアルヤ」ト問ヒシ時吾儕ハ老人ノ天ヲ指シテ「萬物ノ創造者ハ天ニ在リ而シテ其處ニハ又一國民アリ」ト云ヘルヲ聞ケリ」ト

惟フニ第一原因ニ付テ如何ナル解釋モ此ノゾール人ノ平易ニシテ而モ深妙ナル信仰ニ勝ル、能ハザル可シ然リ而シテスペインサー氏ハ尙ホ彼等ノ信仰ヲ追跡シテ祖先崇拜ニ歸セントセリ吾輩ハ將タ何ヲ云ハシ(スペインサー氏社會學ノ原理第一卷祖先崇拜論ヲ見ヨ)

又近世ノ進化論者ハ野蠻人ヲ以テ人猿間ノ結合線ノ代表者トナセモ併シ余輩ヲ以テセハ此ハ寧ロ概派ノ無制限ナル臆說ニ逆ヒタル活駁論ナルナリ

ハツクスレ、講師ハ人類ノ骨格ト種々ノ猿屬ノ骨格トヲ對比シ又彼等ノ腦髓ヲ比較シテ以テ彼等ノ間ニ差違ノ極僅少ナルヲ示シ而シテ夫レヨリ人類ハ下等動物ヨリ生來セルモノナリトノ斷定ヲ導ケリ併シ是レ實ニ大ニ吾人ノ熟考ヲ要ス可キ點ナリ若シ夫レ身軀結構ノ類似ニシテ此ク著シク又思想及ヒ總テ其ノ附屬物ニシテ只腦髓運動ノ成果ナラシムルハ何故猿猴屬モ亦人類ト同シ制度同シ文學ヲ有シ同一ノ社會的并ニ精神的ノ發達ヲナサルカ但シ諸君ハ野蠻人ハ其ノ現狀如何ニ卑陋ナルモ智徳ノ墮落如何ニ低キモ其ノ境遇ヲ變セバ他ノ人種ト均シク同一ノ印象ヲ受クルニ適スルモノナルヲ見ラル、ナラン洵ニ野蠻人ハ其ノ墮落セル狀態ニ於テ研究セラル、ト改良セラレタル狀態ニ於テ研究セラル、トニヨリテ大ニ差違アルモノナリ



今アフリカノ深林中ヨリ野蠻人ノ一小兒ト一猿見トヲ捉ヘ來リテ此ノ東京市ニ置キ以テ同一ノ養育法ヲ施ストセンカ日ヲ經ルニ從テ諸君ハ左ノ事實ヲ目撃セラルノナラン即チ野蠻人ノ小兒ハ漸々生長シテ殆ンド諸君ヤ生ノ如キ人間トナリ又同一ノ心能力ヲ賦與セラル、ニ至ルニ之レニ反シテ猿見ハ漸々生長シテ一ツノ完全ナル猿猴トナリアフリカノ深林中ニアル其ノ兩親ヨリ毫モ異リタル處ナキモノトナルヲ見ル可シ是ニ於テ一大必要ナル問題ノ起ルモノアリ何ゾ曰ク若シ夫レ進化ナルモノハ單ニ盲理法ノ發動ニシテ漸々ニ完全ニ趨進スルモノナランニハ何故一方ニアリテハ頓變化生シ他ノ一方ニアリテハ一變化モ起ラザルカ然リ而シテ此ノ事實タル實ニ野蠻人ノ宗教的觀念ヲ論ズルニ當テ大價値アルモノナリ詳言セバ彼等ノ宗教的觀念ハ一個人ノ抽象的心力ヨリ發生スルモノニシテ決シテスベンサーヤ其ノ徒弟ノ考フルガ如ク最古ニ發生セシテ祖先崇拜ヨリ發達シタルモノニ非ザルナリ

實ニ野蠻人ハ吾人ノ實見スルガ如クダトヒ潜在的整伏のナリト雖モ吾人ノ有スルガ如キ心能力ヲ稟有スルモノニシテ適當ナル境遇ノ下ニ發達セシメラルンバ最モ開化シタル人々ト同一ノ活動ヲ顯彰スルニ至ルモノナリ然ルニ之レニ反シテ最モ進化シタル擬人猿スラ置位ノ變化及ビ教育ニヨリテ毫モ感化セラル、トナク其レニヨリテ一步モ其ノ類ヲ脱出スル能ハザルナリ此ク云ハト反對者ハ必ズ反證トシテ左ノ事實ヲ呈出スルナラン即チアフリカノ住土ヨリアメリカニ移サレタル黑奴或ハ西印度人ハ白人ト同一ノ教育ヲ受クルモ同一ノ進歩ヲ成ス能ハズテフ事是レナリ

余ハ此ノ言中眞理ノ假面アルヲ認ムサレド其ノ根底マデ研到セバ直ニ其ノ虛妄ナルヲ發見スルナ

リ但シ此ノ場合ニ於テハ吾輩左ノ三件ヲ記憶セザル可カラズ

第一黑奴ハアフリカノ深林中ヨリアメリカニ移サレタルモノナルト

第二黑奴ハアメリカニアリテ奴隸トセラル、ト茲ニ三百年以上ニ及ベリト雖モ其ノ情狀ヲ改良セントスル毎ニ常ニ最モ恐ル可キ虐待ヲ蒙レルト

第三解釋セラレタル後モ彼ハ眞正ノクリスチアンの四海同胞的ノ精神ヲ以テ待遇セラレズ却テ實際ヲ謝絶セラレ又屬々虐待ヲ蒙ルヲ以テ改良ノ機會ハ白人ニ比シテ甚ダ少ナキト

併シ其等ノ不幸ナル状態ノ下ニアルニ拘ラズ教化一於テ道德的并ニ宗教的生活ヲ學ブニ方テ黑奴ノ進歩ノ甚ダ著シキハ最モ英敏ナル批評家ガニ預想スル能ハザル處ナリシ

諸以上陳述セル處ニヨレバ自然宗教發生ノ原因即チ神聖ナル天啓ノ祐助ヲカラザリシ宗教ノ發生ノ原因ハ其數多カル可キモ悉ク左ノ二大原因ノ下ニ彙類サル、ヲ得可シ

第一ハ余輩既ニ陳述セルガ如ク世界ノ第一原因ニ付テノ觀念是ナリ而シテ此ノ觀念ヲ以テ一原因トナスニ當テハ先ツ彼ノ野蠻人ノ心機ハ抽象的思辨ニ適スルガ如キ發達シタル状態ニアラズトノ説ノ當否ヲ判定セザル可カラズ惟フニ此ノ説ハ當抵維持シ難キ不明了ナルモノナル可シ何ントナレバ先ツ第一ニ記録ノ證據ハ全ク之レニ反スレバナリタトヒ宜教師旅行者或ハ商人ノ日記中ヨリ引出セラレタル二三ノ昔話及ヒ生了解ノ事實ニシテ此説ヲ助クルガ如キ觀アルモノアルモ是等ハ既ニ上文ニモ陳述シタル如ク人民ノ言語モ習慣モ知ラザル人々ノ皮想的ニ觀察シタル處ノモノヲ叙セルモノナレバ究竟ノ判斷ヲ下スニ當テ餘リ價値アラザルモノナリ更ニ吾人ハ此カル場相ニ於テハ左ノ一事ヲ忘ル可カラズ即チ野蠻人ノミナラズ開化人ト雖モ自己ノ神聖ナリト認ムル處



ノ宗教ノ秘密ヲ奇事探索家ニ探ラル、ヲ好マザルモノナルト是レナリ  
又野蠻人ノ心界ニ付テハ吾人大ニ吾人ノ幼時ニ比シテ悟得スル處アリ蓋シ野蠻人ハ多クノ點ニ於  
テ小兒ニ類似スルモノナレバナリ詳言セバ兩者共ニ微弱ナル變リ易キ定見ナキ又挑撥サレ易キ心  
意ヲ保ラルモノナレバ尙ホ開化人ト同マ心制ヲ有シ十分成熟シタル人々ノ心意ト均シキ潜在的應  
有性ヲ稟有スルモノナリ

今余ヲシテ諸君ニ問ハシメヨ滿堂ノ各位ニ問ハシメヨ諸君ハ其ノ幼穉ノ經驗ヨリシテ屢々此ノ世  
界ハ如何ニシテ現出スルヤヲ考ヘシトナキヤ又空間ノ廣大無邊ナル時間ノ無始無終ナルヲ思フテ  
甯然タリシトナキヤ余ハ記憶ス余年僅カニ七才ナリシキ其等ノ甚深幽玄ナル抽象的問題ヲ父ニ與  
ヘシニ父弱シテ答フル能ハザリシテ而シテ其時余ハ父ノ僅カ七才ノ小兒ニ問詰ラル、ヲ見テ父ハ  
無學無智ノ人ナリト思ヒタリキ併シ今日自カラ父ノ地位ニ立ツニ至リテ亦已モ小兒ノ問ニ答フ能  
ハザルヲ知リ更ニ現在過去ノ諸大哲家モ均シク然ルヲ悟レリ

然リ而シテ此ハツールノ婦人ガ酋長スラヲモ造レリト云フ大王ニ付テ僧侶ニ問ヒタル問題ト異ナ  
ルヤ余毫モ異ナル處ヲ發見スル能ハズ否ナ場合ト狀態コソ異ナレ其ノ本質ニ至リテハ均シク父ト  
余トノ問ノ問答ニ外ナラザルナリ而シテ今若シ其ノ僧侶ノ答ヲ形而上學ノ言詞ヲ以テ裝ハンカ其  
ハ大哲學者スベンサー氏ノ言ニ異ナル處ナカル可シ氏曰ク

若シ宗教科學ハ調和サル可キモノナランカ其調和ノ基礎ハ蓋シ總テノ事實中此ノ至深至大至  
確ナル事實即チ萬有ノ吾人ニ表現スル大勢力ハ全ク不可知的ノモノナリト云事實ナラザル可  
カラズト  
(ス氏第一原理第一部不可知部)

而シテツール人ノ答ト云フハ左ノ如シ「我々ハ父老ノ天ヲ指シテ萬物ノ創 者ハ天ニアリト云ヘ  
ルヲ聞ケリ」ト余輩ハ此ノ大秘密ヲ解釋スルニ於テハ壯大ナル斯氏總合哲學ノ全系モ敢テツール  
人ノ單簡ナル言ニ勝ル處ナキヲ知ルナリ實ニ此ノ問題ヲ解クニ於テハス氏ノ勤勞モ毫モ吾人ノ疑  
團ヲ溶解スルノ力アラザリシナリ然レトモ彼等ハ共ニ一事實ヲ證セリ而シテ此ノ事實タル余ハ一  
點ノ疑心ヲ抱ク可カラザルモノナリト惟フ然ラバ此ノ事實トハ何ゾ曰ク開化人ノ腦髓ヲ攪擾セシ  
觀念ハメトヒ粗拙ナル形ヲ以テセリト雖モ亦均シク野蠻人ノ腦髓ヲ攪擾セリト云フ事實是レナ  
リ

然リ而シテ野蠻人ハ如何ニシテ此カル高尙ナル思想ニ達セシヤト云フニ其ノ方法ニ於テモ毫モ開  
化人ニ異ナラザルナリ即チ自然ノ製作物及ヒ宇宙ノ全働大機關ヲ視察スルニヨリテ達スルモノナ  
リスベンサー氏曰ク

吾人ハ外界ノ吾人ニ與フル諸ノ印象ニ付テハ彼等ヲ因生物トシテ思考スルニ非ズンバ全ク彼  
等ヲ考究スル能ハズ而シテ彼等ノ原因ヲ探求スルニ於テハ第一原因ノ臆説ヲ採用スルニ非ズ  
ンバ一步モ進ムト能ハズ」

(第一原理三十七)

惟フニスベンサー氏モ亦吾人ヲシテ第一原因ノ觀念ヲ起サシムル客界ノ印象ハ又均シキ觀念ヲ野  
蠻人ノ心裡ニ惹起スルモノナルト排斥セザルナラン實ニ野蠻人ハ開化人ヨリモ自然及ヒ其發動  
ニ感憤セシメラル、ト遙ニ大ナルモノナリ換言セバ野蠻人ハ開化人ヨリモ自然ニ近邇スルモノナ  
リ、サレバ夫レヨリシテ彼等ハ万物ヲ神視スルニ至ルナリ即チ野蠻人ノ眼ニハ万物皆ナ無上大王  
ノ創造スル處ト見ユルヲ以テ夫レヨリ彼等ハ萬物ヲ以テ皆ナ神聖ニシテ且ツ崇拜スルノ價値アル



モノト思考スルニ至ルナリ  
 第二ハ人心ノ奥底ニ植付ケラレタル道德法ナリ夫レ徳不徳ノ觀念ハ現今世ニ存在セル各人種ノ悉ク稟有セル處ノモノニシテ時ニ或ル人種ハ最モ主要ナル道德法ヲ不知不識ニ犯スト雖モ——例ヘハ或ル無智ナル人民ハ人間犠牲及ビ賣淫等ヲ公行スルガ如シ——吾人ハ未ダ道德的本能ノ絶對的ニ燃滅セル人種アルヲ知ラズ實ニ罪惡ノ意識ニシテ一回汚レタル良心ヲ刺衝セシカ其ハ嚴然タル道德法ヲ彰然發現セシメザレバ己マザルナリ吾人若シ「吾等ハ吾等ノ涙ニヨリテ神ヲ作ル」ト云ヘルナン氏ノ言又犯罪ノ宥赦ヲバルナ神ニ請ヘルインド人ノ祈禱ヲ熟考セバ思ヒ半ニ過ギン夫レ良心ハ唯理論ノミニテ満足サル、能ハザルモノニシテ必ズ或ル交通ノ目的物ヲ要スルモノナリ而シテ此ノ目的物タル實ニ神ニ外ナラザルナリカント曰ク蓋シ吾人ハ吾人ノ就テ觀察シ得ル其等ノ自然ノ事業中ニ只創造者ノ搜リ難キ特妙カニ歸スルニ非ズンバ説明シ難キ程ノ高大玄妙ナル智惠ノ痕跡ヲ發見シ又此ノ創造者ニ向テ實ニ世界ノ最高ノ調和ナル道德的秩序ニ付テモ前者ト均シク讚嘆ス可キ整理ヲ希望セザル可カラズト思惟スレバナリ  
 此等ノ二箇ノ原因即チ第一原因ニ付テ朦朧タル觀念、自然ノ美妙、秩序及ビ齊一並ニ人類ノ道德的意識ハ實ニ人類ヲシテ諸々ノ時代ニ於テ崇拜儀式及ビ教養等ヲ發生スルニ至ラシメタルモノナリ夫レ野蠻人ハプラトーヤアリストートルオーガスチンヤアクナイスカントヤヘーゲル或ハスペンサー等ノ組織シタルガ如キ科學道學又本體學ヲ組成スルコト能ハザレ併シ第一原因ノ觀念ニ付テハ吾輩ニ均シク亦彼等ノ抱有スル處ニ又吾輩ノ如クニ其等觀念ノ勢力ヲ感識スルナリ否ナ吾輩ヨリモ更ニ大ニ更ニ深く感識スルナリ詳言スレバ吾人ハ屢々近世ノ壯大ナル文明ニ捲込レテ即

近世ノ文學遊戯及ビ混雜ニ紛レテ純潔ナル心意ノ上ニ與ヘタル、自然的印象及ビ道德的反省ノ壯觀ヲ忘ルニ否ナ感ぜザルニ至レ併シ原人ニアリテハ然ラズ彼ニハ全ク其等ノ憂ナシ彼ニハ「もろく」の天は神のえいくわをあらはし穹蒼はその手のわざをしめすこの日ことばをかの日につたへこのよ知識をかの夜におくる」ナリ又インドノ詩人モ同一ノ着想ニテ歌ヘルニハ

太初にアラソヤガルバ神現れぬ

あらゆる物の獨りの主として生れて

此の大地、彼れ堅く定めぬ

此の天彼れ立てぬ

吾儕如何なる御神を

吾儕の供物以て拜す可き」

彼れは吾儕に息氣を與え

吾儕に力を與えたり

彼の命は萬物の從はざる可からざる處

光りある神達すら、

彼れの蔭は死なり

彼れの影は不滅の生命なり」

彼の勢力と威嚴は

雪を戴ける巍々たる高嶺



渺々たる大洋遙かに流れる大河

之れを現せり

彼の擴げたる腕は、

其等の潤き土地なり」

彼は天を輝かし

地を續がしめぬ

彼は諸天の天なる

蒼窮を定めぬ

彼は大氣の廣まりたる

空間を作りぬ

今ヤリシヤ人ノ神界を研究スルニ一見セバ諸神ハ只勇士ノ神トシテ祭ラレタルモノ、如ク又夫ヨリ勇士或ハ半神ハイト容易ニ且ツ自然ニ其ノ境遇ヨリ上テ神界ニ入ルガ如シト雖モ能ク注意シテ研究セバ惟フニ公平ナル判者ヲシテ神ノ觀念ノ起原ハ勇士ノ觀念ノ漸々ニ變形シタルモノニアラズシテ自然勢力ノ印象ノ自然的發達ニアリシコトヲ確信スルニ至ラシムル可シ實ニ神名其物は既ニ之ヲ證セルナリ例ヘハウラナストハ諸天ノ義チアハ地ノ義其他枚舉スルニ遑アラズ然ラバ誰カヤリシヤ人ハ夢或ハ睡眠中ニ彼等ヲ苦ムル死靈ヨリシテ神ノ觀念ヲ得タリト主唱シ得ルモノソ是レ留ニ事實ニ反スルノミナラス又論者スベンサー自身ノ言ニモ背クリスベンサー氏曰ハズヤ

吾人ハ外界ノ吾人ニ與フル諸々ノ印象ニ付テハ彼等ヲ因生物トシテ思考スルニ非ズンバ全ク彼等ヲ考究スル能ハズ

抑モスベンサー氏ハ神ノ觀念即チ宗教ノ起源ハ幽靈ノ信仰ヨリ發生セルモノナルコトヲ證セシガ爲メニ今日ノ野蠻部落ヨリ多クノ證據ヲ蒐集セリト雖モ併シ氏ハ全ク古人ノ留存セシ證據ヲ度外ニ措ケリ實ニヘブリユノ舊約書中ニモ印度ノ章陀中ニモペルシヤノゼンタ、アヴェエスタ中ニモ何處ニモ氏ノ説ヲ助ケ之ヲ確ムルモノ一モアラザルナリ

今印度ノリツク章陀即チ第一ノ章陀トアタルハ章陀即チ最終ノ章陀トテ比較スルニ兩者ノ差違タル實ニ甚ダ著シ而シテリツク章陀ハ實ニ萬ノ神惠ニ對スル人心歡喜ノ情ノ完全ナル表出ナリ即チ彼等ノ敵ヲ征服スルニ於テ豊富ナル産物を生ずる地を見るに於テ其他種々萬々の惠を見るに於テ自然に發起する歡喜の情感謝の念の十分なる發出ナリ今其の一例を左に掲ぐ可し

歌ふて、讚美せよ、

世界の君なる、いと大なる、尊き、インドラ神を。

最も富たる、人なる、大勝利者なる、彼を。

あらゆる物をして、崇めしめよ、彼を。

成せる、彼を。又爲せる、彼を。

吾儕に、自由を賦ふ、者は、彼れなり。



吾儕を、最大なる幸福に、導き賜ふは。

戦にありて、勝と、譽を、送り賜ふは。

又闘にありて、敵に克たしめ賜ふは、彼れなり。

屢々讃めらるゝ、船子のごとくに、

富に、吾儕を、渡らせ賜ふは、

わらゆる競争者に、勝たしめ賜ふは、インドラ神なり。

インドラ神よ吾儕を祐けて爽快ならしめ賜え

汝の徳に臻る道を備え賜え

又幸に吾儕を導き賜え

クロー博士是等ノ二章陀ヲ比較シテ云ヘルニハ曰ク

リツグ章陀ハ濃厚ナル同情ト自然ノ愛ヲ以テ貫カレタルバ章陀ハ只惡靈及ヒ其ノ魔力ノ恐  
怖ヲ以テ壓セラル又アタルバ章陀ニ於テハプラマンナル語ハ最早リツグ章陀ニ於ケルガ如ク  
祈禱ノ意ニアラズシテ符呪呪文妖術等ノ意トナレリ

今右ニ掲ケタルモノ及ヒ其ノ他ノリツグ章陀ノ頌歌ト其ノ發達ヲ研究スルニ即チ印度ノ宗教的思  
想ノ發達ヲ研究スルニ吾人ハ大ニ希臘ノ哲學的思想ノ發達ニ類似セルヲ見ル詳言セバ吾輩ノ既ニ  
陳述セシガ如ク最古ノ印度宗教ハ宇宙ニ發顯セル自然ノ優勝勢力ニ對スル歡喜ノ情ノ表象ナリシ

實ニ其ハ一ツノ儀式一ツノ僧侶ヲ持タズ又人性ニ就テ一ノ高尚ナル觀念モ抱カザリシサレバ彼ノ  
壯麗ナル儀式嚴然タル階級ヲ保タル偉大ナル印度教ハ後世ニ發達シタルモノニ外ナラザルナリ而  
シテ又希臘哲學ハ甚ダ之レニ類似セル歩ヲ追テ進メリ即チ最古ノ希臘哲學ハ専ラ客觀的現象ノ種  
々ノ状態ヲ研究シタルモノニテ彼ノ心理學ノ如キハギリシヤ人ノ手ニアリテハ未ダ一科ノ科學タ  
ル能ハザリシ只僅ニ道德的ノ方面ニ於テ活動セシ主觀的現象モソクヲナスノ時ニ至ルマデ未ダ一  
定ノ体系ヲ備フルニ至ラザリシサレバ余輩ハ大ニユーベルウエヒ氏ガギリシヤ哲學ノ進化ヲ分チ  
テ左ノ三段トセルヲ贊成スルナリ

第一期哲學的研討ノ方針大ニ自然界ニ向ヘル時代即チ現象學ノ盛ナリシ時代(タレスヨリア  
ナキサゴラス并ニ原子學派ニ至ル)

第二期哲學的研討ノ方針大ニ意的并ニ想的實在物ト見做サンタル人間ニ向ヘル時代即チ論理  
學及ヒ倫理學ノ盛ナリシ時代——サンド此ノ時代中ニハ自然哲學モ亦二者ニ伴フテ漸  
々復活シ生長シタリシ——(詭辨學派ヨリストイク派エピキユラス派并ニ懷疑派ニ至  
ル)

第三期哲學的研討ノ方針大ニ神性及ヒ其ノト世界人間トノ關係ノ問題ニ向ヘル時代即チ靈  
智學ノ盛ナリシ時代併シ此ノ時代ニハ自然哲學倫理學及ヒ倫理學モ亦盛ナラザリシニ  
非ス(新バイタゴラス派ヨリ新プラトニ派ニ於テ古代哲學ノ終ルマデ)

要スルニヘブリユ一ノ人及ヒ其他ノ古國民ノ今日ニ留存セル記錄ハ其全體ナルト殘片ナルトヲ問ハ  
ズ左ノ一理ヲ確ムルナリ即チ無上實在ノ觀念ハ進化論ノ主張スルガ如ク靈魂說ヨリ成果スルモノ



ニアラズシテ人間ノ理性上自然ニ發生スルモノナリト云フ一理是レナリ  
 サレド此ノ言ヲ聞テ人或ハ問ハン「人類ハ其ノ野蠻ノ状態ニアル間ニテモ此カル抽象的推理ヲ  
 シ得ルヤ」ト余ハ之レニ答ヘテ「然リ實ニ人類ハ野蠻ノ状態ニアル間ニテモ此カル抽象的推理ヲ  
 ナシタリ」ト云ハン惟フニ抽象的及ヒ形而上的思辨ハ人類ニ賦與セラレタル天惠ナル可シ人類ハ  
 タトヒ其ノ身軀ノ構造ニ於テハ下等動物ヨリ進化シタルモノ、如キ觀アルモ其ノ精神ノ構造及ヒ  
 其ノ美麗ナル器具ニ於テハ總テノ物ヨリ秀出セルナリ詢ニ彼レト下等動物トノ間ニアル深淵ハ決  
 シテ越エラル、ヲ得ザルナリ詳言セバ是レ迄越ラレシコトアルヲ聞カザレバ將來モ亦否ナ永遠ニ越  
 エラル、コトナカル可シ吾儕ハ決シテ家屋ヲ建築シ書籍ヲ出版シ否ナ野蠻人ノ製スルガ如キ器具ス  
 ラテモ製作シ且ツ之レヲ適當ニ仕用シテ自己ノ幸福ヲ圖ル猿アルヲ聞カザル可シ犬アルヲ見ザル  
 可シ

今科學ノ進歩及ヒ形而上學ノ衰微ニ付テカント云ヘル言ヲ閱スルニ曰ク

形而上學即チ全ク孤立スル且ツ思辨的ナル理性ノ學問即チ總テ經驗ノ教ユル處ヲ退ク只概念  
 ノ上ニ止マル(數學ノ如ク直覺ニ於ケル概念ノ應用ノ上ニアラズ)ヲ以テ理性ハ其眼目ト稱  
 セラレ得ル學問ハタトヒ他ノ總テノ學問ヨリ古ク且ツ他ノ物テノ學問ハ恐ロシキ深淵ノ中ニ  
 吸收セラル、モ尙ホ殘留スルモノナル可シト雖モ是迄不幸ニモ科學ノ安全ナル途ニ登ラザリ  
 \* (純粹理性批評第一版序)

余ハ大ニ此說ニ賛成スルナリ若シ夫レ忽然大變亂ノ起ルアリテ盡ク近世ノ文明ヲ掃去スルモ即チ  
 哲學文學科學等ハ悉ク消失シテ吾人再ビ原始ノ野蠻的状态ニ還ルコトアルモ尙ホ形而上學ハ吾人ノ

腦裡ニ止リテ消失セザル可ク又吾人ハ之レニヨリナタトヒ漸々トハ雖モ再ビ現今ノ状態ニ進達ス  
 ルナル可シ

抑モ余ノ本題ヲ茲ニ講述セントスルヤ蓋シ既ニ陳述セルガ如ク原人ノ情緒的并宗教的性質ヲ諸君  
 ニ示サンガ爲メナリ而シテ余ハ便利ノ爲メ本講ヲ別チテ左ノ三部トセリ

先ツ本年ハ印度ギリシヤイヨプト及ヒヘブリユ等ノ諸宗教ヲ講述シ

次年ニハベルシヤ支那ローマアツシロバビロニア等ノ諸宗教及ヒ現在スル或ル野蠻人ノ小宗教ヲ  
 講述シ

又其ノ次年ニハ所謂世界ノ三大宗教ト稱セラル、佛教クリスト教及ヒマホメツト教ヲ講述ス可シ  
 此クシテ余ハ各宗教ノ特色ヲ別々ニ闡明センコトヲ希望ス而シテ然ナシタル時ハ吾人ハ十分クリス  
 ト教ノ威嚴及ヒ聖書ニ於ケル神ノ直接啓示ヲ曉リ得可シト信ズルナリ



## 第二章 觀念之始源

前章ニ於テ余ノ勤ムル處ハ人間ハ他動物ノ有セザル資性能力ヲ稟有スル動物ナルヲ示スニアリシ  
 詳言セハ人間ノ宗教、言語、生活ノ状態及ヒ其他複雑ナル習慣等ハ其ヲシテ他動物ノ上ニ位セシ  
 ムルモノナルヲ示スニアリシ

サレド今本章ニ於テハ余ハ人間ヲ以テ心理的實在トシテ論ゼントス而シテ此目的ヲ成遂グルニハ  
 先ヅ前諸代ヨリ傳ハレル又今日ニ生起セル種々ノ哲學ノ歴史中ニ表現スルトシテ人智ノ生長及ヒ  
 進歩ノ一斑ヲ簡單ニ公平ニ示スヲ以テ最良方法ト思惟スルナリ

夫レ觀念ノ始源及ヒ開化ハ恰モ連續セル鏈鎖ノ如キ者ナリ而シテ假ヒ屢々種々ノ系統相反對シテ同  
 ヲ鏈鎖中ニ顯ハル、モ若シ哲學ノ直正ナル觀念即チ哲學ハ人間精神ノ調和的建設物ナリテフ觀念  
 ニシテ了解セラレシカ其ハ只同躰ノ異相ニ發現セルニ外ナラザルヲ知ラル、ナリ、サレバ或ル一  
 系統ノ自カラ完全無缺ヲ主張シテ悉ク他ヲ排斥スルヤ時ニ或ハ其成功確カナルガ如キ觀アルモ恐  
 シキ反對ノ猛烈不意ニ勃起スルモノアリテ遂ニ失敗ヲ免ル、能ハザルニ至ルナリ今一例ヲ擧ゲテ  
 之ヲ示サンニ中世紀ニ於テ煩鎖學派ノ盛大ヲ極メテ遂ニ多面的ナルギリシヤ哲學ヲ壓倒スルニ當テ  
 ヤ其ハ自然現象ノ總テノ變化ヲ總テ哲學的研究ノ場外ニ放逐シタリシ夫レヨリ科學ハ神學ノ補助  
 者トナリ遂ニ哲學スラモ之レニ一步ヲ讓ルニ至レリ今日ヨリ之レヲ顧レバ吾輩ハ實ニ古人ノ此カ  
 ル思想ノ束縛ニ甘シタリシヲ怪ミ又神學界ニ於ケルノ外思想ヲ羈制シテ進歩セシメズ更ニ其神學  
 界ニ於テモ徒ニ奇怪的ノ妄念妖幻的ノ空想ニ放任シテ嚴然犯ス可カラザル論理ノ法則ニ從ハザリ



シ人々ヲ評シテ恐ナリ野蠻的ナリト呼バントスル程ナリ併シ余ハ「哲學ノ歴史ハ愚痴ノ歴史ニア  
 ラズ誤謬ノ歴史ナリ」ト云ヘルリユイイス氏ノ言ニ賛成スルモノナレバ該學派ノ思想界ニ置ケ  
 ル束縛ニ付テ考フルモ敢テ人類思想ノ状態ヲ此クナラシメシ吾人ノ先輩ヲ嘲笑セザルナリ  
 テ此ノ學派ハ諸學派中尤モ長ク思想界ヲ支配セシモノナレバ即チアレキサンデリアノ新プラト  
 派ノ昂起ニ始リ宗教改革後尙ホ長ク嬗々トシテ傳ハリシモノナレバ人々此處ニ一疑問ヲ發スルナ  
 リ即チ此ク長ク人心ヲ支配シ搜索ノ諸能力ヲ休マシメスコスタアベラードアクイナス等ノ諸大家  
 ヲ生ゼシ哲學ハ何故人心ノ背叛スル處トナリシヤ、サレド余輩ハ其理由ヲ明示スルニ苦マザルナ  
 リ蓋シ余輩ハ上文中一言述シガ如ク此ノ學派ハ精神的發達ノ多面的ナルヲ忘却セシヨリ遂ニ人心  
 ノ反動ヲ免レザリシナリ然リ而シテ余輩ハ又此ノ言ヲ以テ通例科學ノ名ヲ假リテ進行スル現今ノ  
 不可思議的ナル無神論の唯物論ノ運命ヲトシ得ルト信ズルナリ

夫レ科學ハ其ノ普通ノ意義ニテ云ヘバ宗教改革ノ導火ニヨリテ爆發シタル煩鎖學派ノ反動後直ニ  
 誕生セシモノナルガ其ノ幼稚ノ時ニ於テハ決シテ哲學ノ他部分即チ神學形而上學等ヨリ分離セザ  
 リシ即チ其ノ前鋒ト稱ス可キニユイトンヤホツベス、デカートヤベールコン等ノ諸勇將ハ決シテ人  
 知ノ制限ヲ言立テ、万物ノ始源ハ認識ス可カラズト論シ或ハ万物ノ始源ハ永久知ル能ハズナソト  
 臆斷スル人々ニアラザリシ最モ彼等ハ當時ノ思想ニ反對セシニ相違ナキモ、サレド是レ只當時ノ  
 神學界ヲ束縛セシアリス、トールト之ノ論理學ニ反對セシマデノ事ニテ決シテ神ハ創造者ナリテ  
 フ觀念ニ反對セシニアラズ、ツマリ上帝ノ存在ヲ品位ノ如何ヲ證明スル方法ニハ反對セシガド其  
 等ノ事實其ノ自ニ付テハ毫モ敵意ヲ狹マザリシナリ然ルニ今日ノ科學派ハ大ニ之レト違ナリテ

斷然有神主義ニ反對スルカ若シ然ラザレバ所謂不可思議說ヲ無頓着主義ヲ探ルカ二者孰レカ其  
 一二歸セリ而シテ余ハ若シ此派ニ倚將來モ現今ノ代表者ニヨリテ支配サレバ、タトヒ自然界  
 ニ於ケル其發見如何ニ燦然タルモ決シテ長ク連續スル能ハザル可シト信ズルナリ今日ハ進化主義ノ  
 榮光其ノ最頂ニ達スルノ時ナレバ之ニ攻撃ヲ試ルハ固ヨリ容易ノ業ニアラザレド併シ其成功ノ長  
 ク人心ヲ束縛スル能ハザルヲ預言スルハ余リ絶大ノ預言力ヲ要セザルベシ但シ諸君若シ吾人ノ精  
 神ハ決シテ束縛ニ甘ズル能ハザルモノニシテ嘗テ史中ニ現出セシ最モ束縛的ナル哲學ニ反シテ其  
 自由ヲ主張セシモノナルコトヲ記憶セバ其ハ亦今日科學ノ名ヲ假ル或ル哲學ヨリモ自カラ自由ニ  
 セントテ必死ニ争フノ時來ルハ固ヨリ疑ハザル處ナルベシ諸君ソレ勤メテ史上ニ發現セル最モ自  
 由ナル主義ニ自己ヲ任セ「前節中既ニ一言吐漏セルガ如ク科學ハ今尙ホ若年ナリ而シテ若キ者ハ  
 人々ニ愛セラル、ガ如ク亦其ハ學者ノ愛顧ヲ蒙ルル實ニ甚シキナリ其ハ何時迄モ此ノ調子ニテ  
 連續シ得ルヤハ預言スルニ容易ナラザレド併シ今日ニ於テ喧々科學々々ト唯立ルハ余リ早マリ過  
 キナル所作ナリト云ハザルヲ得ズ實ニ今日ハ科學ガ自己ノ釀酒ニテ腹ヲクラスノ時ナレバ生活ノ  
 最高ナル問題ニ研究ヲ費スノ時日ナシト雖モ豈人類ハ今日ヨリモ尙ホ直接ニ万物ノ原始ニ關係セ  
 ンコトヲ科學ニ要求スルノ日來ラザルヲ得ンヤ淺薄ナル奇怪ナルハツクスレーノ言、曖昧ナル疑ハ  
 シキスベンザーノ語是等ハ決シテ嚴肅ナル思想家ノ満足ヲ得ル能ハザル可シ夫レ道德法ハ決シテ  
 一筆ノ揮ニヨリテ掃蕩サレザルモノナリ人間ノ良心ハ若シ足下ニ踏ミ就ラレシカ其ハ漸々強ク昂  
 起シテ遂ニ壓倒者ヲ却ツテ壓倒セザレバ己マザルモノナリ然ルニ進化論者ノ道德法ヲ建設セント  
 スル現今ノ基礎ハ實ニ危險ナリ恐ロシキモノナリ余ハ寧ロ道德學ナル語ヲ進化論ノ書冊中ヨリ變



削スルヲ賛成スルモノナリ人間若シ彼等ノ主張スルガ如ク偶發的ナル元素ノ勢力ニヨリテ結合セシメラレタル分子ノ一團ナラシカ余輩ハ獻身の就業義務正邪徳不徳等ノ意義ヲ解スル能ハザルナリ

人若シ當ニ元子ノ集合ノミノモノナラシカ何故ニ謀殺者ハ嚴刑ヲ受クザル可カラザルヤ  
若シ然ラハ吾人何故ニ他人ノ安寧ヲ維持シ社會ノ福祉ヲ増進スル爲ニ獻身の犧牲的ニ働カザル可カラザルヤ

嗚呼人ヨ人ヨ汝若シ瓦斯元素ノミノ集合ナラシカ吾人ハ汝ヲ呼ンテ人ト云フヲ好マザルナリ  
余ハ信ズ此等ノ問題ノ必ズ早晚蜂起スルアリテ遂ニ科學ヲシテ當ニ物質ノ化學的分析ニ甘ゼズ尙ホ更ニ一層廣大ナル範圍ヲ保ツニ至ラシメ而シテ現今ノモノハ多クノ前輩ノ如ク遂ニ滅亡スルニ至ル可シト嗚呼千載ノ後吾人ノ子孫ノ時代ニ至ラハ彼等恐クハ科學ノ今日吾人ヲ束縛スル鉄索ヲ見テ哂笑シ其公理ト稱スルモノヲ閱シテ虛妄ナル或ハ無證據ナル臆説トナスベシ

然レ而余ハ今此等ノ愉快ナル想像ニ溺ル、ヲ避ケ直ニ章頭ニ掲ゲタル問題ニ進入スベシ  
夫レ哲學ノ研鑽ニ從事スルモノニシテ希臘哲學ノ富麗ナル深奥ナル玄妙ナルニ眩惑サレ之レガ研討ニ必死トナラザルモノハナカルベシ實ニ希臘哲學ハ古人ノ産出シ吾人ニ傳ヘタル諸物ノ中最モ卓絶ナルモノニシテ更ニ其中ニ屹立セル二大家——プロト・アリスト・トルノ如キハ鬼神ニ通シ天機ニ體達セルモノト謂ツ可キナリ

抑々モ觀念ナル語ハ他ノ術語ノ如ク希臘語ヨリ來リシモノナルガ始メハ只形式、形狀、視ラレ得ル物等ノ意ノミナリシ夫レヨリ事物ノ假相、外觀、等ノ意ヲ表シタリキ、サレド始メテ其レヲ以

テ當ニ事物ノ假相或ハ外觀ヲ表ハスノミナラズ又色界ノ倚テ以テ建立セラル、所以ノ完全ナル摸型模範等ノ意ヲモ表ハスモノトセシテプロト・アリスト・トルノ觀念論ハ其著「パーメニデス」中ニ含マレタルベシ今其ノ要部ヲ摘載シテ以テ其ノ大要ヲ示ス可シ

パーメニデス「ソクラテス君ヨ余ハ大ニ君ノ哲學ヲ愛好セラル、ノ性向アルヲ稱讚スルナリ今余ニ話シ賜ヘ抑々觀念自身ト觀念ニ屬スル庶物トノ間ニ於ケル區別ハ君自身ニナシ賜ヒシカ而シテ君ハ吾人ノ見聞スル事物ノ類似外ニ類似ノ觀念ノ存在セルヲ考ヘラル、ヤ又純一及ヒ複多或ハゼノノ論セシ他ノ種々ナル總念ニ付テモ均シク然カ考ラル、ヤ

ソクラテス「然リ余ハ此カル觀念ハ存在スルモノト思考スルナリ  
パーメニデス「サレバ君ハ亦正美善及ヒ其他斯種ノ總テノ觀念ヲ造作セラル、ナラン  
ソクラテス「然リ余ハ造作ス可シ

パーメニデス「サレバ君ハ吾輩及ヒ總テ他ノ人間ノ外ニ人間之觀念ヲ造作セラル、ナラン又火水等ニ付テモ然ルナラン

ソクラテス「パーメニデス君ヨ余ハ此等ノ物ヲモ合ムベキヤ否ニ付テハ屢々不決定ナルナリ  
パーメニデス「サレバソクラテス君ヨ、君ハ此カル場合ニ云ハ、可笑シキ物——余ハ毛髮泥土或ハ其他不潔卑劣ナル諸物ヲ云フ——ニ付テハ均シク不決定ナルナラン然ラザレバ君ハ其等ノ物各吾人ノ接觸スル現物外ニ觀念ヲ有スルヲ想像セラル、ナラン

ソクラテス「確ニ然ラズ其等ノ可視的ノ物ハ吾人ノ見ル通りナリ余ハ其等ノ物ノ觀念ノ存在ヲ假定セバ或ハ虛妄ニ陥ルヲアラシカテ恐ル、サレバ時ニ思想複雜シテ觀念ナキ物ハ一モアラス



ト考へ始ムルヲアノドモ併シ其時余ハ直ニ此ノ思想ヨリ逃走スルナリ蓋シ余ハ愚痴ノ奈落ノ底ニ墮落シ遂ニ死失セノヲ恐ルレバナリ而シテ余ハ再ヒ余ノ今君ニ話シツ、アリシ觀念ニ歸リ彼等ヲ論ズルニ止ムルナリ

パーメニデス「然リソクラテス君ヨ是レ君尙ホ若年ナルヲ以テナリ若シ余ノ經驗ニシテ誤ズンバ君確固ト哲學ヲ掌握スルノ時來ラン君ノ年頃ニテハ君余リ他人ノ意見ヲ崇敬シ過ギルナリ併シ其ハ死ニ角ク余ハ君ノ意ハ或ル觀念ノ存在スルアリテ而シテ總テ他ノ事物ハ其等ノ觀念ヲ幾分有シ又其ノ幾分有スルヲ以テノ故ニ命名セラルト云フニアルカヲ知ラントスルナリ例ヘバ類似物ノ類似スルハ是レ類似テフ觀念ヲ幾分有スルヲ以テノ故カ大物ノ大ナルハ大テフ觀念ヲ幾分有スルガ爲メカ正シキ物美シキ物ノ正シク又美シキハ其等ノ事物ノ正又ハ美テフ觀念ヲ幾分有スルヨリシテ然ルカヲ知ラント欲スルナリ

ソクラテス「然リ實ニ然リ君ノ云フ所ハ確カニ余ノ意フ處ナリ」

(パーメニデス第三卷二百四十六頁)

「プラトーハアリストンノ一子ニシテ基督降生前四百二十九年ニ生ル二十才ニシテソクラテスノ門ニ入り此處ニ盛雪ノ勞ヲ積ムト八年ナリシ

ソクラテスハ基督降生前四百六十九年ニ生レシ人ニシテ青年ヲ教ユル爲メ一種ノ哲學ヲ設立セリ氏ハ別ニ著書ナカリシガ其ノ哲學ハ主ニ其ノ高弟ナルプラトーニヨリテ發達サレ而シテ其傳記ハ他ノ高弟ゼノフテニヨリテ傳ヘラレタリシ

以上引用セル處ヨリ見ルニプラトーハ現象ヨリ別離シテ觀念ノ存在セルヲ主張セシテ明了ナリ

而シテ氏ハ其ノ主義ヲ完成センニハ毛髮泥土其他ノ汚穢卑劣ナルモノ、觀念ノ存在スルヲモ許容セザルベカラズ若シ總テノ現象不可視的ナル思想ヨリ發出スルモノナランニハ吾人ハ其ノ可視的現象ノ大部分ヲ遍滿ノ理法中ヨリ除クノ理ナカル可ク若シ又一現象ヲ除カバ何故ニ總テ他ノ現象ヲモ除カザルヤノ問題必ズ起ル可キナリ

余既ニ一言陳ベシカ如クプラトーノ觀念自存説ハ全ク嶄新ナルモノニ非ラザリシ其ハ既ニソクラテスノ順備セル處ニシテ而シテ更ニソクラテスハ以前ノ諸哲學殊ニピタゴラス哲學ヨリ多クノ補助ヲ受ケシナリ、サレバ此處ニハ是非共ピタゴラス學説ニ論及セザルヲ得ズ抑々モピタゴラスハサモスノ人ニシテ基督降生前五百四十年ト五百年トノ間最モ盛ニ其主義ヲ主張シ又世人ノ尊敬ヲ受ケタリ而シテ其主張スル學説ハ大ニ數理ニ傾ケルモノニシテ其原道ハ万物ノ起源ハ數ナリト云フニアリ今アリストトールノ形而上學(第一卷五章)中ヨリ其説ノ大要ヲ記セルモノヲ轉載スベシサレド其等ノ所謂ピタゴラス派學者ナルモノハ專ラ數學的諸科學ノ研討ニ身ヲ任セタリシテ以テ始メテ其等ノ意見ヲ世ニ出シタリシ而カシテ彼等數學好キノ性向ヨリシテ其等ノ第一原道ハ又万物ノ第一原道ナリト考初ムルニ至リシ然ルニ其等ノ中數ハ本來第一ニ位スルモノナルヲ以テ又數ニ於テ彼等ハ火水土ニ於テヨリモ(キリスト降生前六百四十年頃ニ生レシタル)スノ哲學ナソノ類(因生的ナル)万物ニ對シテ多ク類似テ發見セリト想像セルヨリ(蓋シ彼等ノ見處ニヨレバ數ノ(特性ハ正義他ノ特性ハ精神及ビ心意又他ノ異リタル)特性ハ幸機約言セバ總テノ萬物ハ均シキ有様ニテ數ニ對應スルヲ以テナリ)更ニ又數ニ於テ調和ノ消極的情狀及ビ理由ヲ發見セルヨリ(彼等ノ見ル處ニテハ万物ハ性質上總テノ點ニ於テ數ニ歸セラレ又數



ハ万有中第一ニ位スルモノナルコト明カナリシヲ以テ、遂ニ彼等ハ數ノ元素ハ万物ノ元素ナルベク又全天ハ調和及ビ數ナルベシト想像スルニ至リシ

是レ實ニ古代ノギリシヤ哲學中始メテ宇宙現象ノ發達ニ秩序ト齊整ヲ與ヘント企テシモノナリ抑モピタゴラス派ノ數ハ可視的事物ノ名稱ニアラズシテ其ヲ發顯スル原因ノ名稱ナルガアリスト

イトル氏ハプラトノ觀念トノ差違ニ付テ左ノ如ク云ヒタリシ  
ピタゴラス派ハ實在物ハ數ノ摸倣ニヨリテ存在スト確言スレモ併シプラトノハ觀念ノ幾分有ニヨリテ存在スト確定セリ

然レモ余ハ此點ニ關シテアリストイトル氏ノ意見甚ダ明了ナラズト惟フ何ントナレバ一方ニアリテハ今上文ニ轉載セルガ如ク論ズルニ他ノ一方ニアリテハ全ク之ヲ轉倒シテ左ノ如ク云ヘバナリ  
プラトノハ所感ヲ離レ獨立ニ數(即チ氏ノ觀念)ノ能立スルヲ確言セルガピタゴラス派ノ學者達ハ數ハ事物其物ヲ組織スト謂ヒ又彼等ハ數理的實在ヲ以テ其等ノ中間ニ位スルモノトモ併シアリストイトル氏意見ノ明否ハ死ニ角プラトノ觀念ハ實質上ピタゴラス派ノ數ニ異ナルモノナリ而シテ其異ナルノ點ハプラトノ觀念ハ上帝ノ能働的並ニ形成的活力ナルコト即チ是ナリ而シテ又其ハ舊約書中ニアル「ハクマ」(智慧)ナル伯希來語及ビ新約書中ニアル「ローゴス」(道)ナル希臘語ニ甚ダ類似セリ

諸テ前述ノプラトノ觀念論ヲ基本トシテ彼ノ哲學上所謂唯心論ナルモノ即證スルニ難ク駁スルハ尙難シト云ハシタル學說建設セラレタルナリ其ハ殆ンド總テノ學派ヨリ攻撃セラレタルニ未ダ敗北セシコトナク否ナ却テ攻撃者ハ之レヲ攻撃スル中不知々々ニ自己ノ論法ニヨリテ自己ヲ破レルコト

屢々也余ハ今此處ニ種々ノ形態ニ於ケル唯心論ノ概畧ヲ簡單ニ陳述セントス而シテ其ノ特ニ唯心論ヲ諸說中ヨリ撰擇シタルハ蓋シ宇宙ノ問題ヲ有神的ニ説明スルニ於テ常ニ唯心論ハ唯物論ニ反シテ甚ダ都合善キモノト思考セラルレバナリ又現今ニアツテハ吾人ハ唯物主義カ唯心主義カ其孰レノ眞實ナルヤヲ決定シ難シト雖モ尙ホ唯心論ノ畧史ヲ陳述スルニヨリテ總テノ時代ニ於ケル人間思想ノ全バノラマヲ概見シ得ケレバナリ更ニ余ノ見ル處ニヨレバ哲學史ナルモノハ唯心論ノ受ケタル攻撃ト唯心論ノ無數ニ分現セル諸枝派トニヨリテ其大部分ヲ占有セラレタルモノナレバナリ實ニ其ハ前陳セル如ク常ニ數多ノ學派ヨリ攻撃ヲ受ケタレモ尙ホ常ニ其等ノ攻撃ヲ切抜ケテ元氣尙ホ活潑々々リ又勿論其ノ現顯スルヤ常ニ同一ノ容態ナリシニ非ズ種々ノ風姿ヲ裝ヒシナレドサレド其ノ實相ニ至リテハ常ニ變セズ同一ナリ誰カ云ハンスピノザノ汎神論ハバークレーノ唯心論カントノ本體論ヨリモ唯心論ニ負フ處少ナクライブニッツノ元子ハスペンサーノ無限實在ヨリモ唯心的ナラズト

諸テ始メテプラトノ觀念論ニ反對シ之ヲ駁撃セシモノヲ其ノ高弟アリストイトルナリトスアリストイトルハ基督降生前三百八十五年ニ生レ同三百二十二年ニ死セシ人ナルガ其齡十七ナルヒアラトノ門ニ入り此處ニアルコト二十年其間勉學衆ニ勝レタル師プラトノハ呼ンテ勉強家ト云ヘリトシ又其ノ著述スル處甚ダ多カリシ由ナレモ其今日ニ傳レルモノ余リ多カラズ

夫レプラトノアリストイトルノ二氏ハ實ニ哲學界ノ二大像ナリ即チ前者ハ唯心派ノ大像ニシテ後者ハ經驗派ノ大像ナリ又前者ノ哲學ハ天上ニアリ後者ノ哲學ハ地上ニアリ即チ前者ノ考想ハ常ニ深微玄妙ナル理論ニ傾キ後者ノ討究ハ常ニ既定ノ論理的及ビ科學的法則ニヨリテ事物ヲ裁斷スルノ



特色アリタリキヤンバ前者ハ神學ノ源泉ナリ後者ハ科學ノ根本ナリト謂フ可シ  
伊太利ノ大畫伯ラファエル其妙筆ヲ振ヒシ「アゼノスノ校舎」中ニハプラトロー及ピアリストトール  
ノ肖像ヲモ畫キシカ前者ヲシテ天ヲ仰ガシメ後者ヲシテ地ヲ眺シメタリキ而シテ是レ實ニゲーテ  
ヲシテ左ノ評ヲ發セシムルノ導火ナリシナリ

ゲーテ先ツプラトローヲ評シテ曰ク  
プラトローノ世界ニ於ケル關係ハ宛モ最上神靈ノ氣任セニ暫時此ノ世ニ降レルガ如シヤレバ彼  
ノ世界ヲ熟知セントスルノ配慮ハ世界ノ大必要ヲ感ズル或ル物ヲ彼ト共ニ持來リ親切ニ之レ  
ヲ給與セントスル程ニハアラザリシ——蓋シ世界及ビ其ノ性質ハ彼ノ豫想セシ處ノモノナレ  
バナリ……………彼ノ發スル總テノ言ハ永久ニ完全ナル至善ナル至真ナル至美ナル或ル  
物ニ關係ス而シテ各人ノ胸裡ニ於テ此ノ或物ノ進歩ヲ抄取ラスハ彼ノ必死ニ勤ムル處ナリシ  
實ニ彼ノ此處彼處ヨリ獲得セル地上ノ知識ハ其ノ何タルヲ問ハズ彼方法彼論說ニ乗テ上天ス  
ルナリ

次ニアリストトールヲ評シテ曰ク

世界ニ關シテアリストトールハ大建築師ノ位置ニ立テリ彼ハ此處ニ住シ此處ニ働キ此處ニ建  
設スル處アラザル可カラズ彼ハ自カラ此ノ世界ノ表面ニ付テ學ベリ併シ只彼ノ建築物ノ基礎  
ヲ建設スルニ必要ナル丈ナリ其他ハ表面ヨリ中心ニ達スルマデ彼レニ於テ必要ナラザルナリ  
彼ハ彼ノ建築物ノ基礎ノ爲ニ大圓ヲ畫キ總テノ場處ヨリ材料ヲ求メ齊然其等ヲ排列シ積テ累  
々層ヲナシ秩然序アルヲ宛モ三角塔ノ如ク以テ空ニ聳ヘシメタリ併シプラトローハ方尖塔ノ如

ク或ハ筆口火燭ノ如ク諸天ヲ搜索セリ

ゲーテハ嘗ニ詩人即チ第十九世紀ノ大詩人ナルノミナラズ又哲學者ナリシ併シアリストトールノ  
性質ヲ闡明セル點ニ付テハ余輩同意ヲ表スル能ハズ蓋シアリストトールノ理想モ亦プラトローノ如  
ク總念詳ク言ヘバ上帝ニ臻達スルニアリタレバナリ而シテ其異ナル處ハ實ニ方法ニアリ即チ一ハ  
所謂先天的詳言セバ根底ヨリ枝葉ニ論及シ他ハ所謂後天的詳言セバ枝葉ヨリ根底ニ論入セルナリ  
此ノ二氏ニ次ク諸時代ハ彼ノ科學的精神ノ煥發スルマデ只二氏ノ哲學ノ發達セルノミニシテ別ニ  
一新思想モ顯ハル、一ナカリシ然レバギリシヤハ只此ノ二氏ヲ生ヨマルノミニテモ誠ニ世界ノ文  
明ニ對スル職務ハ十分ナリト謂フ可シ

抑々モプラトローノ說ニ反對セシ中其ノ最モ強大ナルモノハ其高弟アリストトールナルコト既ニ上文  
ニ陳述セルガアリストトールハ殊ニ觀念論ヲ駁シ實在ヨリ觀念ヲ別在セシムルコトニ付テプラトロー  
ヲ責メタリシ今其傑著「形而上學」ヲ閱スルニ中ニ實態ノ總テノ範圍内ニ遍滿ナル原道ヲ論シテ  
四箇ニ分テリ即チ實態或ハ本素、物質或ハ實態、致働的或ハ期成的原因及ビ目的是レナリ而シテ其  
所謂形態或ハ本素ノ原道ナルモノハプラトローノ觀念ニ適應スルモノナリユーベルウエヒ氏其主義  
ノ一班ヲ說テ曰個體ハ獨リ實態的存在ヲ有シ普遍實在ハ之ニ含有セラル、モノナリ實在ノ順序中  
最上ノ位置ヲ占ムルモノハ上帝ト稱セラル、虛靈ナリトス而シテ其ノ斯カル原道ヲ假定セザル可  
カラザル必然ノ證ハアリストトールニアリテハ庶物即チ其形態ト構造ニヨリテ意匠ヲ暗示スルモ  
ノ、性質ニ於ケル發達ヨリ導カレ且ツ所謂アリストトール普通原則即チ應有ヨリ現實ニ至ル總テ  
ノ轉移ハ或ル現實的原因ニ依屬スト云フ原則上ニ建設セラレタリキ「ユーベルウエヒ哲學史第



一卷百五十七頁ヨリ百六十二頁ニ至ル」其後ストア派出テ、總テ宇宙万有ヲ能働的并ニ所働的ノ二原道即チ働クモノ及ビ働ラカラル、處ノモノ、二ツニ還原シタリキ其意ニ謂ラク物質ハタトヒ總テノ運動及ビ總テノ形骸ヲ受得ルモ本來ハ運動ナキ所働的ナル且ツ無定形ノモノナリ之レニ反シテ勢力ハ能働的ナル致働的ナル且形成的ナル原道ニシテ物質ト不可離的ニ結合スルモノナリ而シテ宇宙ニ於ケル作働的勢力ハ上帝ナリ又世界ハ有限ナル圓形ノモノニシテ其美妙ト調和ハ只思想的的精神ヨリ發現シ能フモノナリ故ニ其等ハ上帝ノ存在ヲ證ス更ニ世界ハ自覺ヲ有スル部分ヲ保テルガ此等ハ神ノ發現ナリ夫世界ノ形成ハ大始ニ神聖ナル原始的の火大ノ氣水ノ二大ニ轉化スルヨリ起ル而シテ此水大ノ一部分ハ地トナリ他ノ一部分ハ水ナリニ殘リ第三部分ハ蒸發ニヨリテ空氣ニ化ス更ニ此空氣ハ燃發ノ再ビ火大ニ歸元スルナリ而シテ緻密ナル二元素即チ地水ノ二大ハ主ニ所働的ニ稀薄ナル二元素即チ氣火ノ二大ハ主ニ能働的ナリ又一定ノ世界期終ラバ宇宙全骸ハ大火トナリテ万物爲ニ溶化シ遂ニ再ビ火大ニ還元シ萬有ノ庶物再ビ神ニ吸入セラル是ニ於テ世界ノ進化ハ復新ニ始マリ此ヨリ同一ノ仕方ヲ無終ニ繰復スナリ(ユールウエツヒ第一卷百九十四ページ)然レストア派ノ學說ハ形而上的のヨリ寧ロ道德的ノモノナリ而シテ其ハギリシヤ人ノ宗教的并ニ道德的生活ニ於テ如何ナル影響ヲ及セシヤハ後章ギリシヤノ宗教ヲ論ズル處ニ讓ルベシ

エピキユラス派ハエピキユラス(降生前三百四十二年ニ生レ同二百七十年ニ死ス)ノ設立スル處ナリ氏ハ著述スル處多カリシ由ナレトモサレド其今日ニ傳ハレルモノハ甚ダ少シ氏哲學ヲ解シテ曰ク哲學ハ概念ト辨論ノ方便ニヨリテ人生ノ福祉ヲ生ズル活動力ナリトサレバ氏ノ哲學ノ精神ノ實踐的ナリシヤ知ル可キ也而シテ其ノ國民ノ生活上ニ於ケル影響ハ前者ノ如クギリシヤノ宗教ヲ論

ズル章ニ詳論ス可シ

夫等ノ諸派ニ次テ現レシモノヲ懷疑派トス併シ適當ニ云ヘバ寧ロエピキユラス派ノ連續シ宗成セ  
ルモノナリ彼等懷疑學者ハ實ニ主觀ト客觀我ト宇宙トノ間ニ於ケル總テノ關係ヲ破壞シタリシ  
其ノ開基者ハアリストトールノ同時代人バイロローナルガ併シ氏ハ一モ著述スル處ナカリシヲ以テ  
現今吾人ノ氏ニ付テ保ツ處ノ知識ハ悉皆其高弟ナル繼續者ナルチモンノ傳フル處ナリ今チモンノ  
傳フル處ニヨリテ氏ノ主義ノ一斑ヲ窺フニ其一大原理トスル處ハ「如何ナル事物ヲモ否定セザレ  
バ又肯定セズ蓋ハ一事ヲ否定スレバ既ニ裏面ニ他ノ一事ヲ肯定スレバナリ」ト云フニアリ又其後  
此ノ主義ハ多少發達セザルニアラズト雖モ皆ナバイロローチ距離ト遠カラズ

ローマ人ノ思想ハ只ギリシヤ人ノ思想ヲ受續キシノミニテ別ニ嶄新ナルモノヲ生ゼザリシカバ此  
處ニ省キテ論セザルベシ彼ノ有名ナルシセロノ折衷主義ノ如キモ新奇ナル觀念ヲ發シタルニアラ  
デ寧ロ前ヨリ存セル諸說ヲ取捨折衷シテ一牀ヲ組織セルノミノモノナリ

吾輩ハ今ヤ哲學ガ其生地ヲ去リテ廣ク万国ニ播布セントスルノ時代ニ達セリ

抑々ギリシヤ哲學終リノ時代ニ至リテハ哲學的思想既ニ悉ク盡キ新奇ニ一觀念ヲモ生ズルナク只  
折衷主義ノ古來ノ諸說ヲ調和セントセルモノ、ミナリシ而シテ夫等ノ折衷主義スラ成功セルモノ  
ナカリシ然レド今轉シテ此等ノ時代ニ於ケルギリシヤ國際上ノ關係ヲ見ルニ大ニ諸外國トノ關係  
ヲ擴ゲシ有様ニテ殊ニアレキサンダー大帝ノ大勝利ハ多クノ殖民地ヲ諸外國ニ設立スルニ至ラシ  
メタリキ而シテ此等ノ殖民地ニ於テハ種々ノ人民相混淆セシテ以テ遂ニ茲ニ一種混合的ノ文明ヲ  
發現スルニ至リキ而シテ其最モ顯著ナルモノチイオプトニ於ケルアレキサンドリア殖民地ナリト



ス  
アレキサンドリア哲學トハアレキサンドリアニ發生セシテ以テ此名アルガ其ハ純粹ナルギリシヤ  
風ノ哲學ニアラザリシ蓋シ諸國民ノ簇集雜居セル處ニアリテハ只其中ノ一國風ノミ獨リ發達スル  
能ハザレバナリ

サレバ此ノ學派ノ特質トスル處モ又混合的ナル思想即チ舊約書ノ智慧トプラトーンノ觀念ヲ融合シ  
タル處ニアリ其首魁ハフアイローニシテキリスト降生前三十年頃ニ生レシ人ナリ  
今其說ノ一斑ヲ示サバ左ノ如シ

神ハ無形不可視的ニシテ只理性ニヨリテノミ認識サレ得ルモノナリ又絶對的ニシテ遙然世界  
外ニ存在シ且ツ之ヲ創造スルモノナリ又獨リ自由ナルモノニシテ其他ノ各有限物ハ悉ク必然  
ノ中ニ含有セラル、モノナリ又物質ト相接スレバ其神聖ヲ汚サル、ヲ以テ決シテ之ト接觸セ  
ズ故ニ神物即一體ト論ズル人々ハ虛偽ニ陷レルノミナラズ又神ノ神聖ヲ汚スモノナリ又其本  
體ハ決シテ吾人ノ思儀スル能ハザルモノニシテ即チ吾人ハ只神アリト知り得レバ此クノノ  
モノナリト知ルコト能ハザルナリ又其活動ハ宇宙間ニ彰然タル決シテ其本體ハ顯現セザルナ  
リ更ニ此神ト世界ノ間ニ存スル一物アリ之レチローゴスト云フローゴスハ神ノ智慧トシテ觀  
念ノ住家トシテ神ト共ニアルモノナリ又世界ニ自現スル神智トシテ色境内ニ周布スルモノナ  
リ又此ノ唯一ノ神聖ナル合理的ナル勢力ハ無數ノ補佐的即チ部分的ノ勢力ニ分ル而シテ此等  
無數ノ勢力ハ神意ノ役者の精靈及ヒ器官、不滅ノ靈魂、天鬼、或ハ天使、ニシテ又タ一般的及ヒ  
特別的元精即チ觀念ト同一ナルモノナリ併シ彼等ノ總體ナルローゴスハ觀念ノ觀念ニシテ又

神外唯一ノ遍滿物ナリ更ニローゴスハ神ノ如ク無始ノ實在物ニアラザレバ又吾人ノ如ク或ハ  
其他ノ万物ノ如ク發生スルモノニ非ズ實ニ其ハ神ノ初子ニシテ不完全吾人ノ如キモノニ對シ  
テハ又一ツノ神ナリ即チ神ノ智慧ハ其母ニシテ其ハ神ノ兄弟男世界ハ其弟息男ナリ其ハ又神  
前ニアリテハ世界ノ代表者ニシテ世界ニ對シテハ高僧ノ如キ中保者ノ如キ又救護者ノ如キモ  
ノナリ又人間ノ生活中冥想的生活ハ實踐的政治的ノ職務ニ攷々タルヨリ更ニ勝レタルモノ  
ナリ又哲學的教育中論理學及ヒ物理學ハ余リ必要ナラザルモノニシテ其最高位ヲ占ムルモノ  
ハ神ノ直覺ナリ

アレキサンドリア哲學ハ皆ニギリシヤ哲學ト猶太教トヲ混合セシノミナラズ其初代ニアリテハ拜  
火教ヲモ混合セリ又フハイローノ「神ハ汚サレザランガ爲メニ物質ト接觸セズ」ト論セル處ハ其  
ノ舊約書中ノ「神其造リタル諸アノ物ヲ視タマヒケルニ甚ダ善リキ」(創世記一章二十一節)ヲ  
教ニ反對セルコト明ナリ

此哲學ノ大ニプラトーンノ觀念論ニ類似シ又ヨハ子福音書ノローゴス神學ノ前鞭者ナルヤ疑フ可カ  
ラズト雖モ各又自己ノ顯著ナル特性ヲ有セリ併シ此問題ニ付テハ余ハ後キリスト教及ヒ其神學ノ  
發達ヲ論ズル章ニ於テ詳論ス可ケンバ此處ニハ只左ノ如ク述テ己マン即チ若シ其眞體ヲ以テセバ  
ヨハ子ノ「ローゴス」ハ大ニ彼等ニ異レバサレド若シ其用詞及ヒ方法ヲ以テセバ大ニ彼等殊ニフハ  
イローヨリカレル處アリト

アレキサンドリア派ニ次テ起リシモノハ基督教ナリ其ハ總テノ學派ヲ打崩シ其最上權ヲ占ムルニ  
至ルマデハ隨分數多ノ學派起リ或ハプロチナスボルフィリーノ如ク異教ヲ摠出シテ之レニ反對ヲ



試ミシモノモナキニアラザレド併シ其間一新元素ノ思想界ニ加ハリシモノアルヲ見ザレバ此處ニハ省キテ論セザルベシ又基督教ノ神學モ完成ニ至ルマデハ殆ンド八百余年ノ長歲月ヲ過シタル也併シ其ヲ論述スルハ本章ノ目的ニアラズ寧ロ教會史或ハ定教學ニ屬スベキモノナレバ之レモ此處ニハ述ズシテ己ムベシ

サレバ次ニ吾人ノ論述スベキハ煩鎖學派ナリトスソモ々煩鎖學派ナルモノハ又別レテ二派トナリシモノニシテ其一ヲ名目論派ト云ヒ他ヲ實體論派ト云ヘリ而シテ實體論派ナルモノハプラトーンノ流ヲ汲ミモシノニシテ名目論派ナルモノハアリストールノ跡ヲ追ヒシモノナリ則チ「觀念ハ自然トシテ實在ナル可視的ナル庶物外ニ存在シ又彼等ノ現出スル以前ニ於テ既ニ存在セリ」ト主張スルプラトーンノ觀念論ハ極端ナル實體論派ノ教義ニシテ「眞實ナル存在ヲ有スルモノハ只箇體的庶物ノミ彼ノ屬トカ種トカ云フモノハ只同ヲ概念中ニ含有セラレタル種々異様ノ形質ヲ示ス便利上ノ名稱ナルノミ」ト論ズルハ名目論派ノ教義ナリ此處ニ一例ヲ擧ゲテ解セシニ例令ハ今馬屬ト云ヘバ吾人ハ馬ナル概念ノ中ニ含有セラレタル總テノ種即チ驢馬、斑馬等ヲ想起スルナルベク敢テ吾人ノ觸手スル現在ノ馬ノ外ニ此レト同様ノ形體ヲ有シ而モ不可視的ナル馬アルヲ思ハザルベシ」ト是レ名目論ノ論ズル處ナルガ諸君之ニ依テ又實體論ノ大意ヲモ會得セラル、ナラン諸始テ名目論ニ味方セシハラセシナスニシテ實體論ノ大豪傑ハカンターベリーノ監督アソセルム(降生後千三十三年ニ生ル)ナル也而シテ此兩者ノ中間ヲ探レルモノ即チ觀念ハ眞實ニ存在スレド箇體ノ外ニアルモノニ非ズト主張セルハアベラード(降生後千七十九年ニ生ル)ナリトス併シ此ノ學派即チ煩鎖學派ヲ最モ發達セシメシモノハトマス、アクイナス(降生後千二百二十五

ニ生レ千二百七十四年三月七日ニ死ス)ナリ氏ハスベインニアルアラビヤ人ノ再興ゼシアリストトトル哲學ト基督教ノ教義トヲ調和セント企テシ人ナルガ觀念ノ庶物中ニ存在セルコトノミナラズ更ニ又庶物ニ先テ存在スル其形體ヲモ認識シテシテ而シテ其形體トハ神意ニ於ケル觀念即チ神ガ世界創造ニ先チテ造ルベキ庶物ニ付テ保チシ思想ノ如キモノ是レナリ  
アクイナス後ニ至リテ此學派モ亦總テノ哲學派ト同一ノ運命ヲ受ケタリシ即チ漸々衰微シテ遂ニ近世ノ經驗派ニ其ノ地位ヲ讓ニ至レリ併シ恐ラクバ此ノ學派程長ク且ツ盛ニ思想界ヲ支配セシモノハアラザルベシ實ニ其ハ八世紀ノ初代ヨリ宗教革命ノ時代マテ猛然思想界ノ主權ヲ掌中ニ握リ其間又文明ノ進歩ヲ助クルコト少クナラザリ殊ニ論理ニ精緻ナルニ至リテハ甚々天晴ノ學者多カリシ其ハ實ニギリシヤヨリ流出セル哲學思想ノ將ニ乾レントスルノ時ニ當テ能ク人智ヲ養育シ宇宙存在ナゾノ如キ抽象的問題ニ付テ大ニ知力ヲ鍛鍊セシメ發達セシメタリシサレバトヒ實驗的思想ヲ進歩スルコト少カリシトテ又強チニ責ム可カラザル也故ニ吾人ハヒュームノ「量或ハ數ニ關スル抽象的推理ヲ保タザレバ煩鎖學派ノ形而上學ニ關スル書類ハ全ク燼滅スベシ」ト吾人ニ勸告セルヲ聞クモ吾人ハ此ク云フコトノ父ハ既ニ老テ用ナクシテ燒殺セヨト青年ニ勸告スルニ均シキヲ知ル今ヤ吾人ハ古代哲學ノ終リ近世哲學ノ始メニ達セリ而シテ此新行路ヲ開拓セシモノハ英人ナリ惟フニ自然界ノ研究ニ於テハ英人常ニ卒先者タリト  
今陳述セシガ如ク實ニ此新時代ヲ開キシモノハ英國人ロイド、ベンコンナリトス氏ハ可視界ニ於ケル研討ノ方法ヲ制限シテ歸納法ニ定メタリシ  
其大著「新機論」ノ始メニ左ノ言アリ曰ク「人ハ天然ノ役者及ヒ譯解者トシテ事物或ハ心意ノ事ニ



係リテハ天然ノ秩序ニ於テ其觀察ノ違スル丈ヲ理會シ此ヨリ餘ハ知り又造出スルコトヲ得ズ」(小崎先生ノ譯ニヨル)又偏見ノ基本ヲ檢定シテ左ノ四箇トセリ

- (一) 人性固有ノ偏見
- (二) 各人特有ノ偏見
- (三) 社會ノ偏見

(四) 奉信スル理論ヨリ起ル偏見

而シテ此等ヲ呼ブ「アイドラス」(妄見)ト云ヘリ」前述セルガ如ク近世哲學ハ實ニベソコンヨリ出立シ初メシト雖モ併シ氏ニアリテハ尙ホ古風ノ思想未ダ全ク去ラズサレバ思想界ノ大革命ハ真ニルチ、デカートヨリ爆發セリト云フヘシ氏ハ哲學ノ基礎ヲ權輿的ニ定メズ自己内部ノ意識上即チ眞實ナル存在ノ上ニ建設セントセリ實ニ「我思故我在」ハ氏ノ哲學ノ眞基礎ナリ氏ハ此ク先ツ懷疑論者ニ對シテ確實ナル基礎ヲ固定シ置キタル後更ニ一歩進ンデ曰ク

惟フニ今正シク順序ニ從フテ進マバ先ツ第一ニ一定ノ部門ノ下ニ總テ吾人ノ思想ヲ配分シ其孰レノ部門ニ於テ彼ノ眞實或ハ虛妄ナルモノハ正シク存スルヤヲ查定セザルベカラズ夫レ或ル思想ハ事物ノ影象ナリ例ヘバ吾人ハ人ニ付テ或ハ天狗ニ付テ或ハ大空ニ付テ或ハ天使ニ付テ或ハ神ニ付テ思考スル時ノ如シ而シテ觀念ナル名稱ハ獨リ思想ノ此ノ部門ニノミ正當ニ與ヘラルヲ得之レニ加ヘテ其他ノ或ル思想又一定ノ形骸ヲ有セリ例ヘバ命令スル時確定スル時又否定スル時ノ如シ此時吾人ハ思想ノ目的物トシテ或ル事物ヲ領會スルノ外即チ思想中ニ或ル事物ノ類象ヲ保ツ外又或ル物ヲ含有スルナリ今觀念ニ關シテ觀念ヲ只觀念トシテ處スル以

上ハ觀念ハ虛妄ナル能ハズ何ントナレバ余ハ山羊ヲ想像スルカ天狗ヲ想像スルカ別段ニ一ヨリ他ヲ想像スル方ガ眞實ナリト云フ譯アラザレバナリ又虛妄ナラズ事ハ意志自身ニ於テハ或ハ感情ニ於テハ別ニ恐ル、ニ及ハズ蓋シタトヒ余ハ恐シキ物ヲ撰ブモノトスルモ或ハ何處ニモアラズモノヲ選ブモノトスルモ其ガ爲メニ余ノ撰擇スルコトハ眞實ヲ失ヘリト云フベカラザレハナリサレバ吾人ノ誤謬ニ陥ラザラシガ爲メニ用心シ保護セザルベカラザル部門トシテ殘ルモノハ只斷定ノミサレド此等ノ中ニアリテ格別屢々見ラル、誤謬ハ左ノ如クシテ起ルモノナリ即チ余ハ余ノ心裡ニアル觀念ヲ以テ余ノ心外ニアル或ル事物ニ類似シ或ハ等シキモノト斷定スルヨリ起ルモノナリ然レバ外物ニ關係セシメズ只思想ノ容體トシテ觀念其物ヲ所スルニ於テハ余ハ誤謬ニ陥ルノ事情ヲ保マザルナリ (第一哲學者ニ卷百五十四ページ)

其等ノ觀念中テガートノ最モ主要ナル位地ヲ與ヘタルモノハ神ノ觀念ナリ實ニ此觀念ノ客觀的實在ハ到底疑議スベカラザルモノナリ

氏ハ近世哲學上如何ナル影響ヲ與ヘシヤハ余ハ此處ニ敘述スルヲ得ザレ併シ一言云フ可クハ余ハソクラテスノキリシヤ哲學界ニ保ツ關係ニ均シキ關係ヲガルトハ近世哲學ニ對シテ保テリト云ハソノミ

天賦觀念説ヲ駁スルニ必死トナリ以テ其生活ヲ送リシ哲學者アリ之レヲ英國ノマヨ、ロック(千六百三十二年ニ生レ千七百四年ニ死ス)ナリトス其意ニ以テ爲ラク

人心ハ幼稚ノ時ヨリ確然其心上ニ植付ケラレタル觀念ヲ有スルモノニアラズ反テ白晷ニ似タルモノニシテ後獲得セラレタル種々ノ觀念ガ其上ニ印刷セラル、モノナリト



氏ハ神ノ觀念ノ天賦性否道德ノ原則ノ天賦性ヲスラ排斥シタリシ蓋シ氏ハ其等ノ觀念ハ何故ニ最  
初ヨリ人心上ニ植付ケラレタルヤノ理由ヲ發見セザリシヲ以テナリ

前述スル處ヨリ見ラル、如クロックハ異ナル方面ヨリペーコン哲學ヲ建設シタル人ナリ否ナザ  
煩鎖學派ノ破壊者ニシテヒュームノ統一的懷疑論ノ父ナリ

ロックノ時代及ビ直ニ之レニ次ク時代ニ於テ哲學史上要用ナル地位ヲ占ムル三大傑アリ即チスピ  
ノザライブニツツ井ニパークレー是ナリスピノザハ猶太人ニシテ千六百三十二年十二月二十四日ニ

生レシ人ナリ始猶太教ノ「ラビ」タルノ教育ヲ受ケシガ後其宗教ニ關スル氏ノ意見ガ世ニ知ラレシ  
キ氏ハ其教會ヨリ放逐セラレタリシ而シテ其後ハ只哲學研究ニ日ヲ送リタリシト云フ「スピノザノ

教義ハ通例汎神教ナリト世人ニ呼バル、ガ併シ能ク氏ノ著書ヲ研究スレバ此カル斷案ニ至ラザル  
可シト余ハ信ズル也氏ハデカートノ方法即チ主界ノ研究ヨリ出立シテ以テ客界ノ性質ヲ探究スル

ニ及ブノ方法ヲ放擲シテ上帝ノ定義ヨリ出立シテ他ニ論及スルノ方法ヲ採用シタリシ而シテ  
氏ノ唯一ノ哲學書トモ稱スベキ道德學ハ此ノ方法即チ數學的推理法ニヨリテ哲學上ノ諸問題ヲ論

ゼル書ナリ其第一部ハ左ノ定義ヲ以テ始マレリ  
第一自カラ其本自ノ原因タル者トハ元精中既ニ存在アテ事ヲ含有スル物即チ存在トスルニヨリテ

只其本性ヲ認識シ得ル物ノ謂ナリ  
第二一物其本性ヲ同スル他物ニヨリテ制限セラル、時ハ同類ノ間ニ於テ有限ナリト稱セラル例ハ

ペ一箇ノ物體ヲ指シテ有限ナリト云フ所以ノ者ハ人常ニ之レヲ以テ之レト類ヲ同スル更ニ大  
ナル物體ノ一部分ナリト思議スルニヨル又同マ次第ニテ一箇ノ思想ヲ以テ有限ナリトスルモ

他ノ思想ノ之レヲ制限スル者有ルガ故ナリ然リト雖モ物體ハ思想ノ爲メニ制限セラル、事ナ  
ク思想モ又物體ノ爲メニ制限セラル、事ナシ何ントナレバ物體ト思想トハ其類ヲ異ニスレバ  
ナリ

第三本體トハ其於自ニ存立シ又其依自ニ概念シ得ベキ者ナリ換言セバ何タル他ノ概念ノ助ケヲ借  
ズシテ概念サレ得ルモノナリ

第四屬性トハ吾人ノ知力ガ本體ノ元精ヲ組成スルモノトシテ認識スル處ノモノナリ  
第五色相トハ本體ノ變化ナリ即チ或ル他ノ物ニ於テ存立シ且ツ其レニ依テ認識セラル、處ノモノ  
ナリ

第六神トハ絶對ニ無限ナル實在ナリ即チ無靈數ノ屬性ニヨリテ成立スル本體ナリ而シテ其屬性各  
ハ無始無終且ツ無限ナル元精ヲ指示スルモノナリ

「此六定義ノ譯ハ有賀先生譯ホーエン近世哲學ニ依ル處多シ」  
此等六定義中ニハスピノザノ哲學全ク含有セラレタリ世界ノ哲學者中恐ラクハ氏ホド明亮ニ簡單

ニ自己ノ位地ヲ示セルモノハアラサルベシ  
今上述セル處ニヨリ諸君ハスピノザハ自己ノ第一原道ヲ分チテ存在ノ元精ナル自因物及ビ所働的

ナル有限物ノ二大部トナセシヲ知ラル、ナラン又氏ノ意ニヨルニ唯上帝ノミ獨リ本體ト稱スベ  
クシテ他ニ一モ然カ稱スベキモノナシ而シテ此ノ唯一ノ本體ナル上帝ノ吾人ニ發現スルヤ思想廣

袤ノ二相ヲ以テスト惟フニ氏ノ教義ノ汎神教ナリトノ誹ヲ受ケタルハ蓋シ此等ノ意見換言セバ無  
限ト有限トノ關係絶對的元精ト有限物トノ關係ニ於ケル氏ノ意見ヨリ起リシモノナラン余既ニ述



ベシ如ク氏ハ神ヲ以テ「絕對ニ無限ナルモノ」トセルガ更ニ説明ヲ加ヘテ左ノ如ク云ヘリ  
 余ハ絕對ニ無限ナリト云ヘリ同類間ニ於テ無限ナリト云ハズ蓋シ同類間ニ於テ無限ナルモノ  
 ハ無靈數ノ屬性ヲ有スル能ハザレバナリ併シ絕對ニ無限ナルモノハ其元精中ニ悉ク實體ヲ指  
 示スルモノ及ビ反面ノ意義ヲ含マザルモノヲ含有スルナリ  
 此ノ定義命題公理並ニ説明ノ多クハ漠然トシテ其ノ意明亮ナラザルヲハ疑フベカラザルノ事實ナ  
 リ殊ニ本體ト神トノ關係更ニ氏ノ神ト稱スル絕對的無限ト同類間ニ於テノ無限トノ關係ニ付テハ  
 最モ然ルナリ。

ライプニツツ(千六百四十六年ニ生ル)ハ近世日耳曼哲學ノ開山ト稱セラル、人ナルガ氏ハロック  
 ノ哲學ニ反シスピノザノ本體ニ摸倣シテ元子論ヲ主唱シ以テ宇宙ノ問題ヲ解セントセリ其所謂元  
 子ナルモノハ活動並ニ勢力ヲ固有スル本體ニシテ又觀念ヲ有スルモノナリ併シ其ノ有スル方法ニ  
 至リテハ總ノ元子同一ナルニ非ズ又其第一元子ハ所謂ライプニツツノ神ト稱スル處ノモノニシテ  
 其他ハ悉ク此ヨリ併出シ發現シタルモノナリトナセリ  
 論ヲテ此處ニ至ラバ諸君ハライプニツツノ云フ處ノ元子ナルモノハ大ニ古代ギリシヤノ哲學者デ  
 モクリタスノ元子ニ類似セルヲ認メラル、ナラン蓋シライプニツツハ元子ヲ以テ人間ノ精神ノ  
 如ク活動シ思考シ又觀念ヲ作ルノ能力アルモノトシタレバナリ  
 スピノザノ如クライプニツツモ亦彼ノ神ト稱セル元子ト他ノ諸元子トノ關係ヲ説明スルニ於テ甚  
 ダ漠然タリ  
 パークレー(千六百八十四年ニ生レ千七百五十三年ニ死ス)ハロック及ビ當時漸々昂起シツ、アリ

シ唯物論ニ反シ統一的非物論即チ唯心論ヲ建設シタリシ其意ニ以テ爲ラク客觀ハ主觀アルニアラズ  
 ンバ知ラル、ト能ハズ若シ主觀ニシテ存在セザラシカ如何ニ吾人ハ客觀ノ存在ヲ確メ得ンヤト其  
 言ニ曰ク

吾人ノ思想モ情感モ尙又想像力ニヨリテ造ラレタル觀念モ心意外ニ存在スルモノニアラザル  
 ハ諸人ノ疑ハザル處ナリ更ニ余ヲ以テ見ルニ覺官上ニ印セラレタル感覺或ハ觀念ハ如何ニ複  
 合シ結合スルモ(即チ彼等ハ如何ナル事物ヲ組成スルモ)彼等ヲ知覺スル心意ニ於テヨリハ他  
 ニ存在スル能ハザルヲモ亦明亮ナルナリ惟フニ人若シ此ノ存在ナル語ノ可覺的事物ニ適用セ  
 ラレタル時ノ意義ニ注意セバ大ニ悟ル處アル可シ

今余ハ余ノ寫字シツ、アル机ヲサシテ此ノ机ハ存在スト云ハ、是レ吾其ヲ見其レニ觸ル、テ  
 フ意ナリ又余ハ其机ヲ離レタルモ尙ホ其ハ存在スト云フナラン是余若シ勉強シツ、アルナ  
 ラバ余自カラ之レヲ知覺スルヲ得若シ然ラザルモ他ノ精神ガ現ニ之レヲ知覺スルナラント云  
 フ意ナリ又其處ニ香氣アリシトハ余其レヲ嗅キシテフ意其處ニ音聲アリシトハ余之レヲ聞キ  
 シテフ意其處ニ色アリシ或ハ形アリシトハ余其レヲ視或ハ其レニ觸レシテフ意是レ余ガ總テ  
 其等ノ言及ビ其等ニ類スル言ニ付テ了會シ得ル處ノ意義ナリサレバ余ハ世人ノ無思考物ハ其  
 知覺セラル、テフ事ニ關セズシテ絕對ニ存在スルモノナリト主張スル處ノモノニ至テハ全ク  
 解スル能ハザルナリ

サレド山川家屋等約言セバ總テ可覺的事物ハ人間悟性ニヨリテ知覺セラル、テフ事ニ關セズ  
 シテ自然ナル或ハ眞實ナル存在ヲ有スルモノナリトハ實ニ奇妙ニモ諸人ノ間ニ流布スル處ノ



意見ナリトス

夫レヨリ氏尙ホ一步進ノテ曰ク

論ヲア此處ニ至レバ精神外即チ能知覺物外ニハ一本體モ存在セザルコト明ナリトス

(人智之原理百九十六ページ)

右陳述セル處ヨリ諸君ハバークレーハ一ツノ理論ニ陥レルコト見ラル、ナラン即チ客觀ハ只主觀ニ關スル上ニノミ存在スルノモノニシテ主觀ヲ離レテハ存在スルモノニアラズト云フ理論即チ是レナリ實ニバークレーハ主觀客觀ノ關係ノ狀態ト彼等ノ獨立的存在ノ關係ヲ混視シタルナリ惟フニ若シ能識主觀ハ或ル客觀的的感覺ニヨリテ感動セラル、モノナランニハ吾人ハ主觀ニ知覺セラル、テフ事ヲ離レテ尙ホ客觀ノ存在ヲ認容セザルベカラズ

思想ノ此ノ方法ハ即チバークレー流ノ思想ハシヨペンホール其著「世界即チ觀念且意志」中ニ採用セル處ノモノナリ

其第一命題ニ曰ク

世界者我觀念也

又之レヲ解シテ曰ク

万物ヲ知リ而シテ一物ニヨリテダニ知ラザルモノハ主觀ナリサレバ主觀ハ世界ノ維持者ナリ總テノ現象ノ要件ナリ常ニ經驗ニ依テ預想セラレタル總テノ事物ノ情狀ナリ蓋シ存在スル總テノ事物ハ只主觀ニ對シテ存在スルモノナレバナリ人各々己レノ主觀ナルヲ自覺スサレド是レ只能識スル以上ニ於テナスモノニシテ彼ハ知識ノ一目的物タル以上ニ於テナスニ非ズ併

シ身軀ハ一ノ目的物ナリ故ニ吾人ハ此ノ見點ヨリ之レヲ觀念ト呼ブ(第一卷五ページ)

ダビド、ヒューム(千七百十一年四月十六日スコットランドノエデンボルク府ニ生ル)ハバークレー哲學ノ弱點ヲ透視シテ自カラ一種ノ系統ヲ組織セリ其知識ヲ論ズルヤ先ツ之レヲ二種ニ分チテ説明セリ曰ク

(一)直接感覺即チ印象ト稱スルモノ

(二)其等感覺ノ滯在的ノ成果即チ氏ノ思想或ハ觀念ト稱スル處ノモノ

其意ニ以爲ラク感覺或ハ印象ハ觀念ヨリ活潑ナルモノナリ觀念ハ彼等ノ成果ニ外ナラズト所論既ニ此ノ如シ故ニ氏ハ心中一物ノ固有ニ存スルモノアルヲ信セズ悉ク皆ナ感覺ノ方便ニヨリテ獲得セラレ其處ニ聚集セラレタルモノナリトセリ併シ此ノ主義タル既ニロックノ唱道セル處ト異ナラザルナリロック曰ク

吾人ノ思想ヲ分析スルルハ吾人ハ常ニ如何ニ彼等ハ複雑或ハ高尚ナルモ感覺或ハ情操ヨリ寫サレタル簡單ナル觀念ニ歸セラル、ヲ見ルヲトヒ一見上然ラザルカ如キ觀アル觀念モ詳細ニ檢査セラル、ニ於テハ矢張り又均シク然ルヲ知ラル、ナリ彼ノ上帝ノ觀念即チ無限ニ明達ナル賢明ナル善良ナル實在テフ觀念ノ如キモ心意ノ運用ヲ反省シ善、智等ノ資質ヲ限ナク増大スルヨリ生起スルモノナリ此クシテ吾人ハ吾人ノ欲スル處マデ此ノ研究ヲ進メ得而シテ至ル處常ニ吾人ハ其吟味スル各觀念ハ均シク印象ヨリ得ラレタルモノナルコトヲ知ル

(人間悟性論三百十八ページ)

ヒュームハ又此ノ歸結ヲ因果ノ概念ニ適用シタリシ即チ因果トハ只經驗ノ吾人ニ教ユル處ノモノ



ナリト論セリ又其他如何ナル事物ニ於テモ吾人ハ經驗ヲ超乘シテ一步モ進ム能ハザルモノナリト  
 セリ要スルニ上文ニモ陳ベシ如クヒュームノ懷疑說ハ實ハロックノ經驗說ヲ極端ニ違セシメタル  
 モノニ外ナラザルナリ即チロックノ天與觀念ヲ論ズルニ用ヒシ方法ヲヒューム又因果法ノ說明ニ  
 用ヒシナリ其意ニ以テ吾人ハ經驗ニヨリテ結果ノ知ラル、ニアラズンバ其原因ヲ知ルテ能ハ  
 ズ例ヘバ吾人火ニ觸ルンバ火傷スルヲ知ルガ如シ若シ經驗ニヨリテ其然ルヲ知ルニアラズンバ  
 吾人何ソ壯麗火焰ノ如キ者ガ吾人ニ苦痛ヲ與フルヲ知ランヤト」ヒュームノ懷疑說ニ激セラレ  
 テ昂起セシモノチインマヌエル、カントトトス實ニヒュームハカントトシテ人智ノ全域ヲ探求スル  
 ニ至ラシメタリト云フベシ詳言セバ上文中既ニ示セルガ如クヒュームハ人心ニ於テ先天識ノ應有  
 性ヲ否定シタリシ而シテ是レ實ニカントトシテ「然ラバ人心ハ何ヲ包藏スルヤ若シヒュームノ斷  
 定ノ如クナランニハ倍其ハ如何ナルモノナルヤ」ノ問題ニ進入セシメタルナリ而シテ此成果タル  
 彼ノアリストートル以後吾人ノ營ヲ見ザル完全ナル靈敏ナル批評哲學トナレリ  
 余ハ此所ニカント哲學ノ極ク概畧ダニ陳述スルノ難キヲ知ルサレバトア已ムベキニアラズバ今極  
 ク／＼簡單ニ其ノ大意ヲ述ベシ諸カントハ自己ノ哲學ヲ稱シテ純粹理性批評ト云ヘリ是レ即  
 チ經驗ニ依ラズシテ人智ノ成分ヲ檢討スル哲學ノ意ナリ又之レニ對シテ經驗ニ依レル哲學ヲ稱シ  
 テ經驗說ト云ヘリ  
 氏ハ其純粹理性批評ニ於テ斷定ヲ分チテ分解的並ニ總合的ノ二種トセリ即チ分解的トハ主位ノ既  
 ニ賓位ヲ含有セルヲ云ヒ總合的トハ之ニ反シテ主位ノ賓位ヲ含有セザルモノヲ云フ又斷定ヲ先天  
 的ト後天的トニ區別セリ即チ經驗ニ依ラズ獨立ニナサンタル斷定ト漸々經驗ニヨリテ獲得セラレ

タル斷定トテ區別セリ

ヒュームハ心意ニ先天的斷定アルヲ否定セルトハ既ニ諸君ノ知ラル、處ナラン而シテカントハ此  
 ノ否定ニ付テ左ノ如ク云ヘリ

ヒュームノ此ノ否定ハ數年前始メテ余ノ獨斷的ノ眠ヲ醒シ思辨的知識ノ領分ニ於ケル余ノ探  
 檢ヲシテ全ク異リタル方針ニ向ハシメタルモノナリシ

夫レヨリ一問題ヲ提出シテ曰ク

併シ如何ニシテ其等ノ先天的總合斷定ハ知ラン得ルヤ

ト而シテ之レニ答フルハ氏ノ大著述ヲナセシ所以ナリ

諸カントハ主我ヲ以テ吾人認識力ノ總體トナシ夫レ出立シタリシ而シテ此ノ主我ハ事物ノ知識  
 ニ進行スルニハ覺性并ニ悟性ノ二方法ニヨルトス然ル後先ツ

第一ニ覺性或ヒハ直覺力ハ先天的ニ如何ナルモノヲ稟有スルヤヲ問ヒ

第二ニ悟性ハ又如何ナルモノヲ先天的ニ稟有スルヤヲ尋テタリシ

而シテ第一ノ問題ニ答フルハ超絶的感學ノ目的ニシテ第二ノ問題ニ答フルハ超絶的分解法ノ主  
 旨ナリ

先ツ超絶的感學ニ於テハ其原理ハ空間時間ノ二觀念ナリ此ノ二觀念ハ如何ニ工夫スルモ到底消  
 滅セシムルコト能ハザルモノニシテ吾人ハ總テ可視的現象ノ歸無ヲ想像シ得ベクモ尙ホ此等二者ノ  
 消滅ヲ思議スル能ハザルナリ

次に超絶的分解法ニ於テハカントハアリストートルノ如ク十二ノ範疇ヲ構成セリ即チ分量ニアツ



テハ全關、特關、單關ノ三箇資質ニアリテハ肯定、否定、無限ノ三箇關係ニアリテハ合式、約結、離接ノ三箇様式ニアリテハ未決、定説、分明ノ三箇其等十二箇ノ概念ヨリ左ノ悟性ノ十二範疇ヲ導ケリ

分量……………統計、複數、單一

資質……………現實、拒否、有限

關係……………本質、及ビ屬性、原因及ビ結果、相關

様式……………應有及ビ不應有、存在及ビ不存在、必須及ビ未必

以上十二範疇ノ連結ヨリ總テノ事物ハ導カル、ヲ得ルナリ又(以下カントノ語)此等ノ範疇ハ先天的ナレトモ併シ只空虚ナル形式ニシテ其ノ成分ハ直覺ニ依リテ獲得セラル、ナリ然レバ此等範疇ノ眞實ナルハ只覺性知覺ニ適用サル、時ニアリ

論ヲテ此處ニ至レバ諸君ハカントハ最初ニ自カラナサント主唱セシ處ノモノ即チ覺性ニヨラスシテ先天的ニ事物ヲ知ラントセシ企圖ヲ實ハ成遂ゲザリシヲ見ラル、ナラシ氏ノ無双ノ獨立的概念トセシ空間時間ノ概念スラ既ニロクノ左ノ如ク解セル所ノモノナリ其言ニ曰ク

吾人ハ視觸ノ二覺官ニヨリテ空間ノ概念ヲ造ルト (人間悟性論百十一ページ)

又同一ノ方法ヲ以テ時間ノ概念ヲ解シテ以爲ラク 「吾人ハ先ツ連續ノ概念ヲ造リ後ニ之レヲ無限ニ引延シテ以テ時間ノ概念ヲ作ル」ト然レバ吾人ハカントハ人類ノ保チシ知識ノ資本ニ一物モ加ヘザリシヲ見ルナリ

又吾人ノ知識ニハカントノ論ゼントセザリシ部分アリ即チ庶物本體ノ知識是レナリ其意ニ以爲ラルナリ 但シ此ノ知識ハ思議スルト同時ニ其等ニ實體ヲ賦與スル只創成的ナル神聖ナル心靈ノミ獨リ保チ得ルノ能力アルモノナリ蓋シ人間ノ意識ハ創成的ナラザルヲ以テ庶物ノ本體ハ其形式ニ適合セザルナリ

此處ニ吾人ハ近世不可思議論ノ嫩芽ヲ見ル即チスペンサーノ不可知物ハカントノ庶物ノ本體ト異ナラザルナリ 諸カントノ批評哲學ニ對スル反動ハフイフテノ誘導セル處ナレバ今其主義ヲ概論スベシ「約言セバフイフテノ哲學ハ自己ノ上ニ建設セラレタルモノナリ而シテ此統一の自己ナルモノハ只自カラ己レヲ限定スルニ於テ外界ノ觀念ヲ保ツモノナリツマリアラユル物ハ自己ニシテ外界ハ無ナリ更ニ別語ヲ以テ云ハ、外界ノ實在ハ只自己ガ自カラ己レヲ限定セントスルニ於テノミ確定セラル、モノナリ」所論此ノ如シ然レババークレーノ唯心論ヲイフニツツノ原子論トハ大差ナキモノニシテ只前二者ヨリ一步進ミタル位ノ事ナリ後フイフテハ自己ト神ト同一シ神ヲ釋シテ「神ハ唯一ノ存在ナリ而シテ其絕對的思想ニ依リテ己レニ敵スル非眞實ノ非自己トシテ外界ヲ確定ス」トセ

實ニフイフテノ哲學ハ獨逸ニ於ケル思想ノ方向ヲシテカントノ經驗派ヨリ全ク異リタル方面チ唯心論ニ轉ツタリシ而シテ此時代ノ二大傑トモ稱スベキモノハセーリングヘーゲルノ二氏ナリトス」セーリングハフイフテノ自己トスピノザノ所謂汎神教トテ妙合シタル人ナリ其說ノ大要ヲ檢スルニ所爲ラクカノ主觀ト云ヒ客觀ト云フモ實在的ト云ヒ理想的ト云フモ自然ト云ヒ精神ト云フモ是レ皆チ絕對實在ニアリテハ一ナルナリ然レバ彼ノ自然界ノ如キモ同物即チ絕對實在ノ一表顯ニ外



ナラズ而シテ又此ノ自然界中ニハ一勢力ノ存スルモノアリ(是レ即チ氏ノ呼ンテ世界ノ精神ト云フ處ノモノナリ)此ノ勢力タル總テ自然的原因ノ一般連續ノ德ニヨリテ總テ有機ト無機トヲ問ハズアラユル存在テ一致結合セシメテ以テ完全圓滿ナル一活機ヲ組織スルナリト「余ハ今ヤ此處ニ第十九世紀ニ於テ最モ人類思想ノ發達ニ影響ヲ及ボセシ哲學者ヲ諸君ニ照會セントス是即チヘーゲルナリ抑々氏ノ哲學ハ統一的唯心論ナルガ併シ前輩諸氏ノ唯心論トハ同一ニアラズ而シテ其異ナルノ點ハ左ノ如ク氏ノ云ヘルニテ明カナリ

客觀的庶物ハ管ニ人心ニ於テ或ル觀念ヲ保ツノミナラズ亦客觀的實在ヲ保ナルモノナリ而シテ此ノ實在タル庶物其物上ニ基キタルモノニアラスシテ絕對實在ノ上ニ基キタルモノナリ理性ハ世界中ニ自カラ顯現ス其ハ自カラ己レテ抑制スルニヨリテ自然界トナリ復々再ビ自己即チ絕對實在ニ還歸ス而シテ理性ノ此ク自發スルヤ三段ニ於テ先ヅ第一ニ思想ノ抽象的要素ニ於テ第二ニ自然界ニ於テ第三ニ精神ニ於テ然レバ夫レニ從フテ哲學モ亦三大部トナル即チ第一ニ理法學詳ク云ハ、理性ノ哲學第二ニ自然哲學第三ニ精神哲學是レナリ是レ實ニ日耳曼煩鎖哲學ノ時代ナリ而シテ此ハヘーゲルヨリ連續シテシユライエルマイヘルハルバートベチク等ニ至リシト雖モ併シ人類ハ當抵カ、乾燥無味ナル抽象的ナル理論ノミニヨリテ支配サル、モノニ非ルナリシヨペンホーエル又出デ、進歩的カント說ヲ構成セントシタリシカド憐ニモ觀念意志論ニ於テ失敗シ其馬鹿クダ厭世教ニ盡感サレテ哲學ノ正路ヲ失ヒ更ニ其高弟ハルトマンチモ過マタシメタリシ

シヨペンホーエル以後ニ至リテハ獨逸哲學ハ數多ノ從者ヲ有スル小學派ニ分レタリシガ然レド昔日ノ光輝ヲ復煥スルニ至ラザリシ

此ク獨逸ニアリテハ數多ノ哲學者頻出セシト雖モ其ノ能ク獨國外マデ影響ヲ及ボシテ以テ思想界ヲ感化セシモノハ獨リヘーゲルアルノミ蓋シカント哲學ハ嘗テ十分ニ了解セラレタルコトナク又ヘーゲルノ哲學ハヘーゲルニ至リテ完成シタルモノナレバ既ニヘーゲルヲ熟研セバ別段ヘーゲルニ注意スルニ及バズトセラレ又シヨペンホーエルノ厭世教即チ外界ノ美妙ヲ盡ク無意識ニシテ且ツ惡性ナル意志ニ歸スルノ教ハ到底人心ノ愛美ノ情ヲ満足セシムル能ハザルベクレバナリ諸君ハ又此處ニカント以後哲學ハ其ノ住居ヲ獨逸ニ定メタリシヲ見ラル、ナラン是レ他國ノ人民ハ思想ノ活動ヲ失ヒシトモ又鴻學大儒ノ一モ他國ニ生ゼシモノナシトモ云フ譯クニアラチドモ併シ或ル奇妙ナル不可思議ナル法理ノ作用ニヨリテ此處獨逸ニ人類ノ思想力ガ非常ナル形勢ヲ現ハシタルナリ實ニ其ハ他處ニ見ザル又同處ニ復起スル能ハザル勢ナリシ

實ニ此ノ時代ニ於ケル獨逸ノ精神の活動ノ活潑々ナリシハ肯テギリシヤ哲學ノ盛大ヲ極メシ時代ニ劣ラザルナリ其ハ管ニ第一等ノ哲學者ヲ生ゼシノミナラズ又ゲーテシルレルハイチノ如キ詩聖極上等ノ歴史家政治家外交家等ヲモ生ツタリシ而シテ其ノ社會上ノ有様ヲ尋レバ恰モ是レ佛蘭西軍ニ蹂躪セラレタル後勃然昂起シ外國ノ干渉ヲ離レ世界中最強ナル一帝國ヲ建設シタル時代ナリシナリ嗚呼誰カ能ク獨逸ハ再タヒ此カル哲學の繁盛ノ時代ヲ保ツ時アルヲ豫言シ得ルモノソ吾人ハ既ニ均シキ精神の活動ノ状態ガ最早二千年餘モ經ルニギリシヤニ還リ來ラザルコト見タリ然ラバ誰レカ獨逸ニ於テモ又然ルベシト云ハザルモノアラン今ヤ思想界ハ全ク異ナル方向ヲ探レリ而シテ其ハ駭々トシテ其方向ニ進ミツ、アルナリ恐クハ二代目ノカントノ現レテ流頭ヲ一轉ス



ルニアラズンバ尙ニ強勢ニ其方面ニ流ルルナル可シ然リ而ノ近世ノ此ノ方向ハ大ニ主物的ニ傾ケルナリ詳ク言ヘバ現象界ノ研討ニ重目ヲ置キカントノ本體或ハフイフテノ自己或ハヘーゲルシエーリソングノ絕對ヲ研究スルニ餘リ注意セザルナリ

余輩既ニ上文ニ陳述セルガ如ク此ノ時代ニ當テゼルマン國外ノ哲學モ又々活潑ナリシ殊ニスゴツトランド及ビフランスニ於テ然ルナリ彼ノルアヤイ、コライノ如キ又其高弟クローゼンノ如キハ確然佛國ニ根底セシロックノ感覺論及ビ唯物論ニ反シテ一種ノ折衷主義ヲ發達シタリシ併シ是レ只古說ニ一步ヲ進マシメ或ハ諸說ノ諸異而テ撰集シテ複雜ナル一種ノ折衷主義ヲ作りシノミニテ別ニ一新教系ヲモ生ラタルニアラザルナリ

此ク折衷主義ノ漸々勢力ヲ得ルニ當テ之レガ反動ヲ惹起セシモノヲオーガスチン、コントトス氏ハ人智ノ進歩ヲ神學的形而上學的并ニ實驗學的ノ三段ニ分チテ論ゼリ即チ人智ノ幼稚ナルニ於テハ人々自然ノ現象ヲ無上實在詳ク言ヘバ神トカ精靈トカニ歸シ稍々進歩スルニ於テハ之レヲ以テ抽象的或ハ隱微ノ原因ヨリ發セルモノトシ更ニ進歩スルニ於テハ確立不變ノ天則ニ歸スルニ至ルトセリ而シテコントモ亦カントノ如ク可見的事件ヲ超乘シタル知識ノ出來ベカラザルヲ主張シタリシ然レモコントハ己レガ科學上ニ置キシ制限ニ満足サレザリシカバ更ニ科學ノ新基礎上ニ社會ヲ組織セント企テタリシ而シテ人類ハ到底或ル種ノ宗教ナクバ満足スル能ハザルヲ悟テ遂ニ一種ノ人類教ヲ設立シタリ今此ノ奇怪ナル宗教ハ如何ナル事ヲ主張スルヤト尋ヌルニ其ノ崇拜ノ目的物即チ神ハ人類ナリトス氏爲ラク人間ハ各其ノ生時ニ於ケルト死後ニ於ケルト二種ノ影響ヲ他ノ人間ノ上ニ及スモノナリ而シテ此ノ二者ノ結合即チ崇拜ノ目的物ナリト更ニ其ノ崇拜ヲ分チテ

公ノ崇拜ト私ノ崇拜トノ二種トセリ而シテ私ノ崇拜ノ目的物ヲ女人トス蓋シ女人ハ人類ノ最モ完全ナル代表者ナレバナリ即チ其ハ母トシテハ吾人ノ尊敬ヲ起サシメ妻トシテハ吾人ノ愛情ヲ生ゼシメ又娘トシテハ親切心ヲ起サシムレバナリ然レバ理想的ノ女人ハ吾人ノ崇拜スルノ價值アルモノナリト又公ノ崇拜ノ目的物ハ大人ノ記念ナリトス又此ノ宗教ハローマカソリック教會ノ制ニ倣ヒテ十箇ノ聖禮典數多ノ僧侶及ヒ一人ノ監督ヲ保テリ

是レ實ニ第十九世紀ノ科學ノ祖父ガ吾人ニ與ヘシ宗教ナルガ其ハシバシフジンスヤイギリスニ於テ盛ナリシ殊ニイギリスニアリテハコントトスチワード、ミルトノ關係モアレバ一種ノ活力ヲ得ミル派數多ノ學者ノ盛ニ熱心ニ之レヲ唱道シ總テ人々ニ奉信セラル、二十分ナル價值ヲ有セルモノナリト主張スル處ナリシ併シ直ニ反動ノ起ルアリテ今日ニテハ歐米中吾人ノ注意ヲ引クニ足ル程ノ人々ニシテ一人モ之レヲ信セルモノナシ然リ而シテ此ノ反對タル奇妙ニモ宗教家ヨリ起リタルニアラズシテ科學者ノ中殊ニハツクスレー講師ヨリ發シタルモノナリ

今ヤ吾人ハ思想ノ最終段即チ不可思議論ニ達セリ抑々不可思議論トハ如何ナルモノナルヤト問フニ約言セバ是レ世界ノ起原ニ關シテ其經綸ニ關シテ總テ吾人ノ無智ナルヲ懺悔スル思想ノ方法ナリ而シテ此ノ論者中最モ鋒々タルモノヲスペンサー氏及ヒハツクスレー講師トススペンサー其著第一原理ニ於テ無限物ノ存在スルコト及ビ其ハ總テノ宗教的思想ノ根本ナルコトヲ許容シタル併シ吾人ハ其レニ付テ確定シタル知識ヲ有スル能ハズトセリ其言ニ曰ク

吾人ヲ圍繞スル物象及ビ發動ハ吾人ニ迫マリテ或ル原因ヲ求メシムルニ於テハ敢テ意識内ノ現象ヨリモ劣ラザルナリ而シテ此ノ或ル原因ノ搜索ニ於テ吾人ハ第一原因ノ假定ニ達スルマ



デハ毫モ安心スル能ハズ更ニ此ノ第一原因ハ無限絶對物ナリトセザルヲ得ザルナリ此等ハ實ニ巨避ナル議論ノ連續ヨリ吾人ノ此ク推論セザルベカラザル處ノモノナリ然レモ此クマデ遙カニ此等ノ推論ヲ追及セシ人々ニ向フテハ如何ニ此等ノ推論及ビ其結果ノ幻想的ナルヤヲ示スノ必要ナキナリ(三十八ページ)

前文陳述セル處ヨリ諸君モ既ニ了解セラル、ナランガ不可思議論ハ實ニヒュームノ懷疑説及ヒコソトノ實驗説ノ如ク疑懐説ニ終リツ、アルナリ其ハ實ニ推度ノ能力ヲ排斥セリ即チ現象ノ自然秩序ニ關シテ吾人ノ有スル普通ノ知識ヲ排斥セリ更ニ別言ヲ以テ云ハ、吾人ハ善キ原因ヨリ惡シキモノヲ望マザルガ如ク亦惡キ原因ヨリ善キ物ヲ望マザルナレモ併シ此ノ論理法ニ從ヒテ進ムハ不可思議論ノ許サザル處ナリ

余輩ハ今不可思議論ヲ以テ人類ノ哲學的思想ノ要諦ヲ止メントス抑々本章ニ於テ掲グル處ハ甚ダ不完全ナルナランガ併シ是レ此カル僅少ナル紙數ヲ以テ數多學説ノ教義ヲ示サントスルナレバ實ニ万已ヲ得ザルナリ願クハ諸君宜シク之ヲ諒セラレヨ但シ宗教ト哲學トハ共ニ其第一原理ニ於テ密着スルモノナレバ更ニ其他多クノ場相即チ宇宙ノ經論ヲ論ズルニ於テ道德法ノ始原ヲ論ズルニ於テ靈魂ノ物質的併ニ精神の要素ヲ論ズルニ於テ其他多クノ場合ニ於テ密接スルモノナレバ吾人宗教的信仰ヲ論ゼントスルニ當テハ是非一言ナリトモ精神の哲學的生産ニ論及スル處アラザルベカラザルナリ若シ然カセザランカ吾人ハ之レヲ十分ニ論ズル能ハザルナリサレバコソ本章ニ於テ哲學史ノ一斑ヲ示セシナレバ諸君宜シク之レニヨリテ天啓ノ祐助ヲ受ケザリシ理性ハ如何ニ無限實在ヲ發見セントテ辛若シ爭鬪セシヤ其ノ一斑ヲ會得セラレシトテ是レ余ノ希望スル處ナリ諸君

ハ又疑ナク本章ハ始メヨリ歐洲ニ於ケル思想ノ沿革ノミニ限リ暫時モ其レヲ離レザリシトテ見ラレ、ナラン是レ勿論歐洲外ノ諸國民ハ思想英敏ナラズトノ意ニアラザレバ尙サテ歐洲人ヲ苦メシ觀念ハ他國人ノ心頭ニ上ラザリシト云フ意ニモアラズ然ルニ余ノ此クナセシ所以ハ蓋シ二者ノ間左ノ必要ナル差別アレバナリ

歐洲人種ノ哲學的思想ハ常ニ宗教ヨリ或ル距離ヲ保ツニ他人種ニアリテハ然ラズ常ニ或ル理由ニヨリテ二者混同セリ

見ヨ吾人ハギリシヤノ哲學ヲ以テ其宗教或ハ鬼神論ヨリ別離シタル問題トシテ論ヲ得レモ若シ夫レヨリ眼ヲ轉テテベルシヤニ向ヒインドニ臨マンカ吾人ハ其ノ大ニ然ラザルヲ見ル彼ノベルシヤノ二元教ノ如キハソオロスターノ宗教ヲ離レインドノ汎神教ノ如キハ彼羅門教ヲ離レ又ハブリエノ一神教ノ如キハモーゼスノ猶太教ヲ外ニシテ論ズル能ハザルナリ是レヲ以テノ故ニ余ハ其等諸氏ノ宗教ヲ論ゼル章ニ於テ共ニ其等ノ哲學思想ヲ論ズルヲ以テ適當トナス是レ余ノ本章ニ於テ歐洲外ノ哲學的思想ニ論及セザリシ所以ナリ

余今本章ヲ終ルニ及ンデ以上陳述セル處ヲ概括シテ思想ノ進行ハ恰モ鎖鏈ノ如ク若クハ河流ノ如キモノナルヲ示サントス抑々本章ハフラトノ觀念論ヨリ始メタルガ諸君モ既ニ知ラル、ガ如ク此ノ説ハ直ク而カモ其ノ高弟タルアリストトニヨリテ駁セラレタリシ而シテアリストトトルハ一種ノ自然哲學ヲ起セシガ此ノ説種々ノ枝派ニ分カレタル後今度ハフラトヲ奉ズル哲學ノ哲學ノ生國ナルギリシヤニアラデアレキサンドリアヨリ昂起スルニ遭遇シテ其位地ヲ奪レタリシ次ニ又此ノアレキサンドリア派ヲ排シテ起レルモノハ煩鎖學派ナリ此學派又數世紀間思想界ノ主



權ヲ保チシニ赫々タル近世科學ノ精神ノベロコンニユトシ及ビ其他大陸ノ諸學者ノ研討ヨリ煥發  
 スルニ會シテ色ヲ失ヒ元氣衰へ復タ如何ントモ致ス能ハザルノ状態ニ陥レリ併シ尙ホ古キ意義ノ  
 哲學ハデカトスピノザロク等ニヨリテ連續セラレバクレーノ唯心論ト現シヒユームノ懷疑  
 說トナリ更ニヒユームノ懷疑說ハカントノ批評哲學ヲ惹起シフイツテノ我論ハ之ヲ排シテ起リ  
 シエーリソグヘーゲルノ絶對論ハ更ニフイフテ補フテ昂起セリ夫レヨリ又吾人ハダルウインハ  
 ックスレーズペンサー等ノ科學的唯物論ニ達セリ實ニ一學派起リテ他學派斃レ又起テ又斃レ轉々  
 又轉瞬時モ止マズ恰モ波濤ヲ飛バシテ諸國ノ海濱ヲ洗ヒ動搖己ムナキ大洋ノ如シ然リ而シテ此ク  
 變轉スルハ畜ニ學說其物ノミナラズ鳩處モ國民モ亦均シク然ルナリ即チ始メハゴリシヤ次ニハイ  
 ヲフト夫レヨリイタリヤフフランスイギリスセルマン等ノ諸大國トナリ更ニダルウインハツクス  
 ーワレンス等諸氏ノ研究ノ結果ニヨリテ再タヒイギリストナレリ  
 今總テ其等思想ノ爭鬪ヲ閱スルニ更ニ一理ノ明カニ顯ハル、モノアリ即チ理性ノ活動ノ變轉極リ  
 ナキ是レナリ但シ吾人ハ究意ノ原理ヨリ離ル、時ハ暫時モ安然タル能ハザルモノナルト是レスベ  
 ンサーノ恰好ニ記セルガ如シ

### 第三章 宗教的觀念之始源

第一章ニ於テ余ハ宗教ノ始原詳ク言ヘバ寧ロ不可視的ナル勢力ニ於ケル人類ノ信仰及ビ其物ニ對  
 スル彼等ノ義務ニ付テ少々陳ベ置シガ今ヤ本章ニ於テ宗教其物ニ付テ論セントス即チ宗教トハ如  
 何ナルモノナルヤヲ研究セントスルナリ而シテ此研究ノ必要ナルハ既ニ前章ニ於テ最モ下等ナル  
 蠻民スラ或ル種ノ宗教ヲ稟有セルト及ビ其宗教ハ社會的ナリ道德的ナリ殆ンド總テ其國ノ制度ヲ  
 發達セシムルモノナルト述ベタルニテモ知ラル、ナルベシ實ニ各國文明ノ歴史ハ其宗教ノ歴史  
 ニ外ナラザルナリ吾人或ル國民ノ進歩開化ヲ檢定シ批評セントスルニ當テハ其國民ノ宗教的觀念  
 ヲ標準トスルヨリ他ニ完全ナル標準ナシ知ルベシ宗教研究ノ必要ナルヲ諸第一章ニ於テハ余輩ハ  
 動物的ノ状態ニ於ケル人類即チ人類自然ノ状態ヲ示シタリシガ然レバトテ其處ニハ身體ノ構造ヤ  
 機關ノ官能ニマテハ論及セザリキ此レ本書ニハ餘リ必要ナラザル事ニシテ且ツ余輩ニ於テハ此ノ  
 點ニ付テ左ノ如ク云フテ以テ充分トナセバナリ即チ如何ニ下等動物ハ身體解剖上人類ニ近接スル  
 モ精神上ニテハ遠接ダニナサザルナリト見ヨ最モ高等ナリト稱セラレ最モ人類ニ似タリト云ハレ  
 タル擬人猿スラ人類ヲシテ高等ナラシムル所以ノ宗教的情操ノ影ダニ現ハサザルニアラズヤ  
 又第二章ニ於テハ合理的實態トシテ人類ヲ盡キタリシ詳言セバ人類ハ推理力ヲ有シ而シテ此ノ推  
 理力ハ思想ノ高等ナル地位ニ進達スルモノナルト示シタリシ更ニ詳言セバ人類ハ只環象有ノ儘  
 ノ知識ニ満足セズシテ更ニ其等環象ノ始原及ビ其等ノ超絶の原因ヲモ知ラントテ思辨スルモノナ  
 ルト示シタリシ而シテ此ノ問題ヲ最モ完全ニ表サンガ爲メニソクラテスヨリ今日ニ至ルマデノ



重ナル學說ヲ列擧シテ以テ哲學史ノ一斑ヲ示シタリ併シ其ハ甚ダ不完全ナリシナラン是レ前章ノ如キ僅少ノ紙數ニテハ迎モ充分ニナス能ハザレバナリ且ツ又ソクヲテス以前ノ哲學ニ至テハ省略シテ論ゼザリシ是レ左ノ理由アレバナリ

第一吾輩ハソクヲテス以前ノ諸哲學者ガ研究セシ處ノモノニ付テハ確實ナル知識ヲ得ル能ハズ只僅カニギリシヤ古代ノ學者ノ遺著殊ニアリストートルノ形而上學中ノ諸說評論中ヨリ得ル處ノモノノミナリ

第二ギリシヤノ宗教ヲ論ズルニ至テハ再ビ宗教的儀式上哲學ハ如何ナル影響ヲ及ボセシヤナル論ズベクニレバナリ

然リ而シテ本章ニ於テハ宗教的實在物トシテ人類ヲ論ゼントス而シテ先ツ第一ニ宗教トハ如何ナルモノナルヤヲ論ジテ次ニ其ノ始原ニ及ビ終ニ其實利ヲ論ズヘシ

抑々モ宗教(英語「レリヂョン」)ナル語ハ其原意甚ダ模糊タル語ナレバ從テ之レガ解釋モ種々雜多トナレリ今ローマノ哲學者タル著述家タルシセロノ解スル處ヲ見ルニ氏ハラテン語ノレ、ガレナル働詞ヨリ來レルモノトス而シテ此ノレ、ガレナル語ハ再ダビ閱讀スル、思慮スル等ノ意ナレバ宗教ナルモノハ吾人ノ神ニ對シテ如何ナル責任ヲ負フヤヲ思慮シ正意熱心ニ考察スルモノナリトセリ

ヘブリエー語ニ於テハ宗教ニ對スル適當ノ語ナシ然レモ今舊約書ヲ閱スルニ宗教的生命ヲ以テ神人間ノ契約トナセルガ如シ即チ「我ハ汝ト我が契約ヲ立テ」ト云ヘル神言ノ深意ハ一ツノ契約ニヨリテ人間ハ神ノ責任アル仲間トナルト云フニアルガ如シ而シテ余ハ之レヲ以テ宗教ニ付テ最

正シキ觀念ト思考スルナリ蓋シ人間ハ常ニ自己ノ行爲ニ對シテ責任アルモノト思惟セラレ且ツ又自カラ其ノ方向ヲ決定スルニ自由ナラザル行爲ハ己ガ發達進歩上利益アルモノトナサル、ト能ハザルモノナレバ人間ヲ以テ只神ノ手ニアル無責任ノ一器械トナス宗教的信仰ハ實ニ宗教ノ究竟ニ歸スル本原的觀念及ヒ基礎ヲ閉鎖スルナリ

諸テ宗教ニ付テ近世學者ノ與ヘタル定義ハ數多アルガ其ノ多クハ漠然タル且ツ一偏セルモノナリ今其重ナルモノ二三ヲ擧シニカントハ「神聖ナル制度トシテ道德法ニ恭順スルコトナリ」ト云ヒ「宇宙ノ道德的秩序ニ於ケル信仰ナリ」ト釋シセーリツグハ「無限有限ノ合一即チ神ノ世界ニ現化シテ自覺ヲ得ルコト」ト解キシユライルマーベルハ「絶對的依頼ノ感」ト説クリ而シテ其中余ノ判斷スル處ニヨリテ最モ眞正ナル觀念ニ近接セリトナス處ノモノハセーリツグ定義ノ前部即チ無限有限ノ合一テフコト是レナリ

カントノ定義ノ如キハ大ニ道德ト宗教トヲ混同スルモノナルガ併シ是レ當ニカントノミナラズ其他多クノ學者モ亦陥ル處ノ誤謬ナレバ今之レニ付テ少々其ノ誤謬ヲ辨シ置クベシ夫レ宗教ト道德トハ其間劇然タル區別ノ存スルモノニシテ決シテ混同スベカラザルモノナリ蓋シ宗教トハ神ヲ父トシテ之レニ靈魂ノ合夥スルヲ云ヒ道德法トハ吾人ガ嚴然犯スベカラザル法則ニ支配サレタル臣僕トシテ創造者ノ前ニ立ツ所ナル也詳言セバ宗教ニアリテハ吾人ハ宛モ子ノ親ニ於ケルガ如ク父トシテ神ニ近ヨリ父トシテ之レヲ呼ビ以テ己ガ罪惡ヲ赦宥シ賜ハンコトテ乞ヒ道德法ニアツテハ恰モ不變ノ法則ノ前ニ立ツ臣僕ノ如ク之レヲ犯スルハ唯刑罰ヲ待ツヨリ他ニ如何シトモスベカラザルモノトナスナリ然リ而シテ此二者ハ又決シテ相反スルモノニアラズ互ニ相補



助シ相協力スルモノナリ蓋シ宗教ハ愛ヲ土臺トシ道德ハ正ヲ基礎トスルモノニシテ愛ト正トハ互ニ損傷スルコトナク否ナ相補助シテ以テ功ヲナスモノナレバナリ例ヘバ吾人ノ親ヨリ教訓ヲ受クルキニ當テ其ノ教訓ヲ以テ正シキモノトシ愛ヨリ出デタルモノトナスキハ只感涙ニ咽ビテ恭順センコトヲ期スルガ如シ

宗教若シ以上論述スルガ如キモノナラシカ吾輩ハ到底ヒユームノ如ク恐怖ヲ以テ宗教ノ唯一要素トナス能ハザルナリヒユーム曰ク

人類初發ノ宗教ハ主トシテ未來ノ出來事ヲ懸念シ之レテ恐怖スルヨリ生ズルモノナリ夫レ人々何カ恐怖スル處アリテ爲メニ變々タルノ時ニ當テハ見ルベカラザル知ルベカラザル諸勢力ニ付テ自カラ如何ナル觀念ヲ抱クニ至ルヤハ吾人ノ容易ク想像シ得ル處ナリ彼ノ復讐、苛酷、殘忍、怨恨、等ニ付テ各心像ハ實ニ驚愕ニ充テタル迷信者ノ心情ヲ壓伏スル處ノ恐怖ヲ惹起シ更ニ益々之レテ大ナラシムルモノナラザルベカラズ(宗教發生史十六章)

是レ宗教ノ起原ヲ論ズル諸說中最モ牽強附會のナル一偏セル否ナ虛妄ナルモノナリ何ントナレバ余輩既ニ第一章ニ於テ示シタル如ク總テ最古ノ諸宗教中ニアリテハ即チ鬼神論ニ於テモ直接天啓教ニ於テモ人々ハ常ニ神ニ對シテ宛モ親子ノ如キ最モ親密ナル關係ニ自己ヲ置キタレバナリ實ニ鬼神論ノ如キハ自然ノ富源ニ依リテ神ノ自顯セルモノナリト云フベシ今之レテ例解センニ昔シ赫々タル赤日ニ燒カレタルガソチス河畔ノ平原ニ棲息セシアリアン人ハインドヲ神ハ我等ニ雨露ヲ下シ賜フ神ナリトテ最モ崇尊セリト云フ蓋シ降雨ノ此等ノ地方ニアリテ必要ナリシハ今此處ニ口筆ニ盡ス能ハザル程ニシテ殊ニ彼等ノ好シテ飲料ニ供セシ白牛乳ヲ生ズル牝牛ヲ養フニ必要

ナル草木類ハ只降雨ニヨリテ生長スルモノナレバ實ニ降雨ハ彼等ニ取リテ何ヨリ大切ナル天恵ナリシナリ然レバコソ彼等ハ雨ノ神ヲ以テ最上ノ神トシ最モ之レヲ崇敬シタリシナレ然リ而シテ此情操即チ自然ノ賜ヲ感謝シ讚美スルノ情操ハ實ニ天啓ノ祐助ナキ時ニ當リテ人心ニ宗教的情操ヲ發生セシムル主要ノ刺激劑ナリ余ハ韋陀ホーマー舊約書等ノ古代ノ宗教的奮闘ヲ閱スルニ此言ヲ確メザル一節ダニアルヲ見ズ彼ノ罪惡ノ意識ノ如キハ較後ニ發生シタルモノナリ  
論ヲテ此處ニ至レバ人或ハ問ハシ「然ラバ恐怖ハ宗教的觀念ヲ發達セシムルニ於テ毫モ力ナキモノナルカ」ト是レ決シテ然ラズ然レド余輩ハヒユームノ如ク未來ノ恐怖ヲ以テ總テ宗教的情操ノ專働機關トナスニ至テハ首肯スル能ハザルナリ但シ前節ニ述ヘシ如ク現在未來ノ恐怖ノ源泉タル罪惡ノ意識ハ稍々後ニ發達シタルモノナレバ決シテ之レヲ以テ宗教ノ唯一創造者トナスベカラズ是レ恰モ恐怖ハ子タルモノノ品行及ビ其ノ親ニ對スル義務ヲ作ルニ於テ最モ大ナル影響ヲ及スモノナルモ直ニ之レヲ以テ親子間ノ關係ヲ作ル唯一ノ要素トナスベカラザルガ如ク更ニ又恐怖ニハ常ニ罪惡ノ意識及ビ依賴ノ念ノ密着スルモノナリ即チ罪惡ノ意識ハ大抵恐怖ヨリ起リ恐怖ハ又他ニ依賴スル念ヨリ起ルモノナリ而シテ此ノ二者ノ宗教組織上大ニカアルモノナルハ拒斥スベカラザル事ニテ又敢テ排斥スルノ必要モナキ事ナルガ併シ宗教ノ構成セラレ且ツ維持セラレ、材料ノ最モ多クハ愛ナリ然レバタトヒ唯恐怖上ニノミ成立シタル宗教アリトスルモ其ハ瞬間ダニ存在セザルベク否存在スル能ハザルベシ蓋シ人間ハ己ガ不合理不利益ト認ムル事物ハ之レヲ排斥スルノ能アルモノナレバ神ト已レテ結合スルモノハ只恐怖ナリシコト及ビ此ノ結合ヲ保存スルニ於テハ如何ナル利益アルヤヲ問フニ神ニアリテハ常ニ人ヲ罰セントシ人ニアリテハ常ニ神怒ヲナダムルニ



アツシテ悟ルルハ其奉信スル無上ノ勢力ヲ排斥スルニ至ルベクバナリ願クハ諸君原始ノ一宗教ヲ撮リテ之ヲ檢ヒテレヨ諸君ハ必ズ罪惡ノ意識並ニ恐怖ノ念ハ宗教組織上ニ於テ第二等ノ價値ノモノナルヲ悟ラル、ナラシマクス、ミユロー氏ハ總テ昔ノアリアン人ノ神ヲ呼ブニ父ナル語ヲ用ヒシテ事實ニ世人ノ注意ヲ惹起シテ大ニ真理ヲ闡明シタリ併シ若シヒユームノ説クガ如ク古代宗教ノ本素ハ只恐怖ナリシナランニハ何ノスレバ彼等アリアン人ハ此カル貴重ナル名稱ヲ只崇拜者ヲ恐怖セシムルノミヲ以テ目的トスルモノニ與フルノ「アラフヤ」余輩ハ此ク論ズト雖也決ノ宗教ノ發達上更ニ又道德ノ發達上罪惡ノ意識ハ毫モ影響ヲ及ボス處ナシ毫モ助クル處ナシト云フニアラス然レド之ヲ以テ唯一或ハ最大ノ要素トナス能ハズト云フナリ夫レ人間社會ハ其ノ秩序ヲ設立シ且ツ之ヲ永久ニ保存スルニ於テ殆ソド一ニ恐怖ニヨルト云フモ敢テ過當ノ言ニアラザル程ニテ實ニ政府ノ組織ハ之ヲ證スルガ如シ併シ宗教ニアリテハ恐怖ノ念ハ左程有カナラザルナリ見ヨ吾人ハ舊約書ニ於テ神トアラハムノ關係中恐怖ノ影ダニ見出し得ルヤアラハムノ心中ニ於テ見ル處ハ只神ノ盟并ニ攝理ニ對スル赤子ノ如キ丹心ト信仰トニアラズヤ而シテ又此ノ事實ハ最モ明カニ原始アリアン人ノ宗教中ニ表ル、ナリ彼等原始ノアリアン人ハ嘗テ白キ乳汁ノ黄金色ナル牝牛ヨリ絞リ出サル、ヲ見シキ大ニ驚愕シ多クノ惠ノ上更ニ此ク神人ノ最好物ナル乳汁ヲ賜フコト大ニイソドラ神ニ感謝シタリシト云フ

余輩ハ第一章ニ於テ惡罪ノ意識及ヒ恐怖ハ宗教的觀念ノ較々後ニ發達シタルモノナルヲ述ベシガ今ヤ此ノ問題ヲ研究スルコト愈々多キニ從フテ愈々其真理ナルヲ悟レリ

更ニ又宗教ハ哲學ノ生産物ニアラザルナリトヒ智識ハ人類ノ宗教的信仰上大ニ影響ヲ及ボスモ

ノニシテ若シソレナクハ人々神ノ盟ヲ受クルニ適スル情態ニ違スル能ハザルモ又下等動物ハ其レナキヲ以テ尊崇スベキモノ盟ヲ賜フモノトシテ神ヲ認識スルニ至ラザルモ又其ハ吾人ヲシテ一定ノ責任ヲ有スル神ノ仲間トナラシムルニ於テ最モ必要ナルモノナルモ而モ其ハ宗教ノ唯一ノ要素ニ非ザルナリ約言セバ哲學的知識ハ理性ノ活動中ニ表ハル、ガ如ク宗教上ノ事柄ニ付テハ吾人ヲ導ク最良ノ指南車ナレ併シ宗教界ノ門戸ヲ開クモノニアラザルナリ

然ラバ吾人ハ理性ノ批評的ニ活動スル領分ヨリ宗教ヲ除去スベキカ否ナ決シテ然ラズ宗教ハ吾輩ノ爲ス如ク程善ク理性ヲ運動セシムルヲ妨ケズ然レド理性ノ妄拜即チ盲ニ理性ノミヲ崇拜シテ希望、信仰、美妙ノ愛等其他此等ニ類スル人類ノ高尚ナル性情ヲ排斥スルコトニ反對スルナリ然レニ無宗教家屢々大叫シテ曰ク宗教ハ理性ノ批評的檢定ヲ受ルテ恐ルト即チ超自然的ニ宗教的信仰ヲ保ツ人々ハ己ガ信仰ノ成分ヲ批評的檢定ノ下ニ置カル、ヲ恐ルト是レ未ダ十分ニ宗教ヲ洞視シタル言ト云フベカラズ更ニ其等ノ無宗教家ノ意ニ以テラク宗教ノ基本ナル神ノ智識ハ決シテ吾人々類ノ獲得スル能ハザルモノナリ吾人ノ知り得ル總テノモノハ只可視的有限的ノ境ニアルノミ之ヲ超乘シテハ一步モ進入スル能ハザルナリト又以テラクトヒ神ハ存在スルモノトスルモ神既ニ無限ノモノナレバ有限ナル人智ノ了解シ得ルモノニアラズト是レ實ニ彼等ノ主唱スル如ク宗教ノ基本ヲ一撃ノ下ニ破壊スル推理法ナリ蓋シ普天ノ下宗教ノ數實ニ夥シク其中或ハ佛教ノ如ク禮典中ニモ教義中ニモ上帝存在ノ信仰ヲ表サザル者モアリト雖也其一般ハ自由ニ人事ヲ支配シ指導スル無上實在ノ上ニ其ノ基礎ヲ置クモノナレバナリ實ニ無上實在ノ觀念即チ神ノ觀念ハ總テアラユル宗教ノ基礎ナリ上ハ猶太教ノ如キモノヨリ下ハアフリカノ拜物教ニ至ルマデ吾人ハ一モ之レニ



背クモノアルヲ見ズ勿論拜物教者ノ石ト舊約書ノ神トハ同一ニアラザレモ併シ其ノ崇拜スル根本ノ觀念ニ至リテハ決シテ異ナラザルナリ均シク自己ノ依頼ス可キ無上實跡ノ存在ヲ認ムルナリ然レバ若シ佛教之レニ背クモノナラシカ是レ既ニ宗教ニアラズト云ハザルヲ得ズ吾人ハ記憶セリテフガストコントモ亦神ノ觀念ニアラズシテ人類ノ結合的觀念ヲ以テ一宗ヲ開基セントセシカ遂ニ成功スル能ハザリシヲ併シコント若シフランスニ生レズシテインドニ生レ第十九世紀ニ生レズシテ二千年前ニ生レズランニハ其成功ハ敢テ一人ノ疑フモノアラザルベシ併シタトヒ此カル宗教ハ存在セリトスルモ吾人ハ之レヲ正當ニ宗教ト呼バ能ハズ何ントナレバ前ヨリモ云ヘルガ如ク其ハ宗教ノ依テ以テ建設セラル、所以ノ眞礎ヲ保タザレバナリ」次ニ余輩ハ第二ノ問題即チ宗教ノ起源詳言セバ「如何ニシテ神ハ知ラレ得ルヤ」ト云フ問題ニ及ブベシレズリ、ステフエン氏ノ曰ク

「百方言ヲ盡シテ天啓ノ祐助ナキ智力ノ如何ニ在リタルヤ宜ベタル哲學的ニ基督教ヲ辯護セラル學者ハ其數甚ダ多シ實ニ絕對及ビ無限ヲ處スルニ付テ人間ノ無力ナルヲ宣言スルニ於テハコントスタ敢テ正統派ノ學者連ヨリ明亮ナリト云フ能ハズ

「トヒ智力ハ絕對及ビ無限ヲ處スルニ於テ在リタルモ亦此ク論スルハ宗教ノ根本ヲ傷害スルモノナリ絕對實在若シ全ク知ラル、能ハザルモノナランカ吾人ハ如何ニシテ宗教的系統ヲ起シ得ルヤ若シ然ランカ此カル企圖ヲナスハ實ニ無用無結果ノ業ナラザルベカラズ然レド此ノ問題ノ眞意ハ「如何ニ吾人ハ無限實在ヲ全ク知り得ルヤ」ト云フニアラズシテ「尊敬ノ目的物、崇拜ノ目的物、及ビ愛ノ目的物ト見做シ得ル度マデ人類ハ無限實在ヲ知り得ルカ」ト云フニアルナリ」是レヨリ少々此ノ點ニ付テ研究セシニカントハ管ニ人力ノ無限實在ニ達スル能ハザルヲ主張セシノミナラズ又

烈シク上帝存在ノ辨證ヲ駁シタリシ詳言セバ上帝存在ノ辨證ヲ三種ニ分テ一々之レヲ破壊セリ此處ニハ詳シク此ノ點ニ於ケルカントノ說ヲ論ズル能ハザルモ概言セバ氏ノ駁撃ハ全ク氏ノ哲學ノ基礎即チ吾人ハ現象ヲ超乘シテ一步モ進入スル能ハズテフ氏ノ哲學ノ根本ノ見解ニ基クルナリ氏因果法ヨリ上帝存在ヲ證スル事ニ付テ即チ氏ノ所謂世界學的辨證ニ付テ左ノ如ク曰ヘリ

「其ノ進行スル線路ハ合理的ナルカ將タ又詭辨的ナルカ免ニ角ク自然ナルモノナリ而シテ其ハ管ニ普通ノ悟性ヲ説服スルノミナラズ又思辨的知力ヨリシテモ尊敬セラル、ニ適スルモノナルヲ自ラ示ス但シ其ハ同時ニ自然神學中ニ用ヒラル、總テノ辨證ノ大躰ヲ有スルモノナリ而シテ其等ノ辨證タル常ニ仕用セラレ又權利ヲ有セシモノナルガ尙ホ將來モ然ルベシ然レド進メテ曰ヘルニハ

此ノ實在物ノ性質ノ如何ナルモノナルヤハ經驗ヨリ知ラル、能ハズ故ニ理性ハ全ク之レヲ放棄ス

又宇宙ノ秩序及ビ美妙ヨリ辨證セルモノニ付テモ同シ調子ノ批評ヲ加ヘタリ即チ宇宙ノ秩序ハ只經驗ニヨリテ知覺セラル、ヲ得ルモノナリ而シテ此ノ經驗ハ可視的現象ヲ超乘シテハ一步モ前ニ吾人ヲ導カズト氏曰ク

「今一人ノ能ク其考察スル世界ノ量ガ(其廣袤並ニ其成分ニ於テ)全能ニ保ツ關係世界ニ於ケル秩序ト意匠ガ無上智慧ニ保ツ關係及ビ世界ノ唯一ガ最上實在ノ絕對的唯一ニ保ツ關係等ヲ完全ニ洞視達觀セルヲ揚言スルニ十分ナル勇氣ヲ保タルモノアルベシトハ吾人ノ希望スル能ハザル處ナリ故ニ物理神學ハ世界ノ最上原因ニ付テ一ツノ確定セル概念ヲ表ハスヲ能ハズ又



其ノ故ニ神學即チ宗教ノ基本ナルベキ神學ノ一原理トシテハ不十分ナリ

(純粹道理批評三百八十五ページヨリ三百八十六ページ)

上文引用セル處ヨリ諸君モ了解セラル、ナランガ實ニカントノ駁撃ハ各場合ニ於テ其根本同一ナルナリカントハ上帝存在ノ各辨證ヲ以テ只同物ノ異裝セルニ外ナラズト評セルガ併シ己ガ駁證論モ亦同物ノ異裝セルニ外ナラザルヲ知ラザリシナリ

其他上帝ノ存在ニ付テハ隨分議論マチ／＼ナルガ併シ一モ眞實ニ之ヲ否定セシモノアラズ余輩ハ既ニ前章ニ於テ學ビシ如ク有名ナル哲學者ニシテ之ヲ否定セシモノアルヲ見ズ即チ現象ノ裏面ニ存シ之ヲ指揮スル最上勢力ノ絶無ヲ主張セシ名家ハ一モアラザルナリ彼ノ強勢ナル近世ノ唯物哲學スラ之ヲ排斥セルニアラテ只之レハ全く知ルベカラザルモノトナセルナリ

惟フニ此カル勢力ノ存在ヲ否定スルハ妄論ノ極點ナルベシ然レバ學者ノ哲學的神學問題ニ於テ答説スベキ第一着ノモノハ最早「上帝ハ存在スルヤ否ヤ」ニアラズシテ「吾人ハ上帝ヲ知り得ルカ」ノ問題ナリトス今ヤ余ハ此ノ問題ノ答説ヲ試ミントスルニ當テ先ツ諸君ノ注意ヲ願ヒ置カザルベカラザルモノアリ即チ一方ニアツテハ知識ニハ多クノ程度アリテ事實是レナリ夫レ前章ニ於テ既ニ諸君モ學ベシ如クカント及ヒ其他多クノ哲學者ニ從ヘバ吾人ノ保ツ知識ノ門口ハ唯覺性ノミニシテ而シテ覺性ハ只事物ノ本性ノ幾分ヲ反寫スルノミノナルヲ以テ吾人ノ事物ニ付テ有スル知識ハ自然常ニ不完全ナルベキナリ  
他ノ一方ニアツテハ余輩ノ上帝ノ存在ヲ論ズルハ其他凡テノ事物ノ存在ヲ論ズル如ク只經驗ヨリ推及スルモノナルコト先ツ自白シ置カザルベカラザル事ナリ

夫レ吾人ハ其ノ最も親シキ朋友ニ付テスラ完全ナル知識ヲ有スル能ハズ併シ其ノ知識ノ不完全ナルガ爲メニ人類トシテ吾人ガ彼等朋友ニ負フ處ノ義務ハ全く消滅スルモノニ非ザル如ク神ニ就テ吾人ノ有スル知識ハ決シテ完全ナル能ハザルモ其不完全ナル僅少ノ知識ハ尙ホ宗教ト稱スル神ト吾人トノ間ノ關係ヲ作ルニ十分ナルナリ然レド人或ハ曰ハシ此カル有様ニ於ケル宗教ハ決シテ永久不變ナル能ハズ常ニ變遷已マザルベシト是レ若シ宗教ノ根本的原理ニ付テ云ヘルモノトセバ固ヨリ不道理ナル言ナレ併シ宗教ノ容態ニ付テ云ヘルモノトセバ全く道理ナキノ言ニアラズ實ニ或ル度マデハ其ノ言ノ如シ

夫レ歲月移ルニ從ヒテ人智進步シ人智進步スルニ從テ人類社會ハ其ノ社會的ナリ宗教的ナリノ關係ニ於テ愈々善良ニ赴クモノナルコトハ決シテ疑フベキ事ニアラズサレバ基督教ノ歐洲ノ國民中ニ入ルヤ其ノ偉大ナル感化力ニヨリテ大ニ彼等ヲ高尚ナラシメシト雖モ尙ホ近頃マデ爭鬭ヲ事トスルガ如キ觀アル僧侶ノ跡ヲ絶タザリシナリ實ニ人性ハ大ニ腐敗セリ然レバ之レヲシテ完全ナル狀態ニ至ラシムルニハ更ニ過分ノ良智ト祇虔心トヲ要セザルベカラズ而シテ余ハ科學ハ將來上帝ノ本性ト勢力ニ於ケル吾人ノ知識ヲ刺衝進步セシムル大勢力ナルベシト云フナリ

然レド吾人ハ現今ノ狀態ニアリテスラ若シ書籍ヤ他人ノ思想ノ助ヲ借ラズシテ自カラ沈思冥想スレバ大ニ神ニ付テ知ル處アルヲ悟ルナリ但シ此カル高尚ナル問題ヲ解スルニ於テ徒ニ書籍ヲ多ク讀ミタレバトテ餘リ功アルモノニアラズ却テ思想ノ激流中ニ捲込レ遂ニ溺死スルニ至ルモノナリ然レバ斯カル問題ハ到底他人ノ解釋ヲ待テ而シテ後ニ頓悟スベキモノニ非ラズ自カラ奮進シテ自カラ解得セザルベカラズ記憶セヨ諸君ヨ彼ノ最大哲學者ト呼ベタル人トテ決シテ諸君ノ有セザ



ル特別ノ能力ヲ有スルコトヲ實ニ神ノ吾人ニ自カラ決スベキ能力ヲ賦與シ賜ヒシ問題ヲ敢テ自カラ決セズシテ徒ニ他人ノ解釋ヲ待ツ人々ハ完全ナル人間ト云フベカラズ人皆ナカントノ如キ哲學者タルウイソノ如キ博物學家トナル能ハザルモ而モ此ノ問題ニ於テハ一人トシテ其ノ人間ナル以上ハ自解スベキ能力ナキモノナシ」余輩ハ既ニ此ノ必要ナル問題ニ於テカントハ如何ナル意見ヲ保チシヤテ示シ彼ハ吾人ハ世界ノ第一原因及ビ世界ノ秩序等ヲ思辨スルモ其ニヨリテ無限實在ニ臻達スルコト能ハズト主張セルヲ見タリ併シ吾人ハ上帝存在ノ證ヲ得ルニハ敢テ太陽或ハ星辰ノ如キ遠キ世界ニ求ムルニ及バズ又第一原因ノ抽象的思辨ヲ要セズ實ニ上帝存在ノ證ハ太陽ヤ星ニアラズ睿智的創造者ノ證ハ自然ノ美妙ニアラズ然レド吾人自身ニアルナリ實ニ讚嘆スベキ構造ナル身軀ト更ニ讚嘆スベキ徳性及ビ知性トヲ稟有セル人間其ノ物ハ上帝存在ノ確證ナルナリ諸君自カラ己ガ手足ヲ研セヨ己ガ鼻目ヲ撿セヨ此處ニ諸君ハ必ズ非凡ノ精巧ヲ發見セラル、ナラン而シテ尙ホ諸君ハ之レヲ以テ只偶發ノ作用ニ歸セラルナランカ否ナ決シテ然ラザルベシ併シ若シ然リト確答スルモノアラシカ余ハ別段之レニ反對セザルモ人間ノ理性ハ決シテ此カル獨斷ヲ免ス能ハザルベシ聞ク經驗派ナルモノハ吾人ハ唯經驗ニヨリテ總テノ知識ヲ得ルト主唱スルモノナリト然リ而シテ吾輩ヲシテ人類ハ只盲勢力ノ成果ニ外ナラズトスルノ學者ニ從ハシメザルモ亦實ニ此ノ經驗ナリ經驗ハ吾人ニ教ヘテ秩序美妙ハ睿智ノ成果ナリ決シテ偶然ノ成果ニアラズト云ヘリ實ニ吾人ハ經驗ニヨリテ混沌タル無秩序ナルモノヲ秩然整齊スルモノハ只睿智ノミナルコトヲ知ル未ダ嘗テ睿智ノ作用ニ依ラズシテ偶然無秩序ノ整然タル秩序ヲ顯ハスニ至レルヲ知ラズ嗟經驗ノ教ユル處既ニ然リ然ラバ總テ他ノ場合ニ於テハ何ソデモカデモ經驗々々ト經驗デナクハ夜ガ明ケヌ

様ニ主唱シナガラ此ノ場合ニ於テノミ而モ人間ノ生活上最モ必要ナル場合ニ於テノミ經驗ニ從ハザルノ因縁ヲランヤ

然レド人又云ハン「成程手足其他種々ノ身軀機關ハ甚ダ讚嘆スベキ生産物ナリ然レド尙ホ吾人ハ其等ニ於テ只種々ノ化學的物質ノ異様ニ排列スルヲ見ルノミ」ト余ハ之レニ答テ先ツ左ノ如ク云ハン是レマデ化學的物質ハ如何ニ排列セラル、モ未ダ嘗テ生命或ハ智力ニ接近シタルモノヲ生ゼシアルコト聞カズ吾輩ハ決シテ只物質ノ一資質トシテ思想ヲ目撃セルコトナシ併シ心意及ビ思想ハ若シ等ノ只物質固有ノ一資質ニ外ナラザランカ其結果ニハ吾人ハ動物外數多ノモノニ於テモ亦其作用ノ表顯スルヲ見ルニ至ルベシ吾人ハ草木土石ノ能ク話シ能ク論シ能ク見能ク聞ヲ見ルニ至ルベシ是ニ於テハ余輩ハ全宇宙ハ一ツノ思想的有機物ナリテフ觀念ヲ心外ニ放逐スル能ハザルニ至ルナラント併シ余輩ハ其等ノ事實ヲアラザリシコト、今アラザルコト、又未來モアラザルベキコト信ズルナリ然レバ彼ノヘツケルナソノ主唱スル一元論即チ唯物論ノ一方面詳ク言ヘバ物質ニ思想力ヲ與ヘント企ツル學說ヲ信受スル能ハザルナリ

論シテ此處ニ至ラバ問者又云ハン「タトイ宇宙ノ結構ハ睿智の原因アリテ之レヲ營造セシモノナルコト示ストスルモ併シ又能ク宗教ノ主唱スルガ如キ人性的原因或ハ神ヲ指示スルモノナルヤ」ト余ハ又之レニ答ヘテ左ノ如ク云ハン其レ宗教ノ依テ以テ成立シ得ル眞基礎ナル神ノ觀念ハ自覺的及ビ人性的ナルモノナラザル可カラスカノ哲學者ノ主張スルカ如キ抽象的上帝ハ決シテ神人間ノ關係ヲ作ル基礎トナル能ハザルナリ而シテ吾人若シ自カラ自然及ビ吾人々類ニ於ケル睿智及ビ勢力ノ發顯ヲ熟觀セバ必スヤ吾人ノ依テ以テ盟約ヲ受テ得ル人性的上帝ヲ認識スルヲ誤ラザル可



聖徒パウロハ總テカハル事柄ニ就テ吾人ノ依テ以テ判斷シ得ル一法則真ニ哲學的ノ一法則ヲ羅馬第一章中ニ與ヘタリキ彼レ異教徒即チ神ヨリ直接ノ啓示ヲ受ケザリシ人々ニ付テ話セル際ニ曰ク  
 人の知る可き所の神の事情は人に顯明にして既に神これを人に顯し賜へばなりそれ人の見る  
 ことを得ざる神の永能を其神性は造られたる物によりて創世より以來さとり得て明かに見る  
 可し是故に人々推誘る可きやうなし (ローマ書第一章十九節二十節)

是即チ神ハ已レテ知ラレンカ爲ニ自カラ人間ノ中自然ノ中ニ充分顯現シ賜ヘルコトヲ論辨セルモイ  
 ナリ彼レ他章ニ於テ尙ホ明亮ニ之レテ示シテ曰ク「汝等ノ肉體ハ聖靈ノ宮殿ナリ」換言セハ即チ神  
 ハ人ニ知ラレンカ爲メニ充分人心ニ顯現シ賜フナリト茲ニ吾人ハ「見ル可カラザル物ハ見ルベキ  
 物ニ對比シテ知ラル」ト云フ論辨法ヲ發見スルナリ而シテ此ノ論辨法タル實ニ吾人ガ既ニ見ル可  
 カラザルニ至レル偉人偉國ヲ推考シ其ノ價值ヲ判斷スル唯一ノ方法ナルナリ如何ニシテ吾人ハ三  
 四千年前ノ埃及ハ今日ノ埃及ヨリ進歩シタリシト云ヒ得ルカ只古代ノ偉蹟ト今日ノ伏屋トヲ對比  
 スルニヨリテナリ如何ニシテ吾人ハソクアラリストイトル時代ノギリシヤホーマソフオクル  
 ス時代ノギリシヤハ世界無類ノギリシヤナリシコトヲ知ルヤ此クギリシヤヲ營譽ノ頂點ニ達セ  
 シメシ其等ノ人々ハ既ニ逝ツテ復ラス否ナ其ノ死灰スラ既ニ散シテ跡ナシ吾人ハ彼等ヲ見ル能ハ  
 ズ觸ル、能ハス然ルニ如何ニシテ之レヲ知ルヤ只見ルコトヲ得ル彼等ノ遺業ヲ見其レヨリ歸納推理  
 ニヨリテ推及シ又信仰力ニヨリテ此ク此クノ人々ハ幾千年前或ハ幾千里外ノ國ニ存在セシト信ス  
 ルナリ又吾人ハカントトハ大哲家ナリト云フ併シ彼ハ余輩ノ生ル、前既ニ死セリサレバ如何ニシテ

吾輩ハ彼ノ大哲學者ナルヲ知ルヤ勿論只見ルコトヲ得ル彼等ノ遺著ニヨリテナリ如何ニ吾人ハ電信  
 機ノ發明者蒸氣機ノ發明者ハ大人ナリシコトヲ知リ得ルヤ只彼ノ遺業ニヨリテナリ此クノ如ク吾人  
 ハ總テ見ル可キモノニヨリテ見ル可カラザル世上方般ノ事柄ヲ判斷スルナリ然リ而シテ余輩ハ今  
 此ノ方法ヲ撮テ以テ上帝ノ存在ヲ論セントス即チ吾人ハ簡單ニ吾人ノ外ニ視内ニ省ル總テ見ル  
 コトヲ得ル事柄ニヨリテ最上實在物即チ創造者ノ存在ヲ論セントスルナリ夫レ吾人ハ吾人ノ手足眼  
 口或ハ理性記憶良心等ヲ觀察シナガラ瞬間ダニ其等ヲ創生セシ睿智或ハ勢力アルヲ感ゼザルヲ得  
 ルヤ諸君ハ嘗テ記憶力ヲ考ヘ如何ニ其ハ驚ク可キモノナルヤヲ視ラシコアラシ其ハ實ニ觀念ノ  
 無盡藏ナルナリ諸君ハ必要ナル時常ニ如何ナル觀念ヲモ此處ニ求メ得ルナリ吾輩ハ光ノ速力ハ一  
 秒時ニ十二万マイルナルヲ聞キシ時大ニ驚キシガ省テ思想ノ速力ヲ考フレバ光ハ何ノ驚ク可キ者  
 ニ非ルヲ悟レリ實ニ思想ノ活動ニハ空間時間ノ制限ナシ其ハ能ク幾万年ノ往古ニ遡リ又能ク幾千  
 年ノ未來ニ下ル昇ルハ九天ノ外降レバ奈落ノ底何ノ苦モナシ

又諸君ハ嘗テ其ノ心理ニ彰然トシテ完全不變ナル法則ヲ抱有スル道德界ヲ反省セラレシコアラシ  
 カントトハ上帝存在ノ證ハ人間ノ理性ヨリ論及スル能ハズト云ヒシ人ナレト併シ道德界ノ嚴然タル  
 ヲ犯ス能ハス遂ニ上帝存在ノ證ヲシテ全ク茲ニ基カシメタリシ彼ハ神自由及ヒ靈魂不滅ノ三者ヲ  
 以テ義務ノ認識ニ關シテ最モ必順ナル事情トナシ且ツ之レニ加ヘテ曰ヘルニハ「タトヘ余ハ余ノ  
 思辨的理性ニヨリテ其等ノモノヲ排斥スル能ハザレト又之レニヨリテ證明スルコトモ能ハザルナ  
 リ」ト實ニ人間ノ有スル德義官ハ其ノ創造者ノ存在ヲ最モ明亮ニ證スルモノナリ  
 總テ夫等ノ可視的事物ヨリ吾人ハ左ノ如キ歸結ヲ導ク即チ吾人ノ創造者ハ自覺的道德的且ツ正義



ナル實在物ナリトサレト人或ハ云ハ「總テ其等ノ資質ハ人間のナルヲ以テ尙ホ未ダ無限ノ實在ヲ吾人ニ現ハスニ充分ナラズ」ト余ハ答ヘテ曰ハ「御説ノ如ク其等ノ資質ハ只人心ノ概念ニ過ギズ併シ其等ノ概念ハ決シテ一朝一夕ニ成リ立チタルモノニアラズ又只想像力ノ捏造セルモノニモアラズ實ニ長日月ノ經驗ノ後チ客觀的實跡ヨリ入り來リシモノナリ且ツ人智ハ歳ヲ經ルニ從ヒテ發達シ經驗ヲ積ムニ從ヒテ進歩スルモノナシハタトヒ吾人現今ノ智識ヲ以テハ無限ノ奧底ニ到達スル能ハザルモ尙ホ年々其ノ進歩スルニツレテ愈々宇宙ノ奇觀自然ノ齊一及ヒ創造者ノ權能智慧及ヒ預想ヲ大悟スルニ至ル可シ今前陳ノ總テノ諸論ヨリ余輩ハ左ノ歸結ニ達ス即チ神ハ實ニ法ナルノミナラズ又智慧ナリ轉旨セハ創造者ハ只睿智ナルノミナラズ又道德法ナリ詳シク言ヘハ筆ヲ總テノ道德ノ基本ナリト

實ニ其等ノ歸結ハ各人心ノ奧底ニ貯蓄セル不動產ナリサレバ其等ヲ損傷シ奪掠セントスルノ企圖ハ或ハ僅少ノ人々ニ贊成セラル、カモ知ラチ決シテ總テノ人々ニ甘受セラル、能ハサル可シ見ヨ宇宙間ニハ大智慧ノ彰然表現セルモノアルヲ而シテ此ノ大智慧ヲ以テ只盲勢力活動ノ結果ニ外ナラズト論スルハ獨斷ノ極ニシテ又長ク人心ヲ支配シ之ヲ満足セシムルニ足ラザルノ説ニアラスヤ然リ而シテ此ノ概念即チ神ハ睿智のナル且ツ道德的ナル實在物ナリト云フ概念ハ實ニ宗教ノ始原ナリ人ハ聖書ノ教ユルカ如クエデンノ國ヨリ其ノ歴史ヲ始メタルモノナルカ或ハダウルウイン説ノ主唱スルガ如ク下等動物ヨリ成來シタルモノナルカ其ノ孰レナルニ拘ハラズ吾人ノ此處ニ要スル處ノモノハ洵ニ万物ノ創造者ニ對スル吾人理性（茲ニハ汎キ意ニテ用ユ）ノ證明是ナリ而シテ此ノ證明即チ創造者ハ睿智のナル且ツ道德的ナル實在物ナリト云フ觀念ヨリ出立スレハ他ハ悉

ク漸々ニ發達スルモノナリ若シ夫レ創造者ハ睿智ニシテ正義ナル慈愛ナルモノナラシカ其等ノ性質必ズ所造物ヲ利スル處アラザル可カラズサレバ勿論吾人所造物モ又彼ニ對シテハ一定ノ義務ヲ負擔セザル可カラザルナリ

余輩ハ既ニ第二章ニ於テ論セシ如ク最モ極端ナル唯物的哲學者ト雖モ万物ヲ發現スル勢力アルヲ否ム能ハザルトナルガ實ニ之ヲ排斥スルハ妄論ノ極ナリ而シテ又宗教ノ依テ以テ其全構造ヲ維持スル眞基礎ハ實ニ此ノ意識ナリ但シ宗教ハ外界ヨリ人心ニ移シ植ヘラレタル外來ノ草木ニアラズ人心ニ於テ自然ニ發生セルモノナリ其ハ人心ト共ニ生長シ人心ト共ニ枯死スルモノナリ

今ヤ余輩ハ最終ノ問題即チ宗教ノ實利トハ如何ナルモノナルヤヲ研究スルノ位置ニ達セリ而シテ此ノ問題タル吾輩宗教家ニアツテハ餘リ必要ナラザルカ如シト雖モ併シ既ニ上文中心ニモ見ユル如クカントノ如ク宗教ヲ以テ只道德ノ一補助物ノ如ク論ゼルモノモアリ（是レ未タ宗教ノ實利ヲ十分認メザルノ説ニシテ宗教若シ此ノ如キモノナラシカ其ハ人生上餘リ必要ナラサルモノトナリ之ヲ取り去リモ敢テ人生ヲ損傷スル處ナカル可ク否ナ却テ人類ノ重荷ヲ釋クトナル可シ）又多ク近世ノ學者ノ如ク宗教ヲ以テ不用ナル重荷トナシ之ヲ取除ルト早クスレバ早キ丈ク多ク人類ノ福跡ヲ増加ス可シト主張スルモノモアリサレバ宗教ノ實利ハ如何ナルモノナルヤノ問題ハ決シテ輕々ニ觀過スベキモノニ非ス余輩苟モ宗教ヲ論セントセバ是非之レニ論及セザル可ラザルナリ」夫レ古代ノ歴史ヲ研究シ其レヨリ下リテ今日ニ至リ其間國民ノ進歩上宗教的信仰ハ如何ニ偉大ノ影響ヲ及ホセシヤヲ見レバ實ニ此カル問題即チ宗教ノ實利ニ付テノ問題ハ無用ノ言ヲ弄スルカ如キ感ヲ起ス可ク殊余輩ノ如キニ至リテハ太陽ノ實利ノ有無ニ付テ論ズルガ如キ思ヒアリサレト不



幸ニモ宗教ハ人類ノ進歩ニ害アリ宜シク除去スベシトイト熱心ニ論スル學者多キヲ以テ苟モ其ノ論宗教ニ涉ラハ如何ナル學者モ又此ノ問題ニ觸レザルヲ得ザルニ至レリ

吾人ハ宗教ノ實利ヲ論ズルニ當テハ常ニ宗教ノ本性ヲ記憶セザル可カラズ而シテ宗教ノ本性トハ前述セルガ如ク神人間ノ親子の交通ニシテ又神トハ其レニヨリテ吾人ハ總テ天地ノ萬物ヲ生育スル靈徳アル至正至義ナル且ツ慈愛ニ溢レタル自覺的實在のヲ了解スル處ノモノナリサレバ天帝若シ此ノ如キモノニシテ宗教ノ本性又此カル交通ニ於テ發顯スルモノナラフニハ其ヨリ又神人間ニ於テ數多ノ關係ノ生ズルハ明亮ナル事ナリ諸君モ既ニ知ラル、カ如ク二物間何カ一ツノ關係生ズルト共ニ夫レヨリ續々數多ノ關係ノ生來スルモノナルガ今如何ニ多クノ關係ハ神人間ニ生來スルナラフカ

諸テ此カル關係ハ先ツ第一ニ吾人々類ノ始源ノ高貴ナルヲ教ユルナリ即チ吾人々類ハ益々進歩シ得ル諸能力ヲ賦與セラレタル最高實在物ノ愛子ナルヲ教ユルナリ聖書ノ命令ニ曰ク(馬太傳第五章四十八節)是レ故ニ天ニ在ス爾曹ノ父ノ完全カ如ク爾曹モ完全スベシト實ニ人間の完全ハ應有的ノモノナリトノ教ハ愈々人類ヲシテ進歩セシムル一大刺激ニシテ且ツ人類ノ進歩ヲシテ人類ノ生活ヲシテ益有望ナラシムルモノナリ又此ノ觀念(人類ハ上帝ノ愛子ナリテフ觀念)ハ總テノ人類ヲシテ互ニ兄弟視スルニ至ラシムルモノナリ實ニ道德界ノ唯一ノ基礎ナルナリ若シ夫レ人間ハ或ル學派ノ主唱スルガ如ク唯物質分子ノ結合セルノミノモノナラフニハ余輩ハ道德法ニ從ハザル可カラザルノ所以義務ヲ盡サザル可カラザルノ理由ヲ解スル能ハザルナリ又余ハ石ヲ愛スル能ハス冷灰ノ一層ニ同情ヲ表スル能ハズ是レ何カ故カ抑モ人間若シ灰石ナラト同一ノ物ナラフ

カ何故ニ彼等ニ憐愍同情慈悲等ノ情感ヲ表セザルヤ何カ故ニ人ハ饑チイヤサシガ爲メニ雞ヲ殺シ暖氣ヲ得シガ爲メニ木ヲ切ルガ如ク己ガ情慾ヲ充タサンガ爲メニ人ヲ殺サシムルカ吾人木ヲ切リ雞ヲ屠レ何ノ感ナキニ同一ノ行爲ヲ人間ニ施ス時ハ煩悶堪ユル能ハザルハ何故カマクベス竝立セシガ爲メニダンカン王ヲ弑スルノ段ハセキスピヤガ人間罪惡ノ最大ナルモノヲ盡キシ處ナルガ併シ讀者或ハ觀客ヲシテ之レヲ以テ人間罪惡ノ最大ナルモノナリト感識セシムル所以ノモノハ何ゾ是レ實ニ人間ノ始原ハ高貴ナリ吾人々類ハ各行爲ニ於テ最上實在ニ對スル義務アルモノナリトノ觀念ナルナリ試ニ此觀念ヲ取去レ而シテ諸君ハ尙ホ能ク吾人ノ良心ヲ建設シ得ルヤ多クノ學者ハ實際之レヲ試ムレ即チ此觀念ニヨラズ輿論ニヨリテ良心ヲ組織セント勸メツ、アレモ余惟フニ輿論ハ決シテ如何ナル道德ノ標準ヲモ確定スル能ハザル可シト蓋シ輿論ハ一定不變ノモノニアラズノ常ニ變遷スルモノナレバ此カルモノ、上ニ永久不變ナル法則ヲ建設セシムルハ決シテ成就スル能ハザルノ企テナルベケレバナリ又是マテ輿論ナルモノハ永久不變ナル道德法ヲ基本トシ發達シタルモノニ決シテ純粹ナル唯物的基礎ノ上ニ發達シタル者ニアラザレバナリ夫レ仁愛深キ人々カ貧民救濟ヲ世人ニ訴フル時吾人ハ如何ナル感想ヲ起スヤ必ス吾人ノ同胞ナル人類ノ神前ニアリテハ吾人ト同等ナルモノガ今ヤ窮シテ同胞ノ隣ミテ乞ヘルナリト思フナルヘシ慈善厚キ人々カ震災救助ヲ世人ニ訴ヘル時吾人ハ決シテ或ル物質分子ノ一塊ガ他塊ト衝突シタルヨリ遂ニ破碎シタル故ニ之レヲ撥可シナソトハ思ハザルベシ其他癡狂院孤兒院等總テノ慈善的事ニ付テモ亦然ルベシ」

サレド人或ハ云ハシ此等ノ事業ハ人間天性ノ然ラシムル處ニシテ其ハ道德ノ影響ニヨリテ或ハ學問ノ影響ニヨリテ或ハ其他各國民カ最モ善ク自己ニ適スルト認ムル情狀ノ影響ニヨリテ發達スル



モノナラント勿論余輩ハ此カル説ニ從フ能ハザルナリ何トナレバ野蠻人ハ此カル高尚ナル性情ヲ  
現ハサス又ヨシ現ハシタルモノトスルモ甚ダ不完全ニシテ且ツ甚ダ僅少ナレバナリ  
又左ノ如ク云ヘル人々アリ即チ宗教的觀念ハ甚ダ善シ然レモ宗教其ノ物ハ虛妄ナリトシヨソ、ス  
チユワード、ミル曰ク

福音書中ニアルキリストノ或ル訓言ハ或ル道德上ノ善ヲシテ未曾有ノ高度迄發達セシメタル  
トハ余ノ敢テ疑ハザル處ナリ併シキリスト特有ノ訓言ト想像セラル、處ノモノモ其ノ多クハ  
マルカスアノトナイナスノ教ニ異ナラズサレバトアノトナイナス管アキリスト教ニ接シ其  
ノ感化ヲ受ケタルトアリト信ズルノ基礎ナシ併シ其ハ兎ニ角此恩惠ハ其ノ分量ノ多少ニ抱ハ  
ラス既ニ人類ノ受得タル處ノモノナリ人類ハ確ニ之ヲ保テリ其ハ人性ノ一財産トナレリサ  
レバ當今ニアリテハ如何ナル事ノ生ズルモ再ビ原始ノ蠻風ニ退歸スルニアラズシバ人類ハ決  
シテ之ヲ失ハザル可シ

レナン又甚ダ之レニ類スル意見ヲ保アリサレド余ヲ以テ見ルニ是レ只自欺ノミ蓋シ永久不變ナル  
可キ觀念ハ必ズ客觀的實態ヲ保タザル可カラズ若シ然ラザラソカ其ハ眞ニ放棄セラレ且ツ全ク  
其ノ効力ヲ失フニ至ル可ケレバナリ彼等ノ言若シ眞ナランガ余輩ハ又左ノ如キ言ヲモ吐露シ得ル  
ナリ即チ社會的正義並ニ公正ノ觀念ハ既ニ長ク確定セラレタルモノナレバ最早種々ノ重荷ヲ負ハ  
セ非常ノ費用ヲ要スル客觀的實在ノ政府ヲ設立スルノ必用ナシト嗚呼若シ政府ノ總テノ重荷ヲ費  
用ハ取去ラン國民ハ既定ノ觀念ニ從テ能ク平和ニ住息シ得ルノ器能ヲ有シ且ツ各個人ハ長ク互相  
ノ權利ヲ認識シ敢テ監督セズ又互ニ相犯スナカランカ是レ如何ニ幸福圓滿ナル社會ゾ

余輩既ニ陳述セルガ如ク宗教ハ實ニ一心カノ成果ニアラズシテ人性ノ總體ト結合スルモノナリ其  
ハ理性ト結合スルニ均シク又感情ト密接スルナリ道德ト密接スルニ均シク衛生法ニ結合スルナリ  
聖徒パウロコリントノ信徒ニ送レル文ニ曰ク(コリント前書六章十九節)ニ「爾曹ノ身ハ爾曹ガ神  
ヨリ受ケタル爾曹ノ裝ニアル聖靈ノ殿ニシテ爾曹ノ屬ニ非サルコトヲ知ザル乎」ト

又屬々陳述セルガ如ク宗教ハ文明ノ源泉ナリ其ハ人間ノ意識ノ生長ト共ニ生長スルモノナリ例ヘ  
ハ一國民ヲ擧テ之レヲ檢セヨ吾人ハ其ノ文明ハ其ノ宗教ニ因リテ判斷スルヨリ他ニ標準ナキヲ見  
ルナルベシ實ニ宗教ハ人間ニ於テ恰モ心情ノ身軀ニ於ケルガ如キ官能ヲ有セリ其ハ生命ノ源ナリ  
活動力ノ泉ナリ總テ高尚ナル動機ノ本源ナリ而シテ此等ノ動機ハ實ニ四海同胞ヲ觀念ヲ發達セ  
シムル者ナリ若シ總テノ宗教ノ基礎ニシテ壞滅サレシカ如何ニシテ四海同胞的ノ情好ハ發達スル  
ヲ得ンヤ

サレト又屢々人々ノ口ニスル言アリ曰ク宗教ハ其ノ始メヨリ屢々一箇人或ハ國民間ノ爭鬭ノ原因  
ナリシト是レ余ノ既ニ第一章ニ於テ陳シタルカ如ク此ハ敢テ無道理ナル言ニアラザレモ併シ此カ  
ル惡シキ感情ハ全ク宗教ノ精神ニ關係ナキモノナリ人若シ神惠ノ最モ尊重ス可キモノ即チ宗教ヲ  
以テ自己ノ卑賤汚穢ナル動機ヲ成就スルノ道具ニ使ヒマレバト宗教ハ決シテ其レガ爲メニ譴責  
排斥セラル可キモノニアラザルナリ



## 第四章

### 埃及

#### 緒言

古國トシテ其名顯著ナルモノ世ニ少ナカラズト雖モ埃及ホド吾人ノ注意ヲ控ク者ハナカル可シ矣夫レ此ノ國ハ希臘ヤ羅馬ガ未ダ文明ナル語ヲ知ラザル以前既ニ文明ノ最頂ニ昇リ還テ最低ニ沈ミシ國ニシテ其遺蹟ノ壯大ナルハ未ダ他國ニ類ヲ見ザル處ナリ彼ノパベルニテバノ宮殿モギリシヤローマノ遺蹟モ此ノ國ノ金字塔又ハ殿堂ニ比スレバ其光ヲ顯ハス能ハザルナリ而シテ斯偉大ナル總テノ建築ハ更ニ其國宗教上ノ儀式ト親密ナル關係ヲ有スルヲ以テ殊ニ余輩ノ注意ヲ厚クセザル可カラザルナリ、サレハ余ハ先ツ本章ニ於テハ其ノ人種、風俗、言語、文明及ビ遺蹟等ヲ概陳シ夫レヨリ次章ニ移リテ其ノ宗教ヲ詳説スベシ

#### 第一 埃及人ノ起源

夫レ國民ノ起源ヲ探究シテ其ノ如何ナル人種ニ屬スルヤヲ決定スルハ隨分困難ナルコトニシテ多クノ學者ノ其ノ説ヲ異ニスル處ナルガ、サレド恐クハイソプト人ノ起源ヲ論スルニ於テホド人種學者及ビ博言學者ノ意見ヲ異ニセルコトハナカル可シ是レ甚ダ奇怪ナル様ナレモ、サレド一轉シテ此ノ國地理上ノ位置ヲ觀察セバ其ノ敢テ怪ムニ足ラザルヲ知ラル、ナリ蓋シ埃及ハ亞細亞、歐羅巴ノ二大陸間ニ位シ遠キ昔ヨリ其等二大陸間ノ結合線ナリシヲ以テ數多ノ人種此處ナイル河畔ノ富國ニ移住シ隨テ種々ノ國語モ亦入込ムニ至リ更ニ歲月ヲ經ルニ及ンデハ其ノ避ク可カラザルノ



結果トシテ彼等相混和シ又其レニヨリテ各其ノ客貌ニ於テモ言語ニ於テモ古キ特色ヲ殆ント失ヒ  
遂ニ一種新奇ノ人種及ビ言語ヲ發生スルニ至リタルナリパーチ博士曰ク

最古ノ碑類ニ於テハ埃及人ハ全クハコーカサス風ニモ又黑人種風ニモアラズシテ兩者ノ混浴  
セルモノナルガ如キ容態ノ赤色或ハ淡黒色ナル人種ナリシガ如シテ而シテ最古ノ時代ニアツテ  
ハ歐洲人(コーカサス)ニ類似スルコト多ク帝國時代ノ中頃ニアリテハ黑人種即チ混合人種ノ  
子孫ナリシカ如シ更ニ帝國時代ノ盛大ナリシ時代ニ於テハ淺色ナル純粹ナルセミチツク人種  
ナルガ如シ

余輩ハ既ニ其ノ地理上ノ位置ヨリ論ゼシガ如クイソプトハ實ニ人種混合ノ最モ早く起ル可キ地ナ  
ルガ其ハ今日ニテモ尙多數ノ人種即チアメリカ人、アフリカ人、ヨーロッパ人其他地球上ニ住ス  
ル多クノ人民ノ集合地ナルナリ而シテ此カル集合ハ自然ニ朋友ノ好婚結及ビ其他新人種ヲ發生ス  
ルニ必要ナル多クノ事情ヲ生シ遂ニ何レノ人種ニモ屬シ難キ一種ノ新人種ヲ生ズルニ至ルモノナ  
リ例ヘハ未來ノアメリカ人ハ如何ナル人種ニ屬ス可キヤヲ考フルニ其ハ勿論アリアン人種ナル可  
キモ又イギリス人ニモフランス人ニモゼルマン人ニモアラザル一種ノアメリカ人ナル可キハ明亮  
ナルガ如シ而シテ今合衆國ハ總テノ歐羅巴人ノ來住スル處ナルガ如ク、タトヒ其内ニハイギリ  
ス人ゼルマン人等ハ最モ多シト雖モ——イソプトモ亦(國民ノ容貌及國語ヨリ明カナルガ如ク)總  
テ三大陸ノ人民ノ來住セシ處ナルヲ以テ多クノ材料ノ蒐集セラレタル後其ハ大ニ古代ノ日本人ニ  
類似スルヲ發見セラル、モ敢テ怪ムニ足ラザル可シ

昔シ歴史學ノ始祖ナルヘロドタスハ此國ニ漫遊セシ由ナルガ氏ハ多クノ面白キ事實ヲ傳ヘヨリキ

其中イソプト人ノ古キコトニ付テ左ノ話ヲ記セリ

サメチチユス王在位前ニアリテハイソプト人ハ自カラ世界中最モ古キ人種ナリト信シタリシ  
ガ此王位ニ就クニ及ンテ大ニ此事ノ眞實ナルヤ否ヤヲ研究シタリキ而シテ其ノ結果ハフリシヤ  
人ハイソプト人ヨリモ古キコト併シイソプト人ハフリシヤ人ノ外總テ他ノ人民ヨリ古キコト信  
スルニ至リキサメチチユス此ノ研究ニ從事スル間己レノ疑惑ヲ解クニ最良ノ方法トシテ左ノ  
事ヲ企テタリキ即チ生レ立チノ赤子二人ヲ卑賤ナル家族ヨリ捉來リ羊群中ニ養育センガ爲メ  
ニ之レヲ牧羊者ニ與ヘ且ツ左ノ數ヶ條ヲ命ジタリキ即チ彼等赤子ノ前ニアリテハ一言モ發ス  
可カラザルコト彼等ヲ隔離セル小屋ノ内ニ居ラシムルコト及ヒ一定ノ間歇時ヲ隔テ、彼等ヲ山羊  
ノ中ニ伴ヒ來ルコト——但シ牧羊者ハ他ノ事務ヲナサンガ爲メニ其處ニアラザル間彼等ハ山羊  
ノ乳汁ヲ飲ミ得ンガ爲メナリ——等是レナリ而シテサメチチユス王ノ此クナセシ目的ハ彼等  
ハ如何ナル語ヲ最初ニ明了ニ發スルヤヲ知ランガ爲メナリシ牧羊者ハ一々王ノ命令ニ從ヒタ  
リシガ二年後王自カラ來テ彼等ノ室戸ヲ開キシ時彼等ハ何カ懇願スル處アルガ如ク兩手ヲ擴  
ゲテ王ノ方ニ延バシ且ツ「ベコス」ナル語ヲ發シタリシ王ハ幾度モ此ノ語ノ唱ヘラル、ヲ聞キ  
テ抑モ如何ナル人民ガ此ノ語ヲ用ユルカヲ檢ベタリシニ此ハフリシヤ語ノ「パン」アツ語ナリ  
シトシ

ヘロドタス又曰ヘルニハ希臘人ハ彼等ノ養育ハ舌ヲ切去ラレタル婦人ニ托セラレタリト云ヘリ  
勿論余ハ此カル傳説ヲ信ズル能ハザレモ併シ尙ホ此レニヨリテ遠キ昔ニ於テハイソプト人ハ自  
カラ世界中最モ古キ人民ナリト思考セシコト知ラル、ナリ



ヘロドタスハイソプト人ヲ呼ンテ黒人ト云ヒシカド是レ大ニ誤レルヲニテ宛モローリソソ博士ノ曰ヘルガ如ク總テノインド土人ヲ呼ンテ黒人ト云フニ均シキナリ而シテ其實ハ淡紅色ナル人種ナリシナリ同博士尙ホ詳ク説テ曰ヘルニハ

碑類ノ示ス處ニヨレバ普通ノイソプト人ノ真正ノ容色ハ紅味ガ、リタル褐色ナリシ——今日ノコプト人トハ大差ナシ、サレド婦人ハ男子ノ如ク日光ニ曝サレサルヲ以テ總テノ人種ニ於ケルト均ク其色稍々淡カリシ毛髪ハ通例黒色ニシテ堅立シ何レノ局部ニ於テモ羊毛ノ如クハアラザリシ男子ハ通例鬚ヲ剃リテ全ク其ノ頭ヲ露ハシ女子ハ常ニ毛髪ヲ蓄ヘテ之レヲ長ク編ミ時ニ腰邊ニマデ達セシムルモノアリシ

面貌ハ全ク隣國人ナルシリア人ニ異ナラザレ且タ明カニ區別ス可キ特質ヲ有シタリシ其額ハ眞直ニシテ稍々低ク鼻ハ通例長ク且ツ眞直ナレ時々少ク曲レルモノモアリ唇ハ甚々厚クシテ上唇ハ短ク且ツ口ノアマリ大ナルモノハ稀ナリシ臆ハ程善ク圓クシテ恰好善シ併シ面貌中最モ著シク又其ノ特色トモ稱ス可キモノハ狹長ナル目ナリ其ハ支那人ニ似タレ併シ水平ニ横リテ斜ナラズ眉毛ハ長ク且ツ湖ケレハ判然分出シテ目ヲ蔽ヘリ而シテ色合ハ大抵黒カリシ即チ頭髮眉毛、睫及ヒ鬚ハ黒ク或ハ殆ンド黒クシテ又目モ黒味ガ、リタル褐色ナリシ

支那ニ於テハ大ニ今日ノアラビヤ人ニ類似シタリシ其ノ丈ク高ク四肢長クシテ且ツ屈シ易ク頭ハ兩肩ノ中央ニ直立シ舉動從容トシテ又態度威アリシ、サレド通例其體格瘦セ過ギニシテ且ツ手足割合ニ大ナリシ女子モ亦男子ノ如ク瘦セ且ツ其狀殆ンド同一ナリシ併シ小兒ハ十分

肥滿ナリシガ如シト雖モ其ノ碑類ニ畫カレシモノ甚々少ナシ

(シオトシ、ローリソソノ古代ノ埃及第一卷四十九并ニ五十頁)

是レ最モ古事ニ詳ク且ツ其弟ト共ニ古代王國ニ付テ最モ多ク發見セシローリソソ博士ノ言ナレバ吾人大ニ信用ス可ク又之レニヨリテ明カニ此ノ驚ク可キ人民ノ容態ヲ知り得ルナリ而シテ今只是等吾輩ノ蒐集シ能フ處ノミテ以テスルモ古代ノイソプト人ハ全ク多クノ人種ノ混合シタルモノナリシイ明カナリ詳ク言ハ、余輩ノ想像シ得ル處ニヨレハ此ノ國モトアフリカ土民ノ住息セシ處ナルガ後漸々アリアン及ヒセミチツク元素ノ侵入シ是レニ混合スルモノアリテ爲メニ本原宗族漸々衰微シ而シテセミチツク元素最モ強大トナリアリアンモンゴリアン等ノ元素ハ遂ニ之レガ爲メニ壓倒セラレシナラン

第二 言語

古代ノイソプト語ヲ論ズルハ亦イソプト人ノ起源ヲ論スルニ均シク困難ナル事ニシテ人種學者ガイソプトノ人種ニ付テ意見ヲ異ニスルガ如ク亦博言學者ハ此言語ニ付テ其説ヲ異ニセリサレド余ヲ以テ見ルニ兩者ノ間ニハ劃然タル差別アリテ其場合決シテ同一ナラザルナリ何チカ劃然タル差別ト云フ即チ言語ハ人種ヨリモ變化シ難キモノナル事是レナリ余輩ハ前節ニ於テアメリカニ於ケル現在並ニ未來ノ諸人種ニ付テ左ノ如ク云ヒタリキ即チ彼等ハ相混合シ又タトヒ各本原ノ人種及ヒ其主要ノ特性ヲ保存スルトハ雖モ孰レノ本原ノ人種ニモ屬セザル一種異ナリタル混合人種トナル可シト、サレド言語ノ場合ニ於テハ事情大ニ之レト異ナルナリ見ヨ英語ハ全ク總テノ他國語ヲ吸收シゼルマン人フランス人等モタトヒ一方ニアリテハ大ナル愛着心ヲ以テ各本國ノ風俗習慣ヲ



保存スルトハ雖也又勤メテ英語ヲ話シ英文ヲ讀ムト恰モ英國生レノモノ、如クナラントスルニアラズヤ、サレバイヨプトニ於テモ相貌ニ於テハ總テノ人種各其ノ特性ヲ印スト雖モ言語ニアリテハ本原ノモノ尙ホ其ノ主要ナル特有ノ状態ヲ保存セルナル可シ併シ何事ノ研究ニ限ラズ吾人ハ常ニ一定ノ豫想ヲ心理ニ蓄ヘ須臾モ之レヲ離レズシテ進マバ屢々大ナル誤謬ニ陥ルモノナレバ此ノ場合ニ於テモ亦此カル觀念ヲ常ニ離サズシテ進マバ大ナル誤リヲ萌スノ恐アリ恐クハ本原ノイヨプト語ハ既ニ斷滅シテ吾人ニ傳ハレルモノノ詳シク言ハバ寧ロ漸々碑類ノ研究ヨリ闡明セラレタルモノハ其ノ起源ニ於テ蕪新ナル其ノ構造ニ於テ混合的ナルモノナルヤモ圖ル可カラズ、サレバ余ハ今イヨプト語ノ沿革ノ一斑ヲ示スニ先ツテ諸君ノ注意ヲ促シ置ク可キトアリ即チ今日ノ研究ハ未ダ完全ナラザルコト及ビ數多ノイヨプト學熱心ノ學者ハ其意見ヲ異ニシ未ダ相一致シテ以テ一説ヲ確守スルニ至ラザルコト是レナリ

シヨロシ、ローリソン氏古代ノ埃及(第一卷五十七頁)中ニ曰ク

概言セバ埃及語ハ結附的一綴語ノ形ヲ保テルモノニシテ一方ニ於テハチユラニアノ語ニ類似シ他ノ一方ニ於テハセミチック語ニ類似ス其ノ文典ハ大ニセミチック風ナリ……及ビ其ノ他ノチユラニアノ風ナリ又チユラニアノ族ノ諸言語ニ於テハ普通ノ場合ナルガ如クサレド單語集ハ只少シノ場合ニ於テセミチック風ナレモ其ノ大體ハアカデアノモンゴリアン及ビ其ノ他ノチユラニアノ風ナリ又チユラニアノ族ノ諸言語ニ於テハ普通ノ場合ナルガ如ク此ノ國語ノ語根ノ最大部ハ一種特別ニシテ言語ノ他ノ形ト別立シ又無關係ナルナリ  
エム、レナフ氏又曰ク

イヨプト語トインド、ヨーロッパニアノ并ニセミチック語トノ間ノ重ナル差違ノ一ハ語根語幹及

ビ語ノ間ノ區別ノ全ク前者即チイヨプト語ニ存セリト云ヒ難キコトナリ……又一々別々ニイヨプト語ヲ撮リテ之ヲ檢セバ大抵品詞ノ區別アラズ其ノ表ハス觀念内ニ於テ只名詞働詞形容詞副詞等トナリ得ル也 (古代埃及ノ宗教五十九頁六十頁)

今イヨプト語ノ文典ニ付テ云ヘル此ノレナフ氏ノ言ハ實ニ増々イヨプト語ヲシテイインド、ヨーロッパニアノ及ビセミチック語族類ヨリ離レシメ愈々モンゴリアン及ヒ一綴語族ニ近接セシムルナリ而シテ日本語モ亦此ノ語族ニ屬スルモノナルガ今エム、レナフ氏ガ古代イヨプト語ノ語ニ付テ云ヘル事ハ十分日本語ノ言葉ニ適用サレ得ルナリ(言葉ハ日本語ニ於テ主要ノ部分ヲ占ムルモノニシテ其ノ遭遇スル總テノ境遇中ニ無變ニ屹立スルモノナリ)故ニ日本語ノ言葉ハ文典ノ大系統中イヨプト語ト同一ノ位置ヲ占ムルモノナリ

余ハ此レマデ「如何ニシテ近世ノ學者ハ古代ノ碑類上ニアル誌銘ヲ讀解シ得ヤ」ノ問題ニ付キテハ一言モ述ベザリシサレバ諸君ハ必ス問ハルハナラン即チ如何ニシテ第十九世紀ノ人間ハ既ニ死滅シタル又一人ノ一字ヲモ知ルモノアラザル言語ノ文字ヲ讀解シ得ルヤ」ト是レ自然ニ起ル可キ問題ナレバ余ハ以下數頁ヲ費シテ之レヲ解ク可シ隨分學問ト云ヘバ孰レノ學問モ種々ノ難難ヲ經タルモノナルガ其内古代ノイヨプト及ビアツシロ、パピロニアヨリ吾人ニ傳ハレル碑類上ノ古代文字ヲ解明セントスル學問ホド多クノ難難ヲ經タルモノハアラザル可シサレド此處ニハ只イヨプト語ニ於ケル場合ノミヲ論シテ余ハ後章ニ譲ル可シ  
余輩ハ前章ニ於テ既ニ實驗學ノ昂起及ビ進歩ハ如何ニ余輩ノ世紀ヲ感化セシヤヲ示シタリシガ此ノ中博言學ハ常ニ貴フ可キ位置ヲ占ムルナリ而シテ博言學ノ得タル最大ノ勝利ト云フハイイヨプト



及ヒアツシリアノ古語ヲ其ノ研究ニ加ヘ且ツ梵語及ヒベルシヤ語ヲアリアン語族ニ編入セシコニ  
 ヨリテ得タルモノナリローソリン氏ハバベル及ヒニテベノ古蹟ヲ發見シテ多クノ新材料ヲ提出  
 シ以テ歐洲ノ學者ヲ驅テ之レガ研究ニ奮進セシメ又梵語ノ方ニアリテハコレブルク并ニウイル  
 シンノ勞力ニヨリテ更ニ又ボップノ勞力ニヨリテ遂ニ昔シガシラス河畔ニアリテ韋陀ノ聖語ヲ話  
 セシ人民ハイリヤツド及ヒオデセイヲ書キシ人民ト同族ナルコトヲ確定スルニ至レリ  
 併シ埃及ニ於テハ此ノ爭鬪前者ヨリモ尙々古カリシ吾輩既ニ陳述セシガ如ク遠キ昔ヨリイヨプト  
 及ヒ歐洲間ノ關係ハ歐洲及ヒ印度間或ハ尙々歐洲ニ近接セル亞細亞ノ諸國間トノ關係ヨリモ更ニ  
 親密ナリシナリ而シテ此ノ關係ノ親密ナルハ實ニ多クノ歐洲學者ヲシテ他ノ諸國民ヨリモ尙ホ一層  
 注意ノイヨプトノ言語、宗教、風俗等ヲ研究スルニ至ラシメタリシ又イヨプトハ世界中最富ノ  
 國ナラザルモ又富國ノ一ナレバ古代ニアリテハアレキサンダー大王ヨリ近代ニアリテハナポレ  
 オン、ボナパルトニ至ルマテ歐洲ノ各冒險者ハ常ニ之レヲ一大獲物ト思ヒタリシ管ニ歐洲人ノミ  
 ナラズアツシロ、ペヒロニアノ諸王モ亦今日英國ノナスガ如ク其ヲ獲得保有スルコト焦慮シタリシサ  
 レハ此ク諸國人ノ注目スル所トナリシ國ハ當抵暗黒ノ中ニカクル、コト能ハザルハ勿論ニ其ノ財  
 寶ハ金銀鑛物及ヒ畜類更ニ又碑類ヲ問ハズ諸人ノ探求スル所トナリタリキ吾人ハ既ニ歴史學ノ  
 祖ナルヘロドタスハ基督降生前五百年代ニ此國ヲ抄獵シ其ノ位置住民及ヒ風俗等ノ一斑ヲ記シタ  
 ルコトヲ知レリ而シテ其ハ多クノ誤謬ヲ含メリト雖モ尙イヨプトニ關スル古今ノ書籍中最簡單ナル  
 明亮ナル且ツ完全ナルモノ、一ナリ惟フニアリアン人ハ概括スルコト并ニ組織スルコトニ付テハ一種  
 ノ天才ヲ稟有スルモノナラン今例テ日本ニトリテ之ヲ示サンニ現今ノ日本ニアリテ國語ノ法則ヲ

明亮ニ示スモノハ筆述語ニ於テハアストン氏ノ文典及ヒ口述語ニ於テハチャンパーレインノ文典  
 ノ著ハル、マデ一モアヲザリシニアラズヤ但シアアア人ハ多クノ點ニ於テ鋭敏ナリシト雖モ此等  
 二能力ニ於テハ明カニ歐人ノ次ニ位セリサレバイヨプトノ古語ニ付テモ亦長ク暗冥ノ中ヲ採リ概  
 括的ニ組織的ニ之レヲ説明セントセシハ歐洲ノ學者ナリキ、サレド象形文字ノ秘密藏ヲ開ク寶鑰ハ  
 長ク發見サル、能ハザリシナリブルケル及ヒヤブロンスキノ二氏ハ之ヲ研究セントテ古代ノ  
 キリシヤロトマノ著者ヨリ獲得ル丈クノモノヲ蒐集シタリシカド併シ其等ノ憑證ヨリシテハ一點  
 モ積極的ニ決定スル能ハザリキ、サレバ彼等ノ思ヘルニハ此ノ古語ハ全ク今日ニ於テハ既ニ煙滅  
 ニ歸シタル全ク了解スル能ハザルモノナレバ再ビ之レヲ獲ントスルノ企テハ只無益ニ時間ヲ費ス  
 ノミト此ノ二氏ニ次テ之レガ研究ニ從事セシモノヲ博學ナル猶太教徒アタナシニス、キルケル  
 トス、サレド氏ハ象形文字ノ觀念ヲ誤解シ各記號ヲ各語トシテ解シタリキ例ヘハ現今ニ於テヴ  
 エスパシアン或ハチタスノ如キローマノ皇帝ヲ示ストシテ説明セラレタル「諸記號之一簇」ヲ多ク  
 ノ奧妙ナル事物ヲ意味スルトシテ解シタルノ類ナリ」現世紀ノ始メニ於テモ尙此ノ語ハ總テ人  
 々ニ對シテ隱レタル寶ナリシガ併シ「ロセツク」石ノ發見セラレテヨリ大ニ明亮トナレリ此石ハ長  
 サ三フヒト許廣サ二フヒト半許ノ黒石版ニシテ紀元前九百九十三年トレミ、エビフアチスノ  
 即位ニ際シ其榮譽ヲ祝センガ爲メニ建立セラレタルモノナリ而シテ其ノ誌銘ハ三體ノ文字ニテ記  
 サル、ガ其ノ一(最下ノモノ)ハキリシヤ文字ナリ今其文意ニヨレバ此ハトレミ、エビフアチス  
 ノ榮譽ヲ祝スル爲メ僧徒ノ送リシ訓令ナルコトヲ知ラル、ナリ更ニキリシヤ文中ノ最終ノ行ニハ此  
 ノ訓令ハ聖文字俗文字及ヒキリシヤ文字ノ三體ヲ以テ刻マル可キコトヲ記セリ常今此石ハロンドン



ノ英國博物館ニ存スルガ不幸ニモハイエログリフイック文字ノ大部分ハ磨滅剝失シキリシヤ文字ノ分モ亦同一ノ運命ヲ蒙レリ

既ニ陳述セルガ如ク斯古文字ヲ讀解スルニ付テハ多クノ學者輩ハ或ハ誤解シ或ハ失敗セシト雖モ今ヤ此ノ問題ハ大抵氷釋セラル、ニ至リヌ然リ而シテ此ノ一大發見ノ大榮譽ヲ博シタルモノヲエム、シヤンポリオンナリトス仰々氏ノエム、ダシーニ送レル書面ハ千八百二十二年ニ出版サレタルガ此ノ書面ヨ於テ氏ハ埃及文字ハ三段ノ變化ヲ通過セシヲ示セリ(第一形ハハイエログリフイック第二形ハハイエラチツク第三形ハデモチツク)即チ第一ハハイエログリフイック文字ニシテ此ハ一定ノ觀念ヲ表ハス爲メニ種々ノ動形畫ト其他ノ記號トヲ結合セルモノナリ例ヘバ○ハ只太陽ヲ表ハスノミナラズ且タ一日ヲ表ハシ(八月ヲ表ハスノミナラズ且タ一月ヲ表ハシ蛇ノ畫ハ神ニ對シ鷄卵ノ畫ハ小兒ヲ鷹ノ畫ハ母ヲ鷄鳥ノ畫ハ息子ヲ意味シ又獅ノ前身ノ畫ハ事物ノ始メ其ノ後身ノ畫ハ終リヲ意味シ自殺スル人ノ畫ハ暴惡殘虐等ヲ意味スルノ類ナリ

此等ノハイエログリフイック文字ハ碑文ナソニハ甚ダ好適ノモノナレモ日常ノ仕用ニハ甚ダ不便ナルヲ以テ早代ヨリイシフト人ハ日用ノ爲メニ稍簡容ナル象形文字ヲ發明セリ今之レヲハイエラチツクト呼ブサレド「ロセタ」石ノ誌銘中ニハ此等二者ヨリモ更ニ異ナリタル文字アルヲ以テシヤンポリオン氏ハ大ニ苦心シテ之レガ研究ニ從事セシガ遂ニ左ノ事實ヲ發見セリ即チ此ノ第三形ハ第二形ノ腐敗シタルモノニシテ恰モ第二ノ第一形ヨリ敗腐シタルモノナルガ如シ(通例イシフト學者ハ此ノ第三形ノモノヲ呼ブデモチツク即チ俗用文字ト云ヘリ)サレバ近世埃及學ノ真正ナル發見者ハエム、シヤンポリオンナルヲ知ラル、ナリ

余ハ此處ニシヤンポリオン說ノ諸方ヨリ受ケタル攻撃ナソヲ詳細ニ陳述スル能ハザレモサレド一言云フ可クハ余ハ此カル場合ニ於テスラ國家的癡見ノ現ハル、ヲ悲ムト云ハソノミ即チ英國人ハ此ノ功ヲ自國人ナルヤン博士ニ歸セント爭ヒ他ノ國民ハ又各自國人ニ歸セント勉ムル事ナリ然レモ之レヲ佛國人ニ歸スルハ適當ノ事ナル可シ實ニ佛國ハ古代イシフトノ實ヲ闡明顯彰スルニ於テ世人ノ注意ヲ惹起シ且ツ自カラ努力セシトハ近世歐洲ノ諸國中第一ニ位ス可キモノナリ其ハ千七百九十八年(ボナパルトト埃及ヲ支配セシ時代)ニ於テスラ既ニ多クノ學者ニ命ジテ大ニ之レヲ探檢セシメタリ而シテ其成果ハ彼ノ有名ナル埃及記トナリテ世ニ顯レタリキ「エム、シヤンポリオン」研究ノ途ヲ開キシヨリ漸々之レニ從事スル學者増加シ又新ニ發見セラレタル石版、石碑高塔殿堂等ハ大ニ歐洲人ヲ刺激シ遂ニ今日ニ至リテハ學會ハ爲メニ建設セラレ資本ハ爲メニ募集セラレ更ニ雜誌スラ月々或ハ隔月ニ發兌セラレテ以テ此ノ驚ク可キ探檢ノ結果ヲ世人ニ報告スルニ至レリ今千八百五十年マデニ斯學ニ著名ナリシ學者ヲ擧クれば左ノ如シ獨國ニアリテハレブシニスブンセン及ヒブルグシユ英國ニアリテハパーチ及ヒヒンクス博士佛國ニアリテハインヌマエ、ル、デ、ル、ゼ等ノ諸氏ナリ

又千八百五十年後ニ於テハ斯學ニ熱心ナルモノ甚ダ大シ、サレド其ノ最モ著名ナルモノハ獨國ニアリテハウイドマンベルグマン及ヒライニツシユ魯國ニアリテハゴレンニセツプ佛國ニアリテハテウイナ、ゼ、デ、ル、ゼ、ハナツク、マスベロ、レフエブリス、ピイエチ、グレポー、ロビエ、ホイレー、及ヒロシユモンテ、ゼ子バニアリテハナウイレエ伊太利ニアリテハロツシゼデロ並ニシヤボンリイ英國ニアリテハカノン、コークルシントン講師及ヒレフナ等ノ諸氏ナリ



更ニ又斯古語ノ闡明セラルル其ハ著シクコプト語ニ類似スルコト否ナ後者ハ實ニ前者ノ苗裔ナルコト發見セラレタリキ而シテ此ノ事實ハ大ニ埃及ノ文學、風俗、習慣、宗教及ヒ歴史ヲ研究スルニ於テ意ハサルノ補助ヲ與ヘタリキ現今埃及ニアルコプト人ハ其數十五萬ホドニシテ最早コプト語ヲ話サズアラビア語ヲ仕用セリト雖モ十七世紀マデハ實ニ此ノ語ヲ仕用セシコトニシテ今日スラコプト基督教徒ノ聖文學ハ全ク此ノ語ヲ以テ記サル、ナリ

今ヤ余ハ此ノ點ニ於ケル記載ヲ終ラントスルニ當テ余ガ言ヨリモ更ニ大ナル信用ヲ受ク可キ學者ノ言ヲカリテ此語ノ現狀ヲ概陳セントスレナフ氏其ノ著、古代埃及ノ宗教中ニ曰ク

埃及語ハ漸々了解セラル、ニ至レリ而シテ其ノ直チニアラズシテ漸々ナルハ蓋シ國語ヲ闡明スルコトハ孰レノ場合ニ於テモ漸々其ヲ了解スルニ至ルモノニシテ決シテ直ニ明亮ナラシムルモノニアラザレバナリ實ニコプト語トイフコト語トノ密着ナル關係ハシヤムボリオンヲシテ幸ニモ多クノ言葉(オプト古語)ノ意義及ヒ各誌銘ノ大意ヲ發見スルニ至ラシメタリキサレド埃及古語ノ單語集ハ言語ノ早形ヲ表ハス上ニコプト語ヨリモ其範圍廣大ナルヲ以テ其ヲ組織スル言葉ノ大部分ハ歸納法ニヨリテ若々其意義ヲ闡明サレザル可ラズ而シテ此ク漸々ニ建設セラレタル單語集ノ眞實ナルコトハ其ヲ以テ各種ノ教書ヲ能ク讀ミ且ツ了解シ得ルヤヲ徵驗シタル上ニテ確完セラレタリキ

今茲ニ引用セル處ヨリ余輩ハ左ノ斷案ニ達スルナリ即チ現今ニアリテハ埃及ノ宗教ヲ研究セントスル人々ハ各種ノ教書即チ寧ロ埃及文學ノ全軀ヲ組織セルモノヲ讀ミ且ツ了解シ得可シト

第三 文學

古代國民ノ殘留セルモノハ大抵宗教的ノ性質ヲ帶ベルガ埃及人ニ於テハ殊更然ルナリ余輩ハ或ル度マデハ此ノ斷定ヨリキリシヤヲ除去スルヲ得併シ此國ニ於テモ亦最モ高尚ナル戯曲ハ或ル宗教的祭節中ニ産出セラレタルモノナルコトヲ忘ル可カラズ

ローリソソ博士曰ク

埃及文學ハ其ノ範圍ノ廣大ナルコト及ヒ其ノ内ニ包有スル題目ノ種々ナルコトニ於テハ甚ダ顯著ナリト雖モ併シキリシヤローマノ文學更ニ近世文明諸國ノ文學ニ比スレバ遙カニ下等ノ地位ニアルヤ疑ヲ容レズ而シテ其ノ一般ノ性質ハ先ツ尋常ナリト云ハザル可カラズ歴史ハ其ノ碑類上ニ記サレタルモノ或ハ書冊中ニ秘藏セラレタルヲ問ハズ雄健華美ナル文牒カ或ハ全ク無興味ナル文牒カノ孰レカニヨリテ記サレタリ又詩歌ニアリテハ較々前者ヨリ進歩シタル状態ナリ又文學ノ他部分即チ物語、旅行記書讀文等ノ卓越スル處ハ其甚單純ニシテ殆ンド赤子ノ如ク無邪氣ナルニアレモサレド或ル種ノ文章ニ至リテハ模糊復雜ナリト云ハザルヲ得ズ

(古代埃及第一卷六十八頁)

之レマデ隨分多クノ書籍誌銘等ハ種々ノ歐洲語殊ニ佛語英語獨語等ニ翻譯サレタレモ併シ其ノ廣大ナル文學ニ比シテ尙ホ槽中一滴水ノ評アリ

同博士又曰ク

文學ノ範圍ハ此ク廣大ニシテ驚嘆ス可キモノナリト雖モ其包有スル題目ノ種々ナルハ更ニ驚嘆ス可キモノナリ其ハ歴史——主トシテ碑類ニ記サン又時ニ「パピラス」ニ記サル——ノ外宗旨及ヒ神學上ノ著書類詩歌集旅行記書讀文軍備上ノ令及ヒ統計表、物語書演說集道德上并



ニ美辭學上ノ論說數學及ヒ醫學上ノ書天文地理星占卜筮上ノ書類金言集日記帳請取書計算書  
 文庫ノ目錄其他種々ノモノヲ包含セリ

既ニ記セルカ如ク此ノ文學中第一ノ位置ヲ占ムルモノハ宗教的文學ナルガ其ノ吾人ニ傳ハレル中  
 最モ緊要ナル書ハ葬禮典即チ當今死人書ト稱セラル、モノナリサレド此書ハ非常ニ宗教的性質ヲ  
 帶ブルモノナレハ後章ニ於テ其ノ他ノ宗教書類ト共ニ論ズ可シ

余ハ尙ホ此ノ文學ニ付テ詳論セント欲メンレ併シ紙數ニ限リアルコトナレハ遺憾ナガラ茲ニ只一詩  
 ヲ轉載シテ以テ斯文學ノ性質ノ一部分ヲ示ス可シ

## I.

The Great One has gone to his rest,  
 Ended his task and his rest;

Thus men are aye passing away,

And youths are aye taking their place.

As Ra rises up every morn,

And Tum every evening doth set,

So woman conceive and bring forth,

And men without ceasing beget.

Each soul in its turn draweth breath-

Each man born of woman sees Death.

## II.

Take thy pleasure to-day.

Father! Holy one! See,

Spices and fragrant oils,

Father, we bring to thee.

On thy sister's bosom and arms

Wreaths of lotus we place;

On thy sister, dear to thy heart;

Aye sitting before thy face.

Sound the song; let music be played;

And let cures behind thee be laid.

## III.

Take thy pleasure to-day.

Mind thee of joy and delight!

Soon lifes pilgrimage ends.

And we pass to Silence and night.

Patnarch, perfect and pure,

Neferhotep, blessed one! Thou

Didst finish thy course upon earth.

And art with the blessed ones now.

Men pass to the silent shore,

And their place doth know them no more.

## IV.

They are as they never had been,

Since the Sun went forth upon high;

They sit on the banks of the stream



That flowerh in stillness by.  
 Thy soul is among them; Thou  
 Dost drink of the sacred tide.  
 Having the wish of thy heart—  
 At peace ever since thou hast died.  
 Give bread to the man who is poor,  
 And thy name shall be blest evermore.

一

いと大なるものは、やすみに赴けり、彼れの御業と競争を終りて  
 此くて、あゝ、はむ人は、常に、其の地位を去り、青年は、常に、之れに代る。  
 ラー神は、あさなく昇り賜ひ、マム神は、ゆふつけて、沈み賜えは  
 おみなは、ふくらかにありて、子を産む、されば人間は断間なく生る。  
 各の靈魂は回りくゝて氣息を吸ひ、おみなより生れにしなければの人は死を見る

二

かれ歡樂をどれ、今日！父よ！聖きものよ！見よ  
 香ひ物どかくはしき油を父よ吾儕は汝に獻くなり  
 なれのいもと君の胸と腕の上に吾儕は花の冠を置けり  
 汝の心に親しき常に汝の御顔の前にいませる汝のいもと君に  
 歌をうたひ、樂を奏せよ、してなれの氣づかいを汝の後に置け、

三

汝の歡樂をどれ今日！喜と悦を思え！  
 速に此の世の旅は終り吾儕は「静」と「夜」にゆく  
 完全き潔よき、やからの主子ノアーホテプ幸あるものよ！  
 汝は汝の地の旅をおつて今は幸あるものと共にあり  
 諸人は静き濱に行き、して地は最早彼等を知らず

四

彼等は彼等のつゆ知らざりし身となれり大陽の高く昇にし此方  
 彼等はいと静に側を流るゝ川の堤にあり  
 汝の靈魂は彼等の内にあり汝は聖き潮を飲む  
 なれの心の願を持ちつゝ——なれの死にし此方静かに  
 貧き人に食を與へよ、されば汝の名はどこに惠まれん  
 吾人若し此ハキリスト降生前千六百年頃——キリシヤガ未ダ歴史上大活劇ヲ演シ初メザルノ時代  
 ニ作レタルモノナルヲ心ニ留メハ實ニ稀代ノ作ナリト云ハザル可カラズ否ナ若シ彼ノ今日新聞  
 雜誌等ニ現ハレタル只リズム的ニ詞句ヲ排列シタルノミニテ活氣ナク生命ナク而モ詩歌ト稱セラ  
 ル、モノニ比スレバ今日ヌラ此ノ詩人ハ十分吾人ノ尊敬ヲ受ク可キナリ併シ茲ニ注意セザル可カ  
 ラザル事ハ此ノ詩ノ如何程ハイシプト詩人ノ眞作ニシテ又如何程ハ第十九世紀ノ翻譯者ノ勁腕  
 ニカ、レルヤヲ注意スルコトナリ今日イシプト學ノ進歩セルヲハ實ニ驚嘆ニ外ナラズト確信併シ



尙ホ一層ノ進歩ニ達スルマデハ總テ翻譯者ノ出ス處ヲ悉ク眞實トシテ甘受ス可カラズ

第四 建築術

埃及建築ノ主要ナル形態ハ第一ニ宏大ナルヲ第二ニ宗教的性質ヲ帶ブルヲナリ  
第一此ノ點ニ付テハ余輩既ニ埃及ハ宏大ナル遺蹟ヲ留存スルニ於テ世界ニ冠タリト云ヘルガ如ク  
實ニ如何ナル大國ト雖モ此點ニ付テハ埃及ニ比スル能ハザルナリ惟フニ國運隆盛ヲ極メシ時代ニ  
アリテハ入神ノ筆モ尙ホ能ク其ノ建築ノ高壯ヲ描畫シ難ク勁眼モ更ニ其ノ宏大ノ百分一ヲモ窺フ  
ニ便ナカリシナラシ然レモ此等建築ノ代表者トシテ今日ニ留存セルモノハ既ニ幾千ノ歲月ヲ經ヘ  
其間或ハ風雷ニ打タレ或ハ雨露ニシタサレ或ハ日光ニ曝サレ或ハ無情ノ暴漢ニ破傷セラレタルモ  
ノナレバ固ヨリ本來ノ儘ノ形態風彩ヲ備フルモノニ非ズサレバ今日ヨリシテ古代埃及ノ建築術ヲ  
論セントスルモノハ今日見ル處ニヨリテ直ニ其優劣ヲ斷ス可カラズ

第二吾人ハ左ノ一事ヲ見テモ如何ニ埃及ノ建築ハ宗教的性質ヲ帶ブルヤヲ悟リ得ルナリ即チペ  
ロニアアッシリア及ビ其ノ他ノ東洋諸國ニ於テ掘出ダサレタル建築物ハ重ニ宮殿ナルニ埃及ニア  
リテハ今日ニ殘存セル一宮殿ダニアラザルニ是レナリ蓋シ是レ埃及ハ其ノ建築ニ於テモ亦文學ニ  
於ケルガ如ク全ク宗教的ナリシ證ナラシテ此ノ事實ハ能クヘロドタスノ「埃及人ハ總テ他ノ  
國民ニ超乘シテ過度ニ宗教的ナリ」ト云ヘルニ適合スルナリ

余輩若シ此ノ國ノ建築ニ付テ詳細ノ論述ニ亘タラハ大ニ紙數ヲ増加セザルヲ得ザレバ茲ニハ只近  
頃發見セラレタルモノ及ビ幾千年間イソプト人ノ精練及ビ巧妙ノ證明者トシテ屹立セルモノ、中  
其特ニ稀代ナルモノ、概容ノミニ止ム可シ古代埃及人ノ宗教的建築ヲ便利ノ爲メ大別セバ左ノ三

種トナル可シ

第一 殿堂

第二 金字塔

第三 碑類

第一虚靈不可視ナル上帝ヲ崇拜センガ爲メニ人類ノ建設シタル殿堂中最モ宏壯峻嚴ニシテ驚嘆ニ  
堪ヘザルモノハカルナクノ殿堂ナラン其ハ實ニ三十九萬六千方「フヒート」ノ大而積ヲ掩ヘル大  
殿堂ニシテ其入口ニハ高サ各百三十五「フヒート」ナル二大柱ニヨリテ護ラレタル一門アリ夫レヨ  
リ入りテ兩邊ニ駢列櫛比セル高大ナル大理石柱ヲ傍觀シツ、一大路ヲ通過セハ茲ニ廣廷ニ達スル  
ナリ此ハ殆ンド十萬平方「フヒート」ノ土地ヲ掩ヘリ更ニ之レヲ辭シテ高廊ヲ廻レハ此殿堂ノ榮光  
ナル大柱室ニ到ル大柱室ハ長三百三十「フヒート」廣百七十「フヒート」ニシテ三簇ニ分ル、百六十  
四本ノ石柱ニヨリテ支持セラル——其ノ十二本ハ大柱室ノ中央ニ并列シテ一通路ヲ作ル而シテ各  
柱ハ高各六十六「フヒート」周圍各三十三「フヒート」アリ又室ノ兩邊ニハ各六十一本宛アリテ其大  
サ前者ヨリ稍々小ナリ而シテ其等ハ各列七本ツ、ノ七列及各列六本ツ、ノ二列ニ整列シテ大室ノ  
偉大ナル翼面ヲ支持ス——其ノ内部ノ面積ハ殆ンド五万六千方「フヒート」ニシテ而シテ其全軀  
ノ面積ハ八萬八千方「フヒート」ナリ

其他堂院通路及ヒ廻廊等其數巨多ニシテ若シ之ヲ詳述センニハ即チ「人手ノ嘗テ生出シタル建築  
的宏壯ノ最モ貴重ナルモノ」ヲ詳ク叙述センニハ十分一大冊ヲ要スベシ一建築學者ノ言ニ曰ク  
吾人若シ此ハ只宏大ナル全軀ノ一部分ニ過ギザルヲ思惟セハ明ニ殿堂ノ全軀ハ世界中最モ壯



麗秀美ナル一建築物ナルヲ疑ハザルガ如ク又世界中最モ廣大ナルモノ、中ニ位スルヲ想  
 像シ得可シ更ニ記憶ス可キハ上陳ノ建築物ノ外其ニ連續シテ北ニモ東ニモ殊ニ南ニハ多ク  
 ノ殿堂及ヒ其等ヲ結合スル諸門縷々數マイルニ及ブ女而獅身ノ通路其ノ他廊壁大槽長堤等ア  
 ルヲナリ實ニ此カル諸建築ノ一簇ヲ保アル市府ハ古今未曾有ナル可シ假令聖ペテロ會堂ガ總  
 ア其ノ連柱及法王宮ヲ以テスルモ此ノセベスノ榮光ト其ヲ圍繞スル諸殿堂トニ比スレバ其ノ  
 宏大ヲ誇稱スル能ハザルナラン (フェルグソン氏建築學史第一卷百十九頁)

實ニカーナクノ殿堂ハ埃及中否ナ世界中ノ殿堂ニ冠タルモノナリト雖モ埃及ニアリテハ尙ホ他ニ  
 崇拜ノ爲メニ建立セラレタル偉大ノ殿堂多シ併シ現今ニアリテハ最古ノ者多クハ壞滅シ更ニ今日  
 ニ留存セルモノモ永續ノ目的ナキ有様ナレバ當抵其ノ總數ヲ精密ニ計算スル能ハザルナリ  
 埃及建築ノ他ノ奇觀ト稱ス可キモノハ金字塔ト稱セラル、建築物ナリ此ハ久シク天賦研究ノ爲メ  
 即チ天文臺トシテ建設セラレタルモノナリト想像セラレシガ併シ今日ニアリテハ國王ノ墳墓ニ外  
 ナラズト云フ説ハ一人ノ異議ヲ唱フルモノナシ其ノ建築ノ意匠ハ大抵同一ニシテ今ニ留存スルモ  
 ノ殆ンド六七十箇許アリサント其ノ最モ偉大ナルモノハ彼ノ「世界中最大最高ノ建築物ト呼バ  
 タル」ギーゼーノ大金字塔ナリトス傳ニ依レバ其ノモトノ直高ハ四百八十フヒトニシテ——四  
 百八十四フヒト或ハ四百八十五フヒトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリト  
 ナリト云フ其ノ牀積八千九百萬立方フヒト重量六百八十四萬八千トニシテ又其ノ基石ハ大  
 抵長三十フヒト高サ殆ンド五フヒトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリトナリト  
 ハ多クノ大室小室ニ分レ其ノ中ニハ往古ノ帝王ノ玉棺ヲ保有セルモノモアリフェルグソン氏曰ク

大金字塔ノ内部ヲ觀察シテ恐クハ其ノ結構上ニ發露スル古代ノ器械學の熟練ニ驚嘆セザルモ  
 ノハナカル可シ彼ノ五百里外ノ石礦ヨリ運搬セル無數ノ花崗石塊ヲ瓦羅斯ノ如クニ磨礱シテ  
 層々ニ疊列シ而シテ其ノ間分隙ヲ現ハサズ是レ實ニ驚嘆ス可キナリ併シ更ニ驚嘆ニ堪ヘザル  
 モノハ天窓ノ仕組ニ於テ其ノ他總テ結構ノ稀代ナル工夫ニ於テ發露セル非凡ナル知識ナリ以  
 後幾千年ヲ經過スト雖モ未ダ此ヨリ卓越シタル器械學の完全ヲ象表セル建築物アルヲ見ズ今  
 日吾人ハ只徒ニ此カル計畫ヲ創意シ且ツ之ヲ完成スルニ適スル經驗ヲ熟練ヲ獲ンニハ如何  
 ニ長年月ヲ經ザル可カラザルカヲ想フノミ

埃及ノ碑類中最モ著名ナルモノヲ高碑及ヒ女而獅身ノ像トス高碑ハ純粹ナル埃及ノ產出物ニシテ  
 未ダ他國ノ完全ニ之ヲ製出セルモノアルヲ見ズローマハ其文明ノ燦然タリシ時代ニ當テ十二ノ  
 高碑ヲ有スルヲ誇稱セシト雖モ其ノ實ハ悉ク埃及ヨリ遷移セルモノナリ然リ而シテ埃及ヲシテ  
 獨リ此カル建築物ヲ造營スルニ適セシメタル原因ハ主ニ左ノ二者ナリ

(一) 大理石ノ無盡藏ヲ有セルヲ  
 (二) 氣候

此ノ國ノ氣候甚ダ温和ニシテ能ク幾千年間此カル工作ヲ保存スルニ適セルヲハニユーヨーク或ハ  
 ロンドン或ハパリニ運送セラレタル高碑ノ漸々粉碎スルヲ見テモ明カナリ  
 抑々此ノ高碑ハ如何ナル目的ニテ建立セラレタルヤヲ推想スルニ蓋シ左ノ二箇ニアリシガ如シ即  
 チ

(一) 殿堂ノ文飾トシテ



(二) 記念碑トシテ——此ノ上ニ有益ナル事實ヲ刻セリ  
通例寺觀第宅ノ門前ニ建立セラレタルモノナリ

大女面獅身像即チ埃及人ノ「ハト」ト呼ブ處ノモノ是亦實ニ此ノ驚嘆ス可キ國民ノ稀代ナル產出物  
ナリ此ハ堅牢ナル巖石ノ自然ニ突昂セル處ヲ鑄成シ其ノ缺クタル處ハ他ノ石ヲ以テ補ヒ又々兩脚  
(獅ノ兩脚ニ鑄メル石)ヲ附加シテ作レル人首獅身ノ像ニシテ高百八十九フヒトアリ

余ハ此ノ國ノ建築術ニ付テモ亦詳細ニ一々論及スル能ハザレバ茲ニフエルグソン氏ノ説ヲ引用シ  
テ本節ヲ終ル可シ

總テ建築物ノ排列ノ宜シキニ適ヘルト其ノ華美ナルニ於テハ古代ノ埃及人ハ其等ノ國ニ於テ  
今日マデニアリシ總テモノヲ豫知セルカ如シ實ニ彼等ハ建築ノ緊要ナル形態ニ於テ近代人ニ  
勝レル丈ク又此等ノ點ニ於テモ卓越セルナリ

同氏又曰ク

如何ナル綺詞麗辭ヲ並ブルモ尙ホ能ク金字塔ノ大室ノ秀美ヲ顯揚シ難ク如何ナル拔群ノ技工  
モ尙ホ未ダ其ノ莊嚴ヲ識ラザル人々ヲシテ其目擊スルト同一ノ感想ヲ惹起セシムル摸造物  
ヲ建設スル能ハザル可シ上室ヨリ流下スル燦然タル光線ニ耀カサル、中央ノ大柱群、形光漸  
々ニ衰微シテ遂ニ煙滅シ終ルガ如キ感想アラシムル翼面ノ小柱列是等ハ實ニ無邊空間ノ觀念  
ヲ惹起スル様ニ排置セラレ且ツ輝サル、ナリ而シテ又同時ニ其ノ形態ノ奇麗宏大ナル彩色ノ  
絢爛壯麗ナル總テ相結合シテ以テ吾人ノ心裡ニ此ハ人類ノ建築ノ事業中最大最上乘ノモノナ  
ルガ併シ此カル建築ハ當抵此カル氣候及ヒ此カル特殊の態裁ニ於テセズンバ復ヒ建設セラレ

、コト能ハザルモノナリトノ思想ヲ肝銘スルナリ

第五 美術

美術ニ於テ古埃及人ノ最モ卓越セシモノハ建築的彫刻術ニシテ其ノ他ノモノニ至リテハ之レニ及  
ハザルヲ遠シ夫レ吾人ハ彼ノ古代ノ建築物ヲ裝飾セル圓柱ノ彫刻ニハ彼等ハ如何ニ無量ノ勞力ヲ  
要セシヤテ十分像想スル能ハザルナリサレバ今日ニ留存スル其ノ僅少ノ遺物スラ實ニ觀者ノ眼華  
ヲ眩耀セリ

エム、レナフ氏曰ク

タトヒ埃及人ハ畫ニ彩色ヲ施シタリシト雖畫法ニ至リテハ(近世用ユル意味ニテハ)全ク彼等  
ノ知ラザリシ處ナリ併シ諸色ノ配合法ハ彼等ノ能ク熟知セシ處ニシテ建築物ノ上ニ或ハ通例  
粧飾トシテ色彩スルニ於テハ吾人近世人ノ大ニ耻ツル處ナリ

(古代埃及ノ宗教六十八ページ)

又ウイルキンソン氏曰ク

彼等ハ粧飾ヲ目的トセハ原色ヲ主位ニ置カザル可カラザルコト及ヒ副色ハ分量ニ於テ又位置  
ニ於テ次位ニ就カザル可カラザルヲ知レリ、故ニ彼等ノ最モ普通ニ結合セルモノハ藍色赤  
色及ヒ綠色ナリシ  
埃及美術ノ此ノ部分ハ又大別シテ四種トナスヲ得即チ(一)全ク宗教的ナルモノ即チ禮拜及ヒ靈魂死  
後其ノ他ノ有様等ヲ畫ケルモノ(二)國事ニ關係スルモノ(三)戰場ノ景ヲ畫ケルモノ(四)一般國民ノ生活  
ノ有様ヲ畫ケルモノ是レナリ埃及人ハ甚ダ風流ノ人民ニシテ繪畫或ハ其他華美ナル物品ヲ以テ家

(註) (二) ハ即チ國王ノ行  
列官吏ノ就  
任式、葬式  
國王ノ前ニ  
人民ノ租稅  
ヲ奉ル有様  
等ヲ畫ケル  
モノナリ



屋王宮及ヒ殿堂等ヲ裝飾シタリシガ如シト雖也今日マテ吾人ハ未ダ此ノ點ニ於テ卓絶ナルモノ、傳ハリシモノアルヲ知ラズ即古埃及ハ他國ニ拮抗シ能ウホドノ妙畫ヲ殘留セズ併シ吾人ハ此ノ點ニ付テ左ノ事ヲ記憶セザル可カラズ即チ繪畫ハ建築物及ヒ彫刻品ノ如ク長ク保存サル、能ハザルモノナルコト是レナリ彼ノ墳墓ヨリ發見セラレタルバピラス或ハ麻布ノ殘片ニ跡ヲ留ムル色褪メタル繪畫ハ決シテ古埃及繪畫ノ代表者ト見做ス可カラザルナリ又更ニ記憶シ置カザル可カラザル事ハ歴史上一國民モ文明ノ總テノ方面ニ於テ卓越セルモノナキコト是レナリ例ヘハ古代希臘ハ大ニ此ノ理想(文明ノ總テノ方面ニ於テ卓越セルコト)ノ象表ニ近接セリト雖也尙ホ完全ト云フ可カラズ即チ文學哲學技術等ニ於テハ異常ノ天才ヲ灼然煥發シ稀代ノ事業ヲ峻工シテ遙カニ古代諸國民ノ上ニ尙然タリト雖也尙ホ道德的及ヒ宗教的ノ生活ニアリテハ甚ダ卑劣ナリシナリサレバ古埃及モタトヒ繪畫ニ於テハ劣等ナリト雖也決シテ古代文明國ノ一タルノ資格ヲ失ハズ實ニ其ノ建築ノ宏

大壯麗ナルニ於テハ万世ノ師表タルナリ彫刻物モ亦其ノ今日ニ留存セルモノハ大ニ磨滅毀損セリ併シ尙ホ主要ノ形態ハ敢テ窺ヒ難キニ非ズ今之レヲ彙類スルニ左ノ三種トナスヲ得即チ

- (一) 彫像、スタチユアリ
- (二) 凹彫レリーフ
- (三) 凸彫イン、マアグリオ

是レナリ

第一即チ彫像ノ古蹟中ニ發見セラレタルモノ甚ダ少シト雖也尙ホ通例學者ハ左ノ如キ意見ヲ保テ

肖像ハ大抵過度ニ丈高ク殊ニ四肢ハ不釣合ニ長シ耳ハ天然ノ位置ヲ違ヘ耳孔ハ鼻孔ト平行セズシテ却テ眼孔ト平行シ且ツ眉及ヒ險ノ伸長シテ殆ンド耳ニ達スルホドナルハ甚ダ奇怪ナル觀ヲ呈シ且ツ風致ヲ害ス其他毛髮ノ大束トナリテ重クニ顔面ノ兩邊ニ垂レ頸ヲ被ヒテ肩ニ掛リタルモノ、黑人種風ニ上向ケル廣キ低キ鼻、突起セル頬骨、大ナル口、厚クシテ半翻レル兩唇、等ハ更ニ趣味ヲ害スルコト大ナリ……………又奇怪ナル鬼神ノ像即チ或ハ野卑矮少ナルモノ或ハ屢々人畜ノ形跡ヲ混合セルモノ等ハ常ニ全ク美ノ眞味ヲ失キ且ツ彫像ニ於テハ最上ノモノトシテ希望セララル普通ノ品格ヲ汚セリ

(ローリソソ第一卷百二十五ページ)

惟フニ此ノ評ハ甚ダ苛酷ニ過グルナラン蓋シ今日吾人ノ美術ニ付テ抱ク概念ハ大ニ三四千年前ノ人民ノ抱キシモノヨリ異ナル可ケレバナリ又美術ノ理想ハ雅趣ノ異ナルニヨリテ大差アルモノナリ例ヘハ今日ノ歐洲人ノ雅趣ハ最始ヨリギリシヤ人ノ雅趣ニヨリテ發達セシモノナレバ其ノ規則モ全クギリシヤ風ナリサレハ若シ此ノ標準規則ニ背乖スルモノアラシカ彼等ハ直ニ罵詈訕弄シ又人若シ模範ヲ黑人風カ或ハモンゴリアン風ニ採リテコトカサス風ナラザランカ彼等ハ直ニ反對ノ批評ヲ試ムルガ如シ「諸余輩ハ既ニ埃及建築ノ特色ハ其宏大ナルコトナリト云ヘルガ彫刻ノ場合ニ於テモ亦然カ云ヒ得ルナリ彫刻ニ於テハ上述セル女而獅身像ノ外鬼神國王及ヒ其他ノ事物ノ肖像甚ダ多シト雖也其ノ最モ稀代ナル驚嘆ニ堪ヘザルモノハアメンフェイス王第三世(西洋紀元前千五百年頃ノ人)ノ二肖像ニシテ二個ノ岩石ヲ鑄成シテ作レル坐像ナリ其ハ現今鋪石ノ上ヨリ測量シ



テ高サ殆ソド六十「フヒート」ナレト始メハ其ノ被リシ高大ナル玉冠ヲ加ヘテ殆ソド七十「フヒート」ノ高サアリシト云フ而シテ此カル珍奇ノ肖像ヲ刻ミシ彫刻者ハ國王ト同名ノモノナリシ由ナルガ彼其ノ大事業ヲ峻工セシキ左ノ如ク云ヘリト傳フ

吾ハ國王ノ名ヲシテ萬世ニ不朽ナラシメタリ恐クハ吾レノ如キ事業ヲ峻功セシモノアラザル可シ即チ吾ハ國王ノ二大肖像ヲ刻メリ而シテ其ノ高大ナルヤ實ニ衆目ヲ驚カシ堂塔ヲ凌キテ美麗ナル礪石山ノ東西兩側ニ巍立セリ余ノ始メ之レテ此山ニ運送セントスルヤ大河ヲ遡ル爲メニ八大船ヲ要シタリキ而シテ此等ノ二大像ハ莊嚴ナル堂中ニアリ彼等ハ天長地久朽チザル可シ實ニ彼等ノセベスニ上陸シテ彼ノ美麗ナル礪石山ニ安置セラレタル時ハ和氣鶯々トシテ宇宙ニ充チ歡喜ハ欣然タル衆顔ニ溢レタリシ

音樂ハ埃及人ノ最モ好ム處ナリシハ古キ碑類ニ彫刻セラレタル樂器——「フルート」(笛ノ一種)「バイプ」(笛ノ一種)「絃琴六絃」(リール)「琴」(一種)「通鼓等」ノ類ナリ——ノ種々ナルニテ明カナリ又其ノ中ニハ全ク近世ニハ類ナキ吾人ノ名ク能ハザルモノモアリ併シ其中最モ流布セシモノハ大鼓——手ヲ以テ打ツモノモ又鼓桴ヲ以テ打ツモノモアリ——ナルガ如シ蓋シ埃及人ハ飲酒ヲ好ミ屢々公宴私宴ヲ張リシヲ以テ自然其等ノ器具ハ興ヲ助クル爲メニ必要ナリシナラシ又音樂ノ姉妹ナル舞蹈モ屢々彼等ノ設クシ處ニシテ舞蹈者ハ大抵女子——人性ノ一奇質——ナリシ其舞風ハ吾人今日ニ見ル處ノモノ、如クナレトモ左ノ差アリ即チ埃及ノ舞妓ハ彼等ノ繼續者タル今日ノ舞妓ヨリモ着服粧飾スルコト少ナキコト即チ今日ヨリモ單純ナルコト是レナリ

第六 風俗習慣

外國人ニシテ最モ早ク埃及ヲ涉獵シ且ツ其ノ見聞セシ處ヲ記述セシモノハ「ヘロドタスナル」コト余輩既ニ之レヲ知レリ而シテ今氏ノ埃及人ノ風俗習慣ニ付テ記述セル處ヲ見ルニ左ノ如シ

他國ニ無比ナル氣候ノ下、世界ノ諸河ヨリ異性ナル河ヲ有スル國此處ニ生タル埃及人ハ其ノ制度風俗ニ於テモ亦他國民ヨリ異ナリ夫レ此國ニ於テハ男子ハ通例物ヲ頭上ニ戴テ運ビ女子ハ之レヲ肩ニ擔フテ搬ブ又他國ニアリテハ男子ハ直立シ女子ハ腰ヲ屈スル場合ニハ此處ニハ其ノ正反對ニシテ女子ハ直立シ男子ハ腰ヲ屈ム又僧侶ノ職ハ全ク男子ニ限リ男神女神ニ係ラズ其レニ奉待スルモノハ悉ク比久ニシテ比久ハ一人モナシ又兩親ヲ養フノ義務ハ全ク女子ニアリテ男子ハ若シ之レヲ欲セザレバ之レヲサハルモ不可ナシ

僧侶ハ通例他國ニテハ頭髮ヲ長クスルモノナルニ此處ニテハ短ク之レヲ斷レリ又人ノ死去セル場合ニハ死者ニ最モ親密ナル關係ヲ有スルモノガ悲哀ノ證トシテ髮ヲ斷ルハ一般諸國ノ風俗ナルニ此ノ國ニテハ全ク之レニ反シテ他時ハ常ニ短ク斷ルモ此場相ニテハ長ク伸スナリ又他國ニアリテハ禽獸ヲ己ガ寢室ニ近クモノアラザルニ此處ニテハ彼等ハ人間ト同様ニ住居セリ又他國民ノ常食トスルモノハ小麥大麥ナルニ此ノ國ニアリテハ之レヲ食スルヲ卑ミ且ツ辱トシテ食料ニハ常ニ穀物ノ一種ナル「スペルト」(又「ツア」ト呼ブ)ヲ用ニ又他國(マセドニア人ヲ除ク)ニアリテハ男兒ハ生レノ儘ニ置ケル此ノ國民ハ彼等ニ割禮ヲ施ス又ギリシヤ人ハ計算書ヲ記スルキハ左ヨリ右ニ進メトモ埃及人ハ右ヨリ左ニ進ム併シ實際ハ此クナルニ係ラズ埃及人ハギリシヤ人ハ右ヨリ始メ己ハ常ニ右ニ進ムト言張レリ

教育アル埃及人ハ余ノ目撃セシ處ニ付テ云ハ他國人ヨリ一層注意シテ記憶力ノ發達ヲ謀レル



ガ如シ又彼等ハ一ヶ月中必ズ三日ハ引續キテ下痢劑及ヒ吐瀉劑ヲ用ユ是レ彼等ガ身軀ノ健康ニ注意セルヨリ來レルモノニシテ身軀ノ病氣ハ通例食物トシテ受ル種々ノ元素ヨリ起ルモノ也ト教ヘラルレバナリ更ニ余ハアフリカ人中健康ニ於テ体格ノ健壯ナルニ於テ埃及人ニ比適スルモノナシト肯言シ得又此ノ國ニハ葡萄樹ナクレモ人民ハ大麥ヨリ強酒ヲ釀造ス又人民ノ常食スル肉類ハ主ニ鹽魚等ノ魚類ナリ

彼等ハ汝々祖先傳來ノ習慣ヲ守ルルヲ勤メ而シテ甚ダ外國ノ風俗ヲ嫌忌ス

埃及人ハ長老ヲ尊敬スルヲ總テノギリシヤ人(マセドニア人ヲ除ク)ニ勝ル例ヘハ青年若シ長老ニ會ヘハ常ニ之レニ途ヲ譲リ又坐ヲ讓ルノ類ナリ而シテ此ノ禮式ハ全クギリシヤ(マセドニア人ヲ除ク)ニナシ又埃及人相遇フレハ互ニ一言モ發セズシテ手ノ膝ニ達スルホド軀ヲ屈シ以テ無量ノ尊敬ヲ表ス

上記載セル埃及人ノ狀態ハ其等ヲ目撃シ又稀代ノ叙事力及史學的緻密性ヲ有セシ人ニヨリテ記述セラレタルモノトシテ彼等ノ風俗ヲ研究スルニ於テ最モ必要ナルモノナリ蓋シ近世ノ學者ノ記述スル處ハヘロドタスマタスマス等ノ古人ノ遺著ヨリ引用シタル部分ノ外ハ自然臆想ニカ、レルモノナル可ク又碑類ノ研究ハ大ニ國民生活ノ實相ヲ明カニスレモ尙ホ多クノ場合ニ於テ完全ト云フ可カラズ否ナ屢々誤想ニ陥ラシムルモノナレバナリサレバトテ古人ノ遺著ハ悉ク信ズ可キモノナリト云フニ非ズ彼等ハ今日ノ科學的批評法ヲ知ラザリシナレバ多クノ誤謬ヲ免ル能ハザリシ例ヘハヘロドタスマスノ遺著ヲ見ヨ氏ハ大ニ注意シテ材料ヲ蒐集セシト雖モ尙ホ今日ヨリ見レバ實ニ一見明亮ナル撞着三尺ノ童子スラ指摘シ得ル誤謬ニ陥レルニ非ズヤ

古代ノ埃及人ハ大ニ遊戯娛樂ニ耽リシ人民ナリシ而シテ其ハ上等社會ノ古風ナリシト云フ左ノ事實ニ依リテモ明カナリ即チ上等社會ニ於テハ酒宴ノ終ルヤ否ヤ酒客一人死軀ノ像ヲ安置セル一小棺ヲ持出シ其ヲ採リテ酒客一同ノ前ヲ順々ニ繞リツ、(見賜ヘヤ此ノ像を一條の息絶えなば何れ此くなる汝等が身の上飲めや歌へやたのしく此世を過されよ)ト此ク歌フハ上等社會ノ古風ナリシト云フ「ピール」ハ一般人民ノ飲料ニ供セシ處ナルハ既ニヘロドタスマスノ記述中ニ見シ處ナルガ今又酒樓ハ如何ナル有様ナリシヤ墳墓及ヒ記念碑上ニアル誌銘ヨリ推測スルニ其ハ今日歐米諸國ニ於ルト同シク社會ノ風教上一大毒物ナリシガ如シ更ニアントフ王ノ時代ヨリ傳ハレル一詩ニ依リテ當代風俗ノ一斑ヲ示サンニ詩ニ曰ク

息のかよえる其内は、汝が欲望を満せかち、汝が首に油塗り、寶の石以て飾れる衣を、汝が手づから身軀に着けよ、汝が此の世にある内は、汝が欲望に従ひて、汝が心の指圖に任せ、汝の好める物以て汝が、心の欲望を満せかし、此世に住める諸人の、聲を得出さぬ時は亦、——永く睡れる諸人の、聲を得出さぬ時は亦——汝の上にも來る日やあらん、心のどかに飲め歌え、見よや此の世の寶財以て、あの世の旅道に立つものなきを。

又他ノ詩ニ曰ク

芳しき香と油を汝の鼻孔の前にあらしめよ歌と音樂を汝か面前にあらしめよあらしめる惡しきものを汝の背後にあらしめよ我等が静けき國に近づくの時此の世を放出するの日來るまで汝只快樂を記憶せよ

夫レ遊戯娛樂ニ耽ルコト此ノ如キ國民ニアリテハ其道徳腐敗シテ人情輕浮ニ流ル、ハ固ヨリ余ノ



喋々ヲ待タザル處ナリサレバ埃及人ノ修行條規ハ如何ニ高尚ナリシモ如何ニ嚴然タリシモ其ノ日常ノ行爲ニ至リテハ寧ロ普通標準ノ下ニアリシナリ換言セバ正義ノ觀念ニ於テハ埃及人ハ大ニ他ノ異教國民ニ卓越セリト雖モ其ノ實行ニ至リテハ一般ノ地平線下ニアリシナリ一層詳ク説カバ婦德地ヲ掃テ確固タル貞操ヲ保ツ淑女ハ雨夜ノ星ヨリ少ク更ニ男子ニ至リテハ公然不潔ノ處作テ行ヒナガラ却テ之ヲ誇ルノ觀アリシ今歴史或ハ小説ノ殘編ニヨリテ推想スルニ風俗淫靡卑猥ニシテ一般人民ノ品行大ニ治ラザリシト瞭々タリ

併シ身軀ニ於テハ彼等ハ大ニ奇麗ニシテ又其ノ奇麗ヲ汚サレシトテ恐レテ不潔ノ物質ニ接觸セザリシガ如シ但シ彼等ノ餘マリ他國民ト交際セザリシハ是ヲ以テノ故ナリト云フ

併シ碑類ニヨリテ判斷セバ社會的ニハ埃及人ハ大ニ正義ヲ尊ビタルガ如シエム、チアパス曰ク基督教の諸徳中一トシテ彼等ガ修行條規中ニアラザルモノナシ即チ祇虔、慈愛、寛大、言行ノ自制、廉潔、弱者ヲ保護スルヲ貧者ヲ惠ムヲ長者ヲ尊敬スルヲ財産ヲ重ンズルヲ等ハ總テ埃及人ノ修行條規中ニ敷ユル處ニシテ又常非ニ美麗ナル詞句ヲ以テ記サル

今二三ノ例ヲ擧ゲンニ善良ナル亡者ノ云フ處ナリトテ叙サル、左ノ言アリ  
一小兒モ吾ハ傷害セザリシ一寡婦モ吾ハ壓制セザリシ一牧人モ吾ハ虐待セザリシ吾レノ在位中ハ一人ノ食ヲ乞フモノ一人ノ饑ヲ叫ブモノアラザリシ而シテ荒歲來ル時ハ吾レ我ガ領地ノ總テノ田畑ヲ耕シ貧民ヲ養ヒ彼等ノ食ヲ備ヘタリシサレバ荒歲トテ一人ノ餓孚アラザリシ又吾ハ寡婦ヲシテ夫アルノ日ト同一ノ安心ト愉快トヲ保タシメタリシ又他ノ善良ナル亡者ニ付テ云ハル、ニハ

彼ハ未知己ト知己トノ差別ナク交ハリシ彼ハ弱キ者ノ父、母ナキ者ノ友ナリシ彼ハ惡漢ノ害ヲ恐レテ貧キモノヲ保護シタリシ彼ハ強者ノ爲メニ財ヲ奪ハシタルモノ、雪恨者ナリシ彼ハ寡婦ノ夫、孤獨ノ避難所ナリシ

此ノ點ニ關スル最モ必要ナル最モ高値ノモノハ當今チエリノ博物館ニ藏スル死人書ナルガ其内ニハ左ノ如ク死人ノ言ヲ叙セリ

吾ハ心ニ神ヲ置キ神意ヲ辨ズルニ敏キ自ツ惡心ナキ正シク誠實ナルモノナリシ今ヤ吾ハ不死ノ人々ガ住メル都ニ來レリ吾ハ多ク娑婆ヲ裨益セリ吾ハ一ツノ惡事モ行ハズ吾ハ一ツノ罪惡モ犯サズ吾ハ卑キモノモ惡キモノモ一モ苦メズザレド直實ヲ語ルヲ樂トセリ蓋シ娑婆ニアリテハ生活ノ最初ノ行爲ヨリ墓ニ終ルマテスラ此クナスハ榮譽ナルヲ熟知スレバナリ吾ハ義ヲ樂ミ法ニ順フモノナリ吾レハ苦メシ一人ノ卑シキモノナシ吾ハ諸神ヲ崇敬スルモノニ一ツノ害モ加ヘズ吾レノ父吾レノ母ノ心ニアリシ孰厚ト慈愛ハ吾レノ愛之レニ報エリ吾レ若年ノ時ヨリ彼等ニ對スル所爲ハ決シテ愛ヲ欲キタルモノニアラズ吾ハ大事ト雖モ咳カズ小事ヲナセシ如クニナセリ吾レハ己レヨリ勝ンタルモノヲ妬マズ害セズ吾レノ口ハ常ニ眞實ヲ告グル爲メニ開ケル爭論ヲ激スルタメニ開カズ吾ハ聞キシモノヲ正シク聞キシ通リニ他人ニ話セリ此カル調子ノ辭句ヲ記セル石板記念碑等實ニ夥シト雖モ惟フニ彼等悉クハ信ゼラル可キモノニアラザル可ク又タヨシ信ゼラル、ヲ得ルトスルモ右代埃及人ノ品行ノ實相ヲ反照セルモノト云フ能ハザル可シサレバトテ古埃及人中ニ一人ノ正人義人ナカリシト云フニ非ラズ國民全體ノ品行如何ニ係ラズ良心ノ命ニ從順セル行爲方正ナル徳人モ必有シナランサレド正義誠直ハ埃及人——古代



ノモノモ又近世ノモノモ——ノ主要ノ特性ナラズト云フコトハ當抵否定スル能ハザルモノ也夫千八百八十二年ニ於テ英國ノ此國ヲ占有スルマデハ租税ハ常ニ歐打蹴踢ノ中ニ徵集セラレタル次第ナリシ併此ノ時ヨリ英國ハ全ク此ル所置及其他多クノ苛酷ノ刑ヲ禁シ又國民ハ始メテ自カラ——忍クハ埃及ノ歴史中始メテノ出來事ナリシナラン——法廷ニ出テ公正ノ裁判ヲ仰グコトヲ得ルニ至リシサレバ古代埃及ノ諸法律ハ苛酷ナル壓制的ナル虛待的ナルモノナリシコトハ決シテ否定スルヲ得ズタトヒ多クノ近世ノ學者ガ自カラ古キ遺著ヲ翻譯ナソシテ反對ヲ主張スルト雖モ吾輩ハ之レニ一致スル能ハス惟フニ現今古代ノ世界ニ付テ十分ナル知識ヲ獲得セントスルニ當テ最大ノ邪魔物トナルハ蓋シ此レニ從事スル學者ガ古代國民ノ欠點ヲ隱クシ而モ其ノ功德ヲ擴大セント企ツルコトナル可シ

又知識上ニテハ埃及人ハ古代國民中一等ノ地位ヲ占メシナラント惟ハル併シギリシヤ人或ハローマ人ト比較サル、能ハズ否ナ實ニ吾人ハ此カル比較ヲナス可キ理由ナシ何トナレバ埃及ノ文明ハギリシヤ、ローマノ文明ノ出現シ初ムル前既ニ全ク消失シタルバナリサレド文明ノ第一段ニ於テ即チバヒロニア或ハベルシヤインドナゾニ比シテ第一等ノ地位ヲ占ムルナリ余輩ハ前節中埃及ノ文學ニ付テ其ノ大部分ハ消失シ而シテ其留存セル小部分ニハ卓絶ナル者ナシト云ヒタリシガサレバトテ埃及文學ハ秀美ナルモノニ非ズト斷ス可カラズ蓋シ一國ノ文學ヲ評センニハ先ツ其ノ全軀ヲ觀察シタル上ナラデハ完全ナル十分ナル能ハザレバナリ殊ニ今日日本或ハ歐洲諸國ノ文學ニ付テスラ完全ニ批評シ得ルモノ甚ダ少ナキナレバトヒ其ノ全軀ハ今日ニ留殘セリトスルモ此カル長日月ヲ經過セル、今日其言語スラ十分ニ知ル能ハザル、古國ノ文學ニ至リテハ尙サラ然ル可キ

ナリ

但シ古代埃及人ノ文學風俗習慣等ニ於ケル世界ノ評判如何ナルモ宏大ナル建築物ヲ建設スルノ天才ヲ發現セシコトニ付テハ埃及人ハ古今無比ノ國民ナリ



## 第五章 埃及ノ宗教

### (一) 埃及ノ宗教ニ於ケル神ノ觀念

前諸章ニ於テ余輩ハ既ニ神ハ世界又ハ或ル邦國(即チ神ニ付テ一種ノ宗教ヲ建設セル國民)ノ創造者支配者保護者及ヒ判決者ナリト云フ觀念ハ宗教全體ノ存在ノ中心ナリト云ヘリ今更ニ總テ古代ノ諸宗教ヲ檢スルニヘブリユ一教ノ外總テノ宗教ハ悉ク多神教ナリト雖モ尙ホ其中ノ或ルモノハ否ナ最モ多クハ否ナク總テノモノハ其ノ神統記ノ裏面ニ諸神スラチモ創造且ツ支配スル一種ノ神秘力ノ存在ヲ暗示セリ而シテ此ノ事實ノ最モ顯著ナルモノヲ埃及ノ宗教ナリトス有名ナル埃及學者ルーゼ氏曰ク

吾人ノ依テ以テ古代埃及人ガ神世界及人間ニ就テ如何ナル教ヲ垂レシカチ確知シ得ル所以ノ主要ナル言句ノ原意ニ就テハ未ダ一人ノ吟味セルモノアラズ但シ余ハ今神ト云ヘリ諸神ト云ハズ是レ最モ注意スベキノ點ナリ抑埃及教ノ第一特色トモ稱ス可キモノハ何ゾト問フニ蓋シ上帝唯一ノ觀念ノ最モ強ク發露セル是レナリ即チ神一、單一及唯一ノ觀念「彼ト共ニアル一物ナク——彼ハ唯一ノ實在物ナリ——真理ニ住メルモノナリ——汝ハ一ナリアラユル万物ハ汝ヨリ來ル——彼ハ宇宙ノ萬物ヲ造レリ而シテ自己ハ何ニヨリテモ造ラズ等ノ觀念ナリ豈ニ是レ最モ明亮ナル最モ單純ナル且ツ最モ嚴密ナル觀念ナラズヤ

然レモ若シ右引用セル處ヲ以テ眞トセンカ茲ニ一問題ノ起ルモノアリ何ゾ即チ若シ埃及人ハ上帝唯一ニ付テ斯ク高尙ナル觀念ヲ抱持セシナランニハ何故古代ノ諸國民間ニアツテハ最モ賤劣ナ



ル自然崇拜者動物崇拜者ト見做サレタルカト云フ問題はナリ彼ノ最モ卑陋ナル多神教ヲ信ゼシギ  
リシヤ人スラ彼等ノ信仰ヲ嗤笑セリヘロドタス曰ク

埃及人ノ迷信ハ多クノ場合ニ於テ明了ナルガ殊ニ左記ノ場合ニ於テ最モ顯著ナリ「抑モ此ノ  
國ハリピニアニ近接スレモ之ニ比スレバ土産ノ畜類甚ダ少ナシサレド其野生ナルト家畜ナルト  
ヲ問ハズ孰レモ神聖ナルモノトシテ崇奉セラル、ナリサレバ彼等ヲ厚ク畜養セザル可カラザ  
ルハ國法ノ嚴命スル處ニシテ之レガ爲メニ別ニ職ヲ設ケラシメテ多クノ男女之レニ任ゼラル而シ  
テ此ノ職ノ國人ニ尊敬セラレタルハ其ノ世襲ナリシヲ見テモ知ラル、ナリ」諸テ市府ノ住民  
ハ神ニ祈誓セントスル處アレバ皆ナ其等動物ノ前ニ於テナス是レ其等ノ動物ハ神ヲ代表スル  
モノト想像スレバナリ而シテ其ノ祈誓スルヤ先ツ己ガ子ノ髮ヲ截取シ——或ハ全ク截取スル  
コアリ或ハ只二分一又三分一ニ止ムルコアリ之レヲ一銀塊ト秤リテ銀塊ノ過秤スルヤ否ヤ  
直ニ銀塊ヲ取リテ聖殿ノ守護婦ニ捧ク是ニ於テ守護婦ハ聖獸ノ常食ナル魚肉ノ數片ヲ聖獸ニ  
供フ是レ其ノ常式ナリ」其等ノ動物ヲ故殺スルハ國法ノ最モ重ク刑スル處ニシテ事若シ偶然  
ニ出テタルハ或ハ僧侶ノ議定スル金額ヲ捧ケテ以テ死ヲ償フテ得レモ併シタトヒ偶然ニ出  
タルニモセヨ若シ被害動物ニシテ紅鶴カ或ハ雀鷹ナルハ當抵死ヲ免ルル方便ナシ

其他ヘロドタス氏ノ記スル處ニヨレバ埃及人ハ生物ト云ヘハ最モ下等ナルモノモ厚ク待遇シ其ノ  
死セルハ甚ダ叮嚀ニ葬レリト云フ殊ニ唯犬ノ類ニアリテハ葬ムルニ甚ダ貴價ノ棺ヲ以テシ又其  
他或ル種類ノモノニアツテハ遙ニ遠地ニ送リテ人民ノ聖市トセル地ニ葬レリト  
サレバ吾人ハ如何ニシテ近世諸大家ノ埃及ノ宗教ニ歸セル嚴密ナル唯一神教トカ、ル宗教トチ一

致セシムルヲ得ルヤ即チ吾人ハ如何ニシテ埃及人ノ崇拜スル數多ノ鬼神ト前ニ引用セル大家ル  
ゼ氏ノ言トヲ調和シ得ルヤ抑々埃及ニ於テハ上帝唯一ノ觀念ハ毫モ國民ノ宗教的生活ニ關係ナキ  
一詩人或一哲學者ノ淺薄ナル觀念ニアラザリシ也之レニ反シテ希臘ニ於テハプラトー氏ノ如キ其  
高弟アリストートル氏ノ如キ大哲學家ハ其ノ聰明靈敏ナル知能ニヨリテ高尚ナル上帝唯一ノ觀念  
ニ臻達セシト雖併シ此ノ高尚ナル觀念ハ全ク孤居ノ生活ヲ送リテ毫モ國民ノ宗教的生活ヲ感  
化スル處ナカリシ詳言セバアリストートル氏ガ

此ノ寂然不動ノ第一原因ハ必然ニ一實體ヲ成ザル可カラズ而シテ此ハ必然ニ存在スルモノナ  
レバ其ノ然ル以上ハ其ノ存在スル容態亦秀勝ナラザル可カラズ此ノ如クシテ第一原道ヲ成ス  
ナリ……………今吾輩ノ述ブル處ハ左ノ意ナリ

神ハ活物即チ本來、永久、ニ存在スル最モ卓越ナルモノナリ然ラバ神ニアリテハ其ノ生命及  
ヒ存在ハ連綿トシテ斷止スルノ期ナク恒久不滅ナルモノナリ何ントナレバ此ハ實ニ神ノ眞元  
精ヲ成スモノナレバナリ

ト云ヘル時モ又プラトーガ其ノ著「代議政體」中ニギリシヤ人ノ間ニ流布スル鬼神ノ觀念ヲ攻撃シ  
且ツ左ノ如ク

神ハ屢々形ヲ變スルモノト思フベカラズ吾人ノ想像スル如ク神ハ吾人ノ想像シ得ル中最モ完  
全ナル最モ純美ナルモノナレバ絶對ニ且ツ永久ニ其ノ形ヲ變ゼザルナリ

ト云ヘル時モ此等ノ觀念ハ毫モ國人ノ宗教的生活ヲ感化スルコトナク既ニ前述セシガ如ク只人心ノ  
獨個的概念トシテ留存スルノミニテ國教ハ之ガ爲メニ毫モ多神教及ヒ神人同形說ト混淆セル狀態



ヲ變ズルコトナカリシサレド埃及ニ於テハ其場合大ニ之ト異ナリ一神的ノ信仰ハ皆ニ僅少ノ學者或ハ上等社會ノ紳士連ノミノ抱持スル處ニアラズシテ國民全躰ノ信仰ノ眞體トシテ代々遺傳セシ處ノモノナリ吾人ハ實ニ其等ノ觀念ハ極ク最初ヨリ國教ノ眞礎ナリシモノニテキリシヤニ於ケルガ如ク後世ニ發達シタルモノニ非ザルヲ發見ス要スルニ埃及ニアリテハ其等觀念宗教ト密着シキリシヤニアリテハ哲學ト結合セシナリ「噫」獨一眞神ノ信仰、神ハ人間ノ創造者立法者ナリトノ信仰、神ハ人間ニ不滅ノ靈魂ヲ賦與セリトノ信仰是等ノ數者ハ實ニ不滅ノ金剛石ノ如ク古代ノ文明ガ經過セシ幾世紀間ニ推積シタル鬼神論的妄想ノ壘層中ニ彰然タル原本的觀念ナリ」トハル―ゼ氏ガ埃及ノ宗教ヲ論セル時眞面目ニ云ヒシ言ナル乎若シ然ランカ何故其ハ最モ卑劣ナル動物崇拜教ニ轉化セシヤ余ハ今此ノ二問題ニ答説センニ先ツ吾人ガ古代埃及ニ付テ有スル現今ノ知識ヨリスレハ其ノ宗教ハ最初上帝唯一ノ模糊タル觀念上ニ建設セラシガ後此ノ模糊タル觀念ハ殆ド泯滅シテ遂ニ動物崇拜教之ニ代リシガ如シ而シテ其ノ只埃及教ニ於テノミナラス其他殆ント總テノ古代ノ宗教ニ於テモ又然ルナリ即チ彼等モ均シク最初ハ此カル觀念上ニ建設セラシガ後チ此ノ觀念ハ漸々ニ消失シテ遂ニ彼等ハ多神教或ハ自然崇拜教ト爲リシモノナリ今マクス、ミュラー氏ガ「リツク」韋陀ニ於ケル上帝唯一ノ觀念ニ付テ論セル處ヲ繙閱スルニ曰ク

諸君若シ韋陀ノ宗教ハ多神教的ナリシカ果タ又一神教的ナリシカヲ問ハル、ナラバ余ハ此ノ問題ニ答フル能ハズ假令多クノ頌歌ハ舊約全書或ハ新約全書或ハコラン(マホメット教ノ聖書)ノ或ル句ノ如ク大膽ニ上帝ノ唯一ヲ斷言セリト雖モ尙ホ一神教ヲ語ノ普通ノ意義ニテハ決シテ此ノ宗教ヲ指ス能ハズ今上帝ノ唯一ヲ斷言セル頌歌ノ二三ヲ示サンニ一詩人ノ歌、

ルニハ、一の者を聖人はちいになけたり——或ハアグニ或ハヤママタリスヴァンとぞ呼びにける他ノ詩人ノ歌ヘルニハ「妙に歌える人どちは、おのが美し言葉にて、いどうらぐはしき、翼もて、ちいに、姿を裝はせて、獨の御神を、書きたり、」吾人ハ又「こがねの芽」ト呼バレタルヒランヤガルバ神ニ付テ詩人ノ左ノ如ク歌謡スルヲ見ル、「世の元始、ヒランヤガルバ、現れぬ、あらゆる物の、君として、天つ蒼穹、此の大地、彼れの造れるものなるぞ、ア、吾儕は何れの、御神をば、供物以て拜す可き、」詩人又歌ふ「ヒランヤガルバ、此の神は、あらゆる神の上にあらず、獨りの御神に、おはすなり、」ト是等ハ上帝唯一ノ斷言ニシテ舊約書中ノ如何ナル言モ此ニ勝レリトハ云ヒガタカル可シ(印度、百十四頁)

吾人ハ又セミチツク人種ニ於テモ此ノ觀念ヲ發見ス即チ總テ種々ナル多神教的崇拜ノ中ニ擘然タル上帝唯一ノ觀念ヲ發見スルナリナン氏ハセミチツク語ニ關スル其ノ大著ニ於テ此ノ觀念ハセミチツク人種ノ總テ卑陋ナル宗教ノ裏面ニ蟠居スルセミチツク人種主要ノ特色ナリト論サテ左ノ如ク云ヘリ曰ク

セミチツク人種ハ只インド、セルマン人種ノミノ知得セル處ノ奧妙ナル唯神論ヲ保タヌ又キリシヤ人ガ總テ新ラテン人種ニ傳ヘタル美ノ定則及ヒ完全ニ違セズ更ニセルチツク人種ノ特色ナル艶ハシキ激シ易キ感性ヲ有セザルナリ其ノ良心ハ透明ナレモ甚ダ狭ク其ハ能ク一ヲ包括シ得レモ複多ヲ認識スルコト能ハズ一言ニ云ハ、一神教ハ實ニセミチツク人種ノ總テノ性質ヲ説明スルナリ

然レ始メヨリ後世總テノ人種ニ採用セラル可キ上帝唯一ノ觀念ニ臻達シタルハ實ニセミチツク



余輩ハ今レナン氏ノ云ヘル處ヲ悉ク承諾スル能ハザレハ併シ是レ亦此ノ觀念ハ假令後世大ニ腐敗セシト雖モ總テ他人種ノ宗教ノ基底ナリシガ知ク又セミチツク人種ノ宗教ノ基底ナリシヲ示スモノナリサレバ他ノ點ニ於テハ免ニ角ク余ハ此點即チセミチツク人種ハ最モ始メニハ上帝唯一ノ明亮ナル觀念ヲ保シテテ點ニ於テハナン氏ノ説ニ賛成ヲ表スルナリ併シ此ノ觀念ヲ純粹ニ保存セシモノハ獨リヘブリユ一人ノミニシテ他ハ悉ク多神教自然崇拜教ニ墮落セリ殊ニ彼等ノ多神教ハアリオン或ハモンゴリア人種ノ多神教ヨリモ卑劣ナル腐敗セル且ツ人情ニ反セルモノナリ然ラバ今茲ニ此ノ觀念ハ如何ニシテイシブトニ於ケル動物崇拜教カレテア及ヒバビロニアニ於ケル天体崇拜教或ハインドキリシヤ并ニローマ等ニ於ケル種々ノ自然崇拜教ニ轉化セシヤテ説明スルハ是レ最モ必要ナル事ナリ而シテ余ハ先ツ本章ニ於テハ埃及ニ於ケル動物崇拜ノ發達ニ付テ論ス可シ

諸埃及ニ於テ動物崇拜教ノ發生シタル原因ハ二個アリ左ノ如シ

第一吾人ヲ圍繞スル生命の現象ヲ知覺スルニ依テ——夫レ生命ハ自然ノ活動中最モ神秘玄妙ナルモノニシテ化學者及ヒ生物學者ノ總テノ分析ヲ拒斥スルモノナレバ近世科學ハ多クノ空前絶後ノ大真理ヲ闡明シ宇宙ノ機微ヲ抉出顯彰セリト雖モ未タ此カル高大ナル徳果ヲ生出スル迄力ヲ説明スルニ至ラザルナリ近頃生物學ノ原理ト稱シテ續々世人ニ呈出セラル、モノモ實ハ單ニ生命ノ創生ニ關スル議論ノミニシテ其ノ過程ノ方法ヲ説明セルモノニアラザルナリ又從來ノ經驗ニ徴セバ死物質ヨリ生命ヲ引出セントスル努力ノ全ク徒勞ニ屬スルヤ明ナリ今

左ニ少々之レヲ陳述ス可シドラモンド講師曰ク「殆ンド二百年間科學界ハ生命ノ起源ニ關スル議論ノ古有スル處ナリシガ其間ニ大學派アリテ總テノ意見ヲ代表シタリキ一ハ物質ハ自然的ニ生命ヲ發生シ得ルモノナリト主張スルモノニシテ他ハ生命ハ只前在ノ生命ヨリ發進スルモノナリト論ズルモノナリ

然リ而シテ第一説即チ生命ハ自生的ニ物質ヨリ發生スルモノナリト主張スル説ハバステイヤン博士ニヨリテ再興セラレタリキ博士曰ク「觀察ト實驗ト二者ハ確然トシテ生物質ハ總テ簡單ナル化學的化合ヲ支配スル同一ノ法則ト傾向ニヨリテ斷ヘズ新ニ生成セラル、モノナルヲ證ス」ト博士ハ長ク苦心シテ種々ノ試驗ヲ行ヒタリシ今其ノ一ヲ示サンニ氏ハ或ル「ガラス」管ヲ取リテ内ニ或ル有機的物質ヲ入レ其ノ端ヲ密封シテ内ニアル生命ノ總テノ芽ノ死滅スルマデ沸騰セシメ然レ後數日ヲ經テ之レヲ驗スルニ尙内ニ生物ノ蠢動スルヲ見タリシ是ニ於テ氏ハ上述ノ斷定ニ違ヒシナリ而シテ氏ハ此ノ稀代ナル發見ヲ世ニ發表スルヤ歐米ニ於ケル多クノ生物學者ハ又各獨立ニ種々ノ試驗ヲ行ヒタリキ併シ皆テ左ノ斷定ニ違ヒタリキ即チ「生命ハ只生命ヨリ來ルヲ得」ト云フ事はレナリ而シテ博士ノ誤謬ハ多クノ學者ノ發見スル處ナリシガ殊ニハツクスレー及ヒチンダルノ兩講師ハ最モ與テ力アリシハツクスレー氏曰ク「ビ

をげぬしす」説即チ生命ハ只生命ヨリ來ルヲ説ハ現在全ク勝利ヲ得タリト夫レ生命ノ如キ此ク不可思議ナル現象ハ必ズ人類歴史ノ初代ヨリ衆人ノ注意ヲ傾クシ處ナル可シ而シテ一人ノ能ク之レヲ説明スルモノアラザルヲ以テ遂ニ上帝ノ自現ニ歸スルニ至リシナラン吾人ハ決シテ埃及人ハ真正ノ神トシテ牝牛ヤ猿ヲ崇拜セシニアラズツマリ或ル神性ノ



發現或ハ代理者ナリトシテ崇拜セシモノナルコト忘ルベカラズ惟フニ如何ニ人間ハ墮落シテ  
 レバトテ自カラ動物或ハ他ノ庶物ヨリ劣レルモノナリトナス程ニ至ハ甚ダ稀ナルベシ常ニ四  
 圍ヲ超乘シテ自己ノ勝優ナルヲ認メ物トシテ己ガ堪忍ト努力及ヒ才智ニヨラバ屈服セシムル  
 能ワザルモノナシトナスナリ或ルゾール人一英人ニ對テ「吾等ハ決シテ其等ノ石ヲ崇拜セズ  
 只彼等ニ依リテ最上ナル天父ヲ拜スルノミ」ト云ヒタリシト而シテ此ノ説明ハ決シテマリヤ  
 ノ聖像ヲ拜スルロマン、カソリック教ノ信者、佛前ニ燈明ヲ捧グル佛教徒ノ説明ニ劣ラザ  
 ルナリ然リ而シテ生命ハ地球上最モ完全ナル神ノ表現ニシテ實ニ上帝ノ睿智カ最上ノ影像  
 ヲ映セル玻璃鏡ナレバ原人ニアリテ神ノ發現トシテ崇拜セラル、ハ敢テ怪ムニ足ラザル可  
 シ

第二埃及ニ發達シタル動物崇拜ハ轉生說即チ吾人ノ死後靈魂ハ存在ノ長鏈ヲ通過シテ遂ニ其  
 ノ終局ノ完全ニ達スルマデ止マズテテテ發進シタルモノナリ即チ惡人ノ靈魂ハ犬狼及ヒ  
 其ノ他總テ汚穢ナル動物ヲ輪回シ善人ノ靈魂ハ清潔ナル動物ニ轉生スト云フハ埃及人ノ最  
 モ古キ信仰ナリシガ遂ニ夫レヨリ彼ノ最モ野鄙卑劣ナル動物崇拜教ノ發生スルニ至リシナリ  
 惟フニ靈魂輪廻說ヲ(轉生說)信ズル國民ニアリテハ大抵動物ハ非常ニ尊敬セラル、ガ如シ  
 (假令崇拜スルマデニハ至ラザルモ)是レ亦印度ニ於テモ然ルナリ

併シ埃及人ノ轉生說ハ其ノ意稍々印度人ノ轉生說ヨリ異ナルモノナリヘロドタス氏ノ傳フル處ニ  
 依レバ靈魂ハ總テノ獸類、魚類、虫類及ヒ鳥類ヲ輪轉セザル可カラズ而シテ此クナスニハ三千年ノ  
 長日月ヲ要スト惟フニ此カル見解ハ原人ニアリテハ遂ニ動物ヲシテ人類ト同等ナラシメ又恐怖尊

崇ノ目的物トナラシムルモノナル可シ而シテ靈魂ハ此ク總テノ動物ニ轉生スルト云フ信仰ヲ以テ  
 埃及ニ於テ動物崇拜教ノ發生シタル主因トナスハ今日埃及學ニ志アル人々ノ一人モ異議ヲ容レザ  
 ル處ナリ

余輩ハ上文ニ於テ埃及人ノ崇拜スル動物ハ或ル隱微ノ諸神ヲ表ハスモノナリト云ヒシガ今ヤ次  
 節ニ移リテ諸神ノ數及ヒ性質ヲ論ズ可シ

(二) 神之階級

埃及神學即チ鬼神ニ關スル埃及人ノ教義ハ分レテ二大部トナル其ノ一ハ一般人民ノ信ズル處ニシ  
 テ多數ノ神及ヒ種々ノ儀式禮拜ヨリ成立スルモノナリ其ノ二ハ僧侶ノ學ブ處ノモノニシテ所謂埃  
 及人ノ上帝唯一ノ教義ナルモノハ此神學中ニアリシト云フ併シ今日ニアリテハ余輩ハ此神學ヲ知  
 ル能ハズ但シ埃及ニ付テ現今吾人ノ有スル知識ハ何レノ方面ニ於テモ即チ文學ニ於テモ言語ニ於  
 テモ更ニ又碑類ニ於テモ甚ダ不完全ニシテ殊ニ余ハ直接ニ此等ノ點ニ就テ研究シタルモノニアラ  
 ザレバ茲ニハ只從來研究ノ結果ヨリ知ラレタルモノノ概畧ヲ示スニ止メ餘ハ將來此ノ問題ニ從事  
 スル學者連ニ讓ルベシ

諸テ流俗神學ニヨレバ埃及ノ諸神ハ三階級ニ分タル而シテ第一部類ニハ八神アリ第二部類ニハ十  
 二神第三部類ニハ七神アリ然レモ余輩ハエナフ氏ノ云ヘルガ如ク此ノ分類ニ付テハ十分確實ヲ保  
 證スル能ハズエナフ氏曰ク埃及ノ鬼神ハ盡ク數フ能ハズ蓋シ天上ニモ地下ニモ無數ノ鬼神アリ市  
 ニモ村ニモ又各氏神アリ年中毎月、月中毎日、日中毎時又各其守神アリ……………余ハ屢々經  
 句ノ中ニ表ハル、神ノ名簿ヲ作ラントセシカド併シ此カル企圖ノ成就シ難キヲ見テ遂ニ之レヲ捨



テタリ(古代埃及ノ宗教八十九ページ)

若シレナフ氏ノ云フ處ニシテ眞實ナテノカ諸君ノ然ラバ如何ニシテ余輩ハ今本節ニ企テシ如ク三部類ニ分類シ得ルヤト問ハル、ハ明亮ナル事ナリ然レド之レニ答フルハアマリ難事ニアラシト惟フ蓋シ既ニ陳述セルガ如ク上帝ニ關スル埃及人ノ觀念ハ高等下等ト分カルレバナリ即チ高等ノ觀念トハ僧侶及ヒ宗教ノ心得アルモノガ抱持スル處ノ觀念ニシテ始メハ一宗教的ナリシ併シ後漸々其ヨリ三部類ノ諸神ノ成來スルニ至ル之レヲ中等社會ノ信仰トス下等ノ觀念トハ一般人民ノ信仰スル處ニシテ動物崇拜的及ヒ多神崇拜的ナリシ但シ埃及人ハ「最上一躰、又ハ單一且ツ唯一ノ神」ノ外ニ性質ノ異ナリタル無數ノ鬼神ヲ崇拜シタリシトハ明カナリレナフ氏曰ク神テフ名稱ニ依リテ埃及人ノ了解スル處ノモノハ大ニ吾輩ノ了解スル處ニ異ナリテ身體ナキ情欲ナキモノニアラザリシト明カナリ換言セバ諸神ハ靈魂ト共ニ身體ヲ保テルモノト思ハル、ナリ即チ彼等ハ四肢五官ト共ニ又情欲ヲ有シ饑渴、老衰、疾病、恐怖、及ヒ悲痛等ノ苦ヲ受ク又發汗シ戰慄シ頭痛ヲ感シ齒ヲ鳴ラシ落涙シ鼻血ヲ出シ「毒ノ其肉ヲ占ムル」宛モナイル河ガイヨブトノ土地ヲ占ムル如ク」又爬虫蟲ニ刺サレ火ニ燒カレ或ハ苦痛ニ堪エズシテ號叫スル等一ニ人類ニ異ナラズ……………又總テノ神ハ人間ニ脅迫サル、ヲ恐レテ其ノ祈禱ヲ許容セリト云フ是レ余輩ニ於テハ愚者ハ兎ニ角ク少々ナリトモ智慧アルモノハ斯カル事ヲ信ワタリトハ全ク想像シ難キ處ナリ又此ノ宗教ハ多クノ狀態ニテ現ル、ガ其内只一笑ニ附シ去ルベキガ如キモノモアリ併シ吾人ノ仲間ナル人類ノ宗教ヲ嗤笑セントスルニ當テハ先ツ吾人ハ自カラ十分其ノ眞意ヲ捉獲セルヤチ問ハザルベカラズ

(古代埃及ノ宗教八十九ページヨリ九十ページ迄)

惟フニ若シ上等社會ノ信仰ト流俗ノ信仰トノ差別ヲ忘レザラシカ此等ノ困難即チ諸神ヲ彙類スルニ當テ起ル困難ノ多クハ消去スルナラン吾輩ハ又同一ノ現象ヲキリシヤ神學ニ於テ見ル即チ上等社會殊ニ哲學者連ハ常ニ通俗ノ信仰ヨリ別離シタル高尚ナル神ノ觀念ヲ保テルトナリ併シキリシヤニアリテハ哲學者連ハ常ニ甚ダ明亮ニ此ノ觀念ヲ保チシト雖モイッテニアリテハ上帝唯一ノ原始的觀念ハ漸々通俗ノ信仰ト混淆シテ遂ニ其ノ原意ヲ失フニ至レリ然レド今日吾輩ニアリテハ寧ロ其等二者即チ上等社會ノ信仰ト通俗ノ信仰トヲ區別シ易シ

諸第一部類ニハ余輩既ニ陳述セシガ如ク八神アリテ通例僧侶ノ神ノ稱アリ而シテ其等八神ノ名ハ最古ノ傳説ニ從ヘバフラーシユ(チフ)セオリススアイシスセツト及ヒオラスナレ併シ市府ノ異ナルニ從ヒテ又異ナルガ如シ例ヘバメンフイス府ニアリテハサーシユニテフヌーセブヌー(或ハヌツト)オシリスアイシス及ヒアトルト呼ビセベス府ニアリテハアムモンメツユトム(アトム)シユセブオシリスセツト及ヒボラスト呼ブ更ニ其他ノ市府ニアリテハアムモンヘムマントチフサチサーニリス及ヒラト變名セリ實ニ第一類ニアリテモ吾人ハ其神名スラ確定シ能ハヌ程混雜セリ

第二部類ノ十二神ニ至リテハ更ニ確カナラズ併シ二種ノ神名表アリテ其ノ大體ヲ知ルヲ得而シテ此ノ二種ノ神名表トハ一ハウイルキンソン氏ノ作クル處ニシテ他ハ獨國大家バロン、ブンセン氏ノ作ル處ナリ其ノ二表ハ左ノ如シ

ウイルキンソン表	ラー	セブ	チトフエ	カンス	アナンケ	トム	シエー	タフチー
ノース	サワカ	セチブ	メンツエ					



アンセン表 シヤンス ソート サム トム バスト オーソル シュー マーダチ メン  
ツユ サヴァク セブ チトベ

第三部類——中ニ七神ヲ合ム——ノ神名ハ未ダ十分決定サレズ又其等ヲ發見セント企ツルモノナ  
カリキ今總テ此等三部類ニ付アローリンソン博士ハ左ノ如ク評セリ曰ク

斯カル表ヲ作ルハ只想像上ノ働作ノミ而シテ既成ノ分類ヨリ左ノ斷案ヲ導クヲ得即チ埃及人  
ハ神ニ位ノ高下アルヲ認メ而シテ或ル神ニハ明カニ高等ノ地位ヲ與ヘ他ノ神ニハ下等(比較  
的)ノ地位ヲ與フト雖ニ併シ位ノ高下ヲ定メ或ハ一部類ヨリ他部類ヲ區別スルノ標準ヲ有セ  
ズ更ニ又各階級ノ有スル鬼神ノ數ハ確定セズ

然レド尙ホ博士自カラモ言シ如ク或ル諸神ハ高等ノ地位ヲ占ムモノナリ而シテアムモンヘムチ  
フサーラーオシリス及ビニースノ諸神ノ此種ニ屬スルヤ疑ヲ容レズ然レバ今余輩ハローリンソン  
博士ノ說ニ從ヒ右七神ノ特性ニ付テ少々陳述スベシ

アムモン神——セベス府ノ主神——トハ文字的ニ釋セバ「隱レタル神」ノ義ナリト云フ而シテ此ノ  
神ノ表セシ觀念ハ左ノ如クナリシ「人類ヨリ大ニ隔リタル、隱密ナル、不可測ナル、幽玄ナル、  
神秘ナル神、深奥ナル尊重ノ適當ナル目的物」即チ是レナリローリンソン博士之レニ附シテ曰ク  
實際上斯カル觀念ハ普通人民ノ悟性ニ對シテハ餘リ抽象的ナル餘リ高遠ナル餘リ形而上的ナルモ  
ノナリ然レバ最古ノ時代ニアリアハラ即チ太陽神ト結合セラレアムモン、ラー神トシテ崇拜セ  
ラレタリシ而シテアムモン、ラー神トハ如何ナル神ナルヤ檢スルニ此ノ神ハ至明ナル神、太陽  
ト高下ナキ神、光ト生命ノ源泉、万物ノ主宰及ビ支持者ナリキ

ラー神——ヘリヨボリス府ノ主神——トハ之レヲ釋セバ太陽神ノ意ニシテ後アムモン神ト結合セ  
シ神ナリ而シテ其言意即チラートハ太陽ノ義ナリト云フニ付テハ總テノ埃及學者中一人ノ異議ヲ  
狭ムモノナキガ如シ國人ハ此ノ神ヲ以テ馬上或ハ四輪車ニ乘シテ蒼苔ヲ渡ルモノトス夫レヨリ蒼  
苔ハ一面ノ水ナリト想像シナイル河ヲ以テ其地上ノ代表者ト爲ニ至レリ、又ラー神ハ万神ノ父ナ  
ルヌー神(蒼苔)ヨリ生レタル者ト云フ、其敬對者ハアパツア神ニシテラー神ノ武器ニ刺サレタル  
大蛇トシテ畫カル、者ナリ、而シテ兩者ノ間ノ爭鬪ハ善惡間ノ衝突ニアラズシテ物質的ナル光暗  
間ノ衝突ナリキ、「シユー神及ビテフチー神ハラー神ノ子ニシテシユーハ空氣テフチーハ濕氣ノ或  
ル形ナリ(恐クハ露ナラン)」

ラーナル語ハ之レヲ釋セバ太陽ノ義ナリト云フハ吾人ノ疑ヲ容レザル處ナルガ併シラー神ハ可視  
的ノ太陽ヨリ離在スル獨立ノ一神ナリト云フニ至リテモ亦疑念ヲ狭ム可キニアラサルナリ但シ原  
始ニラー神傳ヲ作リシモノハ純粹ニ物質的ノ太陽系ヲ目的物トセシナランガ併シ此ノラーハ後世  
ニ至リテ埃及萬神ノ一トナリシト云フハ從來發見セラレタル諸誌銘ヨリ明カナル處ナリ例ヘハラ  
ーニ捧ゲラレタル左ノ頌歌ノ如キハ明カニ物質的ノ太陽ヲ意味スルニ非ラザルヲ示セリ

万歳！ナム神として現れ賜ふ

諸神の作り主なる汝！

万歳！アメンチ國にある諸の聖靈の

靈として現れ賜ふ汝！



万歳！汝の美以て黄泉の國を照し賜ふ

諸神の内においていと勝れたる御神！

万歳！耀きの内に現れ

大空の路を歩み賜ふ汝！

万歳！いと高き天を宰りいと下き天を治め賜ふ

あらゆる神の内において大なる御神！

万歳！いと低き天の中に入り

あらゆる門を宰り賜ふ汝！

万歳！黄泉にありて言葉の秤り主なる

あらゆる神の中においていと勝れたる汝！

万歳！汝の徳によりていと低き天の作り主と

なり賜える汝！汝は汝の住家の中において

万歳！いとすぐれたる光榮ある御神！

なれの敵は皆な斬首臺の上に立てるよ！

万歳！なれば悪漢を誅し

おれは悪神アバブを滅せるよ！

右頌歌ニヨレバ埃及人ハラー神ヲ呼ブテ「万神ノ創造者」ト云ヒ又「最下天ノ創造者」ト呼ベリ併シ若シ之ノ只大陽ヲ指スノミナランカ彼等ハ斯カル辭ヲ以テ之ヲ呼ブ筈ナルベシ換言セバ埃及人

ハ日々ニ出沒スル大陽ニ斯カル神性ヲ歸セリトハ全ク吾人ノ想像シ能ハザル處ナリ然リ而シテ同  
一ノ現象ハ吾人又韋陀ノ宗教中ニ於テモ見ルナリ又ラー神ハ最モ埃及人ノ詩想ヲ感化セシ者ノ一  
ナリ即チラー神ハ暗ヲ壓伏セル光ノ勝利ノ記號ナリシガ斯カル觀念ハ埃及ノ如キ終日日光ノ煌々  
トシテ輝キ雲霧ノ其ヲ隱蔽スルト甚ダ稀ナル國ニアリテハ自想像力ニ新刺激ヲ與ヘシナリ而シテ  
其等ノ想像ハ漸々發達シテ遂ニインドニ於ケルガ如ク十分ナル神仙傳トナルニ至リ併シイマブ  
トニアリテハ此種ノ神ハ常ニ勝利者トシテ表ザル、ガインドニアリテハ敵對者ハ屢々強猛ナルト  
アリ是レ蓋シ二者ノ氣候的現象ノ差違ヨリ生ズル差違ナレバ今此ノ二國ノ氣候ハ大躰如何ナルヤ  
ヲ思考セバ此差違ハ敢テ怪ムニ足ラザルナリ夫レイマブトニアリテハ既ニ陳述セルガ如ク灼々々  
ル大陽ノ光彩雲霧ノ蔽フ處トナルト甚ダ稀ニシテ其ノ氣候温暖且ツ大ニ健康ニ適セリ而シテ最古  
ノ時代ヨリ國家繁榮ノ神ナリト想像セラレタルナイル河ハ常ニ國人ノ受クル恩惠ノ眞源ナリシテ  
以テ善神惡神間ノ争鬪ハ大陽ニ付テヨリモ寧ロナイル河ニ付テ表ハサレタリキ即チ河水漲溢シテ  
田野ヲ壞破シ或ハ河水小量ニシテ田野ヲ露スニ十分ナラザルヨリ饑饉忽ニ至ルキハ彼等ハ惡神國  
神即チナイル河ニ勝テリト想像セルナリ蓋シイマブトハ降雨ヨリモ更ニナイル河ニ依頼スルト大  
ナレバナリ然ルニ印度ニアリテハ其大部分ハ全ク地方ノ降雨ニ依頼スルヲ以テ雨量若僅少ナラン  
カ荒歲忽ニ至リ饑饉直ニ迫ル然レバ原始ノインド人ノ心理ニアリテハ旱魃ノ長ク續クキハ自然ニ  
國神惡魔力ト戰爭シテ遂ニ敗北セリトノ觀念ヲ生起スルニ至レリムイル博士曰ク其等想像ノ多ク  
ハ全ク自然的ニ發起セシモノナリ而シテ其ハ諸人ノ容易ク了解シ得ル處ニシテ殊ニ印度ニ住シ其  
四時ノ現象ヲ目撃セルモノニハ尙々容易ナルナリ



夫ノ蒸炒堪ヘ巨キ長日ノ夕暮人皆大雨ノ沛然トシテ燥土ヲ霑シ空氣ヲ清涼ナラシメテ渴望ス  
ルキニ當テ屢々團々タル濃雲ノ恩惠ヲ下サズシテ只天空ニ浮漂スルヲ見ルハ實ニ淹悶ニ堪ヘザル  
モノナリサレバ昔シ韋陀ノ頌歌ノ作ラレタル頃ニハ或ル惡靈アリテ焦土ノ渴望スル降雨ヲ妨遏ス  
ルナリト想像スルハ頌歌作者ノ保持セシ普通概念ト十分一致セル觀念ナリシ而シテ之レヨリ進  
マ此ノ猛惡ナル惡靈ト復之レテ壓倒スル慈悲深キ靈力トテ人間視スルニ至ルニハ只一步ノ距離ノ  
ミ又霹靂閃電等ノ現象ノ殆ンド必然ニ「反對ナル勢力間ノ爭鬪」ト云フ觀念ヲ惹起スルコトハ理屈張  
リタル今日スラ吾人之ヲ以テ諸元素間ノ戰爭ナリト云フニテモ明カナリ其他空中ノ諸現象ハ詩人  
的想像ノ働クニ十分巨多ナル材料ヲ供給セシナルベシ惟フニ崇拜者ハ廣漠ニ漂々タル白雲ノ群團  
時ニ或ハ奇形ヲ呈スルヲ見テ以テ神馬又ハ神車ナリト想像シ時ニ或ハ層々樓閣ヲナスヲ望テ以テ  
神ノ侵襲セントスル市府城堡ナリト想像セシナラン(ムイル)  
併シイヨブトニアリテハ空中斯カル現象ヲ見ルコトナクシテ其場合大ニ之レト異ナリ惟フニ之レニ  
類スルハ寧ロ日本ノ天空ナラザルカ然レト日本ノ鬼神誌及ヒ詩歌ハ天象ノ崇拜ニ關スルヨリ前者ハ  
寧ロ英雄崇拜ニ關シ後者ハ寧ロ自然崇拜ニ關セリ  
オシリス神——アピダス府ノ主神——ハラ一變體ナリ詳言セバ此ノ神ハ下界ノ光即西天ニ  
沈ミ翌朝東ニ再現スルマデノ間下界ニアル太陽ナリ併此ノ物質的觀念ハ後大ニ變化シテ通例永久  
不滅ナル下界ノ主宰「ハデス」或ハ「アメンチ」國ノ國主及ヒ裁判者トシテ崇拜セラル、ニ至レリ又  
此ノ神ハイシブト全國ノ人民ノ崇拜スル處ニシテ其肖像ハ手ニ鞭ヲ持テ頭ニ上部埃及ノ玉冠ヲ戴  
ク人像ナリシ而シテ此ノ神ハ又左ノ如ク呼バレタリ即チ「善ヲ顯ス者」「至善至真に充ちたる神」

「慈悲ノ靈」及ヒ「容姿美麗ニシテ其ヲ拜スル總テノモノニ愛慕セラル、神」等レナリ  
ナイス神又ハチツト神——セイス府ノ女神——ハケム神ノ妻ナリ此ノ神ハケム神ガ万有ノ產生的  
要素ヲ表ハス如ク胚胎的要素ヲ表セリ此ノ神ニモ又種々ノ稱アルガ大抵左ノ如シ「母神」「天ノ女  
王」「姉神」等ナリ其肖像ハ頭ニ下部埃及ノ玉冠ヲ戴キ左手ニ笏ヲ持チ——或ル時ハ其外ニ一弓ニ  
矢ヲ持ツ——右手ニハ生命ノ記號ヲ有セリ此ノ神ハイシブト全國ニ崇拜セラレズ其名スラ屢々誌  
銘中ニ記ザレザルコトアリ」太陽ノ崇拜ニ付テハラ一及ヒオシリスノ兩神ノ外ニ尙ホ左ノ六神アリ  
即チシユニアアンホラスアツムケブラ及ヒメンツニ是レナリ  
次ニ月ノ崇拜ハ日ノ崇拜ニ比スレバ甚ダ不必要ナル狀態ナリ然レド是レイヨブトニアリテハ自  
然然ルベキナリ何ントナレバ燦然タル光彩ヲ煥發シ威儀莊嚴ナル太陽ハ大ニ月球其他アラユル天  
體ニ卓越セルヲ以テ自カラ人々ノ注意ヲ引クコト他ノ諸天體ヨリモ強大ナルベケレバナリ而シテ此  
ハ日本ヲ除クバ世界万国到處皆ナ同シ併シ日本ニアリテハ大ニ之レニ反シテ崇拜ニ於テモ詩歌  
ニ於テモ月ハ大ニ日ヨリ勢力アリ而シテ是レ亦日本ニアリテハ氣候上多クノ原因ヨリシテ然ルベ  
キナリ第一余ノ經驗スル處ニヨレバ一般ニ晝間ハ夜間ヨリ陰ルコト多シ殊ニ冬月ニアリテハ晝ハ日  
光雲ニ蔽レテ朦朧タルニ夜ハ明月ノ皎々タルヲ見ル是レ其ノ原因ナラン若シ然ラザランカ何故三  
笠山ノ月ハ三笠山ノ日ヨリモ尊崇ノ目的物詩歌ノ材料トナルコト多キヤ又夏月ニアリテハ晝間ハ日  
光赫灼トシテ目ヲ觀察スベカラザルニ夜間ハ何處モ同ク清涼爽快ニシテ山頭ニ皎々タル明月  
ハ實ニ絶世ノ美觀ヲ呈スルナリ余一夕隣翁ノ今ヤ三笠山頭ヲ離レントスル明月ヲ拜スルヲ見テ  
「翁何ガ爲メニ明月ヲ拜スルヤ」ト問ヒシニ翁ハイト眞面目ニ對テ「實ニ美麗云フ能ハサレバナリ」



ト然レモ埃及ニアリテハ場合全ク之レニ反セリ即チ此處ニハ彼ノ土地ヲシテ肥沃ナラシメ又生産力ニ豊富ナラシムルモノハ大陽ニシテ月ニアラザルナリ而シテ古代ノ日本人ハ美妙ト愛國心ヲ尊崇セルニ均ク古代埃及人ハ生産力ヲ尊崇セルナリ

然レバ埃及ノ月神ニハ只コンス并ニソスノ二神アルノミ而シテコンス神ハ單ニ月神ナリシ併シソス神ハ月神及ビ女神ニシテ其ノ像ハ人身紅雀首ナリシ而シテ紅雀ト猿猴トハ此ノ神ニ奉獻セラル、處ノモノナリシ通例二神ハ各頭上ニ新月及ビ満月ノ記號トシテ弦月形様及ビ平圓形様ノモノヲ戴ケリ

其他自然ノ諸方面ヲ代表スル無數ノ神アリ其大跡ヲ舉グレバ左ノ如シアマムン神ノ妻ニシテ物質或ハ自然ヲ表スモトト神ヲフ神ノ妻ナルサチ神フサ神ノ妻ナルセクト神、窮首人身ノ神ナルサウアク神戰爭ノ女神ナルアヌーク神オシリス神ノ妹ナルチアタ神蒼穹ノ女神ナルナツト神真理ノ神ナルマー神等はレナリ更ニ又味覺ノ神、觸覺ノ神、沈黙ノ神、書法ノ神、醫藥ノ神、穢入ノ神等アリテ其神數ノ夥シキ實ニローリソソ博士ノ云ヘルガ如シ曰ク殆ソト總テノ自然ノ事實、殆ソト總テノ人間ノ行爲、彼等ハ各々人視セラレ夫レヨリ又男神或ハ女神トセラレシナルベシト

其等善神ノ外又惡神アリテ常ニ善神ニ逆ヒ人類ヲ害セント謀レリ其名ハ左ノ如シ  
オシリス神ノ大敵ナルセツト神或ハスタチ神先ノ神ナルベツス神、ベツスノ妻ナルタウリス神大蛇ニシテ惡靈ナルアバツア神等ニシテ彼等ハ常ニ恐ロシキ形ニ畫カレ或ハ彫像セラル而モ尙ホ衆人ノ崇拜スル處ニシテ其形ハ護身符トセラレ更ニ殿堂スラモ彼等ノ爲メニ建立セラレタリシ茲ニ吾人ハイソプト神學ノ大ニベルシヤノ古神學即チ善神アフラマズダ神ト惡神アングロメンヤス神

トノ間ニ於ケル不斷爭鬪ノ教義ニ類似スルヲ見ル併シ全体ヨリ論セバベルシヤ人ハ大ニ純一ヲ保存スルニ孜々タリシガ如シト雖モ埃及人ハ印度人ノ如ク雜多ニ赴クノ傾向アリキ而シテ此雜多ニ赴クノ傾向ハ實ニ埃及人ヲ宇宙ノ各事物ヲ尊崇シ且ツ鬼神ノ數ヲ非常ニ増加シ下等動物否ナ下等ナル植物スラチモ尊拜スルニ至ラシメタルナリ然リ而シテ動物界ニ對スル此ノ觀念ハ大ニ善良ナル結果ヲ生シト雖モ又更ニ大ナル惡弊ヲモ生ゼシトハ疑フベカラザル事實ナリ即一方ニアリテハ大ニ動物ニ對スル同情ヲ厚カラシメタリシ而其ニヨリテ可憐ノ動物多クノ不幸ヲ免レタルハ實ニ嘉スベキ事ナリ「埃及人ノ各動物ヲ尊崇スルハ屢々基督信徒ノ其等可憐ノ同胞ニ對シテ無感情無頓着ナルヨリ真理ニ近シシザス」汝曹の父の許なくは其の一羽を地に墮つることあらじト云ヒ賜シキハ明カニ總テ其等ノ動物モ亦造物主ノ保護ノ下ニアルベキモノナルヲ示シ賜ヘルナリ然レバ其等ノ動物ヲ拜スルハ固ヨリ愚ナル業ナリト雖モ併シ之ヲ蔑視スルニ至リテハ更ニ愚ナル業ナリ」

(フリマン、クラークノ言)

併シ他ノ一方ニアリテハ大ニ人間ノ高德中ニ卑屈ノ分子ヲ注入シタリシ余既ニ述ベタル如ク埃及人ハ眞實其等ノ動物其物ヲ崇拜シタルニアラズ貴尊ナル諸神ノ化身ナリト思考セシテ以テ崇拜シタルナレモ尙ホ此ノ觀念ハ漸々人民ノ大ナル重荷トナリシナリ即チ人民ハ大費用ヲ要シテ動物ヲ飼養保護シ或ハオシリス神ノ化身ナリトカ或ハラー神ノ化身ナリトカ唱ヘテ之ヲ尊崇シ聖視シ其ノ死セルキハ壯大ナル葬式ヲ行ヒ又全國擧テ之レガ爲メニ哀ヲ表スルト云フ次第トナリシナリ

(三) 儀式

概論セバ埃及教ハ莊嚴華美ナル儀式ヲ以テ其ノ外面ヲ裝ヘリト云フ可シ既ニ上章ニ陳述セシガ如



ク宏大ナル殿堂及其他ノ建築物ハ多ク宗教的崇拜ノ爲メニ建立セラレタルモノニテ實ニ宗教ニ關スルモノハ何レノ方面ニ於テモ壯麗華美ヲ極メタルナリ又各家ニハ禮拜堂アリテ其ノ四壁ハ全ク虛名ノ鬼神及ヒ英雄ノ傳記ヲ以テ被ハンタリ祭日ハ無數ニシテ殆ソド年中一日モアマサズ殿堂ニアリテハ僧徒常ニ祈禱讀經禮拜及其他ノ宗教上ノ職務ヲナセリ

僧徒ハ總テノ階級ヨリ撰出サンシモノニシテ屢々兄ハ僧侶ニシテ弟ハ軍人ナル事アリシ又彼等ハ將官測量師建築師裁判官或ハ縣知事或ハ其ノ他如何ナル職ニテモ任意ノモノニ就クテ得タリシ僧徒ニハ又多クノ階級アリテ大跡左ノ如ク分ル管長預言者聽訟官書記官禮服取締聖獸看守門番及ヒ其ノ他ノ諸職ナリ

婦人モ又殿堂ニアリテ僧侶ノ職務ヲ執ルヲ得タレト併シ比久尼トシテニハアラザリキ僧徒ハ租稅ヲ免サン國庫ヨリ供給サル又彼等ノ常食ハ量ニ就テモ性質ニ付テモ甚ダ奇異ニシテ先ツ豕肉ハ格別ニ禁ゼラン又魚肉モ禁ゼランタリシ其ノ他タトヒ聖壇ニ供ヘラル、モノト雖モ食フヲ禁ゼラル、モノニハ蠶豆豌豆葫葱等アリ又僧徒タルモノハ晝夜各二回ツ、沐浴シ三日毎ニ全身ヲ剃ラザル可ラザリキ其ノ衣服ハ麻布ヲ以テ作ラレ長サ腫ニ達シテ甚ダ現今ノ埃及人ノ白衣ニ類セリ又僧徒ハ種々ノ物品ヲ神ニ獻ゲシカ其ノ最モ多キモノハ大抵左ノ如ク蒲荷無花果、花

殊ニ蓮花——其他頸飾腕飾及ヒ寶玉等ノ無血物并ニ牝牛及ヒ其ノ他ノ動物ノ有血物ニシテ酒類モ又壇上ニ注ガル、事アリシ

(四) 來世ノ信仰

此ノ信仰即チ來世ノ信仰ハ埃及ニアリテ甚ダ早く發達シタリシ恐クハ世界ノ諸宗教中此ノ國ノ宗

教程未來ノ世活ニ就テ思辨力ヲ働カセシモノハアラザル可シ惟フニ崇拜者ハ現世ノ生活ヨリモ寧ロ來世ノ生活ニ注意セシナランサレバニヤ死骸ノ腐敗ヲ防ギ裁判ノ日マデ之ヲ保存スルニ就テハ想像力ノ工夫シ得ル總テノ方便ヲ試ミタリシ既ニ前章ニモ述ベタル通り彼ノ幾世記間世界ノ一大奇觀トシテ衆目ヲ驚カセシ宏大ナル建築物モ亦大抵國王或ハ貴人ノ墳墓ニ外ナラザルナリ實ニ人々ノ死前ニアリテ最モ注意セシ處ハ即チ裁判日ノ來ルマデ身軀ヲ保存シ得ルニ適スル堅固ナル墳墓ヲ工夫スルニアリシト明カナリ

此ノ他即チ堅固ナル墳墓ヲ作ルノ外古代ノ埃及人ハ死骸保存法ヲ發明シタリシ而シテ其方法ハヘロドタス左ノ如ク記セリ

死骸保存法ノ最モ完全ナル方式ハ左ノ如ク先ツ曲レル一鐵串ト藥材ト(之レヲ注入スルナリ)ヲ以テ鼻孔ヨリ腦髓ヲ引出シ次ニエシオピア石ヲ以テ身側ニ一孔ヲ穿チ夫レヨリ臟腑ヲ取出シ之ヲ棕櫚酒ニテ十分洗ヒ滯メタル上芳香藥ヲ以テ之レヲ被フ又身軀ハ沒藥肉桂及其ノ他香物(但シ乳香ヲ除ク)ノ純粉ヲ以テ充シ然ル後側孔ヲ縫ツメ七十日間硝石ヲ以テ之レヲ被フ但シ此ノ日數ヲ過スヲ得ズ而シテ此ノ期限ノ終リニ至レバ硝石ヲ洗ヒ取り護膜ニテ浸シタル綑帶ニテ捲キ然ル後之レヲ其ノ親族ニ送ル是ニ於テ親族ハ人形ニ似セタル木箱中ニ之ヲ入レテ以テ死骸貯藏處ニ搬入シ壁ニ向テ之レヲ安置ス

此ハ死骸保存法ノ最モ巨大ノ大費ヲ要セルモノナルガヘロドタスハ尙他ニ二方法ヲ記セリ而シテ此ノ二方法ニアリテハ前者ヨリ香物ヲ用ユルヲ稍々少ナクシテ隨テ入費ヲ要スルヲ亦少ナクシテサレド余ハ此處ニ十分其等二方法ヲ陳述スルノ暇ナクシテ除ク可シ兎ニ角ク總テ其等ノ巨大ナル



費用及ビ精功ナル死骸保存法ハ只單ニ終リノ日ニ於テ肉骸ノ復活スルヲ信ズルノ念ヨリ來レルモノナルヲ思ヘバ實ニ信ノ一念驚嘆ス可キモノナリ

埃及人ノ信ズル處ニヨレバ人々ノ死後靈魂ハ直ニ下界ニ下リ「真理ノ廳」ニ召サレオシリス神及ビ「真理ノ君」ト呼ハル、四十二人ノ冥官ノ巍々ト居並ブ前ニテ逸々詮議ヲ受クルモノナリキ先ツオシリス神ノ若君「量ノ主治者」ト呼バル、アヌビス神ハ天秤ヲ持出シ一方ノ秤盤ニハ真理ノ圖形或ハ符號ヲ置キ他ノ一方ノ秤盤ニハ亡者ノ善業ヲ入レタル壺ヲ置ク又其ノ秤リツ、アル間ハンズ神手ニ手帳ヲ持テ其ノ結果ヲ書止メガ爲メニ傍ニ立テリ俸テ其ノ時亡者ノ善業多クノ真理ノ符號ヨリモ重ク其秤盤下ルキハ此ノ幸ヒナル靈魂ハ「日ノ小舟」ニ乗ルヲ許サレ又夫ヨリ「幸福ノ野」「平和ノ池」ニ送ラレテ「恩恵ノ大厦」ニ住ムヲ得ルナリ之レニ反シ善業多クヲズシテ真理ノ符號ヨリ輕ク其ノ秤盤ハ空中ニ止リテ下サザルキハ此ノ不幸ナル靈魂ハ其ノ惡業ノ度ニ從ヒテ普通法規ノ示ス如クニ畜生道ヲ流轉セザル可カラズトノ宣告ヲ受ク更ニ種々ノ吟味ヲ經タル上尙十分ナル純潔ノ見出サル、ヲ得ザルキハ此ノ「見離サレタル惡キ靈魂」「自カラ如何ノトモス可カラザルヲ證スル靈魂」ハ遂ニオシリス神ヨリ終局ノ宣告ヲ受ク全ク絶對的ナル寂滅ニ歸スルノ刑ニ處セラレテ「光ノ君」ナルシニユ一神ニヨリテ天ノ階段上ニ打滅セラル、ナリ又善キ靈魂ハ四人ノ猿面仙人ニ導カレテ「冥火ノ谷」ヲ通過シタルノ上全ク其ノ弱點ヲ洗滌シ夫レヨリ三千年間オシリス神ノ仲間トナリ更ニ其ノ三千年ヲ經タル後ハ再ビ「喜ひの野」ヨリ人間界ニ入り死ヨリ甦リテ再ビ地上ニ人間ノ生活ヲ送ル此クノ如キ有様ヲ何度モくくモ繰復シテ一定ノ時限ヲ終ルニ至レバ總テノ事ヲ成就シテ遂ニ神ト合體スルノ終局的歡喜ヲ得ルナリ即チ一度發出シタル固ノ神聖的元精ニ

再ビ吸收サレテ以テ存在ノ極備及ビ真正ノ目的ニ達スルナリ」然リ而シテ此ノ神人合體ノ觀念ハ吾人ノ屢々今日ニ傳ハレル記念碑及ビ誌銘中ニ記サル、ヲ發見スル處ノモノニテ亡者ノ言ニ「吾ハオシリス神ナリ」「吾ハオラス神ナリ」「吾ハアンピス神ナリ」「吾ハ神ノ仲間入セリ」「吾ハ自カラ燕ト化シ蛇ト變シ鰐魚トナリ神鳥トナル」等アリ但其等ノ鳥獸ハ神ヲ代表スルモノナレバ彼等ニ化スルト云ハ、神其物ニ入ルト云フニ均シキナリ又亡者ノ言ニ左ノ如キモノモアリ「吾ノ毛髮ハヌー神(蒼穹)ノ毛髮ノ如ク吾レノ顔ハラー神ノ顔ノ如ク吾レノ目ハハッル神ノ目ノ如シ」「吾ハ諸神ノ種子ナリ」「吾レノ住家ハ永久無滅ナリ其ハ永久的存在ノ支配者タル「歳ノ君」ノ實ナリ」等ノ如シ今神人合體ノ教ヘニ付テ陳述セル處ハ大ニ印度神學殊ニ幾千年間佛教神學ノ基本原理ヲヤシ涅槃寂靜說ニ近接スルヲ見ルナリ尙此ノ神人合一ノ點ニ付テ今左ニ「死人書」ヨリ一詩ヲ轉載センニ其ハ神ノ純一(否テ寧ロ諸神ノ歸一)ヲ明示セルナラント思ハル

吾れは、獨一存在あるタム神なり、

吾れは、無上の權勢を保てる時に於けるラー神なり

吾れは、自存の大御神なり

彼は彼れの名の作主なりあらゆる神の主なり

神として此の大御神を離る、ものなし

吾は昨日ありし吾は明日を知る

此ノ實在物即大御神ハ世界ノ精神世界ノ親ニシテ萬物ハ悉ク皆ナ夫レヨリ發出シ又其ノ胸裡ニ沈ムモノナリ彼ハ生命ノ源泉、創造力ヲ保ツ唯一ノ實在ナリ又父ノ父ナル母ノ母ナル者ナリ諸神ヲ



産ミ又自カラ己レニ形態ヲ與フルモノナリ實ニ吾人ハ此詩中ニ印度ノ原始的汎神教ニ付テ甚ダ明  
 亮ナル觀念ヲ見又四千年後スピノザニヨリテ其完成ヲ見ル併シ此處ニハ汎神論ヲ詳論スルノ暇ナ  
 クレバ勿論之レニ進入セズ後章波羅門教ヲ論ズルニ至ルマデ預リ置キ今ハ只總テノ時代ニ於テ人  
 間思想ノ過程ノ一様ナルコトヲ諸君ニ注意シ置クノミ吾人ハ瞬間ダニ埃及人ハ其ノ汎神教的觀念ヲ  
 印度人ヨリカレリトモ亦古代ノ印度人ハ其ノ宗教的觀念ヲ埃及人ヨリカリシ實證アリトモ更ニ亦  
 スピノザハ其哲學ヲ上述ノ二者ヨリ導キシトモ思フ能ハズ故ニ各ノ場合ニ於テ吾人ハ人類ノ心意  
 ニ於ケル推理法ノ一様ナルハ常ニ獨立ニ同一ノ結果ニ導クモノナリト云フ真理ニ歸ラザルヲ得ス  
 是レダウルウインガ進化論ヲ發見セシト同時ニアルフレッド、ワレンス同一ノ結果ニ而モ獨立ニ達セ  
 シガ如シ

以上陳述セル處ニヨレバ吾人ハ甚ダ明カニ埃及神學ヲ知レル様ナレ併シ實際ハ甚ダ不明ナルニ  
 テ吾人ハ其ノ神學中ノ一問題モ如何ナル位地ニアルヤヲ精密至細ニ知ラザルナリ  
 埃及及ノ聖文學ノ多クノ殘篇片簡ニヨリテ今日ニ傳ハレル中其ノ最モ必要ナルモノハ死人書ニシ  
 テ吾人ハ主トシテ之レニヨリテ古埃及人ノ風俗習慣及ヒ信仰ノ瓏影ヲ窺ヒ得ルナリサレド此ハ甚  
 ダ不完全ナル欲損セル状態ニテ今日ニ傳ハレルナリ其ノ最モ大部分ヲ存セルモノハチユリン博物  
 館ニ藏セル處ノモノニシテ殆ンド百六十五章ヲ保テリト雖モ併シ亦其大部分ハ大ニ欲損シ實ニ學  
 者ノ想像ニヨリテ組織セラル、ニアラズンバ全ク了解スル能ハザルガ如キ状態ニアルナリ又此ノ  
 書ノ寫本ニシテ隨分今日ニ傳ハレルモノアレハ憐レニモ交互相一致セズ即チ章ノ順序ニ於テモ又  
 含有スル事柄ノ性質ニ於テモ各異ナルナリ實ニ其等ノ今日ニ傳ハレルモノハ大ニ腐敗シ多クノ誤

謬ニ充チタリト云ハザルヲ得ズ實ニ其等ヲ寫セシ人々ハ甚ダ不注意ナリシト云ハザルヲ得ズサレ  
 ド其等ノ人々ガ其等ヲ寫セシ目的ハ死人ト共ニ葬リ裁判日ノ來ルマデ再ビ人間ノ目ヲ以テ見ル能  
 ハザル處ニ埋ムニアリテ少モ今日歐米ノ古物探檢者ガ熱望珍重スル處ノモノトナルコトヲ知ラザリ  
 シヲ思ヘバ亦余マリ其等ノ人々ヲ譴責スルニ及バヌ事ナリ

抑々モ死人書ナル名ハレプシユス氏ノ與ヘシ處ノモノニシテ其ノ前ニアリテハル、Iゼ氏之ヲ葬禮  
 典ト呼ベリ然ルニレプシユス氏ノ之レヲ變テタル意ハ蓋シ此ノ書ハ墓中ニアリテ死人ノ閱讀セシ  
 ガ爲メニ記サレシモノニシテ葬禮式ヲ效ル爲メニ記サレタルモノニ非ズト云フニアリシ而シタル  
 Iゼ氏ハ別段之レニ反對セザリシト雖モ其ノ多クノ章ハ實ニ葬禮式ヲ執行スル間ニ僧徒ニヨリテ  
 誦讀セラレシモノナルコトヲ示セリ

該書ノ内ニ含有スル處ノ事柄ハ非常ニ了解シ惡ク其ノ大部分ハ所謂古代ノ怪談ニ關スル處ノモノ  
 ナリ恐クハ其等ノ怪談ハ其ノ時代ノ人々ニ取リテハサマデ解シ惡キモノニハアラザリシナランサ  
 レド今日吾輩ニ至リテハ全ク之レニ反シテ實ニ了解シ難キモノナリ故ニ該書ノ大部分ハ全ク暗冥  
 ノ中ニアリ否ナ永久ニ然ル可シト思ハル程ナリ併シ其ノ中ノ或ルモノニ至リテハ稍々了解セラレ  
 又其ノ他ノモノニ於テモ勿論其進歩タル遅々タルモ漸々了解セラル、ニ至ルガ如シ

諸該書ノ主眼物タル蓋シ暗ト光トノ間ノ爭鬪ナリシガ如シ而シテソハ左ノ事實ニヨリテ明カナリ  
 彼ノ「ア」神又「開ク人」或ハ「技藝家」ト呼バル、モノ及ヒク「神又タ」設立者」ト呼バル  
 モノハ只太陽ノ異名ニ外ナラズト「神又タ」閉ヂル人」(該書中前者ヨリモ屢々記サル、モノ)ト呼  
 バルルモノモ亦太陽ノ主ナル稱呼ノ一ナルナリ



併シ亡者ノ天福ヲ享ケタルトテ記スハ各章ノ大主眼物ナリ今亡者ニ付テ望マル、永遠ノ生活ヲ分テハ左ノ三部類トナル可シ

第一、天福ヲ享ケタルモノハ先ヅ此ノ世ノ生活ニ甚ダ類似セル生活ヲ享クルガ如ク記サル、即チ彼等ハ食ヒ飲ミ歩ミ睡リ殆ソド此ノ地上ニ住スル間ニ爲セシ如ク爲シ而シテ又其ノ食米及ヒ酒肉雞肉其他ノ贅澤物ヲ「ナイロノ國」ヨリ取ルモノトス又諸神ト交通シ或ハ共ニ遊戯スラナストス又耕作ス可キ田畑ヲ有シテ其收穫物ヲ刈入レ收納シ全ク此ノ世ニアルガ如クナス者トス概論セバ天國ハ此世ニ於ケル生活ノ精密ナル寫影ナルガ如ク思倣セリ惟フニ人類ノ想像力ハ屢々籠中ノ小禽ノ如ク其ノ四壁ヲ脱出シテ高飛スル能ハザルナリ詳言セバ自由ニ働作シ得ルキモ尙ホ屢々可視的事物ニ拘泥シテ即チ彼等ヲ吾人ノ觀念ノ周圍ニアル堅壁トシテ其ヲ越テ以テ自由思想ノ領分ニ進入スル能ザルナリ

第二、信仰厚キ幸福ナル亡者ガ廣濶ナル宇宙ヲ自由ニ逍遙シ得ル生活ナリ即チ此ノ生活ヲ受クンバ全宇宙間ハ何處ナリモ己ガ好ム處ニ又己ガ意ニ適スル形態ニ化シテ逍遙シ得ルナリ

第三、オシリス神ト亡者トノ合体(此ノ點ニ付テハ余既ニ論ゼリ)ナリレナフ氏曰ク

亡者ハ只オシリス神ノミニ同化サル、ニアラズ又身軀ノ各局部ハ悉ク各異ノ神ニ同化サル、ナリ即チ毛髮ハヌー神ニ顔ハラー神ニ兩眼ハハソール神ニ兩耳ハアアト神ニ鼻ハセチエムノ神ニ、兩唇ハアヌビス神ニ齒ハセルクツト神ニ同化セラル其他ノ各局部モ亦右ノ如シ人間モ鬼神モ又死人ノ靈モ尙又過去現未來ニ罪ヲ受ク可キモノモ其他如何ナル者モ彼ヲ害スル能ハズ彼ハ安全ニ現ル、處ノモノナリ「其ノ者ヲ人間ハ知ラズ」トハ彼ノ名ナリ「無終ノ

年ヲ見ル昨日」トハ意氣揚々トシテ天路ヲ過クル彼ノ名ナリ

該書ハ又或ル學者連ニヨリテハ三大部ニ區分サレ他ノ學者連ニヨリテハ二十三大部ニ分タル今前者ノ說ニ依リテ示サソニ第一部ハ最初ノ十六章ヨリ成立ス而シテ其等ハ死去ノ時ヨリ死軀保存法ヲ行フニ至ルマテノ間死人ノ傍ニアリテ誦讀セラル、祈禱ノ形式ナリ第二部ハ近世學者ノ「埃及人之信仰」ト稱スル甚ダ了解シ難キ怪談的ノ長章ヲ以テ始マリ次ニ死人ノ善業ヲ顯揚スル祈禱ヲ記セル三章アリ惟フニ此等ノ祈禱ハ死軀ノ縋帶セラル、間ニ誦讀セラレシモノナラソ又其次ニハハデスニ於テ死人ノ保存ヲ懇願スル祈禱ヲ記セル十章及之レニ類スル三十七章アリ更ニ之レニ加フルニ種々ノ事柄ニ付テ記セル六十章アリ

第三部ハ「真理ノ廳」トシテ世ニ知ラル、有名ナル第百二十五章ヲ以テ始マル而シテ此ノ内ニハ「終リノ裁判日」ノ事モ記セリ又此ノ章中ニハオシリス神ノ前ニ召出サレタル時亡者ノ云フ可キ言ナリトテ左ノ言ヲ記セリ

吾ハ神ヲ喪サズ吾ハ人ヲ罵ラズ吾ハ他人ヲ欺カズ吾ハ他人ノモノヲ盜マズ吾ハ惡ヲ以テ人ヲ殺サズ吾何タル人モ虐待セズ吾ハ變亂ヲ起サズ吾ハ懶惰ニ日ヲ送ラズ吾ハ暴飲セズ吾ハ不正ノ命令ヲ發セズ吾ハ輕忽ニ奇ヲ求メズ吾ハ多言セズ吾ハ一人モ打傷セズ吾ハ一人モ讒譖セズ吾ハ一人モ脅迫セズ吾ハ情忌ニヨリテ吾レノ心ヲ食ハズ吾ハ國王ヲ誹ラズ尙又吾ガ父ヲ謗ラズ吾ハ無實ノ訴訟ヲ起サズ吾ハ乳兒ノ口ヨリ乳ヲ強奪セズ吾ハ吾レノ奴婢ヲ苛酷ニ遇セズ吾ハ聖獸ヲ殺害セズ吾ハ聖河ヲ汚サズ吾ハ自カラ己レヲ穢サズ吾ハ死人ノ衣ヲ剝カズ願クハ吾ヲ許シテ行カシメヨ神ハ吾レノ過チナキ惡心ナキ罪業ナキ罪惡ナキヲ知リ賜ヘリ吾ヲ苦メ



賜フナ吾レテ逆境ニ入ラシメ賜フナ吾ハ真理ニ住ミタリ吾ハ真理ニ養ハレタリ吾ハ人ノ命ヲ  
神達ノ證シ賜フヲチナスヲ樂トセリ吾ハ神達ニアラユル供物犠牲ヲ捧ゲタリ吾ハ餓者ニパン  
ヲ與ヘ渴者ニ水ヲ飲マシメタリ吾ハ衣ナキモノニ衣セタリキ吾レノ口吾レノ手ハ純潔ナルナ  
リ(該應ノ有様裁判ノ方法及ビ亡者ノ行路等ニ付テハ既ニ概陳シタルニ此處ニ略ス)  
次ニ又四十章許アリ而シテ其等ハ今日吾人ニ對シテハ前者ヨリモ尙々解シ難キ一層曖昧ナルモノ  
ナリ

死人書ノ外尙ホ宗教的性質ヲ帶アル書少々アリサレド其等ノ書ハ多少相類似シ且ツ右ニ舉ゲタル  
大書即チ死人書ト同一ノ調子ナレハ此處ニ除キテ論ゼス只左ニ一詩ヲ轉載シテ讀者ヲシテ其ノ一  
班ヲ窺ハシメントズ

ア、尊き、オシリス神よ、.....

アムモン神ハ、日毎に、汝と、共にあり

汝に生命を與へんために

アフエルー神は、正義の道を、汝に、開けり」

汝は、汝の目を以て視

汝は、汝の耳以て聞き

汝は汝の口以て話し

汝は汝の脚、以て、歩む

汝の靈魂は天に聖くせらる

而して汝が靈魂の望むすがたとはなるあり

夫レ埃及ハ最古ノ時代ヨリ歴史家、商人、旅行者遠征者等ノ注意シ愛慕セシ邦國ナリシガ其ハ尙  
悠久ノ未來モ萬國史上此ノ高等ナル地位ヲ失ハザル可シ且ツ今日ハ漸々活潑進取ノ元氣アルアリ  
アン人ノ眼前ニ開展セラレツ、アレバ其ノ地理上ノ地位ヨリシテモ將來ハ尙ホ一層要用ナル位置  
ヲ占ムルニ至ルナラン換言セバ其ハ既ニ幾世紀間總テノ犯險者ノ愛戀ノ情ニ堪ヘザリシ國ナルハ  
一點ノ疑ヲ容ル可キニ非ザルガ尙ホ將來モ亦總テノ遠征者ノ希望スル邦國ナル可シ然リ而シテ此  
ハ實ニ常ニナイルノ富國ヲ衰弱セシムル大原因ナルナリ觀ヨ一度ハシリヤノ牧畜王ノ侵奪スル處  
トナリテ幾世紀間之レガ配下ニ屬シ又アツシリア、パトロニア、ペルシヤ、ギリキー、ローマ等  
ノ諸國及ビアラビアノサラセシス人其他殆ンド總テ歐洲大國ノ獲得セント企テシ處トナレリ而シ  
テ此ハ大ニ此國ヲ衰微セシメタルニテ殊ニ最モ甚シキ状態ニ至ラシメタルモノヲホメツト帝國  
ノ征畧ナリトス彼ノサラセシス人ガ此ノ國ヲ侵奪シテ總テノ基督教徒ヲ放逐シタリシキハ實ニ此  
ノ國ノ文明ヲモ共ニ放逐シタリシ時ナリ而シテ之レカ爲メニ埃及ハ幾百年間黑暗ノ中ニ嘯吟シ  
今日亞米ナソノ開化シタル多クノ邦國ヨリモ尙ホ歐洲ニ近接セル邦國ナルニモ拘ラズ今尙ホ半開  
ノ状態ニ止マレリ夫レ日本ハ基督教ノ文明ト接觸シテヨリ此處ニ僅ニ三十年ヲ出デザルニ實ニ稀  
代ノ發達長足ノ進歩ヲナシテ今日ハ既ニ文明國ノ一ト數エラル、ニ至リ合衆國ハ野蠻人ノ森林ヨ  
リ神國ト化シ其他中央亞細亞ノ諸國及ビ粗野暴戾ナルトルコスタンノ國民スラ今ハ文明ノ光ノ下  
ニ照サル、ニ至レルニ然ルニ歐米諸國ニ先チテ文明ノ榮光ヲ灼然煥發セシ埃及、哲學及ビ其他總ノ  
智識ヲ進歩スル大激因ナリシ埃及、初代ヨリ歐洲及ビ人性ノ總テノ開化的動力ト密接セシ埃及、世



界萬國中最近富沃ナル埃及、實ニ此ノ埃及ハ今日憐レハカナキ、狀態、衰枯セル有様ニ陥リ殆ソト半開ノ容姿ニテ巨大ノ國債ニ苦悶シツ、アルナリ嗚呼何者ゾ此ク斯國ノ元氣ヲ衰ヘシメ生命ヲ枯ラシタルモノハ是レ蓋シ亞刺非亞ノ僞欺的豫言者ガ設立セル宗教ノ醜變的勢力ニアラズシテ何ゾ然リト雖也今ヤ吾人ハ温暖ナル日光ノ此ノ國、ナイルノ富士ノ上ニ輝キ初ムルヲ見ルヲ喜ブナリ夫レ千八百八十二年以後即チ此國ニ於テ英國ノ勢力佛國ノ勢力ヲ壓セシ以來此國ノ狀態ハ大ニ改良セラレタリキ詳説セバ是迄年々巨大ノ不足ヲ生ゼシ租稅法院ハ今ヤ毎年多クノ金額ヲ殘シ漸々巨大ノ國債ヲ辨償スルニ至リ是迄鞭ニテ多額ノ租稅ヲ徵集モラシシ罽寡孤獨ハ今ヤ英國ノ仁政ニヨリテ斯ル殘虐ナル壓制的處置ヲ免レ又是迄他國ニアリテハ只僅少ノ支配者ニノミ歸セラル、權力ヲ保チ之ヲ濫用セシ裁判官モ今ヤ適任ナル有力ナル英國人ノ其ノ長官トナルニ及シテバ如何ソトモズル能ハザルニ至レリ實ニ此カル仁政的變化ニ就テハ埃及國人ハ常ニ英國人ニ感謝セザル可ラサルナリ然ルニ奇怪ナルハ此ク英國ハ仁政ヲ布クニモ拘ラズ或ル埃及人殊ニ上等社會ノ人々、是迄人民ノ膏血ヲ絞リテ己ノ身軀ヲノミ肥セシ人々ハ尙ホ此レニ對シテ憤懣ニ堪ヘザルガ如キ様ヲ呈スルコトナリ然レニ英國政府若シ此調子ヲ變ゼスシテ親切ナル博愛的ナル政略ヲ永續セシカ決シテ魯國政府或ハ佛國政府ノ隱謀奸策モ敢テ恐ル、ニ足ラザル可シ然リ而シテ埃及ハ基督教國ニ對シテハ管ニ政治上或ハ社會上或ハ地理上ノ見點ヨリ價值アルノミナラズ亦宗教上ノ見點ヨリモ大ニ必要ナル利益アル者ナリ夫埃及ハ猶太教ニ大影響ヲ及ボシ後更ニ基督教上ニモ少ナカラズ影響ヲ及ボセシ者ナルヲ以テ彼ノ聖書ガ總テ開化セル國民ノ宗教的書物トシテ永存スル間ハ常ニ其ノ歴史及ビ其邦國ハ總テノ基督教徒ニ對シテ價值アルモノナル可ク又之ニ尊敬セラル、者ナル可

シ埃及人及ビ其ノ宗教ハ如何程ノ影響ヲモイセスノ宗教及ビ律法ニ及ボセシヤ又彼等ノ神學ハ如何ニ早代ニ於ケル基督教ノ神學ヲ組織スルニ於テ裨益セシヤ補助セシヤハ二箇ノ必要ナル問題ナルヲ以テ余輩ハ今茲ニ此等二者ニ付テ少々辨ゼザルヲ得ズ

第一問題ニ就テハ如何ナル人モ死人書ノ第二百二十五章中ニ含有セラレタル四十二ノ律法トモイゼス十誡トノ間ニ大ナル類似アルヲ拒斥スル能ハザル可シサレド又之レヲ以テモイゼスハ其宗教ヲ埃及ノ宗教ヨリ導キタリシト云フコト能ハズ蓋シ該書ニ教ユル其等ノ律法ハ總テ人類ニ普通ナルモノナレバナリタトヘバ吾人ハ其等ノ教誡ヲ又(假令言辭ハ異ナルモ)孔子ノ遺書中ニモ發見スルヲ得サレド其ヲ以テ孔子ハ其ノ道徳上ノ觀念ヲ死人書ヨリ獲リタルトハ云フ能サル可シサレド又モイゼス教ノ場合ニ於テモ然リモイゼスハ或ハ先輩ノ教ヨリイストラエル人民ノ社會的生活ニ關スル多クノ觀念ヲ獲タルヤモ謀ラズ併シ其レニ拘ラズ尙ホ猶太教ハ獨立的ノ宗教ニシテ決シテ埃及及教ノ模寫ニアラザルナリ但シ事ノ精細ハ後章ヘアルユ一入及ビ其ノ宗教ヲ論ズルニ至リテ明亮ス可シ

第二ノ問題即チ基督教ノ神學上ニ於ケル埃及人ノ影響ハ余輩ノ見ル處ヲ以テスルニ前者即チヘアリユ一教ニ於ケルヨリモ較少ナリ抑々第十七世紀及第十八世紀ニ出テハ正統派ノ根本ノ教義ナル三位一體論ヲ埃及及ビ印度ノ宗教ヨリ歴史的ニ説明スルコト大ニ基督教神學者間ニ流行シタリキ蓋シ既ニ余輩ノ研究セルガ如ク神ノ性質ニ關スル埃及人ノ教義ハ三門ニ分類セラル、ヲ得又神ノ區別ニ於テモ屢々三ナル數ヲ見ルガ惟フニ此等ノ事柄ハ其等ノ神學者ヲシテ埃及人ハ三位一體說ヲ信仰セシト即三體ニ顯ル、一神ヲ崇拜セシト推想セシムルニ至リシナラン然リ而シテ第十七世紀



ニ於テ最ニ熱心ニ此ノ説ヲ主張セシ者ヲ英國ノ大哲學者大著述家ナルカッドウオースナリトスサ  
 レドカッドウオースノ説ハ大ニゼルマンノ大宗史家モサイムノ駁撃スル處トナリシモサイム以  
 爲ラカッドウオース博士ノ憑據スル處ノモノハ全ク憑信シ難キモノナリト而シテ近世ノ探檢ハ  
 愈々モサイム博士ノ説ヲシテ確乎タラシムルガ如シ何ントナレバ總テ埃及ノ宗教的書物ヲ研究シ  
 タル後埃及人ハ基督教徒ノ信ズルガ如キ三位一體ノ觀念ヲ抱持セザリシトイト明カニ發見セラレ  
 タレバナリ實ニ吾人ハ屢々埃及ノ或ル場所ニ於テ又ハ或ル市府ニ於テ三神ノ崇拜セラル、ヲ見ル  
 ナリ併シ其等ノ三神ハ明カニ別々ナル一個ノ神ニシテ互相ノ間全ク關係スル處ナキモノナリ又タ  
 トヒ彼等ハ無上實在物ヲ以テ其ノ元精上絕對的ニ純一ナルモノナリトナセリト雖モサレド又此ノ  
 實在物ノ區分セラル、ハ全ク別々ナル多クノモノトナセシナリ

夫レ古代ノ埃及教ハ基督教ノ神學ヲ發達セシムルニ於テアマリ影響ヲ及ボサマリシト雖モサレド  
 尙ホ埃及國其物ハ基督教神學ヲ形成シ組織スルニ於テ必要ナル人物ヲ生セシゴトヲ忘ル可カラズ  
 其ハ基督教ノ初代ニアリテハ最大ノ神學者ナルセントオীগアスチンチ生シ又アレキザンドリア派  
 ヲ以テ當ニ後世ノ哲學界ヲ感化セシノミナラズ亦神學界宗教界ヲモ感化シタリシ「嗚呼吾輩ヲシ  
 テ此ク人類ノ進歩上社會ノ發達上宗教ノ開化上實ニ偉大ノ功德アル此ナイルノ國ヲシテ神其ノ攝  
 理ニヨリテマホメツト教ノ壓制ト羈束ヨリ免レシメ再ビ基督教ノ下ニ來ラシメ賜ハンコト希望シ  
 祈禱セシメヨ蓋シ此クナラバ吾人再ビ此ノ國ガ漸々失ヒシ處ノモノ奪掠セラレタル處ノ者ヲ回復  
 スルヲ見ルヲ得ベケンバナリ今ヤ總テノ人類ハ蒸氣電氣ノ功德ニヨリテ互ニ近接スルニ至レリ殊  
 ニ宗教上精神上ニ於テハ最モ然ルガ諸君若シ余ノ些カ本章ニ述ブル處ニヨリテ以テ此珍奇ナル驚

嘆ス可キ國民ヲ稍々諸君ノ心情ニ接近セシメラレシナランニハ余ハ余ノ勞力ノ徒ニ水泡ニ歸セザ  
 リシヲ喜ブナリ



## 第六章 アリアン人種

活眼ヲ開テ人類ノ歴史ヲ遠觀セヨ、内ニ生々活々トシテ偉大ナル近世ノ文明ヲ建設セル二大人種アルヲ見ン是レ即チアリアン人種及ヒセミチツク人種ナリ彼ノモンゴリアン人種ノ如キニ至リテハ人類全體ノ進歩史上モ顯著ナル効果ヲ呈出セルヲ見ズ願ヨ支那ハ實ニ一種獨得ノ文明ヲ煥發セシテ而シテ吾人若シ其ノ時代ヨリ推察セハ其國民ノ創意ヲ讚嘆セザラントスルモ能ザルナリサレド一轉シテ其文明ノ結果ヲ見又此國民今日ノ状態ニ比較シ更ニ人類全體ノ歴史ニ注目セバ吾人ハ左ノ言ヲ發ザルヲ得ズ即チ人類ノ進歩上ニ於ケル支那人ノ影響ハ甚ダ僅少ナリシト、ヨシ又支那人ハ大人類ヲ裨益シ得ル程ノモノヲ生ゼシトスルモ此國民ハ常ニ他國民ト交際スルヲ好マザリシナレバ否ナ之レヲ拒ミシナレバ其ノ人類一般ニ影響ヲ及スニ至ラザリシヤ知ル可シ尙モンゴリア人種ニシテ他人種ト交接セシモノナキニ非レハ其ノ人類進歩上ニ於テ無功ナルハ敢テ支那人ト異ナルナシ要スルニ此人種ハ人類全體ノ進歩上ニ一元氣ヲモ一激劑ヲモ注入セザリシナリ否ナ却テ之ヲ妨礙セシナリ例ヘバ今日歐洲ニアル土耳其人ヲ見ヨ

吾輩ハ今此處ニ日本人ノ外國民上ニ及ボセシ影響ニ付テハ如何ントモ云フ能ハズ蓋シ現今ニアリテハ日本人ノモンゴリア人種ニ屬スルヲ事ハ未ダ十分ニ確定サレザレバナリ——タトヒ余輩ニアリテハ毫モ疑フ可カラザル事ナリト思ヘハ然リト雖モアリアン人種及ヒセミチツク人種ニ至テハ大人前者ト異ナリ實今日ノ宏壯ナル文明ノ大部分ハセミチツク人種殊ニ猶太人ノ宗教的觀念ヲ加味シタルアリアン人種ノ天才ノ發顯ニ外ナラズト云フモ敢テ失當ニアラザルナリ今先ツセ



ミチツク人種ニ付テ少々陳べ置カニ諸君モ既ニ知ラル、如ク世界ノ文明史上宗教ノ部分ニ於テ最モ功カアリシ者ハセミチツク人種ニシテ殊ニ其ノ中猶太人ノ如キハ萬世ノ師長タルナリ然リ而シテアラビア人モ亦世界三大教ノ一ナルマホメット教ヲ生出セシテ以テ宗教ニ關シテハ或ハ猶太人ノ如ク世界ノ文明ヲ裨益セシナラント思ハル、人アラシカ是レ蓋シ大ナル謬ナリ實際マホメット教ハ一モ善良ナル影響ヲ及ボサズ又茲ニ論ズル程ノ價值アル獨得ノ文化ヲ發起セザリシ而シテ只其影響ヲ及ボスノ結果ハ常ニ國民ノ元氣ヲ凋零セシメ進動性ヲ駐遏セシノミナリキ諸君若シ既ニ前章埃及人ニ就テ論ゼル處ヲ閱シ更ニタルキ北部アフリカベルシヤアラビア及ヒ其他マホメット教ノ強大ノ勢力ヲ占ムル國民ノ状態ヲ熟觀セバ思ヒ半ニ過ギン又アラビア人ハ中世紀ニアリテ大ナル影響ヲ歐洲ノ思想上ニ及ボセシト雖モサレド余輩既ニ第二章ニ陳ベタル如ク其ハアラビア人獨得ノ哲學ニアラズ最始ハシリヤ人ヨリ傳エラレタルキリヤ哲學ニシテ基督教的要素ノ彼等ヨリ取去ラル、ヤ否ヤ直ニ全ク枯死セシ者ナリ更ニ至リテハ毫モ人類ノ真正ナル進歩ヲ裨益セシ處ナシ」「諸今日ヨリ見レバセミチツク人種ノ未來ハ實ニ憐シナル甚ダ望ミナキモノト云ハザルヲ得ズ彼ノ人類全躰ノ生活上洵ニ偉大ノ感化ヲ與ヘシ猶太人ハ今ヤ諸邦ニ離散シ而モ總テノ國民ニ嫌忌セラレ處待セラル、ニ非ズヤ彼ノ希臘羅馬ニ先テ開化的生活ヲ建設セシヤシリヤ人及ヒバビロニア人ハ今ヤ逝ク何處ニアルヲ知ラザルニアラズヤ恐クハ決シテ復ヒ歸ラザル可シ又アラビア人ハマホメットノ降世セシ以後、只感覺的生活ニ日ヲ送レル以後、全ク零落ノ昔日ノ偉觀ヲ失ヘルニアラスヤ其ノ他シリヤ人フヒニシア人等ニ至リテハ只今日ニ留存セル僅少ノ古蹟及ヒ古代歴史ノ遺蹟タル紙上ヨリシテ僅カニ其ノ存在ヲ知り得ルノミナラズヤ嗚呼セミチツク人種ノ

現狀洵ニ憐シナリト云フ可シ夫レ史乘ヲ緝テ國民ノ興廢ヲ觀察スルニ屢々或ル部落又ハ或ル國民ノ暫時他國民ノ上ニ負然トシテ其ノ國運ノ旺盛ヲ致スト雖モ又直ニ凋衰シテ遂ニ消失スルニ至ルモノアルヲ見ルヲ多シ而モ未ダ嘗テ此ク衰微セル國民ノ再ヒ前運ヲ挽回シタルモノアルヲ見ズ換言セバ最モ開化シタル最モ強大ナル國民ノ年移リ星更ルニ從ヒテ漸々衰微シ遂ニ其ノ種如何ニス可カラザルニ至レル者多シ而シテセミチツク國民ハ此ノ例ナリ

然リ而シテ世界ノ活劇上最モ活潑ニ且ツ其ノ大部分ヲ演ゼシモノハアラリアン人種ナリトス夫レ文明ノ歴史ハ其ノ如何ナル段階ニアルモ其ノ如何ナル状態ニアルモ常ニアラリアン人種ノ歴史ニ外ナラズ吾人ハ此ノ人種ヲ外ニシテ決シテ他ニ完全ナル文明ヲ發見セシモノアルヲ見ル能ハザルナリ實ニ其他ノ人種ニ至ツテハ其ノ見ル處ハ埃及ニ於ケルトメキシコニ於ケルト日本或ハ支那ニ於ケルト更ニアツシロバビロニア諸帝國ニ於ケルトヲ問ハズ只文明開化ヲ組織スル諸觀念ノ一部分ノミ併シ若シ眼ヲ轉シテ視線ヲアラリアン人種ニ注クモ吾人ハ常ニ總テ文明ノ必要機關ハタトヒ完全ナラザルモ必ズ將來ニ完全ヲ期シ得ル状態ナルヲ見ル即チ完全ニ至ルハ只年月ノ長短ニノミ開スルモノナルヲ見ル今一例ヲ擧ケテ云ハ恰モ健壯活潑ナル童兒ヲ見ルガ如シ吾人ハ其ノ將來必ズ有爲活潑ナル男子トナル可キヲ確信スルナリ夫レ此カル童兒ノ將來勇壯活潑ナル男子トナルヲ見ノニハ只時ヲ待ツノミニテ可ナレモ若シ此ノ童兒ニシテ生時ヨリ荏弱ニシテ世ニアルニ堪ヘザルガ如キ有様ナランカ吾人ハ決シテ此ノ童兒ノ完全ナル男子トナルニ至ルヲ望ム可カラズ然リ而シテ此ハ甚ダ明亮ニアリアン人種ト他人種トノ間ノ差違ヲ示セルガ如シ

諸余輩ハ今斯人種即チアラリアン人種ノ特性ヲ闡明セシニ先ツ第一其精神健全ニシテ又其ノ日常ノ



生活ノ甚ダ活潑ナルヲナリ即チ新ナル觀念ヲ創生スルニ於テ又舊キ觀念ヲ能ク咀嚼シテ以テ自  
 己ノ幸福ヲ増加スル様更ニ人類全般ノ福祉ヲ増進スル様實利的ニ應用スルニ於テ甚ダ英敏ナルナ  
 リ第二新舊ニ抱ラズ若シ一觀念ヲ得ベ其ノ具體ニ臻達セザレバ止マザルヲナリ即チ未熟ノ觀念ニ  
 満足セザルヲナリ而シテ他人種ノ欠點ハ實ニ此處ニアルナリ即チ百般ノ事物ニ於テ只未熟ナル半  
 全ナル觀念ニ満足スルハ實ニ他人種ノ一大欠點ナリ  
 更ニアリアン人種ハ一大特性ヲ稟有セリ之ヲ何トカ爲ス即チ自由ノ愛是レナリ吾人ハ斯人種ノ  
 原始ノ状態ニ遡リテ之ヲ研スルモ即チ彼等ノアシアノ高原或ハセルマンノ森林中ニ彷徨セル時  
 代ヲ推想スルモ彼等ハ常ニ一種ノ自由ノ動物ナリシガ如シ實ニ若シ他ヨリ羈束セラル、トアレバ  
 我々トシテ之ヲ脱センコトヲ勤メ遂ニ其自的ヲ達シテ從前ノ自由ヲ得ザレバ已マザリシガ如シ而  
 シテ此ノ特性ヨソ實ニ彼等ヲシテ世界文明史上今日ノ高等ナル地位ヲ占ムルニ至ラシメシ者ナレ  
 洵ニ此ノ人種ハ此ノ世ニ現レ初メシ時ヨリ既ニ他人種ノ「パールバラス」ト呼バル、ニ對シテ（訥ル  
 ノ意ナリ始メ野蠻人ノ言語明晰ナラズシテ解シ難キヨリ彼等ヲ此ク名ケタルガ然ルニ後遂ニ野蠻  
 人テフ意味トナレリ）アリアン（支配者）ナル名稱ヲ受クルニ適シタルガ如シ惟フニ他人種ニハ  
 此ノ性質即チ自由ヲ愛スルノ念十分發達セザリシテ以テ彼ノ真正ナル獨立ナル社會即チ各箇人十  
 分ニ自由ヲ尊ビ而モ全上一致團結セル社會ヲ建設スル能ハザリシナラン併アリアン人種トテ決  
 シテ大欠點ナカリシニアラザレドモ而モ其ノ欠點タル彼等ノ如ク自由ヲ愛スルノ念薄カリシニ非  
 ラテ却テ之ヲ愛スルコト度ニ過キ之レニ感觸シタルニアルナリ  
 此ノ驚ク可キ人種ハ更ニ大ナル欠點ヲ有セリ是レ屢々彼等ノ文明ヲ破壊セシ處ノモノニシテ將來

モ亦然ルナラント思ハル、處ノモノナリ而シテ此ノ欠點タル僅少ノ語ヲ以テハ十分明カシ難キモ  
 ノナレ併シ云ハテ已ム可キニアラテ左ノ如ク云ハシ即チ大ナル利己心ト此ヨリ生ズル百般ノ  
 不善業是レナリト實ニ彼等ハ利己ノ爲メニハ正義ノ幾分ヲサキテモ敢テ省ザルナリ實ニ此ノ人種  
 チシテ屢感覺的ナル動物的ナル殘忍ナル懷疑的ナル無宗教的ナル状態ヲ表ハサシメ又其他色々ノ  
 惡業ヲ行フニ至ラシムルモノハ實ニ此ノ利己心ナルナリ彼ノベルシヤノ如キヨリシヤノ如キロー  
 マノ如キ諸國ノ燦然タル文明ガ遂ニ一朝燼滅スルニ至リシモ實ニ此ノ利己心ナルナリ嗚呼誰シガ  
 此同一ノ原因ガ歐米今日ノ文明ヲシテ再ビ前同一ノ結果ニ至ラシムルコトナキテ主張シ得ルモノゾ  
 恐クハ此カル原因ノ食入ル處トナリテモ尙毅然其ノ威嚴ヲ損セズ巍然屹立シ得ル社會ハ天下ニモ  
 アラザル可シ

サレバ過ギニシ千五百年間歐洲ノ文明ヲ支撐セシ處ノモノハ何ゾ是レ決シテキリシヤ人ノ觀念ニ  
 非ルナリローマ人ノ觀念ニアラザルナリ然ラバ如何ナル觀念乎蓋シ基督教ガアリアン人種ノ腦裡  
 ニ注入セシ觀念ナルナリ換言セバ近世歐米文明ノ安定ハ決シテ哲學ニヨルニモ社會學ニヨルニモ物  
 理學ニヨルニモ更ニ道德ニヨルニモアラズ實ハ基督教ガ日々基督教國ノ人民ニ注入スル精神及ヒ  
 生命ニヨルナリ蓋シ基督教ハ只至難幽玄ナル定理及ヒ教義ヲ排列セシノミノモノナラズシテ實ニ  
 人類ノ精神ヲ激衝鼓盪スル生命ノ源泉ナレバナリ惟フニ若シ此ノ生命ノ源泉ニ一朝湧出テ止メ  
 ノカ國民ノ元氣ハ忽チニ乾涸シテ、今日ノ文明ハ條々頓變シテ社會ノ状態再ヒ穢味蠢愚ナル兇狂  
 暴乖ナル野蠻風トナル可シ是レ羅馬ノ文明ニ徴シテ最モ明カナルナリ羅馬ハ今日ノ英國佛國或ハ  
 獨國ノ如ク開化セザリシヤ而シテ此カル文化ノ、生命ノ、文明ノ、又進歩ノ、壯麗ナル大厦ヲ破壊シ



零落セシメシハ如何ナル原因ナルゾ若シ夫レ余輩ノ右ニ陳述セル處ノモノニアラズンバ何ゾ？  
然リ而シテ此欠點タルレナン氏ノ如キ無神論者スラ既ニ之ヲ許容セルナリ氏曰ク

吾人ノ科學モ吾人ノ文學モ吾人ノ技術モ吾人ノ哲學モ吾人ノ道德モ吾人ノ政治學モ吾人ノ軍  
法學モ吾人ノ外交術モ吾人ノ海上律及ヒ萬國公法モ悉ク皆ナ其ノ起因ヲキリシヤニ歸スル也  
而シテキリシヤノ創生セシ人類ノ文化ハ無限ニ擴大澎脹サレ得ルモノナリ實ニ人類ノ進歩ハ  
キリシヤノ胚胎セシ處ノモノヲ永遠ニ發達セシムルニアリ

サレドキリシヤハ其ノ道德的及ヒ知力的活動ニ於テ一決點ヲ有セリ而シテ此ノ欠點タル實ニ  
高大ナル欠點ナリシナリ即チキリシヤハ貧賤ナルモノヲ壓制シ又正義ナル神ノ必要ヲ認メザ  
リシ而シテ其ノ宗教ハ一時ノ見識ノ如キモノニ止リテ一統的宗教ノ觀念ハ嘗テ其ノ中ニ發起  
セザリシ

(レナン氏イストラエル國民史第一卷緒言)

今レナン氏ガキリシヤニ付テ云ヘル處ノモノハ又正シク論理的ニアリアン國民全軀ノ發達ニ適用  
サル、ヲ得ルナリ夫レ吾人ハ是迄一ツモ善良ナル宗教ノ此人種ヨリシテ發起セシモノアルヲ知ラ  
ズ哲學文學等ニアリアハ其ノ進歩實ニ著シカリシニモ拘ラズ其宗教ニアリアハ洵ニ憐レナル有様  
ナリシナリ吾人若シ彼ノ見識ニ類スルキリシヤノ宗教ト其ノ哲學トヲ對比セバ如何ニシテ吾人ノ  
嗤笑ヲ制シ得ルヤ余輩ハ屢々彼ノ深遠ナル思辨哲學ノ創生者ガ如何ニシテキリシヤ人ノ生活ヲ吸  
吮セシ此カル虚妄ナル宗教ヲ生ゼシヤヲ驚クナリ余輩ハ如何ニシテソクヲナスフト一又ハアリ  
ストトトルノ如キ哲學者及ヒ其他ノ智者達ガ一般ノ人民ト共ニ此カル宗教ヲ信ゼシヤヲ訝ルナリ  
余輩ハ何故キリシヤ人ノ良心ハ此カル愚妄ナル觀念ニ反對セザリシヤ如何ナレバ奧妙ナル哲學ノ

永久ノ祖ナルソクヲナスガ死ニ近ケルキアスクレピユス神ニ牡雞ヲ捧グルトテ弟子ニ命ゼシヤヲ  
怪ムナリ而シテ此ハローマニ於テモ又インドニ於テモ異ナルトナシ洵ニ真正ナル宗教ノ真正ナル  
觀念ハアリアン人種ノ固有ナルモノノ遺傳ナルモノニ非ラザルナリ換言セバ其ハ哲學或ハ科學ノ檢  
定ニ堪ヘ得ル一宗教ダニ生ゼザリシナリサレバ此ノ欠點ヲ補フ爲メニハ其ハ是非トモザラスノ宗  
教ヲカリト熱心ニ信奉セザル可ラズ若シ然カセザランカ其ハ決シテ完全ナル人種ト稱セラル、  
ヲ得ザル可シ噫基督教ノ研究豈必要ナラズヤ基督教若シ彼等ノ中ヨリ取去ラレンカ自カラ近世ノ  
開化人種ト誇稱スル彼等ハ再ヒ原始ノ混沌界即チ野蠻界ヘ退轉ス可シ活目以テ彼ノ第十八世紀ニ  
於ケル佛國ノ革命ヲ遠觀セヨ其ノ結果ハ如何ナリシヤ佛國人ハ今日スラ其時代即チ人類ノ歷史上  
最モ慘憺タル時代ヲ誇稱スルト雖モ省レハ其野蠻風ナルハ其結果ノ價值ナリシニアラズヤ抑々モ  
瞬間ノ内ニ有爲ナル人物ヲ殲滅セシバリ一騷動ノ憎ム可キ所作ハ何タルモノゾ其他此カル例ヲ舉  
レバ實ニ制限ナクレバ此處ニハアマリ掲擧セザレバ尙ホ今示セシ處ノモノハミニテモ十分セミチ  
ツク人種ノ宗教的觀念ナクテハアリアン人種ハ決シテ完全ナル能ハザルト明カナル可シサレバ若  
シアリアン人種ニシテ基督教ヲ排斥センカヨシ一時ハ文明ノ頂點ニ達スルトアルモ再ヒ混亂不秩  
序ノ状態ニ陥ルヲ免レザル可シ其ハ決シテ再ヒ無智愚昧ノ結果ナル野蠻風ニ還ルノ恐レナキハ明  
カナルモ併シ邪智妄見ノ結果ナル野蠻風ニ陥ル可キヤ疑テ容レズ而シテ此ハ前者ヨリモ遙ニ害惡  
ナルモノナリ

余ハ歐洲及ヒ其ノ精神的并ニ社會的ノ進化ヲ研究スルハ實ニ日本人タル諸君ニ對シテ必要ナルト  
ト思フ而シテ之レニヨリテ彼ノ宗教ヲ除キテ西洋ノ文明ヲ日本ニ移サントスル人々ハ自己ノ勞力



ノ管ニ無益ナルノミナラズ又大ニ危險ナルモノナルヲ悟ラル、ナラン  
今ヤ余ハ此ノ問題ヲ措テ直ニ本題ニ移ル可シ

抑々モアリアン人種ニ達スルニ先テ吾人ハ地球上處々ニ多クノ異ナリタル人種ノ或ハ極ク野蠻ナル状態ニテ或ハ半開ノ状態ニテ散在セルヲ見ルヲ以テ先ツ第一ニ吾人ノ研究セザル可ラザル問題ハ即チ總テ其等ノ人種ハ唯一ノ祖先ヨリ生來シタルモノナルカ或ハ種々ノ原始人種ノ獨立的ニ發達セシモノナルカト云フ問題はレナリ彼ノダルトウイン氏ガ發見シタル進化論ハ實ニ此ノ問題即チ人類起源ノ全問題ヲ一新状態ノ下ニ置キダリキ又聖書ノ教ニル處ヲ檢スルニ創世紀第一章及第二章ニ記スル處ヲ見レバ神ハ先ヅ人間ヲ地ノ塵ヨリ作り而シテ此ク作ラシタル人間ヨリシテ總テノ人種ハ生來シタルモノ、如シ今本論ノ目的ハ科學ノ諸説ト聖書ノ教トヲ調和セシメントスルニアラザレバ此ノ點ニ付テ兎ヤ角ク論ゼザレ併シ科學的研究ノ最近ノ結果ヲ見ルニ余輩ハ敢テ其中ニ明カニ聖書ノ教義ニ撞着スルモノアルヲ發見スル能ハザルナリアルフレッド、ワレンス博士ハ其新著ダルトウイン説ニ於テ人類創生ノ地ハ熱帶地方ニアリト云フ説ヲ拒斥シテ左ノ如ク云ヘリ曰ク

擬人猿及ヒ猿猴屬ノ最モ多クハ其身體ノ構造本然的ニ樹上ニ棲息スルノ質ナリ故ニ人類ノ大ナル特質ハ其身體ノ構造ノ格別地上ノ運動ニ適スルコトナリサレバ吾人ハ人類ハ森地即チ樹木ヲ攀登シテ以テ果實ナソノ植物的食料ヲ得ル地方ニ創生セシ者ナルコト想像スル能ハズ寧ロ温帶或ハ亞熱帶ノ平原或ハ高原即チ土産ノ種々ノ穀類及ヒ無數ノ食草類齒齒野禽等又海湖河川ニ産スル魚類軟體類ト共ニ種々ノ食料ヲ供スル地方ニ於テ始メテ現出セシトナスハ眞實

ニ近ガ如シ而シテ此カル地方ニ於テ人類ハ獵師トシテ係蹄人トシテ或ハ漁夫トシテ更ニ後ニハ牧畜者トシテ農夫トシテ發達スルナラン——此ク若々連續シテ人類ノ發達セル蹤跡ハ吾人之レテ歐洲ノ舊石器時代及ヒ新石器時代ノ人種ニ於テ見ルナリ

然リ而シテ此ノ内(人類創生ノ地タル可キ温帶或ハ亞熱帶ノ地方)ヨリアフリカヲ除カザル可カラザルハ十分然ル可キ理由アリ其理由トハアフリカハ第三紀ニ於テ早ク北大陸ヨリ分離シ而シテ其ノ高等哺乳動物ノ現存ノ動物總目ハマダガスカル島ノ其ヨリ分離シタル後再ヒ北大陸ト連結セシヨリ得タルモノナレバ最古ノアフリカ哺乳動物界ノ例ハマダガスカル島ニ於テ保存セラル、ナリ然リ而シテ此ノ動物界ニハ管ニ擬人猿ノミナラズ總テ高等ナル四手類ハ全ク發見サレザルナリサレバ今只殘ルモノハユロ、アシアノ大陸ノミ即ヘルシヤヨリ西藏及ヒサイベリアヲ經テ滿州ニ達スルユロ、アシア大陸ノ一大高原ハ第三紀中新統ノ終リ或ハ第三紀最新統ノ始メノ時代ニ於テ人祖ノ發達ニ適スル情狀ヲ與ヘシ或ル部分ヲ保アルナラン

(達賓說四百五十九、四百六十)

右引用セル處ヨリ余輩ハ人類ノ創生地ハ正シク聖書ニ效ヘラル、地方ニアルトヲ知ル又ワレンス氏ノ說ハ大ニ哲學的研究ト一致セリ即チアリアン人種ノ創生地ハアフリカニスタニ近キ中央アシアノ或ル地方ニアリトハ一般ニ學者ノ信受スル處ナリ然リト雖ヒ人種分離ノ年代ニ至リテハ未ダ詳細ニ確定セラレズ否ナ精密ニ確定セラル、能ハズ併シアリアン人種分離前遠クヨリ既ニ地球上處々ニ於テ王國ノ建設セラレタルモノアリシトハ明カナルガ如シレナン氏以爲ラクイシアトニアリテハナイル河アツシリアニアリテハユフラータイス河及チグリズ河及ヒ印度ニアリテハガンヂス



河等ノ河口ハアリアン人種ノ分離シナイインド及ヒ歐羅巴ニ出發セル以前遠クヨリ既ニ人類ノ棲息セシ地ナラント

全體是迄地質學ハ斯種ノ問題ヲ判決スルニ於テ唯一ノ嚮導者タリシガ併シ今日ニ於テハ吾人尙他ニ一案内者ヲ得タリ是レ即チ博言學ナリ博言學ハ實ニ此カル問題ヲ判定スルニ於テ生キタル器械ナリ前者ニ比シテ更ニ其ノ必要ナルハ人類思想ノ疊層ハ無機物ノ疊層ヨリ必要ナルヲ以テ知ル可シ又其ハ未ダ地質學ノ如ク數多ノ年月ヲ經過セザレバ既ニ其峻功セシ結果ハ敢テ之レニ劣ラズ否ナ更ニ偉大ナルナリ

諸アリアン人種ハ現今ノ狀態ニアリテハ三大簇ニ分タル、ヲ得即チ印度人ベルシヤ人及ヒ歐州人は是レナリ而シテ各族又數多ノ亞族ヲ保テリ殊ニ第三簇ハ數多ノ亞簇ニ分タルガ併シ便利ノ爲メ此處ニハ成ダケ其ノ數ヲ省察シテ論述ス可シ

抑々西洋紀元前三千年以前ニアリテハ此ノ人種未ダ分離セズ一處ニ群居シタリシガ此頃ノ年代ヨリシテ始メテ二族ニ分離シ其ノ一族ハ漸々東方ニ移轉シテ遂ニヒマラヤ山ヲ越エ夫レヨリ南部印度ニ達シテ此處ニ始メテ土人ヲ服從セシメタリシ又他ノ一族ハ西方ニ向ヒテ出發シ漸々土人ヲ從服セシメツ、ベルシヤアルメニア等ノ土地ヲ犯奪シ進シテ歐洲ニ渡リ更ニ四百年前ニアメリカヲ發見シテ此處ニ殖民シ尙今日モ五千年前ニ其ノ祖先ノナセシ如ク新世界ヲ發見シツ、又之レニ殖民シツ、アルナリ

然リ而シテ此ノ稀代ナル發見即チガンヂス河畔ノ赤日ニ曝サル、黑色印度人ハアームス河畔ノ濃霧ニ包裹セラル、黄色フリットン人ノ同胞ナリト云フ發見ハ地質學ニヨリテナサレタルニアラザレ

バ又解剖學ニヨリテ成サレタルニ非ズ實ニ博言學ニヨリテ成サレタルナリ夫レ言語ト思想ハ生々潑々タル活物ニシテ其ノ解剖ハ解剖學上身軀ノ解剖ヨリモ更ニ一層正確ナル真理ニ導クモノナリ余ハ實ニマクス、ミュラー氏ノ左ノ言ニ賛成セサルヲ得ズ曰ク

吾人ノ只依テ以テ人心ノ歷史的發達ヲ研究シ得ル真正ナル記錄ハ實ニ言語ノ記錄ナリ而シテ此等ノ記錄ハ吾人最近ノ思想ヨリ吾人ノ祖先ガ嘗テ發シタリシ極初ノ言辭ニマデ不斷ニ連續スルモノナリ實ニ人心ガ其ノ真正ナル自傳ト稱セラル、處ノモノナリ——吾人若シ之レヲ讀解シ得クンバ——吾人ニ殘留セル處ハ此處ナリ

(マクス、ミュラー氏思想學第一卷八十一)

今ヤ此ノ自傳ハ若々讀解セラル、ニ至リヌ而シテ其結果ハ實ニ驚嘆ニ堪ヘザル又益々吾人ヲ鼓舞シテ其ノ研討ニ奮進セシムルモノナリ殊ニアリアン人種ニ關シテハ其成果甚々著シクシテ吾人ノ豫想ヲ越乘セリ然リ而シテ此ノ人種ニ關シテ最モ稀代ナル探檢及其ノ結果ハ實ニ人心ノ一大關機ノ發見即チ梵語ノ發見ニヨルナリ

抑々モ歐洲ハ既ニアレキサンダー大王ノ時代ヨリ即チ西洋紀元前四百年頃ヨリ印度ト交通ヲ開キシニ拘ラズ又多世紀前印度ノ或ル部分ニ殖民セシニ拘ラズ其ノ富豐ナル文學及ヒ韋陀語ノ全ク西洋人ニ知ラル、ニ至ラザリシハ實ニ奇怪ノ至リナラズヤ

ホルターア氏ハ第十八世紀ニアリテ印度ニ付テ知ル處アラント試ミシガ併シ憐レニモノノ利益ヲニ得ル能ハズ一發見ダニナス能ハズシテ已ミタリキ但シ印度學ニ付テハ氏ハ遙カニ氏ノ繼續者ニ劣リシナリ



然ラペ吾人ノ始メテ此ノ富豊ナル新文學（ギリシヤ文學ニ劣ラヌ文學又確カニローマ文學ニ勝ル文學）ヲ知ルニ至リシハ誰レノ功ニヨルヤト問フニ實ニ千七百八十三年頃英領印度ニ裁判官タルシサー、ウイリヤム、ジョーンス氏其人ニヨルナリ而シテ此ノ新ニ發見サシタル印度文學ハ十分キリシヤ文學ト比肩シ得ルニ適スル完全ナル且ツ獨立ナル文學ニシテ其ノ内ニハ諸牀ノ詩歌アリ戯曲アリ哲學アリ論理學アリ其他蘊奧ヲ究メ難キ宗教上ノ著作等アリ而シテ此カル偉大ナル文學ヲ始メテ發見セシサー、ウイリヤム、ジョーンス其人ハ洵ニ言語學上非凡ノ才識有シ人ナラントハ自ラ人々ノ想像スル處ナルガ今傳フル處ニヨルバ氏ハ十分八ヶ國語即チ英語、羅匈語、佛語、以太利語、希臘語、亞刺比亞語、波爾西語及ヒ梵語ヲ知り又較々不完全ナガラモ他ニ八ヶ國語即チ西班牙語、ポルトガル語、獨逸語、ルーマニア語、ヘブリユ語、ベルガル語、北方印度語及ヒ土耳其語ヲ知り更ニ尙不完全トハ云ヘド又十二ヶ國語即西藏語、バリー語、アラビ語、ギリシヤ語、シリア語、エシオピア語、コプト語、ウエルス語、スウェーデン語、オランダ語及支那語等ヲ解セリト云フ而シテ此ク博言學上非凡ノ天才ヲ稟有セル氏ハ其ノ始メテインドノ言語文學ト相接スルヤ直ニ其ノ見聞スル中ノ最モ著名ナルモノヲ翻譯シ初メタリキ蓋シ彼ノ有名ナル戯曲「サクンタ」、及ヒ摩奴ノ法典ハ氏ノ譯出スル處ナリキ併シ氏一人ニテ此ク廣大ナル業ヲ成功スル能ハザルハ勿論ノ事ニテ以後多クノ學者ノ氏ノ遺業ヲ繼グモノアリテ以テ始メテ今日ノ偉功ヲ顯ハスニ至レリ而シテ其等人々ノ内最モ著名ナルモノヲ擧グレバ英國ニアリテハ先ヅコロンブル、クウイ、ルソン及ヒウイ、ルキンス更ニマクスミユラー、モニール、ウイリヤム、スミール等ノ諸氏又獨國ニアリテハホップ、ヴエ、ベルズ、イン、ディ、ツシ、ニ、マン等ノ諸氏更ニ佛國ニアリテハル、ゼ、ブル、ヌ、フ、セ、ント、ヒ、ン、ア、及ヒ其ノ他ノ

諸氏ナリ

然レモ博言學上ヨリアリアン人種ノ一致ヲ最初ニ論證セシ人ハポップ博士ナリキ氏ハ其ノ奇代ノ著作「アリアン語ノ文典」ヲ發兌シテ皆ニ英語、佛語、獨語及ヒ羅匈語等ガ交互ニ密着スルノミナラズ又ベルシヤ語、ギリシヤ語、梵語、英語及米國語等モ十分交互ニ密着スルモノナルヲ主張シタリシ時一人ノ氏ヲ信ズルモノナク却テ多ノ嚴肅ナル學者ノ功譽嗤笑スル處トナリタリシ殊ニ有名ナル蘇國ノ哲學者デニガルト、ステワード氏ノ如キハ氏ノ著ヲ評シテ「全ク狂智ニ長クタル波羅門教徒ノ發明ナリ」ト云ヒシ程ナリシ併シポップ氏ノ發見ノ眞實ナリシハ後漸々諸人ノ確信スルニ至リ今日ニテハ一人ノ疑ヲ容ル、モノナキヲ見テ知ル可シ今其ノ説ノ大綱ヲ檢スルニ其ハ先ヅ（第一）ニ其等ノ國語中多クノ語ノ交互ニ契合スルハ其等ノ國語間ニ根本的ノ關係アルヲ示ス、及ヒ而モ其ノ關係タル其等ノ國語ノ相接觸セシヨリ生ゼル外部的ノ關係ニアラザルヲ説明シ（第二）ニ文典ノ構造ハ殆ンド同一ナルヲ辨明セリ

余輩ハ今總テアリアン言語中ニ於テ同一ノ意義ヲ表ハス數語ノ表ヲ揚ケ以テ其語ノ類似ヲ示サン而シテ先ヅ社會及ヒ言語ノ始原ナル家族ノ關係ヲ表ス語ノ略表ヲ掲ク可シ

英 語	梵 語	ペルシヤ語	希臘語	ラテン語	オックス語	アラビア語	スラヴォン語
Father	Pitar	Padar (Pater)	Pater	Pater	Fadar	Horé	.....
父							



Mother	Matar	Matar (Matar)	Meter	Mater	Moro
母					
Brother	Bhratar	Bratar (Bhratar)	Frater	Brothar	Brat
兄弟					
Sister	Susar	Khavhar		Swister	Sistra
姉妹					
Daughter	Dutakar	Dukhtar	Phugater	Davhtar	Dakte
娘					

右ノ表ニヨリテ余輩ハ總テ其等ノ國語ニ於テ最近ナル家族的關係ヲ表ハス語ノ大ニ類似シ相一致スルヲ見ル併シ轉シテアリアン國外ノ言語ニ注目セバ忽チ其ノ發音ナリ語根ナリ全ク異ナルヲ見ル例ハ左ノ如シ

英	語	ハンガリー語	アラビア語	シリア語
Father	A, b	A b a	A b a	A b a

Mother	I m	I m	I m
Brother	A k l	A k l	A k l

又少々ノ類似ニ至テハ敢テアリアン語族及ヒセミチック語族ノ間ニモナキニ非ラテ併シ其等ノ類似セル語數ハ甚ダ僅少ニシテ現今ニアリテハ到底言語上ノ研究ヨリシテ二人種ノ同族ナルヲ證スル能ハザルナリ又之ヲ詳論スルハ本章ノ目的ニアラザレバ省察シテ論ゼザル可ケレド此點ニ付テ詳ク研究シタリシナン氏モ亦同一ノ斷案ニ達セシトテ思ヘバ敢テ疑ヒテ容ル可キニ非ル可シヨシ又此ノ點ニ付テハ種々ノ異論アリトスルモ兎ニ角アリアン諸族ノ起元ノ一ナルニ付テ述ベタル處ノモノニハ敢テ間言スルモノナカル可シ既ニ擧ゲタル表ノ如キ單語ノ類似ハ殆ンド其等ノ國語ノ過半ニモ及サルヲ得ルナリ殊ニ

(第二)即チ文法上ノ類似ニ至リテハ更ニ一層完全ナルヲ見ル例ハバ働詞ノ構造ノ如キニ至リテハ總テアリアン語族ニ於テ即チギリシヤ語ニ於テモラタン語ニ於テモ又英語佛語ニ於テモ均シク其ノ屈曲大ニ整理シテ宛モ善ク練サントル馬ヲ欲フ方向ヘ自由ニ向ク得ルガ如クニ之ヲ任用シ得ルナリ併シ支那日本等ノモンゴリアン語族ニ於テハ此點甚ダ憐レナル有様ナリ又セミチック語族トテモ其點ニ付テハ格段支那日本等ノ語ニ勝リタリト云フ程ニハアラズナン氏曰ク

アラビヤ人ノ先祖ハ働詞ヲ發達セシムルニ於テアリアン國民ノ祖先ヨリ異ナリタル方向ヲ採リシヲ以テ今日ノアラビヤ人ハ文章ヲ書クニ於テ會話スルニ於テ大ニ困難セリ

余輩ハ既ニアリアン人種ノ其初代ヨリ今日ニ至ルマデ常ニ高等ナル地位ヲ占メタリシトテ知ル而



ノ其ハ更ニ將來ニアリテモ(現今ノ狀態ヨリ察スル以上ハ)疑ヒナク益々進テ愈々大ナルモノトナル可シサレバ此カル人種ノ智力上宗教上及ヒ言語上ノ歴史ヲ研究スルハ實ニ人類ヲ研究スルモノニアリテ必要ナル可ク殊ニ宗教ヲ研究スルモノニハ尙々必要ナル可シ余ハ既ニアリアン人種ハ哲學上ノ知識ニ於テハ非凡ニ富豊ナレド未ダ嘗テ一ノ善良ナル宗教ヲ生ゼシトナシト云タルガ洵ニアリアン國民ノ產生セシ宗教ハ其ノ歐洲ニ於テセルモノ或ハ印度ベルシヤニ於テセルモノヲ問ハズヘブリユ一及ヒ其他シセミチック人種ガ發揮セシガ如キ宗教的信條ノ基礎ナル究意の真理ヲ發現セザリシナリ併シ吾人ハ常ニ獨斷的ニ此ノ意見ヲ保ツ可カラズ何ントナレバヨペンホーエルノ如キ世人ノ認テ以テ大哲學者也ト許容セルモノニシテ尙ホ(グトヒ繆ニモセヨ)婆羅門教ヲ以テ基督教ヨリ遙カニ勝リタルモノトナス者アレンバナリ夫レ吾人若シ真理ノ根底ニ臻達セントセバ先ヅ人類ノ總テ高尙ナル思想感情及ヒ動機ヲ織込メル總テノ宗教的系統ヲ比較稽査セザル可カラズ蓋シ人性ノ最良高尙ナル觀念ハ純想的哲學ニ於テヨリモ寧ロ純想的宗教ニ於テ發見セラル可ケレバナリ殊ニ文明ハ一日モ宗教ナクシテ完全ナル能ハザルモノナレバ宜シク最良賤劣ナル下等ノ宗教ト雖モ決シテ輕々ニ觀過セズ其ノ真相及ヒ發達ノ順序等ヲ研セザル可カラズ余聞クシヨペンホーニエルハ印度ノ諸宗教ガ基督教ニ代ハリテ文明國ノ宗教トナルノ日ヲ希望セリトサラバ婆羅門教果シテ如何ナルモノゾ余ハ本講ニ於テ着々過去現在總テアラユル宗教ノ簡單ナル而モ誠實ナル圖ヲ示ス可シ然リ而シテ其ノ究意ノ判斷ハ賢明ナル讀者諸君ノ本眞ノ良心ニ委スベシ

然リ而シテ先ツ原始アリアン人種ノ宗教的思想及ヒ宗教的生活ニ付テ完全ナル知識ヲ得ンガ爲メ余輩ハ次章ニ於テ第一ニ最古ノ書物ナル韋陀及ヒアリアン人種ノ思想ノ最良驚嘆ス可キ機關トシ

テ梵語ヲ論ス可シ



## 第七章 章 陀

章陀トハ知識ノ意ナリ其ハ「グイッド」(知ル、知覺スル)ナル動詞ヨリ來ルヲ以テ知識ノ何タル種類ヲモ意味セシガ併シインド人ノ聖典(最古ノ書籍)ヲ表ハスニ用ヒラレタルキハ特ニ聖智或ハ冥想ノ方便ニヨリテ聖智又ハ神智ヲ得ルコトヲ意味セリ實ニ章陀ハ古ベルシヤ人ノ「ゼンド、アベスタ」ヲ省キテハ古代アリアン人種ノ今日ニ殘セル唯一ノ宗教的文書ニシテ該人種ノ最古ノ宗教的思想并ニ生活ヲ研究スルニ於テ最ニ緊要ナルモノナリ否ナリ此ノ書ニヨラズンバ吾人ハ此ノ粗暴ナル人民ガ開化ノ國民トナレル以前ノ狀態ヲ十分知悉スル能ハザルナリ彼ノギリシヤノホマーノ如キハ甚ダ優美ナルモノニシテ想像及ビ美妙ニ付テハ之レニ優ルコト遙カナリト雖モ併シ真正ナル生活即チアリアン人種ノ知識的并ニ宗教的生活ニ關シテハ此ハ最ニ勝リタルモノナリホマーノ「イリヤツド」ヤ「ホダイセイ」ヤソロスターノ「ゼンド、アベスタ」ハ決シテ之レニ韻頭スル能ハザルナリ故ニ余ハ此ノ偉大ナル人種ノ宗教的情態ヲ十分了解セントスルニ當テ特ニ之レヲ撰ビタリ而シテ本章ニアリテハ先ヅ章陀ノ言語組織及ビ年代ニ付テ論テ次章ニ至リテ其宗教ヲ論ズベシ

### 第一 言語

章陀ハ梵語ヲ以テ記サル而シテ此ノ語ハ既ニ陳述セル如クアリアン語ノ最古ノ一族ナリ又梵即チ「サンスキリツト」ナル言葉ハ「適セシメラレタルモノ」或ハ完全ニ成サレタルモノノ意味ナルガコトハ此ノ語ハ文典或ハ單語集ニ關シテ完全ナルモノナリト云フ意ニアラズシテ神聖ナル目的ヲ達スルニ適セシメラレタル即チ聖物ノ仕用ニ適セシメラレタルモノナリト云フ意ナリ是レ宛モ猶太人



ハ神彼等ノ言語ニテ人間ニ律法ヲ授ク賜ヒタルベトテ之ヲ呼ンテ適當ナル或ハ完全ナル言語ト云フガ如シ

抑々此ノ言語ハ韋陀ノ記サレタル言語ナルヲ以テ昔ハ大抵僧侶及ビ國民ノ精神上ノ職務ニ關スル人々ノミノ任用セシ處ノモノニシテ一般人民ノ用ヒシモノ即チ「アラクリット」ト呼バレタル言語トハ異ナリ而シテ此ノ「アラクリット」ナル語ハ「派出或ハ源及ビ本形ヲ有スルモノ」ノ意味即チ梵語ヨリ派出シタル言語ト云フ意味ニシテ後俗語即チ下等社會ノ用語トナレリサレバ後世戲曲ニ於テハ上等社會ノ人々ノ言葉ヲ寫スニハ梵語ヲ以シ婦人及ビ下等社會ノ人々ノ語ニハ「アラクリット」語ヲ以テスルニ至レリ

然レハ梵語ハ或ル進化ヲ經過シタリシヲ以テ韋陀ノ梵語ハ今日僧侶ノ全ク了解スル能ハザル處トナレリ實ニ彼等ハ己ガ聖書ヲ解セントスルニ當テ歐洲學者ノ教ヲ乞ハザルベカラザルノ狀態トナレリマクス、ミニユラーノ話ニヨルニ或ル獨逸人（暗ニマクス、ミニユラー自カラテ指ス）韋陀ヲ出版セントストノ印度ニ傳リシハアラモク敬學者ハ皆肩ヲ脅カシテ曰ヘルニハ此ハ全ク成シ難キノ業ナリ何ントナレバ一人ノ今日其語ヲ了解スルモノアラザレバナリト

然レニ今日此ノ梵語ハ吾輩ノ學ブ處ノ目的物トナリ又歐米ノ大學校ニテ此ノ語ヲ授ケザル處ナキ有様ニ至レルハ實ニ吾輩ノ深クシヨリソノスコロクホツプロトマクス、ミニユラー及ビ多ノ梵語學者ニ感謝セザルベカラザル處ナリ  
諸テ韋陀ノ梵語ハ律法、戲曲、及ビ其ノ他哲學書ノ如キ後世ノ著作ニ用ヒラレタル梵語ヨリハ遙カニ優秀ナルモノニシテアクリギ博士ハ實ニ左ノ如ク云ヘリ

此處ニ吾人ハ粹然玲瓏タル、天真爛漫タル梵語ノ稀代ナル形像ヲ見ル其ノ語法ノ千姿万態ナルハ宛モ無盡ノ活泉ヨリ湧出スルガ如ク又處トシテ文體ノ蕪新ト富豐并ニ此ノ語ノ進動的生長ト快活ナル生活ヲ見ザルナシ而シテ此等ハ未ダ後世ノ梵語ノ如ク人工的文典ノ捭括的法則ニ羈束サレザルナリ更ニ吾人ハ此等ニヨリテ其ノ廣大ナル精神の生産物ノ準備所中ニ此ノ語ノ發達ト歴史ノ影ヲ見ル實ニアラアン族ノ總テノ言語ハ此ノ準備所ヲ通過シテ以テ總テノ言語中最モ發達シタルモノトナレルナリ

(クックノ韋陀二十三ページ)

吾人ハ又ギリシヤ語ノ發達ノ順序ニ於テモ同一ノ現象ヲ見ル即チホーマトノ言語ハ後世ノギリシヤ學者ノ言語ト大ニ異ナルナリ但シ此ハ事物自然ノ狀態ナラシカ「惟フニ文典ハ言語ヲ科學的秩序ニ整理スト雖ヒ併シ言語ノ蕪新ト富豐ハ却テ之レガ爲メニ熾滅サル、ナラン是レ宛モ巍峨タル疊嶺鬱蒼タル樹林ト公園或ハ花園ト比較スルガ如シトヒ精巧秩序及ビ愛嬌ニ關シテハ花園或ハ公園ハ大山林ニ優ルト雖ヒ併シ自然ノ壯嚴ニ關シテハ決シテ之レト頡頏スル能ハザルナリ

第二 韋陀之組織

韋陀ハ分レテ梨窟韋陀、夜殊韋陀、娑磨韋陀、及ビ阿韋娑韋陀ノ四大部トナレニ其中最モ緊要ナルモノヲ「梨窟」韋陀トス「梨窟」韋陀ハ最古ノ韋陀ニシテ今日ニ傳ハレル何タル梵語文書類ヨリモ單純ニ誠實ニ大古アリアン人種ノ生活ヲ反映セルモノナリ而シテ其ハ明カニ原始アリアン人種ハ大ナル心力ヲ賦與セラレタルモノナリシヲ示ス——「タトヒ粗笨ナル狀態ナリト雖ヒ尙ホ吾人ハ茲ニ此人種ヲシテ後世人類ノ歷史上ニ顯著ナル偉功ヲ表ハサシメタル諸觀念ノ萌芽ヲ發見スルナリ——サンバ「梨窟」韋陀ヲ研究スルコトハ實ニ人類ノ精神の現象ノ全局ヲ研究スルニ於テ肝要ナル



モノナリ往古ノギリシヤ人ハ人ヲ考究スルコト自己ヲ考究スルノミニ限リシト雖モ彼等ノ有名ナル確言ハ「汝自身ヲ知レ」ト教ヘシト雖モ然レド現今ニアリテハ人智ノ流レハ甚濶甚深トナリテ只吾人自己ヲ考究スルノミニテモ尙人類歴史ノ種々ノ方面ヲ研究セザルベカラザルニ至レリマクス、ミニテラ一曰ク

惟フニ人間ヲ考究スルニ當テハ即チ(差支ナクバ)アリアン人種ヲ考究スルニ當テハ韋陀ヨリ必要ナルモノハ世ニ又トアルマシ惟フニ自己ニ注意シ己ガ祖先ニ注意シ己ガ智力的發達ニ注意スル人々ニハ韋陀文學ノ研究ホド必要ナルモノハアラザル可シ又自由教育ノ要素トシテハ其ハバビロニア及ヒベルシヤノ諸王ノ治世ヨリモ遙カニ必要ナル遙カニ利益アルモノナルナリ

(印度百三十三頁)

然レモ吾輩ニアツテハ韋陀ハ只アリアン人種ノ知力の生長ノ原始ノ状態ヲ考究スルニ於テ必要ナルノミナラズ更ニアリアン人種ノ中最モ宗教的ナル種族即チ印度人ノ宗教的生活、思想、及ヒ觀念ヲ考究スルニ於テ緊要ナル者ナリ既ニ余輩ハ前節ニ述ベシ如ク韋陀ハ原始ノアリアン人種ガ今日ニ殘セシ唯一ノ宗教的文書ナレバ總テ宗教ヲ研究スル人々ニアリテハ此ノ書ヲ研究シ以テアリアン人種ノ一種族ニ於テ斯カル宗教的ノ書物ヲ生ゼシメシ所以ノ原因ヲ發見スルハ實ニ肝要ナルコトナリ

又韋陀ノ研究ハ管ニ波羅門教及ヒ其ノ諸分派ヲ稽查スルニ於テ必要ナルノミナラズ又佛教ヲ學ブニ於テモ必要ナルモノナリ夫レ佛教ハ諸君モ知ラル、如ク宗教的生活ノ歴史ニ於テ必要ナル且一種ノ特色ヲ有セルモノナンバ宗教學者ニアツテハ是非モ研究セザルベカラザルモノナリ而シテ吾

人ハ韋陀ノ智識ナクシテ十分此ノ研究ヲ遂グル能ハズ何ントナレバ(後章ニ至ラバ自ラ知ラル、ナランガ)釋迦無尼佛ノ教ハ實ニ後世印度ノ宗教的生活及ヒ文學ニ於テ發達シタル韋陀ノ宗教ニ對シタル直接ノ反動ナレバナリ

諸テ韋陀トハ大古ノ印度人(即チイラニアン及ヒユーロピアン種族ヨリ分離シテインドス河ニ移住セシアリアン人種ノ一種族)ヨリ今日ニ傳ハレル書類ノ總稱ニシテ四大部ニ分タル曰ク梨耨韋陀、曰ク娑磨韋陀、曰ク夜殊韋陀、曰ク阿闍婆韋陀是レナリ夜殊韋陀ハ又二部ニ分カタル一ヲ黑夜殊韋陀ト云ヒ他ヲ白夜殊韋陀ト云フ然レモ其等四韋陀ノ中最モ緊要ナル最モ古キモノハ「リツク」韋陀ニシテ他ハ後ニ至リテ知ラル、如ク諸リ只「リツク」韋陀ヲ反復シタルモノニ外ナラザルナリ

抑々モ梨耨韋陀ハアリアン人種ノ諸種族即チ寧ロ諸部落ト稱スベキモノノ頌歌集ナリ而シテ其等ノ頌歌ハ彼等ノインドス河畔ニ移住シツ、アル間ニ歌ヒシモノニシテ明カニ勇猛壯健且ツ質樸ナル原始アリアン人ノ状態ヲ反寫セリ今此ノ書現今ノ形跡ヲ以テセバ曼陀羅ト稱セラ、ル十章ニ分而シテ内ニアル頌歌ノ總數殆ソド千十七首或ハ千二百八首許アリ其内部的證明ニ從ヘバ最古ノ頌歌ハ二章ト七章トノ間ニアルモノノ如ク又其全跡ノ性質ヨリ考察スルバ各自己ノ家族神ヲ讚頌スル爲メニ諸種族ノ作リシモノ、如シ併シ其ノ編輯排列ノ仕方ニヨレバ一派ノ人々ガ其等ノ散在シタル頌歌ヲ蒐集シ崇拜スル神ノ順序ニ從フテ排列セシモノナルヤ明カナリ例ヘバ先ツ第一ニ阿耨尼神ニ捧ゲシモノ次ニ因陀羅神ニ捧ゲシモノト順々ニ排列セシモノナリ阿耨尼神ハ確カニ印度アリアン人ガ最初ニ崇拜セシ最大ノ神ニ非ザレ併シ其等ノ頌歌ノ蒐集セラレタル當時ニアリテハ諸



神ノ中ニ於テ第一座ヲ占メシモノナリ夫レヨリ此ノ書ニ於テハ第一ニ置カレタリ  
 此書第九章ハ娑磨即チ或種ノ草根ノ液汁ヨリ造リタル酒ノ一種ニ捧ケラレタルモノナルガ抑々モ  
 此ノ娑磨ナルモノハ確カニ最古ニアリテハ飲料及ヒ神ノ供物トシテ仕用サレタルモノニシテ後神  
 ノ列ニ加ヘラレ神トシテ崇拜セラル、ニ至リシモノナリ又此ノ書最終ノ曼陀羅ハ其性質及ヒ文章  
 ニ至リテモ大ニ前諸曼陀羅ト異ニシテ寧ロ後世ノ印度哲學ト結合スルモノナリ  
 頌歌ノ普通性ハ人々自己及ヒ家畜ノ上ニ繁榮ヲ祈願スルコトナリ而シテ其等ノ頌歌ハ黎明ノ崇拜、  
 光ヲ賜フ神ト暗ノカトノ間ノ争鬪ヲ祝賀スルコト及ヒ戰爭中ノ保護ヲ諸天神ニ感謝スルコト等ニ用  
 ヒラレタルモノニシテ其ノ最多數ハ詩人ノ感動スルコトアルコト折々ニ發セシ宗教的性質ヲ帶ブルモ  
 ノナリ其ノ理想及ヒ用詞ハ屢々粗笨ニシテ且ツ甚ダ吾人今日ノ正義美妙及ヒ宗教ノ趣味ニ反スル  
 モノアリト雖モ併シ吾人若シ其ノ時代ノ今日人類ノ偉大ナル進歩ヲナセル時代ト大ニ隔リタルヲ  
 思ヘバ即チ今日ハ其時代ヨリ最早三四千年モ過ギ而其間人類ハ偉大ナル進歩ヲナセルコト思ヘバ  
 吾人ハ實ニ「白乳ノ黄金色ナル牝牛ヨリ出ツル」ヲ驚愕セシ詩人ノ生活、思想及ヒ概念ヲ讚嘆セザ  
 ルヲ得ザルナリ然レド其ノ詳細ハ次章「リツク」章陀ノ大意ヲ論ズルニ至リテ陳述スベケンバ茲ニ  
 ハ之レヲ省略シテ次ニ娑磨章陀ニ移ルベシ  
 娑磨章陀ノ頌歌ノ最多數ハ「梨瞿」章陀ノ中ヨリ殊ニ第九章即チ娑磨章ニ捧ケタル頌歌中ヨリ採ラ  
 レタルモノナリ而シテ其等ノ頌歌ハウエーベル氏ノ言ニ從ヘバ「梨瞿」章陀中ノ最モ古キ者ニシテ  
 「而シテ最新ノ者ナリト思惟セラレタル」「梨瞿」章陀ノ頌歌中ヨリハ「一モ採ラレタルモノナシ」  
 夜殊章陀ハ既ニ陳述セシガ如ク白夜殊章陀黑夜殊章陀ノ二種ノ形態ニテ今日ニ傳ハシリ余輩ハ既

ニ「梨瞿」章陀ニ付テハ其ノ頌歌ハ一派ノ人々ニヨリテ蒐集排列セラレタルガ如シト云ヒシガ夜殊  
 章陀ハ之レニ反シテ諸派ノ人々ニヨリテ蒐集セラレタルモノノ如シ而シテ其ハ此ノ章陀中ニ供獻  
 ノ順序及ヒ僧侶ノ階級ノ分タル、ヲ見テ知ラル、ナリ但「リツク」章陀ハ娑磨ノ供獻ニ一ノ主要ナ  
 ル地位ヲ與ヘ又娑磨章陀ハ之レヲ專一トセルニ夜殊章陀ハ供獻法式ノ全局ヲ保テリ實ニ夜殊章陀  
 ニ於テハ吾人ハ印度宗教ノ後世ニ發達シタル、十分ニ進歩シタル状態ヲ見最早「リツク」章陀時代  
 ノ詩人ノ雄健ナル思想ヲ見ズ換言セバ茲ニ吾人ハ印度ヲ征服スルノ運命ヲ有セシ太古ノアリアン  
 人ヨリモ寧ロ近世ノ印度人ヲ見ルナリ然リ而シテ此ノ章陀ノ二部即チ白夜殊ト黑夜殊トノ章陀ノ  
 間ノ差違ハ第一ニ其等ノ註釋及ヒ説明ニ開シテナリ詳言セバ黑夜殊章陀ニアリテハ供獻法式ハ直  
 ニ其ノ註釋ト説明ヲ以テ伴ハル、ニ白夜殊章陀ニアリテハ此等ハ全ク別カダレタリ又黑夜殊章陀  
 ニアリテハ大ニホタル(僧侶)ノ義務ニ注意セルニ白夜殊ニアリテハ其等ノ記サル、事甚ダ稀レナ  
 リ

阿娑章陀ニハ二十篇アリテ殆ソド六百首許ノ頌歌ト七百六十首許ノ短詩トヲ保テリ而シテ茲ニ吾  
 人ハ近世印度教トシテ現ハル、アリアン人種ノ本性ノ最終段ヲ見ル即チ此ノ章陀ハ主トシテ神  
 力、星辰、月等ノ有害的影響ヨリ護身スル爲メニ又疾病、兇惡ナル猛獸ノ害、及ヒ敵ノ呪咀等ヨリ  
 護身スル爲メニ作ラレタル法式及ヒ日常ノ禮拜式、祈禱ノ法式、旅行安全ノ爲メノ祈禱、好運ノ爲  
 メノ祈禱、其他此等ニ類スルモノヲ以テ充滿セリ實ニ吾人ハ茲ニ粗暴ナル、強勢ナル、剛膽ナル、  
 質樸ナルアリアン人ノ既ニ臆病ナル、詭譎ナル、迷信的ナルヒンゾー人ニ變ズルヲ見ルナリ實ニ  
 吾人ハ茲ニ「リツク」章陀ニアリテ救護者トシテ盛榮ノ原泉トシテ勝利ノ原因トシテ崇拜セラレシ



諸神ノ既ニ常ニ人民ヲ苦メ惱マス惡靈惡魔ト化セルヲ見ルナリ詢ニアリアン人ハ印度ヲ征服セシト云フハ實事ナレド印度ハ漸々アリアン人ヲ征服セシト云フモ又事實ナリ  
阿闍婆韋陀ノ頌歌ノ最多數ハ「リツグ」韋陀ヨリ導カレタルモノナレド獨立ノ始源ヲ有セルモノモ亦多シ然レバウエーベル講師ハ左ノ如ク云ヘリ

其等——阿闍婆韋陀ノ古キ頌歌——ハ恐クハ一般ノ人民下等社會ニ屬スルモノナラン夫レヨリ「リツグ」蘭陀ノ頌歌ハ寧ロ上等家族ノ特産ナルガ如キ觀アリ

(印度文學十一ページ)

然リト雖モ余ハ此ノ點ニ付テウエーベル氏ノ説ニ左祖スル能ハズ何ントナレバ移住ノ狀態ニアル人民間ニアリテハ階級ノ差貴賤ノ別ノ如キハ阿闍婆韋陀ノ古キ頌歌ヲシテ斯カル原因ニ歸セシムル程ニハ劇然ナラザレバナリ惟フニ古キ頌歌ハ恐クハ後世諸派ノ人々ニヨリテ種々ノ場處ヨリ纂集セラレ又歲月ヲ經ルニ從ヒテ種々ノ事情ヨリ原始ノ用語及ビ實質ヲ變ゼシモノナラン而シテ此ハ阿闍婆韋陀ハ印度ノ聖文學ニ於テ他ノ三韋陀ト並ンデ同等ノ地位ヲ占ムルニ至ルマデニハ長久ノ日月ヲ要シタリシト云フ事實ニヨリテ明カナリ

右ニ述ベタル四韋陀ハ主トシテ古印度人ノ韋陀文學ヲ組成スル處ノモノナルガ既ニ一言セシガ如ク吾人ハ亦此等四韋陀ノ中ニ於テ其ノ時代ト神聖及ビ緊要ノ順序トニ關シテ各々ニ適當ナル地位ヲ與ヘザルベカラズ然リ而シテ余輩ハ「リツグ」韋陀ヲ以テ印度人ノ生活ノ一時代ヲ代表スルモノトシテ之ニ獨立ノ地位ヲ與フルナリ實ニ吾人ノインダス河畔ニ於ケル原始アリアン人ハ如何ナル人種ナリシヤヲ十分明亮ニ知得スルハ此ノ「リツグ」韋陀ニヨリテ決シテ他ノ韋陀ニヨリテニ

アラス更ニ今日ニアリテモ印度人ハ宗教上ニ關スル必要ナル問題ヲ決定スルニ當テハ必ズ「リツグ」韋陀ヲ檢シ之ニ依ルナリサレバ「リツグ」韋陀ハ今日ニアリテモ尙ホ印度中ニ廣大ナル權ヲ保アルモノナリ故ニ古代印度人ノ風俗習慣及宗教ヲ知ランニハ吾人ハ先ヅ「リツグ」韋陀ヲ以テ獨立シタル一箇特別ノ書ト見做シ以テ之ヲ稽查セザルベカラズ

次ニ各韋陀ニ附屬シテ跋羅摩那ト稱セラル、書アリ跋羅摩那ナル言ハ「祈禱ニ關スルモノ」ノ意ナルガ其ノ本意ハ物的ノ意味ニテハ「生出スル、創造スル」ニシテ「高潔ニスル、進マシムル、高ムル」等ナリ然リ而シテ跋羅摩那ノ目的ハ(ウエーベル博士曰ク)

供獻ノ儀式ト供獻ノ頌歌及ビ法則トヲ結合スルニアリ而シテ其ノ方法ハ先ヅ一方ニアリテハ彼等ノ間ニ直接ノ十分ナル關係アルヲ示シ他ノ一方ニアリテハ彼等ノ間ニ記號的ノ關係アルヲ示スニアリ先ヅ第一點ヲ明カニスルニ於テハ各々ノ儀式ヲ詳細ニ示シ次ニ第二點ヲ説明スルニ於テハ直接ニ説明的且ツ分解的ニナスカ又ハ別ニ傳説ノ補助ニヨリテ獨斷的ニ其關係ヲ設立セルナリ」此ノ如クシテ吾人ハ跋羅摩那ニ於テ吾人ノ知り得ル最古ノ儀式最古ノ語學的解釋最古ノ傳説的物語及ビ最古ノ哲學的思辨ヲ見ルナリ又年代ニ關シテハ總テノ跋羅摩那ハ韋陀の文明ノバラモン風ナル思想及ビ社會ノ制度ニ變遷スル時代ニ始起セルガ如シ然リ而シテ此ノ跋羅摩那ナルモノハ聖人各自身ノ意見ヨリ成レルモノニシテ口碑ニヨリテ後世ニ傳ヘラン且ツ其ノ種族及ビ弟子ニヨリテ保存并ニ補遺セラレタルモノナリ

(印度文學史十一ページヨリ十二ニ至ル)

論ヲ茲ニ至レバ其等跋羅摩那ハタトヒ幾分カ註釋書ノ臭味ヲ帶ベリト雖モ全ク斯類ノ書ニアラ